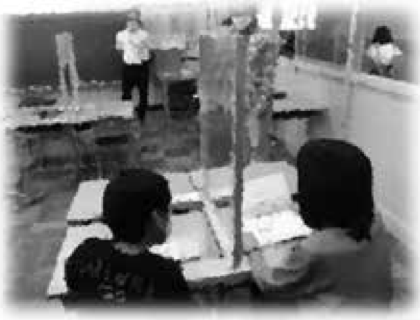
令和2年度 文部科学省補助事業

学校を核とした地域力強化プラン事業

実践事例集

地域と学校の連携・協働で子どもを育む

『地域学校協働活動推進事業』
『コミュニティ・スクール推進事業』
『地域における家庭教育支援基盤構築事業』



滋賀県教育委員会

－はじめに－

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、これまでの日常生活を送ることが困難となり、「新しい生活様式」による長期的な対応が求められています。こうした中で、子どもたちの学びや活動を持続的に保障していくには、学校現場の教職員はもとより、学校を支えるすべての方の協力と知恵がうまく結集することが大切であり、そのことが今後の子どもたちの育ちを支える基盤となります。

令和２年度より順次実施となっている新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現が示されています。これは、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を「学校と社会が共有」し、子どもたちに必要な力を「地域と連携・協働」しながら、目指すべき学校教育を実現しようとするものです。

本県におきましては、第３期教育振興基本計画の中で、「社会全体で支え合い、子どもを育む」ことを柱の一つとして掲げ、「家庭や地域と学校との連携・協働活動の充実」を図るために、「持続可能な地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入」を推進しているところです。

地域学校協働活動と学校運営協議会制度は、それぞれが持つ役割を十分に機能させ、一体的な推進を図ることで相乗効果を発揮し、地域の教育力の向上と学校運営の改善に結びつけることが期待できます。このため、令和２年度も「学校を核とした地域力強化プラン事業」として「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」、さらに「家庭教育支援」の３つを総合的に推進し、県全体での展開を目指してまいりました。

本実践事例集は、コロナ禍にあっても「新しい生活様式」のもと、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、地域と学校の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」「地域づくり」に献身的に取り組まれている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いします。
また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和３年（2021 年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　廣部　千英子

〔目　次〕

◆　事業の概要・・・1

Ⅰ　推進協議会の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

（Ⅰ）推進協議会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

（Ⅱ）各研修会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

◇地域学校協働活動推進研修会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

◇コミュニティ・スクール推進フォーラム兼コミュニティ・スクール連絡協議会　・・11

◇地域における家庭教育支援基盤構築事業にかかる研修会　・・・・・・・・・・・・・・12

◇学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会　・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅱ　市町の地域学校協働活動の取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

◇彦根市・・・・・・・14	◇湖南市・・・・・・・20	◇竜王町・・・・・・・25
◇近江八幡市・・・15	◇高島市・・・・・・・21	◇多賀町・・・・・・・27
◇草津市・・・・・・・16	◇東近江市・・・・・22	□豊郷町・・・・・・・28
◇栗東市・・・・・・・17	◇米原市・・・・・・・23	
◇野洲市・・・・・・・18	◇日野町・・・・・・・24	

※豊郷町は、町独自の取組

Ⅲ　地域学校協働本部の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

◆令和2年度地域学校協働本部一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

◇彦根市・・・・・・・ 31	◇高島市・・・・・・・116
◇近江八幡市・・・ 55	◇東近江市・・・・・122
◇草津市・・・・・・・ 79	◇米原市・・・・・・・153
◇栗東市・・・・・・・ 93	◇日野町・・・・・・・159
◇野洲市・・・・・・・ 94	◇竜王町・・・・・・・165
◇湖南市・・・・・・・103	◇多賀町・・・・・・・166

Ⅳ　地域未来塾の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167

◆令和2年度地域未来塾一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167

◇彦根市 ・・・・・・・168
◇湖南市 ・・・・・・・176
◇米原市 ・・・・・・・178
◇日野町 ・・・・・・・180
◇竜王町 ・・・・・・・181
◇多賀町 ・・・・・・・181

Ⅴ　放課後子ども教室の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・183

◆令和2年度放課後子ども教室一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183

◇近江八幡市 ・・・184
◇草津市 ・・・・・・・186
◇栗東市 ・・・・・・・186
◇野洲市 ・・・・・・・187
◇東近江市 ・・・・190
◇日野町 ・・・・・・193
□豊郷町 ・・・・・・195
○放課後児童クラブの現状 ・・197

※豊郷町は、町独自の取組

Ⅵ　土曜日の教育支援活動の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・199

◆令和2年度土曜日の教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199

◇湖南市 ・・・・・・・200
◇東近江市 ・・・・・204
◇竜王町 ・・・・・・・210

Ⅶ　地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例　・・・・・・・・・213

◆令和2年度家庭教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・213

◇彦根市 ・・・・・・・214
◇近江八幡市 ・・・217
◇草津市 ・・・・・・・219
◇栗東市 ・・・・・・・221
◇甲賀市 ・・・・・・・223
◇湖南市 ・・・・225
◇高島市 ・・・・227
◇日野町 ・・・・229
◇竜王町 ・・・・231
□多賀町 ・・・・233

※多賀町は、町独自の取組

Ⅷ　コミュニティ・スクール推進事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234

令和２年度 学校を核とした地域力強化プラン

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

趣旨　滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】国 1/3　都道府県 1/3　市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

県　推進協議会の設置

○総合的な教育支援活動の在り方の検討
○コーディネーター等を対象とした研修の企画
○事業の評価

市町　運営委員会の設置

○教育委員会と福祉部局等の連携方策
○地域の人材確保方策の検討
○支援体制の整備・支援活動の実施　等

統括的な地域学校協働活動推進員

（統括的な地域コーディネーター）
・未実施地域における取組実施を推進
・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

地域学校協働活動推進員

（地域コーディネーター）
・地域住民等や学校との連絡・調整
・地域学校協働活動の企画・推進等

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を中心に、様々なボランティアが緩やかなネットワークを構築し、**地域学校協働活動**を推進

補　助　要　件

①コミュニティ・スクールを導入していること、または導入に向けた具体的な計画があること
②地域学校協働活動推進員を配置すること

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進

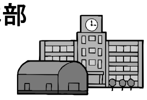
地域人材等の参画　地域学校協働活動

保護者・PTA／社会教育関係団体／NPO／文化・スポーツ団体／民間教育事業者／労働関係機関・団体／青少年・大人・高齢者

多数のボランティア等

協働活動サポーター
協働活動支援員
特別支援・共生社会サポーター
学習支援員

地域学校協働本部
■地域と学校が連携・協働する仕組みづくり（本部）を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施
12市町　120本部
・学校支援活動・学校周辺環境整備
・郷土学習　　・学びによるまちづくり
・地域人材育成・地域行事への参加 等



地域未来塾
■中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施
６市町　28教室
・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を提供

放課後子ども教室
■放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心･安全な居場所」の充実
６市町　31教室
・活動拠点(居場所)の確保　　・放課後等の学習指導
・自然体験活動支援　　・文化活動支援　など
○放課後児童クラブ（首長部局）と連携

土曜日の教育支援
■すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施
３市町　29教室
・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

趣旨　「コミュニティ・スクール推進事業」(県実施)

【補助率】国 1/3　都道府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

CSアドバイザー派遣

■各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言
■市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進

研修の充実

■学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。制度等への理解を深め、導入の促進と取組の充実を図る。

趣旨　「地域における家庭教育支援基盤構築事業」　９市町

【補助率】国 1/3　都道府県 1/3　市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

地域人材の養成

■家庭教育支援員の養成
４市町で実施

家庭教育支援体制の構築

■家庭教育支援チームの組織化
■家庭教育支援員の配置
５市で実施

家庭教育を支援する取組の展開

■学習機会の効果的な提供
■親子参加型行事の実施
■情報提供・相談対応　９市町で実施

○家庭教育支援チームの拡充を含めた地域における家庭教育支援体制の拡充・強化
…**訪問型家庭教育支援に取り組む家庭教育支援員の配置拡充は、必要要件**
○学校と連携し、家庭をつなぐ機会を創出するための家庭教育支援員のコーディネート力や専門性の向上等に関わる研修機会の充実
２市で実施

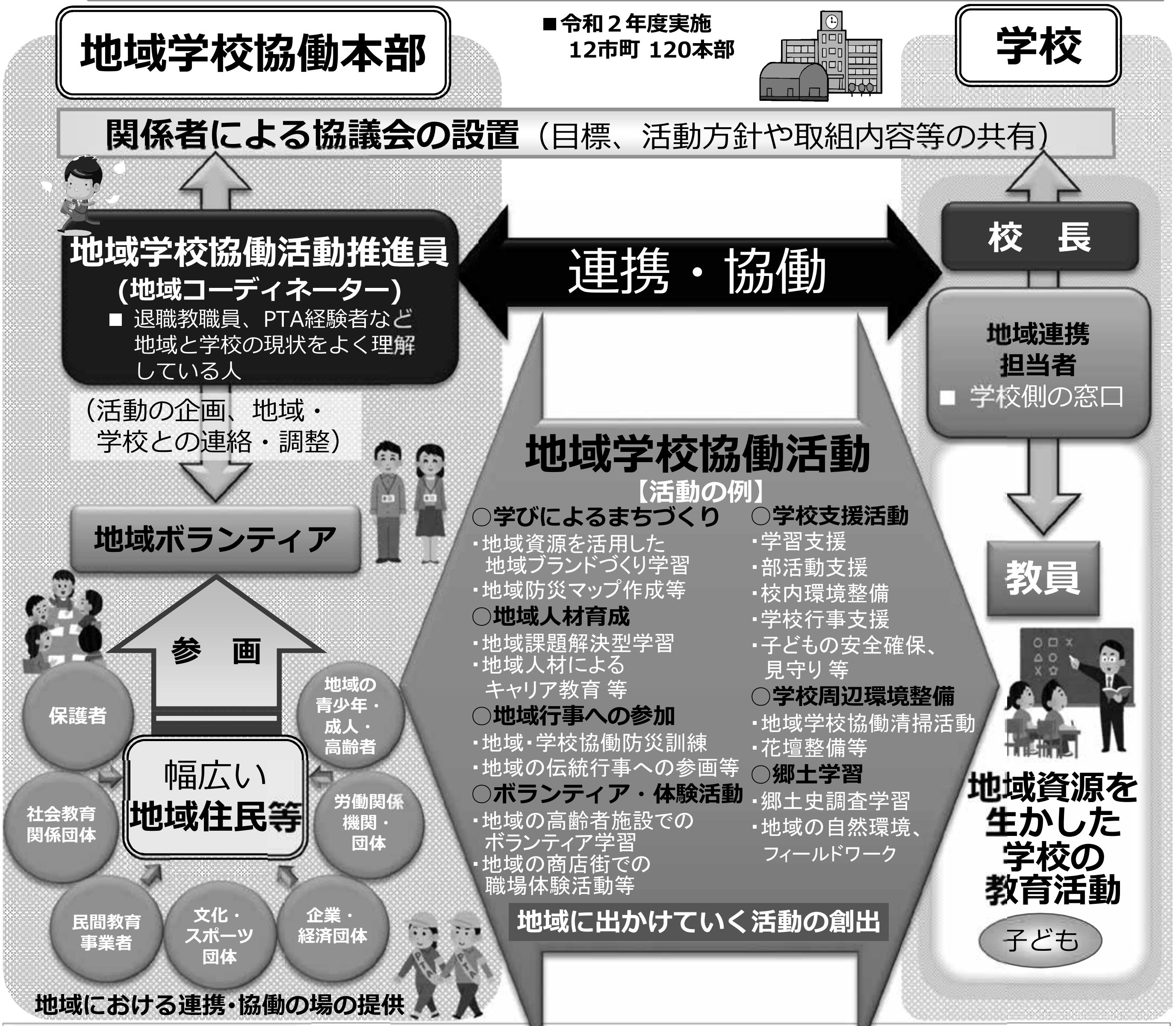
地域学校協働本部 「支援」から「連携・協働」へ

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携･協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

趣旨 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。



期待される効果

子どもにとって ⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。

学校にとって ⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。

地域にとって ⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつくられる。地域の子どもと顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつくられる。

地域未来塾 －地域の力による放課後等学習教室－

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

現状と課題

・児童・生徒が、平日に学校の授業時間以外に勉強する時間が、全国と比較して短い。
・家庭での学習時間が30分未満の中学生が15%であり、小学生よりも多い。
【平成31年度 全国学力・学習状況調査結果より】
・家庭の事情に左右されず、誰もが学習できる環境づくりが必要。

『第3期教育振興基本計画』（H31.3策定）

家庭の状況が多様化する中、子どもがしっかりとした学力を身に付けることができるよう、幅広い地域住民の参画により、放課後、土曜日、休日等における一人ひとりの子どもに寄り添った学習や居場所づくりの取組を支援します。

国の動向

~~地域住民等の参画~~による放課後等の学習支援・体験活動として位置づけを変更。
・全ての児童・生徒を対象に、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により実施する原則無料の学習支援等
・社会的経済的背景によらず、誰もが学ぶことができる環境の実現
・地域での活動と学校の教育課程との連携を図り、教師だけでは取り組みにくい活動につなげる。

地域未来塾

趣旨

<u>**中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施**</u>

◆幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を提供
◆家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生への学習支援の場として、<u>多様な視点からの支援を実現</u>
◆部活動休業日（ノー部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減を

教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員・教育活動サポーター等を配置

【内容】
①自学自習の支援など補習的学習
②講義・授業など、教科に即した発展的学習
【対象】
学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定
【場所】
実施主体の実態に応じて柔軟に設定（学校の余裕教室や地域の公民館など）
【回数等】
回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例
〈中学校で実施・放課後の学習支援〉
・対象は、中１～３年生の希望者
・年間40日
（毎週水曜日、１時間程度）
・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの学習習慣の定着「学ぶ力」の向上

学校との連携

・活動スペースとなる余裕教室の提供
・学習プリントの提供
・児童生徒の情報交換
・参加を促す広報チラシ等の配布
・ボランティアへの助言・サポート　など

■令和２年度実施 ６市町28教室
・彦根市（17）
・米原市（４）
・湖南市（３）
・日野町（１）
・竜王町（１）
・多賀町（２）

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る。

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

福祉部局からのアプローチ

○ 生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業
市町が国の補助事業を受け、**13市２町**で実施（Ｒ２）
対象は生活困窮世帯等限定あり
○ 地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
「はぐくみ基金」による実施団体への助成事業
13市５町138か所で実施（Ｒ２）

放課後子ども教室
～新・放課後子ども総合プランの推進～

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所）を設け、地域住民等の参画を得て、学習支援や体験活動を実施する。

令和２年度実施：６市町31教室

放課後子ども教室 ⇔ **『新・放課後子ども総合プラン』として実施（H30.9月策定)** ⇔ **放課後児童クラブ**

【地域学校協働本部】
地域学校協働活動推進員

連携
協働

協働活動支援員
協働活動サポーター
学習支援員
特別支援・共生社会サポーター

参画

退職教職員、大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材

双方で情報共有
〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

・取組の企画、交流できる機会や場づくり
・安全点検リストによる児童の安全確保

放課後児童支援員

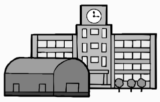
放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

多様なプログラムの提供

安全管理

○学習支援や体験活動

・学習支援（予習・復習、補充学習、ICTを活用した学習 大学生などによる進路相談など）
・体験活動（理科実験、芸術教室、伝承遊び体験活動、地域の資源を活用した自然体験学習、社会体験活動など）



小学校など

・余裕教室や特別教室（図書室、家庭科室）等を提供
・学校敷地内の専用施設を利用
・体育館などの一時利用の促進

県の取組

学校を核とした地域力強化プラン研修会

地域学校協働活動推進員、コーディネーター、運営委員会委員、協働活動支援員、協働活動サポーター学習支援員、特別支援・共生社会サポーター、ボランティア、専任指導員、放課後児童支援員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会
・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ（学童保育）
○すべての子ども（小学校に就学している児童）	対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学習支援・体験活動の場 地域学校協働活動推進員等のコーディネーターが中心となって、学習やスポーツ、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○遊びの場・生活の場 放課後児童支援員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○伝承遊び、学習（予習、復習、宿題等）、スポーツ、文化活動など	主な活動	○遊び、学習（宿題）
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員 学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 特別支援・共生社会サポーター 特に配慮が必要な子どもたちへの支援	スタッフ	放課後児童支援員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末（教室により異なる）	開催日	○平日の放課後、土曜（クラブにより異なる）
○無料（教室により保険、材料費などの徴収あり）	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度（施設により異なる）
○６市町31教室　（令和２年度）	県内数	○19市町373クラブ18,615人（令和2年7月1日現在）

土曜日の教育支援活動

【補助率】

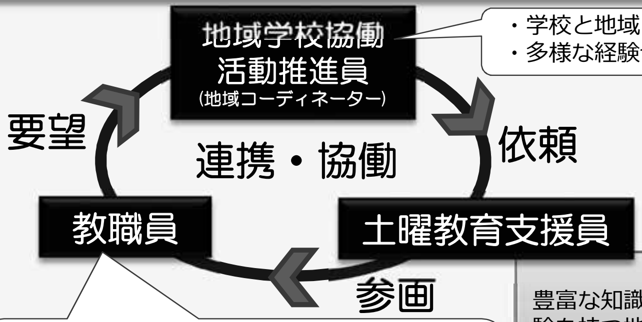
国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力(※)」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力

土曜日の教育支援活動の仕組み



・学校と地域・企業・団体との連絡調整
・多様な経験や技能を持つ外部人材の発掘

令和２度実施
３市町29教室

「学校支援メニュー」・「地域で学ぼう『出前講座』」の活用
※実社会での経験を生かした「出前授業」を行うことが可能な企業・団体のメニューを紹介。滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にてプログラムの検索が可能。（ URL ： http://www.nionet.jp/ ）

・「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
・部活動休養日（ノー部活デー）の受け皿としても実施する。
・放課後や土曜日など、家庭での時間の使い方を考える。
・子どもの地域での学びを学校の学びに生かす。

豊富な知識や経験を持つ地域・民間企業・団体の外部人材等の活用

企業人	大学・研究者	在外経験者	図書館司書	出版関係者
外国人	スポーツ選手	農林・漁業者	教員ＯＢ	

地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの教育支援活動の実施

●地域の子どもを中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。
●地域の豊かな社会資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムを実施することにより、「学ぶ力」の向上を図る。

～土曜学習例～

●学習意欲や学習習慣形成につなげる事例
学力向上を図る補充的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室 等

●体験活動を中心とした事例
自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏 等

●地域の歴史や文化を学ぶ事例
地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの
実社会で得られた
知識や経験を子どもたちへ！

外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。

地域における家庭教育支援基盤構築事業

【補助率】

国	1/3
県	1/3
市町	1/3

背景

核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など、子どもをめぐる状況が懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

趣旨

家庭や地域と学校との連携・強化を図りつつ、家庭教育支援体制の構築及び家庭教育を支援する取組に加え、訪問型家庭教育支援を含めた家庭教育支援活動の強化を図る取組の推進など、地域における家庭教育支援の基盤構築に向けた取組を支援するもの。

県

家庭教育支援推進協議会の設置

年3回

・家庭教育支援活動等の在り方
・「訪問型家庭教育支援」の効果的な手法等の普及
・子育ておよび家庭教育支援の研修・交流
　上記およびその他必要なことに関する協議

家庭教育に関する人材育成・啓発
※訪問型家庭教育支援に係る研修・交流
・**家庭教育支援員・市町行政職員の研修**
・企業内・PTA家庭学習講座の開催支援
・おうちで読書のブース出展のための研修
・家庭教育啓発ポスター作製

市町で展開される事業内容

令和２年度実施
（９市町18活動）

・彦根市　・近江八幡市　・草津市
・栗東市　・甲賀市　・湖南市
・高島市　・日野町　・竜王町

①運営委員会等の設置

◆家庭教育支援体制の整備、支援活動の実施

全９市町

◆地域の人材確保や要請方策の検討

◆福祉部局等との連携方策等

行政関係者（教育委員会および福祉部局）、学校関係者、ＰＴＡ関係者、社会教育関係者、学識経験者等幅広い分野の方々の参画を得て実施

②地域人材の養成

◆家庭教育支援員等の養成

・家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う人材を養成

・支援活動の企画・運営、関係機関・団との連携等を担う中核的人材を養成

◆研修会の実施

・人材確保方策等の資質向上及び家庭や地域と学校との連携・協働の推進を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換

参画

子育て経験者など

地域の多様な人材

③家庭教育支援体制の構築

◆家庭教育支援員の配置

・家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う家庭教育支援員を配置し、家庭教育支援体制を強化

◆家庭教育支援チームの組織化

・家庭教育支援員などの地域人材を中心としたチームの組織化
　○学習機会や交流の場づくりの企画
　○家庭や地域の状況に応じた支援をコーディネート

【チーム員構成例】
子育て経験者等の子育てサポーターリーダー
民生・児童委員、元教員、保健師、SSW等

④家庭教育を支援する取組の展開

◆保護者への学習機会の効果的な提供

全９市町

・就学時健診や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用した学習機会の提供

◆親子参加型行事の実施

・親子の自己肯定感、自立心などの社会を生き抜く力を養成するため、親子での参加型行事やボランティア活動、地域活動等のプログラムを展開

◆相談対応や情報提供

・悩みを抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭状況に応じて、家庭教育支援チームによる情報提供や対応を実施

◆保護者に寄り添うアウトリーチ型支援の実施

様々な問題を抱えつつも、自ら相談の場にアクセスすることが困難な保護者などに対して、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者の居場所（自宅や学校、乳幼児健診の場など）に出向いて、個々の保護者に対する相談対応や情報提供を実施する。【例】家庭訪問による個別の情報提供や相談、電話やSNSによる相談等

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

※「地域と学校の連携・協働体制構築事業」に含む。

趣旨

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」への転換を目指すことが必要であり、平成29年４月学校運営協議会の設置が努力義務化された。

・「学校運営協議会制度」に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。また市町や県立学校のコミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築等に対して助言を行うアドバイザーを県に配置し、各市町や県立学校を訪問して助言を行うとともに、県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進する。

CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業「地域と学校の連携・協働体制構築事業

①CSアドバイザー派遣

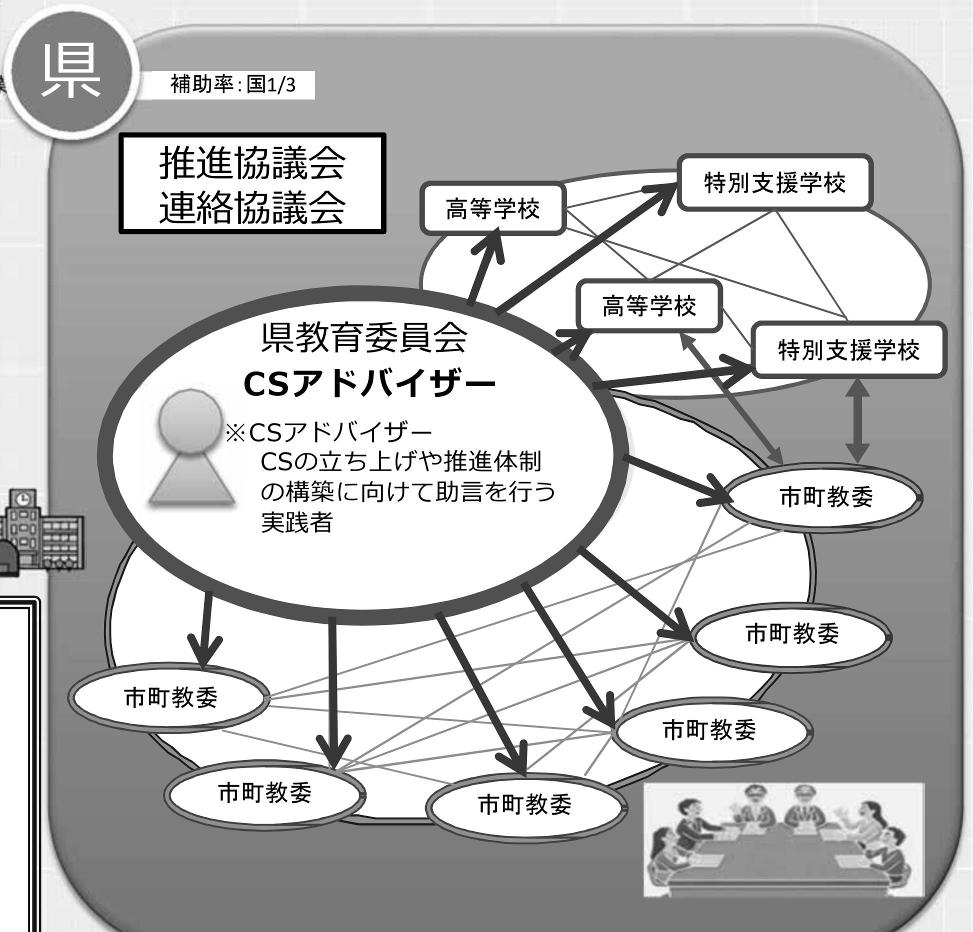
市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言や設置後のアフターフォロー

②コミュニティ・スクールの研修の充実

推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

③推進協議会・連絡協議会の開催

④学校運営協議会設置（県立学校）



コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- **●学校教育の質の向上および学校支援活動の充実**
- **●地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開**
- **●地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上**

→社会総がかりで子どもたちを育む

⇨地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

『学校を核とした地域力強化プラン』に係る県推進協議会

◆ 推進協議会委員（敬称略）

No.	氏　　名	所　　　属	No.	氏　　名	所　　　属
1	上村　文子	滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・スクールソーシャルワーカー	5	中澤　成行	県立能登川高等学校　校長
2	佐々木　保孝	天理大学人間学部　准教授	6	宮治　一幸	前ＣＳアドバイザー 元 湖南市立岩根小学校　校長
3	下澤　辰次	高島市立湖西中学校　校長	7	山元　尚美	湖南市立石部南小学校　地域学校協働活動推進員　学校運営協議会委員
4	白嵜　治	近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課　課長補佐			

（Ⅰ）　推進協議会の概要

◆第１回推進協議会

１　協議会概要

期　日：令和２年７月31日（金）９:30～12:00　　　会　場：大津合同庁舎７階　７－Ａ会議室
出席者：宮治座長、佐々木副座長、上村委員、下澤委員、白嵜委員、中澤委員、山元委員
オブザーバー：(県ＣＳアドバイザー) 伊藤アドバイザー、北島アドバイザー、北辺アドバイザー、髙木アドバイザー
松田アドバイザー、山田アドバイザー
(県教育委員会・知事部局) 澤参事（幼小中教育課)、武田参事（特別支援教育課)
和田主査（子ども・青少年局)
事務局　　：県生涯学習課（８名）

（1）　開　会　　・県生涯学習課長　挨拶
（2）　座長、副座長選出
（3）　協　議
　①令和２年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
　②今年度の力点について
　　Ⅰ:「県立学校へのＣＳ導入および学校運営協議会の適切な運営に向けてのアプローチをどのように図っていくか。」
　　Ⅱ:「県内の市町の現状・課題を把握したうえでどのような支援を図っていくか。」
　　Ⅲ:「コロナ禍における事業の課題と対応について。」

２　協議要旨

・ＣＳアドバイザーの強みを生かしていくために、県としてどのように推進していくかの方向性を共通理解する会議をもつことは重要。
・ＣＳの導入にあたり、委員の人選・人数、「やらされるのではない。教室で学べないことを学べる。」ということの教職員への働きかけが大事である。
・学校評議員との関係が一つの課題。滋賀県としての学校評価の制度設計をしたほうがよい。
・活動の予算、補助金が年々減っている。校長による地域の方や企業への働きかけが必要。
・管理職によって温度差がある。管理職の方が自信をもって教職員に説明できないことがハードルとなっている。ＣＳアドバイザー派遣によって、そのハードルを下げるようにしたい。
・コロナ禍により、集まっての取組がやりにくくなっている。「なぜＣＳが必要か」などの説明動画を作成して、大人の学びを保証できるようにしてはどうか。

◆第２回推進協議会

１　協議会概要

期　日：令和３年２月２日（火）10:00～12:00　　　　会　場：滋賀県庁北新館５階　５－Ｃ会議室
　　　※会場参加およびオンライン参加による開催（下線の参加者は、Ｚｏｏｍによる参加）
出席者：宮治座長、佐々木副座長、上村委員、下澤委員、白嵜委員、中澤委員、山元委員
オブザーバー：　（県ＣＳアドバイザー）伊藤アドバイザー、北島アドバイザー、北辺アドバイザー
　　　　　　　　　　　　　　　　　　髙木アドバイザー、山田アドバイザー
　　　　　（県教育委員会・知事部局）伊吹参事（高校教育課）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　澤　参事（幼小中教育課）
事務局　　　：県生涯学習課（7名）

（1）　開　会　　宮治座長　挨拶
（2）　協　議
　①令和２年度各事業の成果と課題、今後の方向性について
　　ア　県事業について（県主催研修会の振り返りおよび来年度の方向性）
　　イ　各市町における実施事業状況について
　　ウ　コミュニティ・スクール導入状況 および ＣＳアドバイザー派遣について

　②今後の地域と学校の連携・協働体制の推進の在り方について
　　ア　情報提供（地方教育行政の組織および運営に関する法律【４７条の５】の見直しについて）
　　イ　今後の県の推進方策について

２　協議要旨

- 「ＣＳ＝支援」ではなく、子どもたちの主体的な活動のためのＣＳでなくてはならない。研修の内容が、地域から学校への支援についてのものに偏らないようにしなければならない。
- ＣＳと地域学校協働活動の違い・役割分担についての理解を広げていく必要がある。役割の違いを踏まえて連動していくことが大事。
- 県立学校における学校評価の在り方について、ただ良し悪しを評価するのでなく、改善につながるサイクルとなるようにしなければならない。
- 学校教育主管課と社会教育主管課の一体的なあり方について、今後、市町行政のシステム作りが求められる。研修で「行政としてできることは何か？」とテーマとした内容も必要ではないか。
- 小中学校と県立学校、ＣＳ導入済みの学校と未導入の学校など、校種や導入段階などに応じた内容で分けての研修のあり方を検討してはどうか。
- 地域の方が、学校への支援に参加することにより、学校の現状や課題を認識することができる。学校運営協議会委員として熟議を深めるために支援活動は不可欠。
- 段階や枠組みごとの研修のあり方について、オンラインをうまく活用することができるのではないか。オンラインやオンデマンド配信、集合研修など必要に応じて使い分ければよいが、この１年いろいろ実践してみて、オンラインでも十分に協議することができることがわかった。
- 高校における活動の活性化のために、大学を巻き込んではどうか。大学側は、高校との連携や支援を望んでいる。そういった連携のために、県としてなんらかの支援が必要かもしれない。
- 新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメントとの関連について、教職員に説明される場がない。この内容の講座・研修等について、関係各課で確認・連携する必要がある。

（Ⅱ）各研修の概要

◆令和２年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（地域学校協働活動推進事業研修会）

１．目　　的　新学習指導要領が本年度から順次完全実施され、社会に開かれた教育課程により、新しい時代に対応できる学びをより一層進化させる必要があり、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、地域学校協働活動の推進が求められている。

また、コミュニティ・スクール導入の努力義務化により、学校が地域資源として活用され、学校が核となって地域の人々が生き生きと活躍する学びの場を提供できる地域学校協働活動の展開が期待されている。

そのため、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、事業の中核を担う対象者が今後の方策や地域と学校の在り方についての学びを深める機会とする。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象
・「学校を核とした地域力強化プラン」関連事業実施市町担当者
・上記事業の未実施市町における参加希望者　・公立校園 教職員
・市町生涯学習･社会教育担当者　・市町学校教育担当者　・地域学校協働活動の関係者

４．日　　時　令和２年７月 10 日（金）　13:30〜16:30

５．日　　程
○ 行政説明　本年度の事業説明および補助金事務手続きについて
○ 講 演　演題:「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的な推進」をどう考えるか？
講 師　天理大学 教授　佐々木 保孝 氏
○ 情報交換・グループワーク

６．場　　所　滋賀県庁東館７階大会議室

７．参加者数　93 名

８．概　　要　講師より、「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的な推進」をどう考えるか？』をテーマに講演をいただいた。

前半は「創る」をキーワードに、新学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためのカリキュラムマネジメントに焦点を当て、地域学校協働活動の機能的意義や子どもたちの学びを支える仕組について説明いただいた。さらに、「一体的推進」の視点から、学校運営協議会と地域学校協働本部の役割と関連性についても触れていただいた。

後半には、学習する組織を目指すための審議体づくりのポイントや、チーム学習の意義、「心理的安全」を高めるためのリーダーシップなど、具体的な事例とともに組織の運営上大事にしたい考え方や、効果を発揮する仕組み作りについて教示いただいた。

９．参加者のアンケートより

○日頃、私達が学校と関わる活動の基本理念を十分に理解する事ができました。今後も学校を支える地域力の一員として、児童達の将来の素晴らしい成長過程を胸に秘めながら共に頑張ってまいります。

○先生が講義で話されたように、高校では地域が広すぎて小・中のように選定できないが、地域に「何かを期待する」ことより、自分の高校が位置するその地域に学校として「何が貢献できるか」を考えることが高校としてのＣＳのあり方かもしれません。

○地域活動やＣＳは学校の活動の肥料のようなものであるという内容に共感できました。

○本校は本年度より学校運営協議会を設置し、これからどのような事業を行っていくか検討していきます。先生のお話をうかがい、「地域の一員としての学校の地域貢献活動」を推進していく決意を固めました。

○カリキュラムマネジメントと地域協働の整理ができました。教育課程の内・外の仕分け、内・外のどちらに関わっていくのか、組織・人の関わり方について整理ができました。

◆コミュニティ・スクール推進事業研修会（コミュニティ・スクール推進フォーラム 兼 コミュニティ・スクール連絡協議会）

１　目　　的　学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションをとおして、県立学校や市町における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資すること。

２　主　　催　滋賀県教育委員会

３　対　　象　（主に県立学校関係者対象）
（１）県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
（２）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者・学校評議員
（３）各市町担当職員

４　日時・会場・参加者数
○日時　　：令和２年10月30日（金）13:30～16:40
○会場　　：滋賀県庁東館７階大会議室
○参加者数：51名

５　日　　程
□講　演
演　題：「コミュニティ・スクールを生かした学校づくり」
講　師：増渕　広美　氏　　文部科学省ＣＳマイスター
前神奈川県立市ケ尾高等学校長
□パネルディスカッション［コミュニティ・スクール連絡協議会］
テーマ：「県立学校における地域と学校の連携・協働について」
○コーディネーター：増渕　広美　氏
○パネリスト：県立学校ＣＳ導入校関係者３名
・安藤　清代　氏：草津養護学校 学校運営協議会委員（元 草津養護学校長）
・中澤　成行　氏：能登川高等学校長
・山田　　薫　氏：滋賀県ＣＳアドバイザー（前 伊香高等学校長）

６　概　　要

・県立の高等学校や特別支援学校での取組から学んでいただくために、講師の先生から神奈川県立学校におけるコミュニティ・スクール導入について、また、導入後に取り組んでこられた実践などをお話しいただき、参加者の学びを深めることができた。
・滋賀県立学校においてコミュニティ・スクール導入に携わってこられたパネリストの皆様から、導入の経緯やご苦労、成果などについて率直な考え・思いをお伝えいただくことにより、参加者のＣＳ導入に係る多くの疑問・不安に答えていただく機会とすることができた。

７．参加者のアンケートより

・コミュニティ・スクールを導入することで、学校が豊かになると感じられ、希望を感じることができたのはよかった。
・パネルディスカッションにより成果がわかり、導入すべきであるなぁと思えるようになってきた。学校の課題を解決するための一つの方法としてＣＳを導入することを今後考えていかなければならないと感じた。
・現場の先生方、また主導者として苦労を頂いた校長先生方の話であったので、大変重みがあった。

◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

1．家庭教育支援研修会

（1）目　　的　　核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修を実施する。

（2）主　　催　滋賀県教育委員会

（3）対　　象　「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当等

（4）日　　時　令和２年９月18日（金）13:30～16:30

（5）会　　場　滋賀県立男女共同参画センター（G－NETしが）　大ホール

（6）参加者数　４７名

（7）内　　容　○事例発表

内　　容：訪問型家庭教育支援について～泉大津市の取組～

事例発表者：長谷川 慶泰　氏（大阪府泉大津市教育委員会 指導主事）

○講　　演

演　　題：家庭教育支援に必要なネットワークづくりと家庭教育支援チームの必要性

講　　師：新崎 国広　氏（大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授）

（8）参加者のアンケートより

・教育と福祉の連携がうまくいかない中、担当者が他部局に足を運んでいくことで、「顔のみえるつながり」ができ、情報の共有や交換がスムーズになっていったとの話を聞き、その通りだと感じた。自身も他部局との連携を進めていきたい。
・学校は子どもだけを見ているが、「親や家庭」を見ることも大切。家庭教育支援員はそういう取組ができる人材だと感じた。
・複雑な家庭が増えた。コロナの影響で、子どもは葛藤しているのではないか。家庭教育支援員として、何ができるか、日々考えている。
・家庭教育支援員として親と関わる中で子どもが登校できるようになった例がある。ささいな話、世間話が保護者とできる関係ができてきた。家庭教育支援員は教師ではない立場で、子どもに寄り添い、学校にその家庭の背景から示唆を与えることができる。福祉の力 で学校の流れが変わる。
・学校は忙しく、教頭、教務、各先生方は一日中動き回っておられる。働き方改革の面などからも、家庭教育支援員が果たす役割は大きいと感じるが、活動時間が限られていることもネックだと感じる。学校の様々な課題に家庭教育支援チームが果たす役割は大きい。

2．家庭教育支援実践交流会

・日　　時　令和３年１月29日（金）13:30～16:30
・会　　場　近江八幡市勤労者福祉センター（アクティ近江八幡）　多目的ホール
・参加者数　82名
・内　　容　○実践事例発表（彦根市および湖南市の取組）

○ミニパネルディスカッション（（彦根市、湖南市の家庭教育支援関係者）

○講演　演題：「今、求められている家庭教育支援とは」

講師：上村 文子氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー）

◆令和２年度「学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会」

１．目　　的　各市町における取組事例の発表や講演を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象　（１）地域学校協働活動関係者
（ ※ 地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、ボランティア等）
（２）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
（３）各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者
（４）公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員

４．日　　時　令和３年１月 22 日（金） 13:30～16:30
→会場での集合研修とオンデマンド配信視聴による研修のどちらかを選択する形で研修を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から集合研修を中止し、オンデマンド配信視聴による研修実施とした。
【オンデマンド配信期間　令和３年２月３日（水）～３月 18 日（木）】

５．動画構成　○事例発表
「手をつなぎ、心通わす　誘・融（とけ合う）老上」
草津市立老上小学校
○県立学校の取組紹介
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
○講演
演題：「学校と地域の繋がり方を再考する」
講師：髙木　和久　氏
文部科学省ＣＳマイスター、滋賀県ＣＳアドバイザー
びわこ学院大学 非常勤講師

６．概　　要

草津市立老上小学校より、「老上ふれあい農業合校」と学校との連携・協働について、また、学校運営協議会での熟議を生かしながら子どもの成長を支えていること、コロナ禍においてもＩＣＴを活用して、子どもの学びを深めていることなど、具体例を交えながら発表いただいた。

県立学校の取組紹介では、県内のＣＳの導入状況や考え方、具体的な取組状況について、県生涯学習課員から説明をした。

講演では、これから学校運営協議会を設置する市町及び学校・地域に向けたお話や、設置されて数年経過して様々な課題を感じるＣＳのお話等、講演の内容を構成立てて分かりやすくお話いただいた。各地域を訪問した際のエピソードや実践例を交えながら、子どもの主体性を育むことの大切さや行政システムの再構成の必要性等について御教示いただいた。

彦根市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

・実行委員会の開催（年２回）

第１回　書面会議　　６月 18 日(木)事業に関する資料配布
７月２日(木)新型コロナウイルス感染予防対策や活動の工夫の書面交流

第２回　ＷＥＢ会議　１月 26 日(火)各本部の実践交流・次年度に向けた協議

・学校訪問（10～11 月）

各支援地域協議会(委託先)とコミュニティ・スクールの計 10 小中学校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握と助言を行った。

■本年度の成果

・新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。

・コミュニティ・スクールの理解や設置促進に向けて、市の広報に特集記事を掲載した。

・社会教育委員の会議において、コミュニティ・スクール設置に向けた研修や協議等を行い、地域からコミュニティ・スクール設置の機運を高めようとする取組を始めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに２校で１つの学校運営協議会を立ち上げ、本市の学校運営協議会は５協議会(６校)となる予定である。今後は、これまでに学校運営協議会設置校の取組の成果と課題をもとに他校へのスムーズな導入につなげていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・読み聞かせは、校内テレビ放送の活用やマスク・フェイスシールドの着用などの対策を講じて実施した学校が多いが、臨場感を持たせながら、子どもたちが密集しないようにする場の工夫が難しい。

・地域未来塾では、個別指導による密接を避けるため、対面しないことや衝立を間に置くなどの工夫をして、各校の状況に応じてその実施に努めた。

・支援してくださる地域の方が高齢者であることが多く、感染リスクを避けるために活動を縮小・中止する選択をせざるを得なかった学校が多い。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

市内の公立幼稚園、小学校、中学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）の拡大に伴い、地域と学校の協働体制の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。

■本年度の具体的活動

５月～８月　各校園の第１回学校運営協議会への出席および説明（合計１２校園）
１０月２３日（金）コミュニティ・スクール研修会（１回目）
１１月１９日（木）コミュニティ・スクール研修会（２回目）
１月　５日（火）管理職研修会でコミュニティ・スクールについて研修
１月２２日（金）学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会

【ＣＳ研修会】

■本年度の成果

・コミュニティ・スクールの拡大に併せ、地域学校協働活動のねらいや運営方法の見直しも進み、地域と学校の連携のあり方や、めざす子ども像について地域と学校が改めて考える機会になっている。
・放課後子ども教室を設置している小学校では、元教員や専門的な知識を持つ学習支援員が、自分の得意分野を活かして、教員とは異なった視点で子どもを見つめ、幅広い学力をつけることができている。地域の大学生が支援員としてかかわっている小学校もあり、支援の輪が広がりつつある。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・管理職や地域学校協働活動推進員に対する研修は、今年度３回行ったので、コミュニティ・スクールについての知識理解は進んだが、すべての教員に対して研修を行う必要がある。
・すべての小学校に放課後子ども教室を設置することを目標としているが、人材や場所の確保等で、設置が難しい小学校もある。まちづくり協議会など、地域住民の理解と協力を得ながら、設置に向けた動きを進めなければならない。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内の２５校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ１名の地域学校協働活動推進員を配置し、委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・市内には、８つの公立幼稚園およびこども園、１２の公立小学校、４つの公立中学校がある。令和２年度現在、学校運営協議会を設置しているのは、幼稚園が２園、小学校が８小学校、中学校が２中学校である。令和３年度には市内すべての公立幼稚園、小学校、中学校に学校運営協議会を設置し、２１校園がすべてコミュニティ・スクールとなる。
・コミュニティ・スクールへの移行に対して、大きな不安を持っている校園があるため、設置済みの校園はもちろん、今後設置予定の校園に対しても、ていねいな説明をしていく必要がある。

■コロナ禍における対応・工夫・および課題

・地域住民との直接的なふれあいは減ったが、児童生徒が使用するマスク作りや消毒作業など、安心・安全な環境整備の面でボランティア活動が展開される校園が多数あった。

草津市における地域協働合校の取組

［取組状況］■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成 10 年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげている。

人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、地域の大人が子どもたちと共に地域・学校をより良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。

【　情報交換会　】

■本年度の具体的活動

（１）運営委員会

第１回（４月９日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と学校運営協議会との連携推進について
第２回（８月 28 日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修・意見交換
第３回（２月３日）総括会議　一年の振り返り、実績報告書について説明

（２）地域コーディネーター

業務説明会（４月 16 日）地域コーディネーターの機能と業務について【資料送付のみ】
情報交換会（７月 15 日）１学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換
総括会議（１月 27 日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

（３）地域協働合校全体研修会（11 月 11 日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、小中学校ＰＴＡ、まちづくり協議会地域協働合校推進委員、地域まちづくりセンター職員、市関係課職員

内容：講演と活動報告を行い、今の子どもたちに必要な支援や方法は何かを考えるとともに、地域と学校が双方向の連携・協働を作り出すための熟議の必要性など、今後の事業展開につなげるための意見交流

【　第２回運営委員会　】

（４）広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を年６回発行
広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、庁内掲示、草津市ＨＰ掲載

■本年度の成果

継続した支援と、地域の特色を生かした事業実施の結果、文部科学大臣表彰を受賞できる取組へと発展している。地域コーディネーターが学校運営協議会の一員として会議に参画することで、現状を踏まえた活動についても熟議され、児童・生徒の体験的活動を支える基盤となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

高齢者の重篤率が高いコロナ禍でふれあう機会が減りつつある中で、ＩＣＴを取り入れるなど、より安全・安心な活動方法の検討が必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 31 年４月から地域学校協働活動推進員として委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成 30 年４月から市内全小中学校（計 20 校）に学校運営協議会を導入している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

ＩＣＴを活用した現地と教室をつなぐリモート授業を取り入れた。一部の学校では市内にとどまらず県内外へと交流の場を広げた学習となったが、機器の数量不足や通信環境の乱れによる授業遅延も見られた。

栗東市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かに たくましく生きる 人の育成』を目標とします。

■本年度の具体的活動

地域学校協働本部事業を１中学校区で、放課後子ども教室事業を２小学校区で実施しました。会議等は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域学校協働本部事業は書面決議等に変更したこともありましたが、放課後子ども教室は感染症対策を講じながら総会等を実施しました。

■本年度の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約等がありましたが、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的の達成はできたと考えます。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の懸案事項になっています。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2022 年度導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

手指消毒及び検温の実施、活動中の密対策をとりながらの活動を行いましたが、特に放課後子ども教室における子ども達の密対策は仲間づくりの観点から、難しいこともありました。

野洲市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿
地域、保護者、PTA 等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する姿

■本年度の具体的活動
10 月 運営協議会開催
11 月 コーディネーターと学校長の意見交換会

■本年度の成果
本市では平成 23 年度より、学校、保護者及び地域の代表者で構成する「学校応援団」を組織し、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めてきたが、昨年度から、「地域学校協働活動」に活動の範囲を広げた。
このため、運営協議会を開催し県 CS アドバイザーの助言を受け、今後の地域と学校との協働のあり方を学んだ。
各本部においては、学習支援、環境整備、見守り活動など年間を通じて協働活動が実施できている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて
これまで本部ごとに独自の活動を行ってきたが、その地域の独自性は活かしながら、学校を核とした地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業に取り組みを進めたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況
これまで、学校応援団活動の中心となっていただいた方を、地域学校協働活動推進員として、全ての本部で委嘱した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画
既存の学校評議員制度を活用し、地域学校協働活動と連携しながら地域の実態に応じて拡大・移行していく予定。
平成 30 年度から学校運営協議会検討会を立ち上げ、県の CS アドバイザーの指導を受けながら研修を重ねている。

【野洲市学校応援団運営協議会開催】

野洲市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　☐地域学校協働本部　☐地域未来塾　■放課後子ども教室　☐土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活動する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを行っている。

４月　委員委嘱
５月　第１回運営委員会（書面議決）
１０月　意見交換会
１１月　県教委訪問受け入れ
２月　第２回運営委員会（実施予定）

■本年度の成果

・地域子ども教室を通じて、子どもたちの協調性や自主性、社会性が育ってきている。
・地域の方が地域子ども教室に関わってくださることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という雰囲気が出来ている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・教室を運営してくださっているスタッフの確保が難しくなってきている。市民活動サークルとして登録されている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は、市職員が事務局として担っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校運営協議会については、協議中である。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍での教室開催となったため、不安や悩み、教室の開催方法などの情報交換ができるように、意見交換会を実施した。

施設利用の制限やスタッフのコロナへの不安などを考慮すると、今まで通りの教室運営が困難であることが課題である。

湖南市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、「学力保障」、「仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

〇市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議　年２回

第１回　４月 21 日（火）　・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与　・地域学校協働活動推進事業等の進め方について

→新型コロナ感染症拡大防止のため開催を中止し、紙面伝達とした

第２回　各中学校区において開催

石部中校区　11 月 30 日（月）　甲西北中校区　12 月８日（火）

甲西中校区　12 月 10 日（木）　日枝中校区　12 月 11 日（金）

取組状況・情報交換、コロナ禍における対応工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想意見交流

〇甲西中学校区学校運営協議会設置準備委員会（市学校運営協議会設置推進委員会より発展）

第１回～第５回は設置推進委員会　第６回より設置準備委員会

令和３年４月設置予定

■本年度の成果

・それぞれの取組の情報交換と交流につながるよう、各校の実践をリーフレットとしてまとめ、各校学校運営協議会や地域学校協働本部の資料とすることができた。
・管理職を交え、地域学校協働活動推進員の連絡会を開き、成果と課題を明確にし、また共有することができた。次年度の推進方向が確認できた。
・コロナ禍の中にあっての活動であったが、「しない・できない」ではなく、どのようにしたら子どもたちとともに活動ができるか試行錯誤の中、創意工夫ある取組が多く見られた。対面・集合しての活動が難しいものについては映像化して視聴するなどの工夫が顕著であった。
・学校運営協議会については、市内で未設置であった１中学校区について、今年度より推進委員会から準備委員会に発展し、次年度設置に向けた取組が進捗した。
・まちづくり協議会とのつながりを深め、スクール・コミュニティづくりに取り組むことができた

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・持続可能な事業継続には地域学校協働活動推進員をはじめ、地域の活動支援者の広がりと人的な継承が大切である。この点においては創設期からの支援者の高齢化が顕著で課題も大きい。また各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やＮＰＯ法人等との連携・協働を一層進めていく必要がある。

【学校運営協議会設置準備委員会での熟議】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・１３小中学校の内、１０校導入済み。残る３校は地域の特性を生かし中学校区での学校運営協議会設置を検討している。令和３年度４月の設置を目指している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・活動を停止している期間に、今後の活動と事業継承を見据えてマニュアル作りに取り組んだ。
・対面・集合しにくいものについては映像化を通して子どもたちの活動支援とした。
・高齢世代の活動者が多く、感染症対策をしても積極的には事業推進しにくい。

高島市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通し「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

■本年度の具体的活動

〇地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

市内６本部が輪番で開催し、当該地域の推進員から
①これまでの本部の経過　②今年度の本部活動報告
③本部活動の課題　について報告・協議した。

〇学校運営協議会と地域学校協働活動の連携状況調査

学校運営協議会との一体的な推進を目指し、教育委員会事務局職員（学校教育課、社会教育課）が各校の学校運営協議会にオブザーバーで参加し、協議の内容や委員の意見を傍聴し、地域学校協働活動との連携の状況を調査した。

【地域学校協働活動推進員協議会】

■本年度の成果

地域学校協働活動推進員協議会では、本部ごとに異なる課題を推進員全員で共有し、その解決に向けて意見を出し合った。コロナ禍での活動のあり方、学校運営協議会との連携の２点がどの本部にも共通する課題となっているが、コロナ禍の活動では他の本部で取り組んでいる活動を参考に取り組みを進めた。学校運営協議会との一体的な推進に向けては、学校規模やこれまでの学校支援の状況によって進め方が異なることから事務局で連携状況を調査した。今後、推進員が学校運営協議会との連携を進めていく上での資料として活用したい。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動が市内全中学校区でスタートしてから令和２年度で３年目となり、徐々に活動が広がりを見せ、学校や地域で定着し始めた矢先に、新型コロナ感染症の影響を受け、活動が制限されてしまった。今後、コロナ禍でも多くの地域ボランティアが参画し、多様で継続的な活動ができるよう工夫を凝らさなければならない。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

中学校区ごとに地域学校協働活動推進員を委嘱し、７名を配置している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の１９校全てに学校運営協議会を設置している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

子どもと直接触れ合う活動は避け、グラウンドなどの環境整備や登下校時の見守りを重点的に行った。また、中学校では、コロナ禍でも何か地域支援活動ができないかと検討していたところ、昨年度につながりをつくった地域の社会福祉協議会からの声掛けもあって、医療従事者用の防護ガウンの作成を行うことができた。

東近江市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

・本部長及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（６月・１月）
・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（10 月・２月）
・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催
　（小学校：７月・11 月／中学校：８月・12 月／小中合同：９月・３月）
　（１）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
　（２）少人数でのグループワーク
　（３）県研修会等の報告
・県教育委員会主催研修会への参加

【　合同連絡会の様子　】

■本年度の成果

・令和３年度からコミュニティ・スクールのモデル校を導入するにあたり、６月の合同連絡会に滋賀県ＣＳアドバイザーの伊藤照男先生をお招きし、コミュニティ・スクールのあり方について学ぶことができた。
・地域学校協働活動推進員連絡会では情報交流に時間を取ったことで、コロナ禍の中で「今だからこそできることは何か」「どんな取り組みができそうか」というテーマについて、それぞれの取り組みや思いを交流することができた。
・本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同会議を開催した。
・各本部において、ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめたリーフレットを作成した。

【　推進員連絡会の情報交流　】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を見い出し推進していく。
・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 30 年度から教育委員会委嘱（令和２年度 28 名）

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和３年度より、市内２小学校をモデル校として導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・できるだけ大きな部屋での活動や、屋外・学外での活動
・学校の環境整備等、直接子どもや生徒と関わらない場所での活動

米原市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

（１）学校運営協議会委員研修会（中止）

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止とした。例年は学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割等について理解を深める研修会を開催しており、市職員による行政説明の後に、学校ごとに意見交換を行っている。

（２）教育フォーラムの開催（本年度は柏原中学校区のみ実施）

中学校区	日　時	内　容
柏原中学校区	11 月 27 日	○はびろ学習ラリー（生活・総合）を実施し、学運協委員による参観を実施
大東中学校区	中　止	
伊吹山中学校区	中　止	
米原中学校区	中　止	
河南中学校区	中　止	
双葉中学校区	中　止	

■本年度の成果

○市内すべての小中学校（９小学校、６中学校）および市内の各園が参画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各校区で実情に応じた協働活動を実施した。

○今年度新たに４校で学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。

○教育フォーラムは７年目の開催となる。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は多くの中学校区で中止となったが、例年は地域連携や保幼小中連携の在り方を考える機会となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況・・・今年度から委嘱を行っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- 平成 30 年度　中学校３校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
- 令和元年度　小学校７校、中学校１校を追加
  （山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
- 令和２年度　小学校２校、中学校２校を追加
  （柏原小、坂田小、大東中、双葉中）　※市内全小中学校に設置完了

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に！ふるさと日野学習の推進

［取組状況］ ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校、家庭および地域住民みんなでが役割と責任を自覚し、日野町の宝である子どもたちを健やかに育む体制づくりを確立する。子どもたちの成長を支える「日野町地域学校協働活動推進本部」を設置し、「ふるさとを愛し　ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域を誇りに持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして地域と学校が連携・協働して学校教育を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢や志を持ち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りを持てる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

小学校では、４年目、中学校では３年目を迎え、前年度末に活動内容の構想をたて、意欲的に取り組みを始めるようにした。

今年度はコロナ禍のため、定期的な実践交流会が実施できなかったが、学校と地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）との打合せには電話やメールでの連絡を頻繁に行うなどの工夫で乗り切り、各校の教頭を中心に情報交換を行い、慎重な感染症対策を行いつつ活動を活性化する方法を模索してきた。

校長会や教頭会などでも、各校の取組状況の交流を図り、「特色ある学校づくり」のための工夫、感染対策への配慮などについて意見交換を行った。

【地域学校協働活動
推進員実践交流会】

■本年度の成果

１学期については、コロナ禍における活動の制限があり、事業の進捗が大変心配されたが、２学期以降はふるさと絆支援員のコーディネートにより、徐々に活動が再開できるようになってきた。また、放課後子ども教室・地域未来塾についても、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、少ない人数で個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。

南比都佐小学校では、地域の特産物である日野菜の栽培に全校児童が取り組んでいる。なかでも４年生児童が１１月に日野菜の植替え作業を行い、５年生に進級後の６月に種の収穫を行うために、日野菜原種保存会の方にご指導をいただき、年間を通じた栽培学習に取り組んでいる。今年度も、感染症対策に十分な配慮をしながら、充実した体験学習を実施することができた。

各校ではスタッフへアンケート等をとり、ご支援いただいた皆さんへの感想や意見等を参考にしながら、協働活動を計画的に実施することができた。

【毎年５年生が種を収穫！
日野菜栽培（南比都佐小）】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

団体のボランティアの皆さんにご支援いただくことが多かった。各校における学習支援については、例年に比べて地域の大学生の協力等は得にくかったが、各校の学習支援員を中心に支援いただいた。感染の心配が軽減することを願い、次年度も地域の方による学習支援の輪が広がるような協働活動が進められるようにしていきたい。

昨年度まで実施してきた「夏休みチャレンジ教室」は、本来ならば今年度で６回目の実施となる予定であったが、コロナ禍による４・５月の臨時休業による欠時を回復するため、今年度は夏休みを大幅に短縮したため実施を見合わせた。保護者や子どもたちからも参加したいというニーズが増えていたため大変残念であったが、次年度はぜひ再開し、勉強がわかる楽しさを実感させたいと考えている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・日野町地域協働活動推進協議会には、各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）６名、青少年育成町民会議会長・町少年センター所長・学識経験者・小中学校長会代表・町ＰＴＡ連絡協議会代表・町公民館長代表・各小中学校教頭６名の合計１８名で構成され、教育委員会より委嘱されている。

・各小学校区に地域学校協働本部を設置し、ＰＴＡ・学校評議員メンバー等に地域学校行動活動推進員を委嘱し、各校の教頭と連携を図りながら、ふるさと地域学校協働活動推進員が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

現在、令和３年４月からの日野町学校運営協議会規則の施行に向けて、準備を進めているところである。地域学校協働活動をさらに発展させながら、令和３年度の準備期間を経て、令和４年度・５年度にかけて各校での学校運営協議会の発足を目指している。

竜王町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、地域学校協働本部の事務局を公民館に置くことにより、公民館講座受講生や公民館を拠点に活動される団体等の情報等を把握することができ、優れた技術を持っている地域の方を、学校（園）と結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。そして、公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で一人ひとりの人生をより豊かにすることで、まちづくり活動の推進へとつなげたい。

また、今後は、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にすることにより、今までの「支援活動」から、「連携・協働活動」になることを目的に、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から地域と学校が「双方向」の関係性を築いていきたい。

また、学校だけでは学べない地域の文化や歴史等を学びながら、体験することができる土曜日の教育支援活動「竜王キッズクラブ」を開講し、児童自身が地元に愛着を持つことはもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■本年度の具体的活動

（地域学校協働活動）

・毎　月：統括地域学校協働活動推進員・地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催。

・年２回：地域学校協働本部だよりの発行。（上半期、下半期）

・通　年：学校園応援団（ボランティア）の募集。

（土曜日の教育支援）

・通　年：各クラブでの活動

（共通）

・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。

【 大根栽培サポート 】

■本年度の成果

（地域学校協働活動）

・地域のボランティアと園児・児童・生徒が顔見知りになることで、人間関係や地域でのコミュニケーションが密になった。

・本年実施した「はなまる先生」の成果により、自宅学習が身につき、児童の学力が向上した。また、今まで自宅学習の採点等を教員が行っていたが、ボランティアが行うことにより、教員が児童と向き合う時間を増やすことができ、より親切丁寧な対応ができるようになった。

（土曜日の教育支援）

・普段、学校では交わることのできない異学校や異年齢の児童が、クラブ活動を通じて、一緒に学び、体験をする交流の場を持つことができた。

・様々な体験を通じて、心身ともに成長をすることができた。

【サイエンスクラブ日野川の石採取】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

（地域学校協働活動）

・学校の依頼に応じて、本部でボランティアの調整を行い、派遣をする段階にとどまっており、チームを作って支援できる体制の構築には至っていない。チームとして支

援するためには、リーダーの育成が必要であり、リーダーとなる人材を発掘し育てていく必要がある。
・新型コロナウイルス感染症により学校が休校となった影響で、例年であれば１学期に対応している支援が減少。ボランティア登録者数は、年々増加しているが、支援内容により支援に協力できる人の偏りが生じている。

（土曜日の教育支援）

・土曜日の教育支援活動（竜王キッズクラブ）にて、講師となる人材の発掘・継続が必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・地域学校協働活動推進員を５名委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・町内の２幼稚園・２小学校・１中学校にコミュニティスクール（学校運営協議会制度）を設置。今後は地域学校協働本部と学校運営協議会が連携をし、今まで続けてきた活動を更に発展させ、コーディネート機能を強化しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

（地域学校協働活動）

・新型コロナウイルス感染症により、学校への支援を行う際の感染症対策の徹底（マスク、消毒、検温等）。
・支援中は、子どもたちとの距離感を保ちながらも、親身な対応を心がけている。
・学校からの急な依頼に対応できるボランティアが少ない。

【チャレンジクラブ　起震車体験 】

（土曜日の教育支援）

・参加者が子どものため、感染症対策を徹底できるまで自宅学習等を取り入れた。
・例年は、クラブ活動には兄弟や家族の同伴を可としていたが、参加人数の密を避けるために、クラブ生のみの参加とした。
・吹奏楽教室等は、飛沫感染を防ぐため、対面では行わないことや、楽器ごとに練習を行い、少人数での練習を実施した。
・クッキングクラブでは、今まではグループで協力しながら調理をしていたが、１人ずつが自分のものを調理することや、クラブ時や終了後の飲食を禁止とし、必ず持ち帰りをすることとした。

多賀町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。少子高齢化・人口減少という本町の課題に対して、「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、安心して子育てのできる施策を充実させ、町の活性化を図っている。

また、地域の大人が子どもと顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人は子どもと共に活動することを通して、持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができ、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

（１）登録者に対するボランティア研修会の開催

コロナ禍で当初の計画の研修会は実施できず、彦愛犬地区主催の「読み聞かせ研修会」に参加し、活動のスキルアップを図った。

（２）読み聞かせ・職場学習・屋外での環境整備活動の充実

今年度、中学生の職場体験の代替として資格を持つ方々による職場学習（講話と実践）を行った。さらには、中学校特別支援学級で初めて花作り・野菜作りの支援をおこなった。大きく生育し野菜を収穫販売することができた。生徒の笑顔がボランティアさんの喜びとなった。

【土曜講座での教育長挨拶】

（３）「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」「放課後見守り（学びっこタイム）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、提携塾から派遣された講師による学習講座（土曜講座）を実施している。また、大滝小学校の低学年児童を対象に、地域サークルやボランティアの方による、宿題の見守りやよさこい等の体験活動（学びっこタイム）を定期的に行っている。

■本年度の成果

（１）研修会に参加することで、参加者のスキルアップを図るとともに、ボランティア同士の交流や意見交換が活発におこなわれるようになった。

（２）学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備など、ほぼ毎日先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。職場学習では中学生の今後の進路において貴重な体験を身近で実感することができた。

（３）土曜講座・学びっこタイムは、小・中学生の学力向上を図るとともに、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今年度は活動が制限されたため、毎年活動を楽しみにしてくださる方等以外にも、広く活動を知っていただくために広報等を活用。ＦＡＸや有線放送、口コミ等で随時ボランティアを募集している。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

【理科学習（消費電力の違い）】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「校園の子どもにとり、どのような地域支援が必要か」「地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めるか」等について、ＣＳアドバイザーの指導を受けた研修を重ねている。多賀町に相応しい学校運営協議会を導入するため、他市町の取り組みも参考にしてイメージを膨らませ、今後の具体的な方向性を探っている。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、土曜講座会場を町立博物館から多賀中学校に変更し、換気・消毒等の徹底を行った。読み聞かせでは、マウスシールドを活用し、コロナ対策および表情が見える工夫も追加。園児や児童は密を避けるため、少人数実施や椅子で距離を保つなどの対策をしている。

豊郷町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

［放課後子ども教室］

・地域の力を活かし、町内の小学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。
・町内の小学生を対象に、学校・学年が違う子どもたちや地域の方と関わり、様々な体験活動をすることで、生きる力や協働する大切さを学ぶ。

■本年度の具体的活動

［放課後子ども教室］

(1) 小学校夏季休暇中の学力補充教室
復習プリント等を使い、子ども達がわからないところを教員やボランティアが個別に指導し、課題の採点などを行った。他にも、科学実験工作教室や百人一首、かるたを用いた学習などを行った。

(2) さとっこふれあい教室・とよっ子探検隊（各２～３回）
１～３年生のさとっこと４～６年生のとよっ子に分けて事業を実施。さとっこは 15 人の定員を設けて参加者を募集。地域の方を講師として迎え、ものづくりやスポーツなどの活動を行った。とよっ子も各回 15 名の定員を設けて募集。自然体験やものづくりができる施設に行き、体験活動を行った。

■本年度の成果

［放課後子ども教室］

・夏季休暇中の学力補充教室では、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につなげたりすることができた。
・とよっ子探検隊・さとっこふれあい教室では、学校や学年の違う子どもが、班活動を行うことにより、普段関わることが少ない子ども同士の交流を図ることができた。また、体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・地域の方に事業の協力をお願いしているが、年々確保が難しくなっている。
・参加希望者が固定されつつあるため、参加したことのない子どもへのアプローチが必要。

【さとっこふれあい教室の様子】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校評議員を委嘱しているが、学校運営協議会は導入していない。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

三密の回避や消毒・手洗いの徹底。開催時期や実施時間、開催規模については、感染拡大状況を考慮した上で決定した。そのため、開催時期がずれ、実施回数については例年よりも少なくなった。

【とよっ子探検隊の様子】

令和2年度　地域学校協働本部一覧　　12市町120本部

No.	市町名	本部名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園 金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝西小学校 稲枝北小学校、稲枝東幼稚園、みづほ会みづほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園	8	12	4
		金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園			
		桐原幼稚園地域学校協働本部	桐原幼稚園			
		馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園			
		北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園			
		武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園			
		老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園			
		八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校			
		島小学校地域学校協働本部	島小学校			
		沖島地域学校協働本部	沖島小学校			
		岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校			
		金田小学校地域学校協働本部	金田小学校			
		桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校			
		桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校			
		北里小学校地域学校協働本部	北里小学校			
		武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校			
		安土小学校地域学校協働本部	安土小学校			
		老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校			
		八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校			
		八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校			
		安土中学校地域学校協働本部	安土中学校			
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小学校地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
5	野洲市	中主小学校区地域学校協働本部	中主小学校	0	6	3
		篠原小学校区地域学校協働本部	篠原小学校			
		祇王小学校区地域学校協働本部	祇王小学校			
		三上小学校区地域学校協働本部	三上小学校			
		野洲小学校区地域学校協働本部	野洲小学校			
		北野小学校区地域学校協働本部	北野小学校			
		中主中学校区地域学校協働本部	中主中学校			
		野洲中学校区地域学校協働本部	野洲中学校			
		野洲北中学校区地域学校協働本部	野洲北中学校			

6	湖南市	石部小地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小学校区地域学校協働本部	石部南小学校			
		三雲小地域学校協働本部	三雲小学校			
		ひがしっこ地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小学校地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小学校地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		菩提寺北小学校地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校			
		日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校			
7	高島市	高島学園地域学校協働本部	高島中学校、高島小学校	0	13	6
		マキノ地域学校協働本部	マキノ中学校、マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校			
		今津地域学校協働本部	今津中学校、今津東小学校、今津北小学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木中学校、朽木東小学校、朽木西小学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇川中学校、青柳小学校、本庄小学校、安曇小学校			
		新旭地域学校協働本部	湖西中学校、新旭南小学校、新旭北小学校			
8	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
		湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校			
		能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校			
		朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校			
9	米原市	柏原学区学校協働本部	柏原中学校、柏原小学校、柏原こども園	7	9	6
		河南学区地域学校協働本部	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校、伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園			
		米原学区地域学校協働本部	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区地域学校協働本部	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園、大原保育園			
		双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校、おうみ認定こども園			
10	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
		日野中学校地域学校協働本部	日野中学校			
11	竜王町	竜王町地域学校協働本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校 竜王幼稚園、竜王西幼稚園	2	2	1
12	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝たきのみやこども園、多賀ささゆり保育園	3	2	1

地域から学校へ　学校から地域へ　課題解決のための協働

彦根市	活動名　：　東中学校区地域学校協働本部	東中学校　　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：50人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　　■部活動支援　　■学校周辺環境整備　　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　　□地域行事への参加　　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　　□その他［　　　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
<GAKKOU展の開催など>（10/10〜11/23）
　衰退しシャッター街化してきた学区内の商店街が、BIWAKOビエンナーレ（アートイベント）の会場のひとつになるということで、学校も協力して盛り上げようと、商店街と相談し、空き店舗をお借りして、児童（城東小・佐和山小）・生徒・教員の作品を展示。
期間内の土日祝日の終日開館。また期間中にあったゑびす講では、児童（城東小マーチング）・生徒（書道部・吹奏楽部）がパフォーマンスを披露する場を設定。

【　GAKKOU展の会場入口　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　地域コーディネーターが商店街の会議などに出席して商店街や商店街連盟と連携。
　手指の消毒やマスク着用を呼びかけ、換気や会場に入る人数の制限等を配慮。

■　事業の成果
　支援地域協議会で、「地域の課題は学校の課題でもある」としながらも、なかなか取り組むことができなかったが、たくさんの子どもや保護者、地域の方が商店街を訪れ、一時とはいえ、商店街の活性化に学校も寄与することができた。一方で、今年度はコロナ禍で、子どもたちが発表の場を失ったり、地域に学校を開くことができず、地域と学校の間に距離ができ、これまでにはなかった課題が生まれていたが、その解決にもつながった。
　それどころか、これまで学校に足を運ぶことがなかったような方にも、子どもたちの作品や姿を見ていただき、学校や子どもを身近に感じていただくことができた。また、期間が長かったので、美術部の生徒が会場で大作を仕上げたり、ボランティア部が小さな子どもたちのためにハロウィンイベントを開催したりするなど、生徒が新しいことにチャレンジする機会をつくることもできた。
経費を商店街が負担してくださったので、経済的な面でも心配なく取り組むことができた。

【　ハロウィンイベントの様子　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　日々の教育活動で精一杯の学校に、新しい取り組みの提案は難しいため、日常の教育活動をうまく生かしながら、地域も学校も元気になるような取り組みにチャレンジしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　今回の取り組みにも言えることだが、支援地域協議会での人のつながりや会議で話し合っていることが、新しい一歩につながる。地域と学校の協働は容易くないが、まずは顔をあわせて話し合い、信頼関係を築くことが大切であると実感している。

【　商店街作成のチラシ　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員
　■その他（　担任・学年主任・担当教員（PTA・部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員・PTA役員　）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンド学習の充実に向けて～

彦根市	活動名 ： 東中学校区地域学校協働本部	城東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・マーチングバンドの各パートの練習（毎週金曜日６校時）
・校内発表会や卒業式歓送などの校内行事への参加
・ゑびす講などの地域行事への参加

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・コロナ感染拡大防止のため、例年実施される「城まつり」が中止された。そこで、商店街連盟の方や地域コーディネーターと連携し、地元商店街が行っている「ゑびす講」の中で、静止演奏とマーチングパレードをする区域と時間を限定して実施した。
・「ゑびす講」で行われる、城東小学校マーチングバンドの発表と東中学校ブラスバンド部の発表の時間をずらすことに加え、それぞれの発表場所の距離を十分とることで、観客が密になることを減らせるように工夫した。
・６年生から５年生への「引継式」までの取組は楽器の体験学習をやめ楽器の紹介学習として実施した。
・「引継式」後の12月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。楽器ごとに学習場所を分け、密になることを避けながらボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心の引継ぎも大切にしている。
・本校卒業の教育実習生が自分の担当していたパート指導をし、実習終了後キャリア教育として、伝統を守ってきた思いを述べ、トロンボーンの演奏を行い、高学年が鑑賞した。

■　事業の成果
・地域学校協働本部と地域とが連携することで、指導体制を充実させると共に、本校の伝統であるマーチングバンドの学習を、コロナ感染拡大防止の対策をとり地域で発表することができた。
・指導ボランティアの方の熱心な指導により、例年より学習回数が減っても子どもたちの演奏技能が向上し、意欲向上へとつながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域学校協働本部を通じて学校と地域がともに連携していくことが大切である。
・地域コーディネーターと人材の発掘と情報交換に努め、「学校」という場を核に、地域の人間関係の中に「あてにする - あてにされる」相互関係を生み出せるような活動を計画する。

【ゑびす講でマーチングの発表】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
マーチング学習に関する児童の感想
ゑびす講でみんなに披露できて見てもらえてよかったと思います。次は、伝統を引き継いでもらうために、先輩に教えてもらったように５年生にしっかりと教えてあげたいです。伝統を引き継いでがんばるぞという気持ちで、私たちのマーチングをこせるようになってほしいし、その次の学年にも引き継いでほしいです。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　）

報告書記入者　（　地域連携担当教員　）

地域とともに取り組んだ　６年生　修学体験学習「修学体験　IN　彦根」

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：85 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

【　切り絵体験　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

６年生修学体験学習「修学体験　IN　彦根」

今年度は、新型コロナ感染予防のため、例年実施している県外への修学体験学習の代わりに、自分たちが住んでいる地域に視点を変えて１日市内を巡る「修学体験　IN　彦根」を実施することとした。

実施にあたって、銀座商店街の方々をはじめとする地域の方や佐和山応援隊の方に場所を提供していただいたり体験活動の指導や通行の安全を見守っていただいたりした。今年度初めての試みであったが、地域の方々の協力を得られたからこそ実現することができた。

【　絵手紙体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍でも実施可能な修学体験学習を子どもたちに味わわせたいという思いから、今回の彦根市内の修学体験という形になった。例年の活動と同じような活動ができるように、花しょうぶ通りや銀座商店街の各店舗で、活動に協力していただける方を探して、子どもたちが活動したりお土産を買ったりできるようにした。活動は、複数内容を考え、学校から彦根城をまわって学校に戻るウォークラリー形式とした。また、活動中の密集を避けるために、１つの活動場所に滞在する時間も決めたり、ウォークラリーのコースを右回りと左回りにして集団で１か所に集まらないようにしたりした。

【　陶芸絵付け体験　】

■　事業の成果

コロナ禍で様々な行事が縮小したり中止になったりする中で、地域を活用した様々な活動が実施できたことは、協力いただいた地域の方の温かい支援によるところが大きく、地域の方々の協力なくしては、実施することができなかった。６年生の子どもたちにとっても、今回の修学体験学習の実施に当たり、地域や応援隊の多くの方々が協力してくださったこと、コロナ禍での実施ということで、様々な対策を考えてくださったことを実感しながら体験を楽しむことができた。多くの方に協力いただき、当日子どもたちは、グループでウォークラリーをしたりお土産を買ったりして、これまでの修学体験学習の内容と同じような楽しみを味わえただけでなく、切り絵や絵手紙などいろいろな体験活動も楽しむことができた。この体験学習を通して、身近な地域に目を向ける機会となり、これまで気付かなかった様々な良さを知ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年度は、コロナ禍で修学体験学習に代わる行事として実施した。地域の方も子どもたちのためにと、会場借用やお土産購入等に快く協力してくださった。今後のコロナ感染拡大の状況にもよるが、次年度以降も「地域を知る・地域を学ぶ」という観点からも引き継いで実施できることが望ましい。地域の方の協力あっての活動であり、今年度初めて行ったことでもあるので、次年度にどのような形で今回の学習を生かしていくのかはっきり定まらないところがある。今後も地域と連携して活動を進めていくことを前提にして、つながりを絶やさない努力を学校として行っていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務　）

報告書記入者（　地域連携担当　）

「安心感と温かさを伝える」～保護者・地域とのつながりを深めるために～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：41人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。例年、毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施してもらってきたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、２学期より事前に読み聞かせを録画し、ビデオ放送による形態で行った。子どもたちの心に響く本や季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業、図書室の掲示など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。今後も、「すまいる」さんと連携しながら、読書活動の充実を図っていきたい。

【「すまいる」さんによる図書室の掲示】

○子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

新型コロナウイルス感染症対策のため１学期は実施しなかったが、２学期より「密にならない学習の場づくり」等の対策をとった上で多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできた。２年生の「モビリティマネジメント出前授業」、３年生「郷土学習」・「警察署出前授業」、４年生の「福祉学習」、５年生の「トヨタ出前授業」・「弁護士出前授業」、６年生の「選挙出前授業」等を行った。どの学習活動においても子どもたちは、本物に触れることにより心を耕し、深まりのある学習を行うことができた。子どもたちの学習を支えていいただいたゲストティーチャーの方々への感謝の気持ちでいっぱいである。

【３年生　警察署出前授業】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや１時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、電話等による事前打合せも行った。

○学校ホームページによる積極的な情報発信

今年度も多くの方々の支援のもと本校教育の推進にあたってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策により、保護者の学習支援ボランティアを募集しなかったり、屋内での学習参観を実施しなかったり（３学期は、地域別の学習参観を実施予定）と様々な措置をとった。そのため、学校の情報（子どもたちの学校生活の様子等）を十分に保護者や地域の方に直接伝えることが難しい状況であった。そこで、毎日、学校ホームページを通じ、「写真とコメント」による学校の情報の積極的な発信に取り組んできた。

『【学校再開・６月１日（月）】子どもたちが学校に戻ってきました。やはり学校には、子どもたちの元気な姿が欠かせません。どの学年の子どもたちも３密をさけながら、楽しく学習を進めました。１年生は、初めて全員がそろっての授業となりました。手洗いは、前の人との間隔をしっかりとあけ丁寧に行うことができました。また、登下校ではスクールガードの方をはじめとする地域の方々に子どもたちの安全見守りのご協力をいただいています。本当にありがとうございます。』これは、学校が再開した６月１日（月）の学校ホームページに掲載したコメントである。

■　事業の成果

○コロナ禍の中、保護者や地域の方に学校ホームページを通じて、「安心感と温かさを伝える」ために多くの情報を発信することができた。今後も、保護者や地域の方とののつながりを深めるために積極的な情報発信に努めたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がってきている。今年度は、保護者ボランティアの募集を見合わせたが、次年度は、学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信し、協力を呼びかけていきたいと考える。

■旭森小学校ホームページＵＲＬ　https://www.fureai-cloud.jp/asahinomori-hikone/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者　（地域連携担当教員）

地域とともに創る「瞳輝く　明るい　楽校」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校　学校運営協議会：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：20人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・学習環境を整備するための活動
・学校行事への支援
・地域の諸団体とともに行う地域貢献活動
・緊急時における登下校の安全を確保するスクールガードのマニュアルの作成
・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ全校生徒制作の「クリスマスカード」配達

【クリスマスカード大作戦】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合せを行う。
・昨年度の実施内容を振り返り、改善点や変更点の確認を行う。
・積極的に学校の状況や情報を伝え、取組の事前打ち合わせに活かす。
・活動後に振り返りを行い、反省と課題を明らかにする。
・感染症対策のために、参加人員を少数とし、地域の方とのふれあいも、直接ふれあうなどの接触、または密を避ける。

【地域の方による環境整備】

■　事業の成果
・地域の方から率直な意見や感想を聞くことにより、今後の活動に反映することができた。
・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。また、地域の方にとっても生徒との活動にやりがいを感じていただいたり、地域の方から多くのお手紙やお礼の電話をいただいたりした。
・地域の専門的な知識・技能をもった方と連携協働をすることにより、学校運営が円滑に進んだ。

【七夕かざり】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域でどのような子どもたちを育てたいのかを更に共有する必要がある。
・情報のネットワークを広げ、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
・活動について外部から評価をしていただき、取組の改善に活かしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・ひこね市文化プラザでの合唱コンクールの支援
・生徒に向けた「私の夢」執筆

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

児童の豊かな学びを、地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：50人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）郷土学習の充実
総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。
・３年生：地域の方を招き、学区内の歴史ある町並みや建物について話を聞いたり、一緒に町並みを歩いて説明を受けたりして、学びを深めた。
・６年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通しながら学びを深めた。
（２）学びを豊かにする学習支援の充実
・１年生：生活科の学習では、チューリップの球根の植え付けに地域の方に来ていただき、丁寧に植え方を教えていただいた。また、交流を通して、地域の方とのつながりを深めることができた。
・５年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

【　３年　わたしの町じまん　】

【　１年　チューリップ植え　】

【　５年　ミシンの学習　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
今年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事前の打合せを今まで以上に丁寧におこなった。
また、例年学年一斉で実施してきた活動も、密を避けるために１学級ずつで実施したり、安全を確保できない際には活動内容の変更や、活動を中止したりするなど、児童・教員・ボランティアの安全面を考慮しての活動とした。

■　事業の成果
地域の方からの生の声を聞くことで、地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりだけでなく、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換したい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
コロナ禍により、例年と大きく異なる取り組みとなったため、次年度に向けて年間計画の見直しを図っていきたい。
今後の取り組みについては、地域コーディネーターと連携を密にし、感染症感染拡大予防策を徹底しながら、安全に活動を進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域に学び、人、もの、ことへの愛着心を育てる『城北たんけん　～このまち大好き～』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成21年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：40人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　□地域学校協働活動推進員

□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

第３学年の総合的な学習の時間の取組として、琵琶湖でのクルーザー体験、彦根港でインタビューと観光船乗船、ミシガン州立大学連合日本センター外国人学生とのコミュニケーション等、地域ボランティアから説明を受けて体験学習する。また、その交通見守りや安全のサポートを協働して行う。

【　クルーザー体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域の方々の協力を得て、我が校区ならではの体験活動を多く採り入れることにより、児童が地域のよさ、素晴らしさに気付き、自分が見付けた城北じまんについて自分のことばで語れるようにした。本年度はコロナ禍での活動のため、事前に教師が入念に下見を行い、予測される危険箇所の点検とともに、活動場所での見どころを確認した。安全への配慮とともに、児童に伝えたい事柄を絞り、地域学校協働本部のリーダーに伝え、当日は、地域学校協働本部のリーダーや参加いただけたボランティアの方々から、地域住民としての思いも交えながら児童に語りかけていただき、体験活動がよりいっそう深まるようにした。

【　史跡をたどって　】

■　事業の成果

多くのボランティアの方々に参加いただき、子どもたちの安全への目配りとともに、地域のよさにふれる活動ができた。ポイント毎での児童の質問にもボランティアの方に答えていただき、児童は頷いたりメモをとったりしていた。また、活動中には児童と地域の方々が会話したり一緒に景色を楽しんだりするなど、自然と交流する姿が見られた。多くの体験活動から、児童は思い思いに自分の城北じまんを見つけ、「城北カルタ」の制作活動に熱心に取り組み、下学年児童や保護者に向けて発表することができた。

【　昔の道具体験　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

個々の児童のニーズに合ったコースや時間配分を工夫しているが、並行した活動の際には、引率に必要な人数が不足したり、グループごとの活動時間や待ち時間に大きな差が生じてしまったりする。これまでに引き継がれている見どころ等を参考に、コースや時間を設定しているが、児童の追究活動に応じた時間や場所を確保することが難しい。また、地域について語っていただける方が年々減少してきていることも、今後の活動を維持していく上で心配な点である。ボランティアを充実させていくために、地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、新たにメンバーを募っていきたいが、校外学習の場合は、指導内容とともに、児童の安全確保の役割や引率方法を周知し、明確に伝えておくことも必要である。加えて、熱中症対策や感染症対策等を行う必要があり、実施時期や形態も今後の検討課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

地域コーディネーターを中心として、参加可能なボランティアを募集したり、日程調整を行ったりするにあたり、事前に学校から計画書を提示し、内容面について説明する機会を設けている。これにより、取組の意図や、安全面の配慮について十分に検討を重ねた上で人員の配置等を決めることができた。例年行っている伝統的かつ文化的行事として地域に根ざしていることもあり、学校からの発信ではなく、地域コーディネーターが進んで学校に働きかけて話し合いの機会をもつこともある。地域に開かれた双方向の教育課程として位置づけられていると言える。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教員　　■その他（学級担任）

報告書記入者（　教　頭　　）

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：14人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）ＰＴＡ行事である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りについての助言をし、当日は８台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。

（２）特別支援学級の授業で、年間を通して中庭での野菜作りを行った。キュウリや茄子や大根を育て、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興に取り組み、様々な野菜作りの補助を行っていただいた。

（３）校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備に取り組んでいただいた。

【ＰＴＡ学校清掃作業での協働活動】

（４）「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に１週間展示する取組について、その設営や後片付け等で支援していただいた。

（５）美術部や３年生の制作物を、定期的に地域の公民館に展示させていただいた。公民館職員や地域の方が企画や設置、後片付けをしてくださっている。

【中庭での野菜作りに協働・助言】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇生徒が地域行事に参画・参加する取組として実施してきた夏祭りや文化祭が中止となった。さらに、地域活動へボランティアで参加してきた清掃活動の多くがコロナ禍により中止となったが、地域の公民館での生徒作品展示や公民館事業に協力することにより、地域とともにある学校につながった。

■　事業の成果
〇毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただいており、スムーズな協働活動ができるようになってきている。

〇学校と地域さらに地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

【公民館での中学生作品展示の準備】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

〇本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
活動の様子は本校ホームページに掲載　https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成23年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：36人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

【読み聞かせボランティアさん】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）豊かな言語活動の育成をめざした「読み聞かせ活動」
本校では、豊かな言語の力を育成するために、朝学習の時間を活用して国語学習をしている。その言語学習を補足する形で、各月の第１水曜を読み聞かせの時間とし、地域ボランティアの方に絵本などの読み聞かせをしていただいている。
（２）学習環境の整備（教材園の整備、校地内樹木の整備）
２年生、３年生、４年生では、生活科や理科で学年花壇を使って植物や野菜の栽培を行った。その際、花壇の土起こしや畝づくりなどの定植準備をしていただいた。すっきりと整えられた学年花壇で、スムーズに生活科や理科の学習を行うことができた。その後の除草活動や手入れも行っていただき、有意義な学習活動を行うことができた。
（３）学校の「困った」に応える学校応援活動
学校では様々な「困った」について、地域コーディネーターに相談することがある。今年度当初、コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な対策を迫られた。中でも、春先は「マスク」の在庫不足により、十分な準備ができない家庭があることが懸念された。そこで、地域コーディネーターを通じで地域の元縫製会社経営の方を紹介いただき、布製のマスクの制作をお願いできた。これにより、十分な数のマスクを確保でき、マスクを忘れてきた子や足りなくなった家庭にマスクを配ることができた。また、学校では様々な作品展に出品し入賞者があり、たくさんの賞状が送られてくる。表彰状は、今後も残るものなのでしっかりよい字で名前を書いてあげたいと思うが、本校には堪能な方がいない。ここでも地域コーディネーターに相談し、地域の達筆な方を紹介いただきお願いすることができた。やはりきれいな字で名前が書かれた表彰状はその値打ちも上がった感がある。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、１年間を見通した活動計画を立てていた。しかし、今年度は学校においては休校となり、また、総会のために地域の方を学校に集めることもできなかった。そこで、地域コーディネーターと相談し、紙面による総会とした。年間の活動計画等について、昨年度登録のボランティアさんへ送付し、承認のお返事をいただくことで共通理解を図った。
〇人材の発掘が本校における今後の課題であるが、その対策として、年度当初に「学校支援ボランティア募集のお知らせ」を平田学区全戸にお知らせをした。各自治会の協力の下、募集のチラシと登録案内を回覧板で回し、新たなボランティアさんの増員に努めた。その結果、新たに４名の方にお手伝いいただけることとなった。

【学習環境整備(中庭除草)】

■　事業の成果
◯学年花壇づくりでは、普段から畑仕事をされておられる方がボランティアとして活動してくださった。畑を耕し、草を取って畝をつくってくださった。担任からは、除草作業や畝づくりなど、これまで放課後の時間を使ってしてきた学習準備を、ボランティアさんが行っていただけたので、効率的に時間を使うことができ、教員の働き方改革にもつながる、と感謝の声が出ていた。
◯地域コーディネーターは、学校が把握していないような人材とのつながりをもっておられるなど、学校の困りごとの相談窓口としての存在は大変心強かった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
◯この数年来、事業実施上の課題は同様で、ボランティアさんの高齢化と固定化である。今年度当初、新規募集を行い４名の新たな方を迎えることができたが、まだまだ十分ではない。今後も新規メンバーの発掘に取り組んで行きたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
◯ボランティアさんとの活動の様子を、学校の子どもたちの様子やお知らせとともにホームページで紹介している。
(https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone)

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域の力でつくる子ども達の豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：129人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）登下校の安全パトロールとあいさつ
・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、安全を見守りながら、あいさつの声かけをしてくださっている。
（２）体験活動支援
・特別支援学級の大藪かぶら栽培、１年生の生活科「昔遊び」や３年生の社会科「昔のくらし」、総合的な学習の時間「昔のあそび名人になろう」の学習活動にゲストティーチャーを、５年生の家庭科でミシン操作を伴う学習活動に補助をお願いした。
（３）読みきかせ
・朝読書の時間に読み書かせをしていただいた。
（４）学習環境の整備
・校舎周辺の樹木の剪定や学級園の耕し作業などを実施していただいた。

【３年生総合「昔のあそび名人になろう」】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
来校いただいての学習支援は、例年よりは回数が減ったが、３密対策や消毒・検温等を行い、実施した。
子どもたちはマスクをしての登校となり、子どもたちから、またパトロールの方々のあいさつの声が届きにくくなるため、声とともにハンドシグナルを活用したり、横断歩道を渡るときは手を挙げて渡ったりとコミュニケーションをとる様々な工夫をして取り組んでいただいた。

【５年生家庭科「ミシンに慣れよう」】

■　事業の成果
○学習や生活がしやすい学校環境の整備ができた。
○通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握することができた。
○ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
○地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
○子どもたちが、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
○ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなってきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

【校舎周辺の樹木の剪定後の作業】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

彦根南サポートオフィス10年目の取組　～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　ボランティア登録数：30人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　］

【 地域の方と生徒によるグリーンカーテン 】

【 環境整備作業 】

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）グリーンカーテンづくり（５～９月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで６年目。地域のボランティアや生徒の手により、見事なグリーンカーテンができた。

（2）環境整備作業（11月に実施）

学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加した生徒、保護者・地域の方々が協力して行った。部活動の参加も含めて、総勢約70名による除草作業等を行った。刈った草は、特大ゴミ袋47袋にもなった。

（3）図書室環境整備

今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を見合わせている。

（4）地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき、地域貢献活動を実施していたが、今年度は中学生が地域に積極的に出かける活動は見合わせている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域にボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを作成し、地域への啓発を行った。
○校区内の地域コーディネーターと担当教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。
○自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、今年度は見合わせている。

■　事業の成果

○ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている環境整備活動が地域や保護者の方に定着してきている。今年度は、多くの保護者や親子での参加等があり、大いに盛り上がった。
○地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。今後は地域の団体や校区にある大学等と連携・協働して事業を推進していきたい。
○今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため生徒の地域行事への積極的な参加は見合わせたが、今後は感染症対策を講じながら、いかに連携を進めていけるかが大きな課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○学校ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

つながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校　　学校運営協議会　：　☐有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成23年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：80人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
☐行　政　☐その他（　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
今年度は、コロナウイルス感染拡大防止から、例年行っていた活動を自粛したり、縮小したりせざるを得ないものばかりであった。そのような中で、学校と地域が話し合い、なんとか実施できた活動を記載する。
〇体育科学習発表会における学習支援
例年のように、全校児童と保護者が集って運動会を行うことができず、低、中、高学年の分散発表会となった。テント内で見学する児童の指導、見守りを含め、活動時の児童、保護者の密を避ける対策、学年の教員だけでは準備しきれない会場設営の補助をボランティアの方々にお願いできた。
〇読書ボランティアによる読み語り
２学期より、朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。例年のように周囲に児童を集めて聞かすことができない中で、教室後方の児童にもよく内容が伝わるように、挿絵の見せ方を工夫したり、大きな動作を交えたりして読んでいただいた。
〇保存会の方々による「幌踊り体験」
３年生では総合的な学習の時間に、彦根の無形文化財に指定され、地域で受け継がれている「幌踊り」を体験した。保存会の方々の手本を見ながら、実際に太鼓を身に付けてたたいたり、踊りを踊ったりした。

【　幌踊り体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
コロナウイルスの感染を防ぎながら、学習のねらいを達成するためにはどうすればよいか、地域コーディネーターと学校がよく話し合った。コロナ対応について、地域の方々に理解いただくための地域コーディネーターの尽力と、学校、地域相互の綿密な準備により、安全に実施することができた。

■　事業の成果
〇体育科学習発表会では、限られた時間の中で、混乱もなくスムーズに会を進めることができ、子供たちも力一杯日頃の成果を発揮することができた。
〇児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
〇指導上の児童との接触や身に付ける道具の多さなどから、当初は不可能と考えていた「幌踊り体験」であったが、子供たちのためになんとか実施したいという保存会の方々の熱意と、地域コーディネーターを通した事前の十分な打ち合わせにより実施することができた。少人数で体験できるように指導回数を増やしていただいたり、１回ずつ消毒作業を行ってくださったりしたことで、有意義な学びが実現した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域コーディネーターと共に新たな協働活動を模索していたところへ、コロナウイルス感染防止対策が必要となり、高齢者の方々に多く協力していただいてきた本校では、ますます協力していただきにくい状況が生まれてしまった。新しい生活様式を実践しつつ、効果的な学習活動ができるような工夫をしていく必要がある。また、本校は児童数が多く、集まれば密になる状況である。ICT等をうまく活用して、直接でなくても地域の方々とつながり、学校、地域相互に有意義な事業を推進したい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　☐その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

つなげよう　子どもを育む地域の力　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校地域学校協働本部	城陽小学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：75 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

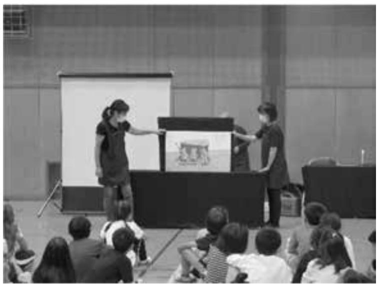
・第５学年　家庭科「ミシンでソーイング」

【５年生家庭科「ミシンでソーイング」】

５年生になり、新たに家庭科の学習が始まった。1学期は「ソーイング　はじめの一歩」として、「さいほう」または「ぬうこと」について学習を進めてきた。２学期に入り、ミシンを使ってのエプロン製作に取り組むこととなった。しかし、製作の様々な場面で一人ひとりに対応することは担任だけでは非常に困難な状況であった。

そこで、地域の方々や保護者に募集することで、エプロン製作にかかわって支援をいただくことができた。支援にあたっては、活動の最初から関わっていただいたことで、活動の手順や子どもたちの様子を常に把握しながら支援をいただくことができた。支援員については、地域の方は勿論のこと、児童の保護者や祖父母の方がおられ、とても親しみがあり話しやすく進めることができた。また元教員の方もおられ、過去の経験から子どもがつまずきやすい場面を把握されており、適切に支援いただくことができた。また、ミシンという危険を伴う機器を使用するにあたり、安全面についても地域の人々の協力は有効であった。

・全学年　読書活動



【お話会】

地域の方に図書ボランティアをお願いし、毎週火曜日 10:00 より図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。

また、毎週火曜日 8:30～8:40、学級毎に読み聞かせをお願いしている。今年度は新たな地域ボランティアの方も増え、毎週７～８人来ていただいている。子ども達は読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、今年度は秋にお話会を行い、ひこね市児童図書研究グループの方に読み聞かせをしていただいた。学年部ごとに実施し、様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、子ども一人ひとりの想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。

・就学時健診におけるサポート

11 月に実施した就学時健診では、滋賀県立大学の看護学生や元養護教諭の方に支援をいただき実施することができた。今年度は、コロナ禍において、専門的な立場の方の支援により、三密をさけ安全・安心な健診を実施することができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

活動の最初から関わっていただくことで、継続的に効果的な支援を行うことができた。また、子ども達にとって身近な方の支援により親しみやすく気軽に声を掛け合うことができた。また、専門的な方の支援により、コロナ禍を念頭に入れた安全・安心な支援体制で臨むことができた。

■　事業の成果

身近な地域の方々から支援をいただくことで、子ども達の様子を把握していただいたり学校とのつながりをより深めたりすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

We　Love　かめやま

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務○人）　ボランティア登録数：30人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）栽培活動支援
　毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。臨時休業の間にボランティアの方に畑の準備をしていただき、登校日に苗を植えることができた。久しぶりに登校してきた子どもたちは大喜びでボランティアさんの話を聞き、丁寧に苗を植えていた。秋にはお芋を収穫し、地面の中から大きなお芋が出てくるたびに大歓声を上げていた。

【　さつまいもを植えよう　】

（２）家庭科学習への支援
　５年生の家庭科「ミシン学習」にボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、技能を高めることができた。
（３）１年生　昔あそび
　１年生の生活科「むかしあそびをたのしもう」の学習では、毎年地域のボランティアの協力を得て教育活動を行っている。地域の方々から昔の遊びについての話を聞きながら、コマ回し・はねつき・おはじき・あやとり・おてだまなどの遊びを楽しんでいる。昔遊びの楽しさとともに、人とのふれあいのよさに気づく活動となっている。

【　さつまいもがとれたよ！】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　例年、１学期に３年生の地域学習や２年生の生活科などで、ボランティアの方から地域のことについて詳しく話を聞き、ふるさとへの思いを深めていた。今年は地域に出かけたり、地域の方を学校に招いたりすることを自粛していたため、例年のような活動ができなかった。
　２学期になり、少しずつボランティアに来校してもらう機会をもった。地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいており、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。学校と連携を密にし、交渉や話合いができている。ボランティアの支援を受けている様子は学校ホームページに掲載し、保護者や地域に発信している。

■　事業の成果
○地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
○ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。
○支援の必要な行事や学習内容の時期になると、地域コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
○今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校ホームページ　：　https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務０人）　ボランティア登録数：25 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

【　９月第２回花いっぱい運動　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（1）地域貢献活動への参加協力
・コロナ禍の影響により、当初予定していた各地域で中学生が参加できる活動が軒並み中止となった。
（2）学校行事などへの参加協力
・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動は、地域コーディネーターに依頼して各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。
・今年度は秋（９月）と冬（12 月）にも花いっぱい運動を行った。（年間通して、３か月に１度のペースで実施）
・年間を通して、校長室および正面玄関に、観賞用の花を設置してもらった。
（3）緑のカーテンプロジェクト(取組７年目)
・５月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターに移植（コロナ禍の影響により、地域コーディネーターの指導のもと、職員で実施した。）
６月の学校再開後から、環境委員会や各部活動およびボランティア部による水やり。10 月上旬に支柱の撤去作業。
・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・実施に当たっては、マスクの着用と参加生徒には事前に家庭での検温および当日の健康観察を行った。
・長時間の作業にならないよう、時間配分に気をつけて行った。
・学期に１回の地域コーディネーター担当者会議を開き、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
・学区内の小学校とも連携をとりながら、進めることができた。
・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。

■　事業の成果
・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
・緑のカーテンプロジェクトは取組７年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
・花いっぱい運動や葉刈作業では、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。また、ＰＴＡの参画もより一層促していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。
https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

【　11 月　校地内葉刈作業　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：65 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（1）「食べ物はかせになろう」（３年生）
総合的な学習の時間には、年間を通して「食べ物はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。大豆に焦点を当てて、丁寧に探求的な学習を進めている。本校には地域に大豆畑があり、毎年豆腐作りやずんだ餅作りに協力してくださる方がおられるので、充実した活動ができている。
（2）「町探検」（２，３年生）
２年生の生活科、３年生の社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。

【　大豆を煎る体験　】

【 石臼を引いてきな粉づくり 】

【　私たちの河瀬を知ろう　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇今年度は、大豆畑の見学やずんだ餅作りはできなかったが、本校栄養教諭の指導で、きな粉作りに挑戦をした。子どもたちに人気がある揚げパンについているきな粉がどのようにしてできるのか、実際に石臼を引いて体験をすることができた。
〇大豆からどのようにしてしょう油ができるのか、実際にしょう油づくりをされている方に学校に来ていただいた。実物を見せて製造過程をわかりやすく説明していただいた。
〇近くの地域総合センター職員の方に来ていただき、学校を東西南北４方向に分けて、それぞれの地域の特徴を話してもらった。また、自分たちが住んでいる河瀬の良さについて、改めて見つめ直すことができた。

■　事業の成果
「食べ物はかせになろう」
〇学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。
「町探検」
〇地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが育っている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇できるだけ早めに、お願いしたい内容と日時を地域コーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただくことができ、よりよい「連携･協働」に向けての準備ができる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、その都度、学校行事の案内を届けることによって、参観に来ていただき、子どもの様子を見ていただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

学校と地域の繋がりで育む２つの愛（地域愛、自分愛）

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）【中山道の秘密を探ろう】

３年生の総合的な学習の時間「未来の中山道をつくろう」の学習では、未来の中山道を想像し、自分が考えるオリジナルの店の構想を練り、企画書（店舗の図や看板等）を作成する。そこで、中山道沿いの商店街のかつての様子を知るために、商工会（高宮商工繁栄会）の方に案内していただいた。子どもたちは熱心に話を聞いたり、見学したりして、詳しく学びたいという意欲を感じた。また、歴史的に重要な拠点であったこと、かつて人通りが多く繁栄していたことを知り、改めて高宮の地域に対する思い（地域愛）を深めることができた。

【　中山道の探検　】

（２）【コメを育てよう（米作りに挑戦）】

高宮地域はかつて田畑が大半を占めていた。しかし、現在では都市化が進み、田畑は減少し、子どもたちの家庭の多くが農業には縁遠いものとなっている。そこで、地域の農家の方に協力いただき、米作りの体験をした。米作りの仕組みや苦労に気づくだけでなく、スーパーで買う米が、自分たちの地域で育てられていることを知り、改めて地域がいろいろなところとつながっていることに気づいた。

【　稲刈り　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、ゲストティーチャーを招く機会が少なかった。また、ボランティアに高齢の方が多く、来校いただき子どもと直接触れ合っていただくことも制約が多かった。そこで、子どもたちの作品を通して学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。その一つの事例を紹介する。

【高宮駅コミュニティーセンターをつながりとした交流（高宮駅「書」作品展）】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接したコミュニティーセンターがあり、地域の住民同士をつなぐ場となっている。その施設を利用して、４年生の児童が班ごとに共同で制作した「書」の展覧会を開催した。事前に、本校のボランティアでもあるセンター長から地元住民の学校や子どもたちに対する思いを聞き、その思いに応えるような作品に仕上げられるように考えさせた。今、そして未来の自分たちや地域の方々に伝えたい思いを漢字一字にまとめ、字に合う背景を工夫して仕上げることができ、地域との繋がりを深めた。

【　「書」作品展　】

■　事業の成果

高宮駅「書」作品展では、作品展を見た住民から「コロナ禍の中、外出や多くの人が集う機会も制限されているため、心が満たされないことが多かった。しかし、子どもたちの作品から勇気や前向きに生きることの大切さに気づかされた。」と熱いメッセージが多く届けられた。その話を聞いた子どもたちは、地域住民に感動を与えられた自分たちを自ら称えるなど、自尊心（自分愛）の向上がうかがえた。直接触れ合わなくても、作品を通して学校と地域がつながることができることに改めて気づかされた。また、地域から学校への協力だけでなく、学校から地域へ発信することの重要性にも気づかされた。コロナ禍であるがゆえに、新たに設けられた機会であるが、今後も継続し、さらに学校と地域のつながりを深めたいと考えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

保護者（PTA役員）、職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。子どもたちはもとより教職員は、コーディネーターや他学年の活動支援者との繋がりが薄い。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。また、カリキュラムマネジメントに、コーディネーターの位置づけも確立できるようにすることも大切である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

彦根市立高宮小学校ＨＰ→https://www.fureai-cloud.jp/takamiya-hikone/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：200人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）林業見学

予定していた男鬼森林学習が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。長浜市西浅井町黒山での林業見学とウッディパル余呉での「バターナイフづくり」「箸づくり」を９月に実施した。主として、機械を用いた木の伐採や運搬の様子を見学し、森林の保全と有効な活用との調和について学習した。

【　林業見学の様子　】

（２）地域との連携

中学校の前庭の葉刈り、剪定および芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。宿場祭り、学区運動会、学区文化祭は、コロナ禍により中止。

（３）さんあかレンジャー

あいさつ運動を小学校で行い活躍している。11月に、１年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○新型コロナウイルス感染症拡大予防対策をしっかり行って、林業見学を実施した。マスク着用、手指の消毒、三密にならないようバスの座席や見学時の間隔等、事前にしっかり協議し、生徒に徹底させた。

○地域の交流を主とする行事は中止になり、感染拡大防止を図った。３学期に予定していた「お年寄り交流」も中止。

○「地域学校協働本部だより」を小学校の地域コーディネーターが作成し、小・中学校で配布した。具体的な活動内容の紹介や、学校支援ボランティアの募集など啓発活動を通して、地域学校協働活動を盛り上げていく。

■　事業の成果

○林業見学は、今の林業の現場を見て、どのような作業をしているのかが直に見られたのでよかった。来年度の男鬼森林学習につなげていきたい。また、まとめの個人新聞を鳥居本地区公民館とタイアップして、公民館で展示を行い、地域の方に見ていただいた。

○本来なら、地域の行事に中学生が参加する活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があるが、それらの活動が今年度はできなかった。

○「地域学校協働本部だより」に学区外通学生と保護者の声を掲載し、10月の学園説明会（見学会）で、次年度の入学希望者に配布、説明ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働活動をどのように継続・発展させていくか、また、支援してくださる方々のネットワークをどのように広げていくのか、という面では課題がある。このあたりのことも、「地域学校協働本部だより」に掲載し、地域の皆さんとアイデアや力を出し合っていきたいと考えている。

○男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○１小学校・１中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。昨年度は、体育大会を小中合同で開催したが、今年度は、コロナ禍で合同開催は実施できなかった。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「ふるさとと共に生きる喜びを」　地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：約100人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読みきかせ活動・図書室環境ボランティア

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどを行っていただいている。

また、毎月２回（火曜日８：15～８：30）、約10名のボランティアに、学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。様々な工夫によってお話の世界に浸ることができ、豊かな心の育成につながっている。

【　読みきかせ活動　】

○５・６年生　家庭科　ミシンボランティア

９・10月に、５・６年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを扱う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に慣れるまでに戸惑いもあったため、ボランティアの方にきめ細かな支援をいただいたことで、５年生はエプロン、６年生はナップザックを全員仕上げることができた。ミシン縫いの楽しさを味わい、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。

【　ミシンボランティア　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、例年実施していた活動の中止や変更を余儀なくされた。しかし、地域の方の「子どもたちのために」という熱い思いに支えられ、実施に至った活動もある。実施にあたっては、活動のねらいや感染防止策などについて、地域コーディネーターと事前に十分な打合せを行った。

■　事業の成果

例年どおりの活動が実施できない中にあっても、学校の事情に添った支援をいただき、子どもたちが、地域の人・もの・自然に触れる体験活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイディアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しが十分もてない状況にあるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある主管団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、体育振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/　小中学校の様子をお知らせしています。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■「その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：10 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　■その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（サマーフェスタ）

・例年は、夏のサマーフェスタのイルミネーションの準備、稲枝地区文化祭への参加などを行ってきたが、今年度は、連合自治会の行事が全て中止となり、発表の機会が無くなり、稲中生のがんばりを発揮できなかったのは残念である。

・稲枝地区青少年育成協議会と稲枝地区公民館との共催で稲枝駅前環境美化活動に取り組み、プランターへの水やりを定期的に行い、稲枝駅利用者に心の安らぎを感じてもらうことができた。

（２）読書活動支援

・一学期開始が６月からとなったが、コロナウイルス感染防止という観点から一学期の読み聞かせは中止にして、９月の二学期から月二回のシフトを組んで読み聞かせを実施した。

・学校側から読み聞かせの時間にブックトークの要望があったので、10 分間という時間内であったが図書室にある本を紹介する程度のブックトークができた。

（３）部活動支援

ソフトテニス部(女子)の活動支援に、ボランティアとして指導に来ていただき、各種の大会に好成績を収めることができた。

（４）特別支援学級への学習支援

コロナ禍にあっても、栽培している野菜は、季節が来れば大きく育ち収穫時期が来る。特別支援学級の生徒は、少人数であり、休校中の３月から５月の間は、３密を避けて臨時に登校してジャガイモの種芋植えや夏野菜の苗植え、イチゴの収穫をすることができた。特別支援学級の栽培活動は、次の３点にわたって活動の意義が感じられ、生徒達に生きた力の育成となっている。

①　植物を栽培することで、土に触れ、植物の特徴を知り栽培方法を学びながら、その楽しさを味わうことができる。

②　野菜を先生方に販売したり、調理したりすることで生活単元学習の一端となる。

③　焼きトウモロコシや焼き芋を体験することで、いろいろな人と楽しく触れ合い、アウトドアクッキングを楽しむことができる。

【　焼き芋の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇一にも二にもコロナウイルス感染防止に努めてきた。具体的にはコロナウイルスの感染防止のため、マウスシールドやマスクを着用しながら読み聞かせを実施し、感染防止に努めた。

■　事業の成果

〇コロナ禍の中、様々な事業が制限されたが、中止の中でも、一定の地域支援活動が実践できたことは、大変よかったと思われる。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

稲枝中学校では、学校評価委員会において、学校の取り組みを点検してもらっているが、その場で、各種団体が稲枝中学校の未来志向として、どんな連携・協働活動ができるのかを模索し、計画実行していくとよりよい稲枝中学校がイメージできる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（部活担当顧問）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校 学校運営協議会 ：□有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：26人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校では、５年生の総合的な学習の時間の一つとして毎年、「米作り」に取り組んでいる。地域のボランティアの方々の協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。今年度は、昨年度まで使用していた学習田が、宅地造成のため使用できなくなったため、ボランティアの方のご厚意で、新たに学習田を提供していただけることとなった。また、５月末まで休業措置が取られていたため、春に田植えができなかった。見通しが持てない状況だったが、秋に稲刈りができるように、ボランティアの方のご厚意によって田植えをしていただくことができた。

９月17日には稲刈りを実施することができた。当日に向けてボランティアの方と打ち合わせを綿密に行い、学校と指導の意図を共有することができた。稲刈り指導後の手刈り作業では収穫を喜び、鎌で刈り取った稲を、ボランティアの方や教師に満足そうに見せる児童の姿が数多く見られた。機械刈り作業も見せていただき、手刈り作業の大変さや機械化による効率化を実感することができた。「いつもお米を食べているけれど、米の収穫作業がこんなに大変だったとは初めて知りました。これからは１粒１粒のお米や食べ物を大切にしていきたいです。」と感想に綴るなど、働く人々の思いや食べ物のありがたさを改めて考え直すことができる貴重な機会となった。

収穫した米は、全校に取組を紹介し、給食としていただき、全校で収穫を喜び合うことができた。また、３学期の調理実習では自分で炊飯をしていただく予定である。

【　稲刈りの様子①　】

【　稲刈りの様子②　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

見通しが持てないコロナ禍の中で、学習田の提供や稲刈りに向けての田植え等、ボランティアさんのご厚意で学習を進めることができた。これまでのボランティアの方と学校の関係性がなければ、活動を進められなかったと感じている。また稲刈り以外の活動に関しても、例年通りの活動がなかなかできなかった。その中でも感染症拡大防止措置を講じ、ボランティアの方と連携を取りながら、可能な限り活動を進めることができた。日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアの方の間の風通しを良くしておくことが、どんな状況においても、活動を活性化させていく基本であると感じている。

■　事業の成果

年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、児童理解や指導においても役立っている。また、ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることも多く、学校への協力体制がボランティアさん同士で受け継がれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

栽培・環境美化・交通安全・様々な学校行事や学習支援等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、「新しい生活様式」を踏まえた新たな活動を模索していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。
（https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：94人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（地域と共に花づくり・地域子ども教室）
特色ある学校づくりとして、本校では「花づくり」に伝統的に取り組んでいる。全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。その中でも『メイン花壇』は我が校のシンボルであり、「子どもたちの優しい心、思いやりの心を育みたい」という地域と学校の共通の願いのもと、フラワー委員や６年生の子どもたちは、地域のフラワーサポーターの方々と共に、苗の植え替え、除草、水遣り等の活動に取り組んだ。
また、「地域子ども教室」として、「走り方教室」と「木工教室」を行った。「木工教室」では、地域の方が、この日のために一年かけて木材を集めてくださり、その木材を使って子どもたちは自由に創作活動を行う。難しい作業は、地域の方が手伝ってくださるので、低学年でも安心して参加できる人気のある活動となっている。

【　メイン花壇の植え付け　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
フラワーサポーターの方には、来ていただく人数を減らして参加いただいた。苗の植え替えには、少人数でグループを組み、いくつかある花壇に分かれて作業をしていただいた。マスクの着用や子どもとの距離を保って活動するなどの確認を、地域コーディネーターの方とも相談しながら活動した。
各家庭で花を育てていただく「ふれあいの花」活動では、通常では町ごとにまとめてプランターを学校まで運ぶことになっているのだが、今年度は分散型学習参観の時に、指定された場所に置いてもらうようにし、密を避けた対応をしている。
「木工教室」では、制限した人数の中、二部制での開催とした。受付時に手指消毒と検温をお願いし、換気も十分に行った上で、活動を行った。
数年来続いている、「読み語り」では、マスクやフェイスシールドを着用していただき、児童も間隔をとって座って聞いた。

【　木工教室　】

■　事業の成果
コロナ禍で大きな行事が中止となり、子どもの活動が狭まる中、感染症対策を行い試行錯誤しながらも活動できたことは良かったと思う。制限のある中、地域の方は最大限サポートしてくださり、子どもたちへ声をかけたり、また子どもたちから話しかけたりするなど、相互の交流が見られた。子どもたちは、充実した時間を送り、地域の方のサポートを肌で感じながら活動を行った。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
事業を行うにあたって、日程調整が難しいと感じた。そこで年度当初、年間指導計画を基に、支援していただきたい活動と時期について、事前に地域コーディネーターの方と話す機会を設ける。

【　図書ボランティアの方による読み語り　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
年間３回の会議をもつのだが、今年度は２学期に中間学校評価を基に、子どもたちの姿や学校のあり方についての意見をいただいた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担当教諭　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

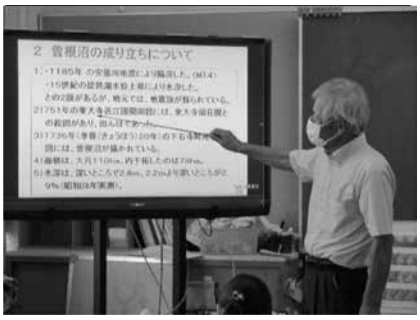
開始年度：平成20年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：64人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＊生活科や総合的な学習の時間、社会科などにおける地域学習のゲストティーチャー
・２年生の生活科で、地域の名人さん（スクールガード名人や習字名人）に学校へ来ていただき、話を聞いた。習字名人には、硬筆の指導や毛筆の実演をしていただき、次年度の毛筆の学習への意欲付けにもなった。
・４年生は、社会科「地域の発展につくした人々」の学習で、曽根沼干拓の様子や地域の人々の思いなどを聞かせてもらった。その学習の後、総合的な学習の時間で、さらに学習を深め、残っている土地を今後どのように活用していくかアイデアを出し合い、２月の学習参観で保護者に向けて発信する予定である。また、干拓前の曽根沼の活用の様子や漁業の方法などについても、ボランティアさんに話を聞く機会をもった。



【ゲストティーチャーによる曽根沼学習】

＊家庭科でのミシン補助
・５年生の家庭科で初めてミシンを扱う単元では、ミシンかけの補助に来ていただいた。担任一人で手が回らないので、複数の方に来ていただくことで、スムーズにミシンの学習を進めることができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・地域コーディネーターを通して、ボランティアを探したり日程調整をしたりした。窓口を一本化し、日程が重ならないよう工夫した。
・４年生の曽根沼学習では、夏休み中にゲストティーチャーと打合せを行い、単元を通して見通しをもち、話してもらう内容を焦点化することができた。また、総合的な学習の時間での探究活動につなげ、現地での見学も取り入れた。
・事前に学校のミシンを見てもらうことで、スムーズに教えていただく事ができた。
・話の内容や人数に応じて広い場所で換気しながら実施した。
・検温、マスク着用、手指消毒等を実施した。

■　事業の成果
・地域のボランティアということで、中には顔見知りの児童もあり、身近な地域の人に教えてもらうことで地域への愛着も深まった。また、パワーポイントの資料や写真資料など多くの資料も用意してくださり、よりわかりやすく、学習が深まった。さらに、現地見学や体験をすることで、効果的な学びができた。
・ミシンの学習では、機械の調子が悪くなったり、扱い方がわからなくて失敗したりする児童が多く、担任一人では十分対応しきれない現実がある。そのため、今回のように複数の補助の方に来ていただけることで、速やかに適切に支援ができ、児童の技能も上達した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・ボランティアの高齢化が進み、多くの方が「そろそろ引退を」と言っておられ、後に続いて指導してくださる方を見つけていく必要がある。少しは、新しく引き継いでくださる方も見つけてはいるが、学校では、今来てくださっている方の話を映像に残したり、資料をきちんと保管したりして継承していくことも考えていかなければならない。
・地図上にボランティア名や指導内容を書いたボランティア一覧表を作成して、職員室に常に掲示するようにした。今後、新しく増えたボランティアについても書き加え、誰が見てもわかり活用しやすいものにしていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校と地域のコーディネーターとが次年度の行事を見据えた話し合いを行った。コロナ禍で、これまでとは変更していかなければならないことなどがあるため、地域の考えを聞いたり、学校の思いを伝えたりし、次年度の方向性を考えた。
・学期末に「お話ボランティア」との交流会を開催し、読み聞かせの取組についての感想や意見などを交流する場を設けている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク５年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［ 土曜教室（学習会）第２．３週の土曜日午前 ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①命の学習

３年前から実施している地域と協働した「夏の収穫感謝祭」。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本事業は中止と決定。しかしながら、本来の目的である子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、育てる過程を大切にしながら野菜の生長を直に見ることを通して、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、ボランティアさんのご協力をいただいて、臨時休業中の４月から計画的に準備を進めてきた。地域コーディネーターとも入念に打合せを行い、可能なかぎり３密を考慮しながらの畝立て、苗植え、収穫に支援をいただくことができた。

【 さつまいもの収穫 】

②読み聞かせ・図書館整備

前年度までは、毎週金曜日に地域ボランティアさんに朝の活動の時間を利用して、子どもたちのために読み聞かせをしていただいていた。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、地域ボランティアさんの来校、教室での実施が難しい状況ではあったが、こうした中でこそ、子どもたちの心に響く読み聞かせをとの熱い願いをもってくださり、これまでのやり方を変更してテレビ放送による読み聞かせを実施していただいた。また、年々図書館の環境整備ボランティアさんの確保も難しくなってきているが、今年度新たに２名の保護者の方が参加してくださり、時間を見つけて図書館の整備を進めていただいた。

【 テレビ放送による読み聞かせ 】

③地域の高校との協働による防災かまどベンチ製作

昨年度から、地域にある工業高校と連携を図り、６年生が防災かまどベンチの製作に取り組んでいる。このかまどベンチは、防災教育の一環としての取組であるとともに、災害時における学校を核とした地域の防災拠点としての機能をめざし、地域の各団体、自治会とも協働して取組を進めている。高校生には数回にわたり、子どもたちにかまどベンチの活用例の話や、レンガの積み方、座板の製作等を指導してもらい、製作を進めている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年と同様の活動は実施できていない。しかしながら、地域コーディネーターとの連携を大切にし、制約された状況下においても、できることは実施していく方向で準備を進めてきた。ボランティアの皆さんは高齢な方が多いため、お互いの安全を考慮し、ボランティアさんの数を厳選すること、デジタル機器を活用することなど、できるだけ直に児童と接触する機会は減らすようにしてきた。また、土曜教室（学習会）では児童の間にパーテーションを設置して、感染予防を図ってきた。

■　事業の成果

○コロナ禍の中ではあったが、地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」の５つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、例年とは回数は減少している面はあるが、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○「子どもたちの笑顔のために」という熱い思いで、学校の様々な活動へ協力していただき、「地域の方」から「わかバンクの方」へと、児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。また、近隣にある中学校、高等学校とも連携を図り、地域とのつながりを広げることができつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTA をはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

○学校運営協議会との効果的な協働を図るため、次年度に向けて、学校評議員と運営協議会、わかバンクの組織を見直す予定である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（ 教頭 ）

子どもは地域の宝！地域のみんなで育てよう！

近江八幡市	活動名 ：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度： 平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人）ボランティア登録数：６人
□学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動
□郷土学習 □その他［ ］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■幼稚園 ■地域学校協働活動推進員等
□行 政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○歌指導
今年度は、コロナ感染症の関係で実施回数に配慮しながら、５歳児を中心に歌指導を行った。歌うときの基本的な姿勢や、声の出し方、心を込めて歌うことなどを教えてもらった。12月の音楽会では、たくさんの保護者の前で自信をもって歌う子どもたちの姿が見られた。

○英語で遊ぼう！
ゲストティーチャーを迎え、各学年1～2回英語に触れ楽しい時間を過ごすことができた。絵本やＣＤを取り入れたり、手遊びやクイズ形式で楽しんだりすることで、英語が初めてでも“楽しい”という気持ちをもち、英語を身近に感じることができた。

【 英語であそぼう！ 】

○ミュージックケア
講師を招き、音楽の特性を利用して楽しみながら子どもの持っている力を引き出していけるよう実施した。道具を使うなどして、音楽に合わせて体の様々な部分を動かし心温まる時間を過ごした。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○園の取り組みの様子を知ってもらえるよう、園情報誌「あっぷるつうしん」を地域にも発信し、関心をもってもらえるようにした。
○歌指導では、子どもと子どもの距離感をとり、リズム室を広く使って行った。音楽会当日も保護者は一家庭一人の参加や、健康チェックを行うなど配慮した。
○参観日には、密を防ぐために一家族あたりの参加人数を少なくし、園内ボランティアによる未就園児の託児を行った。

【 ミュージックケア 】

■ 事業の成果
○感染症の拡大により地域の方との交流が少ない１年ではあったが、あっぷるつうしんでは、元気に幼稚園で過ごす子どもたちの様子を知ってもらうきっかけとなった。
○歌指導では、我々教師が学ぶ場にもなっており、歌うことの基本を楽しく教えてもらうことで、“歌うことが好きな子どもを育てる”ことにつながっている。
○英語であそぼう！は、今年度はじめて取り入れた。小学校で英語の授業が取り入れられるようになり、就学前にも楽しく英語に触れて遊ぶことの積み重ねを大切にし、今後につなげていきたい。
○園内ボランティアは、保護者のもつ力を発揮できる場となり、親同士のつながりが生まれている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○園の行事や活動内容と、保護者ボランティアや地域の有効な人材の活用をうまくかみ合わせ、参加人員が増えていくよう、園だよりやあっぷるつうしんで様子を掲載したりチラシ配布を行ったりしながら、さらに事業を広げていきたい。
○継続的な地域の方々との関わりにより、優しく関わってもらった経験を積み重ね、感謝する気持ちがもてるよう、子どもの心を育てていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）
○学校運営協議会において、「よりよい子どもの育ち」について共に考え、八幡幼稚園の子どもを地域で育てていくという同じ目線での意見がたくさんでることで、毎回充実した話し合いの場となっている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園長 ■副園長 □地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・

近江八幡市	活動名 ： 金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・週１回の読み聞かせ活動は、継続している活動で毎年新たな方にボランティア登録をしていただいている。今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見て、11 月から活動を再開した。活動が定着しているので子どもたちは、ボランティアの方と親しくなり、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。
・地域の方から毎年栗林での栗拾いに招待していただいている。20 年以上続く秋の行事となっている。お世話をして下さっている方がいてくださるから栗拾いができることを、手作り紙芝居で分かりやすく伝えている。
・コロナ禍の中で少し落ち着いていた時期にコスモス畑や若宮神社に出かけたりして地域の自然に触れることができた。しかし、例年継続して行っている地域（篠田神社）に出かけ和薬花火の話を聞いたり、学区内の保育園やコミセン（文化祭・独居高齢者との触れ合い）と交流したりすることは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止せざるを得なかった。
・栽培活動では、地域の畑の先生に種まき(苗植え)から教えていただき、子どもたちも一緒に収穫の喜びを感じることができた。収穫したサツマイモを焼き芋にして子どもたちと一緒に味わっていただけるように招待し、地域の方と触れ合う時間を持つことができた。

■　実施に当たっての工夫
・園が必要としている支援にボランティアの方の得意分野を生かしていただけるように推進委員と連携をしている。
・コロナ禍の中ですべてを中止にしてしまうのではなく、互いに無理なく安心して実施できることを考えながら取り組んできた。
・園畑や園周辺の除草や葉刈り、芝刈りは、園児には直接見えない時間に活動してくださることが多い。また、以前から配膳台カバーを毎年作成していただいている。色々な面でお世話になっていることに、感謝の気持ちを持てるように毎年年度末には、“ありがとうの会”を開いているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、直接園児がボランティアの方と触れ合うことはせず、子ども達からの手紙を教師が渡すことにした。

■　事業の成果
・コロナ禍の中で例年のように実施できることは少なかったが、工夫しながらできることを考えて実施する中で子ども達の経験を保障することができた。
・今年度は例年のように事業ができなかったことで、毎年実施している取組の大切さやありがたさを改めて実感することができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域の方からは、積極的に声かけをしていただいているが、負担感があるのではと危惧している。
・園児の保護者がもっと参加できるようにボランティアの登録を呼びかけてはいるが、登録が進んでいない。活動内容を考えたり、人材発掘の活かし方を工夫したりする必要がある。
・次年度からはコミュニティ・スクールとなるため、学校運営協議会の設置に向けて話し合いを進め、よりよい園づくりを目指していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　■副　園　長　■地域連携担当教員　□その他（　）

【　栗拾い　】

【　絵本の読み聞かせ　】

報告書記入者（　副園長　）

地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を

近江八幡市	活動名 ：桐原幼稚園地域学校協働本部	桐原幼稚園 学校運営協議会 ：□有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：20人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■幼稚園　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本の読み聞かせ
給食が終わって一息ついた時間に地域のボランティアの方々が来てくださる。
ボランティアの方々が絵本を読んでくださる間、目をキラキラさせて絵本に集中してくれる子どもたちを見て、次はどの絵本を読んであげようかと、ボランティアの方々も楽しみに来てくださる。絵本は昔から読み継がれたもの、科学系のもの、季節にそったもの、子どもたちとの掛け合いをしながら楽しむものなど、さまざまな絵本を保護者や先生以外の方に読んでもらうのは子どもたちにとって良い経験になる。

【　絵本の読み聞かせ　】

（２）園庭にある畑の下準備作業
参加してくださる地域の方は、農業をやっておられるので肥料の種類や量、土作りの仕方などを教えてもらいながら、先生とも連携し作業している。今年度は野菜の収穫時期にあわせると畑の作業の日程が休園中だったため、子どもたちに耕うん機の耕し作業の様子を見てもらうことが出来ず、残念だった。

（３）運動遊び
園全体で取り組んでいる活動の一つである。保護者の運動クラブの方にボランティアとして、子どもたちに運動時の援助の方法などについて学ぶ機会を設け、学んだ事を子どもとの活動時に活かしてもらった。

（４）散歩の付添い
園の周りや小学校までの散歩の際に、安全に歩けるように交通ルールを教えてもらうだけではなく、子どもたちが気付いた木の実や花の名前をボランティアの方と一緒に考えたり、地域の方に尋ねたりすることで交流もうまれた。

【　畑の耕し作業　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
散歩の付添いなど戸外での活動は、休園明けすぐにボランティアに来てもらうことが出来たが、絵本の読み聞かせは２学期まで様子をみた。口元が見えるようにフェイスガードで読み聞かせをしてもらった。

■　事業の成果
○毎月いろいろな絵本を読んでもらうことで、絵本を楽しむ機会が増え、継続した地域の方との関わりがもてた。
○本園にボランティアで来てくださる地域の方は、スクールガードや小学校のボランティアとしても子どもたちと関わってくださる方が多いので、小学校に入学してからも見知った人が通学路などで見守ってくださることが子どもたちの安心材料になっていると思われる。
○運動クラブの保護者に、研修を通し運動遊びの指導法について学ぶ機会を持てたことで、新たな支援ボランティアの育成につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
ボランティアが固定化してしまう。参加してくださる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないようにする。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

自分が好き・人が好き・馬淵が好きな　馬淵っ子　～　地域とのつながりをとおして　～

近江八幡市	活動名：馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：20人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■園　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　）

【　託児の様子　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・親子で地域にあるくろすけ山や馬場広場、十連坊首洗い池、岩倉水車などにでかけて馬淵学区のよさを発見する。また、岩倉水車では水車ができた由来を聞かせていただき、地域の自然や歴史・文化に触れる機会となった。
・例年、学区内の小学校や保育所との交流があるが、今年度は新型コロナウィルスの感染拡大防止の為、ふれあい交流こそもてなかったが、小学校からは児童による手作り新聞やDVD・秋の自然物を使った制作おもちゃをいただき、幼稚園からはお礼にメッセージカードを渡した。保育所とは、各々の友だちや運動会の様子を手紙やDVDで紹介したりする交流をもつことができた。
・馬淵コミュニティセンターの敷地内にある畑でやきいもパーティーを開催し、地域にある機関を知る機会になった。
・新型コロナウィルス感染症拡大防止対策の一環としてボランティアさんによるマスクづくりや園の環境整備として花の苗植え、保育環境の整備にカーテンづくりや保健関係では冷却保護カバーづくり、また、食育教室ではクッキングなどのサポートをしていただき、子どもたちの園生活や活動、遊びや環境が充実した。
・保育参観時に未就園児の託児をしていただくことで、保護者が安心してゆったりと参観することができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇活動を実施するにあたり、マスクの着用、参加者の検温、手指の消毒の実施や人数制限や時間短縮を行った。また、活動中は３密をさけ感染拡大対策の徹底に努めた。
〇地域の方や未就園児とのふれあい活動、デイサービスセンターの慰問などの感染リスクが高まる行事は見合わせるようにし、できる範囲内での活動を再検討した。子ども達が地域や地域の方々とかかわりが持てる機会を大切にし、子ども達自身が大切に思われていることを感じ取れるような機会を作っていった。
〇園が必要としている支援に対して、ボランティアの方々の得意分野を生かしていただけるよう連携を図り、子ども達へできた物を披露したり、具体的な話をしたりして感謝の気持ちが持てるような機会を作った。

【大きな水車だ！すご～い！】

■　事業の成果
〇新型コロナウィルス感染症の影響で、例年のような地域の方々とかかわっての活動や、いろいろな機関との交流活動を見合わせることとなったが、単学級で園児数も少なく、人と関わる機会が少ない環境の中の子ども達にとって少しでも地域や地域の人と関わるよい機会になった。また、ボランティアの方々が来園していただくことで、園教育の理解につながった。
〇地域や地域の人と関わるなかで子ども達自身がさまざまな体験をすることで、自分たちが住んでいる地域に親しみをもったり、よさを再発見したり、また、尊敬や憧れの気持ちを抱いたりすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇ボランティアの方々との活動を継続することで、地域や地域の方との関わりの楽しさや温かさ、大切に思われていることを感じる心や、地域を大切に思う子ども達の育成につなげていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇情報誌“まぶちようちえんだより”を発行し、地域住民に回覧したり、園HPに掲載したりして地域や市民に活動内容を発信している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　）　報告書記入者（　副園長　）

心わくわく　みんなが輝く　ボランティア活動

近江八幡市	活動名　：北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：25人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
例年は、近隣の町の高齢者の方と交流会を持っていたが今年度は、新型コロナウィルス感染症感染拡大防止のため中止となった。地域のボランティアは高齢者が多いので絵本や紙芝居の読み聞かせは回数を少なくしたり、停止しているものもある。毎年お世話になっている近隣の町の老人会とのいもほりは戸外活動なので実施した。七夕の笹も地域の方からいただき、笹飾りを作り園に飾って楽しんだ。永年継続しているお茶会は、今年度は５歳児のみの活動とすることで密を避け実施した。

【　いもほり　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
活動の内容によっては密にならないように参加する学年を少なくしたり、室内での活動では換気や加湿、座り方などを工夫し安全に活動できるようにした。
絵本の読み聞かせや英語で遊ぼうの活動ではボランティアの表情も重要な要素であるため、了承を得てクリアマスクを使用することもあった。
読み聞かせなど室内での活動が減少した代わりに地域への園外活動の見守りなど戸外での活動へのボランティア参加を呼び掛け、子どもたちと関わる機会がもてるようにした。
園に来ていただくボランティアの方にはＡＩ体温測定器での体温計測や手指消毒をしやすいように環境を整えた。

【　英語であそぼう　】

■　事業の成果
コロナ禍によってさまざまな行事等の中止や変更が余儀なくされたが、できる限りの対策をしながら方法を模索し事業を進めてきた。ボランティアの方にも理解していただき、無理のない範囲での活動ができた。
子どもたちはさまざまな活動の中で地域の方と関わりながら、親しみを持ったり学んだり、地域ならではの良さを感じることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域の中で長く続いている活動もあり、このようなつながりを今後も大切にしていきたい。
ボランティアの方が少人数で高齢化していることもあり、今後さらに多くの方に参加していただけるように呼び掛けていきたい。

【　絵本の読み聞かせ　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
ボランティアの方に学校運営協議会委員になっていただきボランティアの立場からのご意見や思いを聞かせていただいている。
幼稚園の教育目標や幼稚園コミュニティ・スクールがめざす子どもの姿から今後の活動の在り方を考えていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　□教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　副園長　）

報告書記入者（　副園長　）

げんき・いきいき・あづちっ子　～つながる・ひろがる・ボランティアの輪

近江八幡市	活動名　：　安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園　学校運営協議会　：　☐有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：50 人
☐学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
☐郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■幼稚園　■地域学校協働活動推進員等
　☐行　政　☐その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）子どもの見守り・保育補助
　今年度は６月から保育が再開され、例年とは違う様子の中、ＰＴＡの方を中心とした託児ボランティアの方々に来ていただいた。入園した３歳児にとっては、一人でも多くの大人の見守りのもと、過ごすことで安心して園生活を送ることができた。

【　保育補助の様子　】

（２）図書ボランティア・おはなし会
　月１回のおはなし会は、感染症予防対策を講じて 10 月から再開した。園児たちの興味・関心に合った絵本を選定しながら工夫して読み聞かせをしてくださった。
　また、絵本室の壁の装飾を新しく作成し貼り直してくださった。園児たちは明るい雰囲気となった絵本室で週１回の絵本貸し出し時に、絵本室で過ごすことを喜んでいる。

【　絵本の読み聞かせ　】

（３）環境整備
　環境ボランティアの方々には、園庭の花壇の花植えを園児と一緒にしたり、樹木の剪定、落ち葉拾いなど環境整備活動をしていただいたりした。ボランティアの方々が熱心に活動に取り組んでくださったおかげで、美しく整った環境の中園児たちはのびのびと活動することができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　園内で直接園児と関わってくださる方は、日頃からＰＴＡで園に来ていただいている方を中心にした。外部のボランティアの方々も、活動することを希望してくださっていたが、感染状況を見極めながら、直接園児と触れ合わない活動に取り組んでいただいた。

【　絵本室の装飾　】

■　事業の成果
　コロナ禍でどのような活動に取り組んでいくべきか思い悩みながら進めて行ったが、今までと変わらず園、地域学校協働活動推進員、ボランティアそれぞれが“幼稚園をよくしたい”“子どもたちに、元気にいきいきとすごしてほしい”という思いをもって活動へ取り組むことができた。その思いが今年度も幼稚園を支え、子どもたちの成長や安心・安全な幼稚園生活へとつながり、子どもたちのボランティアの方への親しみがさらに深まった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　地域のボランティアの方々の新たな人材発掘が課題となっている。現在登録していただいている方々から、次世代への橋渡しを今後どのように進めて行くべきか検討する必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者
　■園　長　■副園長　■地域連携担当教職員　☐その他（　　　　　　）

報告書記入者（　副園長　）

“にこにこ　きらきら　武佐っ子”を育む　あったかい支援の力

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務〇人）　ボランティア登録数：20 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
①保育教材作り（布製おもちゃ）
布製おもちゃ作りを中心に、人形の服や布団、ままごとのカバンなどの制作を行う。今年度は新型コロナウイルス感染症の予防の為、ボランティアの方々の各家庭で制作してもらう。出来上がったおもちゃを使って一緒に遊んでもらうことはできなかったが、子どもたちの遊ぶ様子を写真で見てもらったり、遊んでいるときのエピソードを口頭で伝えたりすることで、次の制作への計画につながっている。
②栽培活動
さつまいもの収穫を園児と一緒に行く。さつまいもがおこしやすいようにツルを伸ばすなど環境を整えていただいた。
③行事支援
やきいもや餅つき、凧作りなどの行事の補助をしていただく。もみ殻への火の広げ方や餅の丸め方など、職員や子どもたちにコツや方法など、長年の経験を元に教えていただくことができた。
④あいさつ運動
毎月 1 日、15 日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら園児や保護者を迎える。保護者会役員や 5 歳児もあいさつ運動に参加することで、他の保護者への啓発につながっている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を保護者向けに通信を発行し、情報発信を行っている。
・今年度は、コロナウイルス感染症の予防のため、保育教材作りは園で作成してもらうのではなく、各家庭で制作してもらえるよう型紙や材料などを用意し依頼する。作成したおもちゃを使って、一緒に遊んでもらうことができないので、材料を家庭に届けに行く機会に子どもの遊びの様子を伝えたり、会えない方には手紙で知らせたりした。また、子どもたちがお礼の気持ちを込めて作ったレターラックをボランティアの方々に届けた。

■　事業の成果
・おもちゃ作りでは、職員だけではなかなかできなかったことを協力していただき、保育環境の充実につながり、園児の活動がより広がった。
・行事支援では、経験豊かな方から方法や知識などを教えていただくことができた。また、保育の中に取り入れることで、子どもたちの興味・関心につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・今年度はコロナウイルス感染症の予防のため、絵本の読み聞かせや作っていただいた布製おもちゃで一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』などは実施できず、行事支援も人数制限をしての活動となった。
・行事支援については、事前の打ち合わせと当日のスケジュールの確認を行うことで、活動がスムーズに実施できている。今後もていねいな対応を心掛ける。
・地域の方や保護者の方にも、ボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　■その他（　主幹保育教諭　）

【　餅つき　】

【　凧作り　】

報告書記入者（　主幹保育教諭　）

は・あ・と・がだいじ～地域の方と心でつながる園教育を～

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務○人）　ボランティア登録数：26人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○栽培活動→畑作りや苗植えのアドバイスをしていただき収穫を一緒に行っている。
プランターの土作りや栽培のアドバイス・花苗植えの作業をしていただいている。
○環　境　→運動会に向けて地域ボランティアの方、保護者、職員が協力しあい園庭整備を行っている。
○絵　本　→月１回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。
ポルトガル語を母国語とされるボランティアの方にも来ていただき多文化に触れる機会となっている。

【絵本の読み聞かせの様子】

○あそボール→４・５歳児対象でボランティアの方にきていただき、ボールに触れたり、投げ方を教えていただいたり、楽しんでボールあそびをしている。
○避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ２次避難　→避難訓練時に老蘇コミュニティセンターと連携し第２次避難所として、コミュニティセンターに避難し、防災についての話や施設の見学を行っている。

■　実施に当たっての工夫
○地域の集会や会議のおりに地域ボランティアの説明をし、協力していただけるように発信している。加えて保護者が集う場で、協力・協働を働きかけ、地域の方と保護者・園が一緒に活動できるように進めている。
○収穫時や年度末にボランティアの方との交流会を実施し、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝える中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。
○卒園児の保護者に声をかけ、継続してつながっていただけるように、ボランティアの登録をお願いしている。

■　事業の成果
○ボランティア活動を通して、地域の方に親しみを感じていただき園運営の理解に繋げられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○保護者の方だけでなく、ボランティアの方においても、行事を縮小し、制限をしながらの参加も多く、次年度も実施に際して工夫が必要である。
○ボランティアの方が地域や多方面でも活躍され募った日に先約があったり、登録されている方が高齢化し行事の内容によっては体力的に難しいこともあったりし、今後、新たな人材確保に努める必要がある。

【花の苗植えの様子】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■　園　長　■　副　園　長　■　域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

地域とつながり、愛情あふれる協働活動

近江八幡市	活動名 ： 八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：127 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が２名あり、９年目の本年度は 127 名となった。

①環境整備･･･花壇整備、花の植え替え、樹木剪定・枝葉処理、生け花、図書室整理、体育発表会テント設営・撤収、学習用仕切り板作り、けん玉ケース作り
②絵本の読み聞かせ･･･全学年毎週火曜日、朝 10 分間
③学習支援･･･ミシン補助、ソーイング補助、さつまいも調理補助、八幡堀学習、九九の聞き取り、英語ボランティア、授業補助など
④児童引率補助･･･町たんけん、校外学習など
⑤クラブ活動支援･･･卓球クラブ
⑥栽培活動支援･･･大根・さつまいも・夏野菜・北之庄菜作り、へちまの棚作りなど
⑦その他･･･マスク作り、賞状筆耕

【　マスク作り　】

■　実施に当たっての工夫

昇降口を入ってすぐの位置に、ボランティアルームを設置している。ボランティアルームでは、打合せや情報交換、休憩などを行っていただいており、ボランティアの方々のつながりを深める場となっている。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用し実施内容を紹介している。学期末には「ボランティア通信」を発行することで、地域へ活動内容を発信したり、教職員が他学年でのボランティアの方の活動内容を理解したりすることにつながっている。さらに、体育発表会や６年生を送る会等の行事にボランティアの方を招待し、児童がいきいきと活動する様子を参観していただいている。

■　事業の成果

・児童はボランティアの方々から学んだり、支援していただいたりする中で、様々な人からの愛情を感じ、地域とのつながりを深めている。また、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まっている。
・ボランティアの方々に学習支援をしていただくことで、教員が地域を学び、豊かな体験活動や地域資源を生かした学習を構築することができ学習内容が充実した。
・コーディネーターのきめ細やかな動きにより、教員とボランティアの方との打合せ時間が短縮できたり、より効果的な支援の工夫につなげたりすることができた。
・ボランティアの方に子どもと関わる楽しさや達成感を感じていただくことができた。

【　九九の聞き取り　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学習活動の中には、担任が十分にねらいを理解しないまま、コーディネーターやボランティアの方に依頼することがあった。「子どもたちにどのような力をつけさせたいのか」を明確にし、活動全体を見通したうえで、ボランティアの方との連携を深め、よりよい支援方法について検討していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・コーディネーターが学校運営協議会の委員となり、他の委員に支援の状況や成果、課題等を報告している。また、委員の中には学校ボランティアのメンバーもおり、協議内容がボランティア活動に生かされている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

「ふるさとを愛し　瞳輝く島っ子」を　地域と手を取り合って育てよう！

近江八幡市	活動名　：島小学校地域学校協働本部	島小学校　　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：350 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

【　１・５年　水の生き物調査隊　】

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員
□行　政　■その他（島学区まちづくり協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援
〇ふるさと学習　環境学習　（まち探検　「水の生き物調査隊」）
・３～５年「ふるさと島を味わおう」
３年「ヨシ・菜の花学習」
（ヨシちまきづくり　ヨシの働き　ヨシとくらし　ヨシ原の保全　ヨシ刈り　ヨシ工作　地域の祭り　菜種栽培等）
・４年「ヨシ・菜の花学習」
（菜種栽培　菜種収穫　菜種油を使ったクッキング　松明づくり【地域の伝統の技を学ぶ　ヨシと菜種で松明を作成】）
・５年「ヨシ・菜の花学習」（松明奉納　【祭の際に点火】）
・１・５年「水の生き物調査隊」
〇授業支援（昔遊び　昔体験　防災教育　ミシンボランティア　雅楽体験　米づくり等）
〇エディブル・スクールヤード活動への支援（栽培　調理　食育　農業体験）
〇行事支援　「教育講演会」「５・６年　持久走実技指導」
（２）見守り活動
・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」
・地域の方による登校、下校時の見守り「見守り隊」
・地域の方、保護者による朝の見守り　「行ってらっしゃい運動」

【　３年　ヨシちまき作り　】

■　実施に当たっての工夫
〇食を伴う活動の一部と密になると予想される活動については中止とした。活動をする場合は、グループ分けをする、十分な距離をとるなどの密にならない対策を立て、健康観察やマスクの着用・消毒を徹底した。
〇推進員と担任の打合せの時間の確保が難しい現状があるため、校長や教頭が学習の内容や流れを担任と相談して把握し、推進員や地域ボランティア、島学区まちづくり協議会等との連絡調整を心がけた。
〇地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ホームページなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。
〇まちづくり協議会との連携を密にし、お互いの活動に協力し合える体制を作った。

■　事業の成果
〇まちづくり協議会との連携で、新たな活動や子どもたちの学びにつながる人との出会いを作り出すことができた。
〇地域の自然や、伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いだ思いや生き方にふれることができた。
〇エディブル・スクールヤードの取組で子どもたちが野菜の成長に興味を持ち、様々な教科や活動に結び付けることができた。
〇地域の方の支援を受け、見守られることで子どもたちに安心感を持たせることができるとともに働き方改革の一助ともなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり、十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組み立てて取り組まなければ活動ありきになり学習が深まらない。
〇担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇協議会では､地域と協働して子どもを育成するという視点から､学校や児童の課題についても伝え地域の支援をお願いしている。学校の課題を受け支援の方針や取組が話し合われた。委員の皆さんが所属されている団体との連携も進んだ。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教頭　　）

沖島を愛し、地域から学び、豊かでたくましい子どもの育成を目指して

近江八幡市	活動名 ： 沖島地域学校協働本部	沖島小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○ ふなずし作り
地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、うろこや内臓を取り、塩切りと本漬けの年間２回、丁寧に指導していただき学んだ。
○ サツマイモの苗植え～水やり～収穫と調理
ボランティアの方の協力を得て、沖島のやさしいアイスの材料であるサツマイモの苗を植え、当番で水やりを行って収穫した。
収穫したサツマイモの一部を教師が調理してみんなで食べたり持ち帰ったりした。
○ おきしま通船での避難訓練
通勤学や島外への移動に使う「おきしま通船」で、島内の消防指令補の方を講師に招いて避難訓練を行っている。着衣に通船のライフジャケットの装着方法について実践形式で学んだ。

○ 沖島太鼓の練習
クラブ活動の時間に全校で沖島太鼓の練習に取り組んでいる。年に数回、専門の先生に指導を受けている。今年は、コロナの影響で地域の行事で演奏できなかったが、どの児童も一生懸命に取り組んでいる。

【　ふなずし作り　】

【　おきしま通船での避難訓練　】

■　実施に当たっての工夫
○ 沖島のよさを感じられ、地元の方々の願いに触れられるような体験になるように心がけている。
○ 太鼓の専門の方の指導を受けられる機会を作り、技術や向上に努めている。

■　事業の成果
○ 地域の方から指導を受けたり、話を聞いたりすることにより、沖島をより身近に感じることができた。
○ 太鼓の専門の方に指導を受けることにより、学校だけでは学べない体験をすることができ、子どもたちがより意欲的に活動に取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○ 沖島の文化・産業に携わる方々が年々高齢化しているため、講師の発掘を進めていかなければならない。
○ 沖島の活性化につながるような活動に取り組んでいきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○ 活動の様子を学校HP（http://www.fureai-cloud.jp/okishima-es/）や学校だよりで保護者や島民に広く周知している。
○ 本年度、学校運営協議会が発足し沖島小学校（沖島）の未来について話し合いを持ち、地域の方々の思いを聞くことができた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

～『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを～

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校　学校運営協議会 ：☐有　■無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：180 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体
■学　校　■地域学校協働活動推進員
☐行　政　☐その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【　３年　花火師さんの仕事　】

○３年生では、ふるさと学習の一環として、地域で作られている花火やそこで働く人について学習を行った。地域の花火師さんを招いて説明をしていただき、花火模型を使いながら分かりやすく教えていただいた。また、安全に十分配慮したうえで、運動場での打ち上げ実演を行ってもらい、常に危機意識をもって仕事をされていることを実感できた。
○１・２年生では、学級園の畑や個人の鉢で野菜づくりに取り組んだ。地域のボランティア「野菜の先生」に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫することができた。
○５年生では、営農組合や農業委員さん、ＪＡの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動を行った。

【　２年　だいこん植え　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、これまでのように一度に多くのボランティアの方々にお世話になる活動は、できるだけ密を避けるため回数を増やすなどの工夫をしながら取組を進めた。制限された中でも、子どもたちにとって実りのある学習となるように、地域学校協働推進員を通じて綿密に打ち合わせを行った。
○学校だよりを学区全戸に配布したり、学校ホームページで活動の様子を詳しく紹介したりしながら、支援活動等を随時地域に発信している。

■　事業の成果
○地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。
○子どもたちが地域の方々の地域に対する思いを聞き、協働して活動することで、あらためて地域のよさに気づき関心を持つことができた。また、ボランティアさんに礼状を作成することで、社会性や感謝の心を育むことができた。
○教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動を推進している。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○学年の児童数が増加していることと今回のようなコロナ禍の中で、可能な範囲でボランティアに協力いただいているが、今後も充実した取組にしていくためには、学校教育目標や学校経営の位置づけを考えながら、目的やめあてを明確にして打ち合わせを行っていく必要がある。
○地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○次年度から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしての取組をスタートさせるが、これまでの積み上げを大切にしながら、地域と協働した取組を進めていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域への愛着と誇りを胸に！未来を拓く金田っこ

近江八幡市	活動名 ： 金田学区地域学校協働本部	金田小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

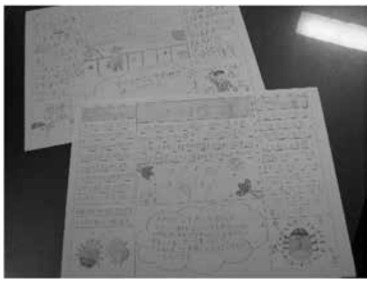
地域学校協働本部概要
開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数： 1 人　ボランティア登録数：70 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［伝統芸能鑑賞、防災学習］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　□地域学校協働活動推進員　□行政　□その他（　　　）

【３年　地域を守る消防施設】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）１年「昔遊び・お正月遊び」「おいもパーティー」・・・地域の方やおじいさん、おばあさんとふれあう。
（２）２年「大根を調理しよう」「台湾について知ろう」・・・地域の方や外国の方とふれあう。
（３）３年「金田の祭りを調べよう」「ホタルを守る活動について知ろう」「地域を守る消防団」・・・地域の伝統や環境を守る活動に取り組む人々とふれあう。
　○浅小井町の祭り・篠田の火祭りを継承する人たちに学ぶ。
　○ホタルが住む川を守る長田町の取組に学ぶ。
（４）４年「蛇砂川の歴史と現地見学」「福祉体験」「寺子屋」・・・住む人にやさしい地域づくりを考え、地域を守る人々とふれあう。
（５）５年「田んぼではたらく人々」「環境学習」「手縫い名人になろう」・・・地域の環境について考える。
（６）６年「ミシン名人になろう」「平和学習」「伝統文化に親しもう」「芸術に触れる（鑑賞会）」「戦争中に金田学区の様子を知ろう」・・・地域の平和について考える。


【３年　ホタルの学習リーフレット】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努め、発見や感動のある学習を目指した。
○担当学年の主任と地域学校協働活動推進員との連携をとり、打合せ時間を確保した。
○広い場所を確保し、マスクの着用、換気や消毒につとめた上で、講話を聴いた。

■　事業の成果
○地域に愛着と誇りをもって活動されている方々の話を聞いたり、仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習や体験ができた。
○金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。
○地域の安全を守る活動（スクールガード、地域の消防、地域の川の整備等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災や安全に対する意識の高まりが見られた。
○放課後子ども学習「寺子屋金田」では、コミュニティセンターを学習の場として、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○大規模校で、どの学年も人数が多い。(140 名～160 名）その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人数確保や日程調整が難しい。コロナ禍で、子どもたちを分散させる配慮をすると、学級単位で講話・体験をお願いすることになり、１日に４～５回、お話をしていただくことになる。その負担は非常に大きい。
○講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が急務である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○学期に１度集まっていただき、協議会を開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。
○高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　□地域連携担当教員　□その他（　　　）

報告書記入者　（ 教 頭 ）

学校を通して、地域ぐるみで健やかな子どもたちを育むために

近江八幡市	活動名：桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校	学校運営協議会 ：■有 □無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：117 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（各担任）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○　４年　地域ふるさと学習：桐原・日野川のお宝発見
　日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。そのことを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたのち、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークを行い、学びを深めた。

【地域ふるさと学習：桐原・日野川のお宝発見】

○　４年　環境学習：生ごみプロジェクト
　地域ボランティアの方々の指導により、給食の残飯をたい肥化したものを畑に肥料として畑に入れ、栄養たっぷりの大根を育てる取り組みを行った。１学期はたい肥の作り方、２学期は大根の苗植えと育て方、３学期は収穫の仕方についてのお話をいただき、一緒に作業のお手伝いをしていただいた。お世話になった方々を収穫感謝祭に招待し交流を深めた。

【環境学習：生ごみプロジェクト】

■　実施に当たっての工夫
○　学校支援ボランティアさんの活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。
○　地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。
○　日頃お世話になっているボランティアの皆さんに対し、子どもたちによる暑中見舞いの発送や、収穫した大根の収穫感謝祭に招待する取組など、子どもたちと地域の方との交流を進めた。

■　事業の成果
○　地域の方々が朝や休み時間を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。
○　校外学習では、教員だけでは子どもたちの様子を把握できないこともあるが、ボランティアの方々のおかげで、安全に注意を払って取り組むことができている。
○　家庭科やクラブ活動等、子どもたちの活動を支援していただいている。ボランティアさんとのふれあいの中で、子どもたちの健やかな成長が育まれている。
○　ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数の目で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。
○　図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。
○　スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、学校ボランティアとして定着してきているが、高齢化が進み無理をされている部分もみられる。学校運営協議会の設置を機に、この活動が継続していけるためにも、まちづくり協議会・他の地域団体との連携を図り、新規募集を含めた組織的、継続的な仕組みの見直しが必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　学校運営協議会でめざす「支援」から「連携・協働」に向けて、さらに地域人材を確保し、一歩進んだ地域住民による学校との連携・協働を充実させ、地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、ビジョンをもって進めていくことが大切である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（各担任）

報告書記入者（　教　頭　）

地域ともに体験学習を・ボランティアさんはできるときにできることを

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校　学校運営協議会 ：☐有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人
☐学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
■郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　☐地域学校協働活動推進員等
☐行　政　☐その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学校支援グループの活動
地域の方が学校を支え共に活動していくために、各種ボランティアグループの代表者 10 名がメンバーとなり月１回の代表者会議を開催している。そこで、学校が必要としているボランティア活動の内容の検討や活動後の反省、情報交換等が行われ、よりよい協働活動が推進できるような話し合いの場となっている。

（２）白鳥川体験学習
地域には、人々に愛されている白鳥川がある。近年その景観が乱れつつあることを懸念して、「白鳥川の景観を良くする会（略称　景観隊）」を立ち上げている。総勢 100 名程度の方が加入され河川周辺の清掃はもとより、河川の水質や動植物の様子を観察できるような体験学習教室を開いておられる。本校では、５年生が総合的な学習の時間に「白鳥川の学習」を進めている。事前の学習から現地体験学習、事後の学習発表会まで「景観隊」の方々とともに学習していくことが定着している。

（３）自治会発信のグラウンド開放の取組
年度開始直後の臨時休校により学校施設の開放も中止となった。５月からの分散登校の実施に合わせて分散登校のない木・金曜日の午後に学校グラウンドの開放を実施した。安全面への配慮から、自治会から２名の担当が来校され、遊びに来る親子に声かけや見守りをしていただいた。学校も職員が当番を組み地域の方と連携した見守りや声かけを実施した。

（４）自治会の自転車仲間のサポートによる自転車を使った校外学習
これまで６年生の安土での校外学習は、ＪＲを移動手段としていたが、地域の自転車愛好家の協力により自転車を移動手段とした校外学習を実施した。経路や安全計画などもでき、今後継続できる活動になった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○４月 20 日の第１回学校支援グループ会議で、学校の教育活動について、各ボランティア団体の活動実施状況についての情報交換をし、例年の活動を安全に実施するための見通しや対策を相談した。
○５月の分散登校期間には登下校の見守り・グランド開放の見守りで子どもたちへの声かけや子どもの観察に協力していただいた。
○６月の学校再開後は校舎内外での環境整備活動を中心に実施し、聞き取り学習は事前にビデオ収録に協力いただき映像を視聴。
○七夕飾り作りは笹の調達のみを依頼。ボランティアさんが飾りの一部を家で作成し届けてくださった。
○２学期からボランティアさんの意向や感染状況を重視し、手指消毒や児童との距離、活動時間を考慮し、可能なことから支援していただいた。

■　事業の成果
○地域の人材や自然に触れ、今まで知らなかった郷土の良さや一面を学習することができたり、地域の方の思いに触れることで、心が豊かになる経験ができたりした。
○学校行事の支援や見守り活動を行っていただき、教員の負担が減り児童によりきめ細かな支援ができることにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○地域学校協働活動推進員(コーディネーター)さんとの打合せの時間数確保が必要である。
○ボランティアさんの高齢化が進み、次の世代の方々に広げていく人材確保が課題である。
○学校運営協議会との協働においては、本校に組織されている学校支援グループ代表者会の活動が機能していくと思われる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　☐地域連携担当教職員　■その他（　各教員　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域でともに育てる馬淵の子

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成24年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・クラブ活動支援…家庭科クラブの活動
・農業、栽培に関する活動…ヘチマ栽培、野菜栽培、稲作体験
・歴史、伝統文化に関する活動…地域の祭り、古墳・史跡見学
・人権、福祉学習に関する活動…老人福祉施設見学
・平和学習に関する学習…戦争体験、校区への疎開体験の聞き取り活動
・地域防災に関する活動…消防団見学、河川学習、水害被害の聞き取り、ハザードマップづくり

【４年防災学習　水害についての講話】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・地域ボランティアには必ずマスク着用と検温への協力を求めた。
・学習補助、児童活動支援は、接触、密接を前提とするため、また高齢のボランティアが多いことから依頼をとりやめた。
・地域ボランティアの授業参加は、児童と一定の距離が確保できる講話形式のみとした。また、現地に出かけて、屋外で話を聞く形式を主体に計画した。
・授業者と地域ボランティアとのマッチングや日時の調整について、推進員があらかじめ十分に授業者の要望を聞き取って仲立ちした。具体的な活動内容や支援方法などについて、授業者、推進員、支援者が事前の打ち合わせを行って決定した。

【６年平和学習　疎開体験の講話】

【３年まち探検　地域の農業見学】

■　事業の成果
・感染症拡大防止の対応のため地域と協働した活動を一部制限せざるを得なかったが、その中で可能な内容や方法を模索することによって、新たな活動や地域ボランティアの発掘につながった。
・推進員の役割に対する教員の理解、事業についての地域への周知が進んだことにより、様々な分野で授業のねらいに応じた効果の高い支援が得られるようになった。推進員や地域ボランティアとの協働によって、教員の地域理解が深まり地域の素材を教材化する力が高まった。
・継続した活動を行うことによって、児童は顔馴染みとなった支援者の来校を楽しみにするようになり、支援者は児童への理解が深まって効果的に支援を行え、継続することにやりがいを感じるという好循環が生まれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域との連携、協働の効果を高めるには、事前の授業者と地域ボランティアの打合せが重要であり、推進員の限られた勤務時間内で効率的に行うよう工夫する必要がある。
・一人のボランティアが複数の分野の活動に関わる場合も多いため、各学年の活動の日程を早期に調整する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・推進員が、学校運営協議会の場で学期ごとに地域学校協働活動による取組を報告し、委員が活動への理解を深めた。運営協議会での情報交換によって、次年度の活動に向けて、地域の願いをくみ取ったり新たな地域の素材を活動に生かしたりすることや、地域人材の発掘につながることが期待される。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

輝く未来の北里地区の担い手を育む

近江八幡市	活動名：北里小学校地域学校協働本部	北里小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：110 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）メダカシンポジウム
　メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り・稲刈り・脱穀・籾摺り・精米という米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、11 月 21 日の学習参観日には、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など５年生児童が総合的な学習の時間に調べた内容をまとめて発表した。
　また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、５年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。

【　メダカシンポジウム　】

（２）花壇づくり
　毎年、新年を迎えるにあたって環境委員会が花壇に花植えを行っている。このとき、地域の方に花苗を準備していただき、一緒に花壇づくりを行っている。この花壇のほかにも、地域の老人会の方から花や葉ボタンのプランターをいただいたり、自治会の方に花壇に葉ボタンを植えていただいたりして、地域と児童会が協力して美しい環境づくりに取り組んでいる。

【　花壇づくり　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○メダカシンポジウムでは学級別に発表を行い、発表する学級の保護者だけを会場に入れることで、密集をさけた。
○読み聞かせボランティアの方に集まっていただき、今年度の活動をどうするか検討会を行った。その結果、読み聞かせについては実施を見送った。図書ボランティアについては実施することになった。

■　事業の成果
○事業開始から 12 年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○平成 21 年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。
○地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○昨年度（平成 31 年度）からコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げた。２年目になるがコロナ禍の影響で、昨年度末や年度初めの協議会が開催できなかった。６月に第１回の協議会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策のことや通学路についての意見をいただき、学校運営の支援をいただいた。今後も、地域の担い手として活躍できる子どもの育成を目指して、地域ぐるみの活動を考えていく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

力を合わせて、地域を愛する子どもたちの育成を

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校　学校運営協議会 ：□有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数： 1 人　ボランティア登録数：73 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇地域の特徴、産業等について、ゲストティーチャーとしてお話をしていただいた。
〇体験的学習で、茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらった。
〇焼きいもや畑づくり、花壇の整備などの学校環境づくり等に協力いただいた。

【　６年生 茶道体験のようす　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇ゲストティーチャーとしてお話いただく取組を中心に行った。
〇ボランティアさんは高齢の方が多いことから、コロナウィルスの感染を防ぐため、ボランティアさんによる活動はできるだけ実施しない方針で取り組んだ。
〇ボランティアさんによる活動を実施する場合は、焼きいもや畑づくり、花壇の整備など、野外での活動を中心に実施した。茶道等の指導では、広い部屋で児童を少人数に分けて実施をした。

【３年生地域学習　野田町コスモスの話】

■　事業の成果
〇ゲストティーチャーの専門的な内容や経験に裏打ちされたお話を聞くことにより、教科書を中心とした授業だけでは得られない、実感を伴った学習となった。
〇自分の生まれ育った地域について、地域の方のお話を聞くことで、より身近なものとして学ぶことができ地域を愛する子どもたちの育成につながった。
〇焼きいもや畑づくり、花壇の整備など、教員の力では難しいことを、専門的な支援をいただきながら進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇コロナウィルス感染防止の対応による制限の中、ボランティアさんの活用も含め、実施できる内容を再度検討する必要がある。
〇コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや教員との打合せ、聞き取りが不十分になることがある。

【　１年生 焼きいものようす　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇本校は、来年度からコミュニティ・スクールへ移行するため、学校運営協議会で改めて活動内容を検討していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

学校保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

近江八幡市	活動名 ： 安土学区地域学校協働本部	安土小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：135人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）全校児童対象の活動

学年	項　目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	・読書ボランティア「にょきにょき」さんに、毎週木曜日、朝読書の時間に、２学年ずつ各学級で読み聞かせをしていただいている。また、毎学期１，２回、昼休みに開催してくださるお話会を楽しみにしている。
	見守り あいさつ運動	・日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんが参加して、校門であいさつ運動を実施した。

（２）学年の活動と連携・協働した活動

学年	項　目	具体的な取組内容
３年生	安全・防災学習	・地域の消防団10名の協力で、学区の災害対策の学習と放水消火訓練を行った。
３年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫、ちまきや野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
４年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
５年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
５年生	ふるさと体験学習	・地域の老人会の協力を得て、しめ縄づくりを体験し伝統行事を学んだ。
６年生	キャリア教育	・飲食店や美理容業で働く方から、仕事内容ややりがいを聞き、将来への生き方を考えた。

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇年度当初は老人会の方から昔遊びを教わったり、視覚障がい者と盲導犬との関わりから福祉学習を実施したりする予定であったが指導者の方の感染リスクを考慮して中止した。例年は地域に出向いて実施した行事でも、指導者が学校に来ていただいて広い場所を確保し３密を回避した状況で実施した。
〇教職員が地域学校協働活動推進員と日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域学校協働活動推進員から、多くの有益な情報を得ている。
〇読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域学校協働活動推進員が、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。

【 ３年生信長ネギ収穫 】

■ 事業の成果
〇地域学校協働活動推進員が教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。
〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。
〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。
〇コミュニティセンターやＰＴＡとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　）

報告書記入者（ 教　頭 ）

新しい生活様式で取り組む老蘇っ子の「ふるさと学習」

近江八幡	活動名 ： 老蘇地域学校協働本部	老蘇小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　］

■事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校協働活動推進員　□行政　■その他（　地域防災につなげる　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）豊かな自然から学ぶ
（全学年）・ビオトープでの体験活動　（３年）・れんこん掘り　・　イチゴ農家　・　信長ねぎ
（４年）・西の湖学習　・ヨシ灯り作品作り
（２）働く人から学ぶ
（２年）・野菜の栽培・ハチミツ採取体験・まち探検
（３年）・ネギ農家見学・イチゴ農家見学
（３）歴史や伝統から学ぶ
（１年）・昔の遊び体験　（２年）・ふるさとの偉人から学ぶ
（３年）・昔の暮らしについての聞き取り　（４年）ゴミ処理についての学習
・ふるさと絵屏風の話　（５年）・シーサー作り
（６年）・お茶碗製作・お茶たて体験・戦争体験の聞き取り
（４）地域の人から学ぶ
（３年）スーパーから出前授業（４年）・老蘇消防団の方のお話
（５年）・自動車部品工場見学・米作り学習
（５）支えのもと学ぶ
（全校）・登下校の見守り・絵本の読み聞かせ
（５年・６年）・家庭科ボランティア

【れんこん掘り体験】

■　実施に当たっての工夫
・新しい生活様式の考え方に則って、三密状態回避を意識した取組を実施した。
・以前から引き続き行われている活動が多いので、今回の災害（コロナ）をきっかけに活動の意義やねらいを明確にすることを意識して内容を決定し実施した。
・教科の学習や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。
・活動の様子を「地域支援だより」「校長通信」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにしている。

■　事業の成果
・コロナ禍でも工夫を凝らして多くの人と出会い、様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができた。自分の生き方を見つめ直し、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。
・ふるさとの自然や歴史、文化、人などについて知ることで、“老蘇”のよさを再発見することにつながり、そこに住んでいる自分にも自信が持てるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍でも、工夫をして受け入れてくださる事業者が多かったことは、大変ありがたかった。
・子どもたちの活動は、それぞれ効果的に単元全体の構成を熟考して実施する必要がある。
・今年度は特に、講師を招いてご講話いただく方法を取ったので、児童の主体性を生かす工夫が必要である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、課題作りの段階で、児童の課題意識をどれだけ高められるかが重要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）
・学校運営協議会では、地域の文化、歴史、人材などについての話題がよく上がる。学校と学校運営協議会が密に連携することで、地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域から受けられるようになる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　■地域連携担当教員　■その他（教務主任、各担任）

報告書記入者（　教頭　）

「地域の方は八中へ、八中の生徒教職員は地域へ」の相互関係を大切に

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：約100人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　　　　）

【調理器具調整　包丁研ぎ】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
　全学年　：マスク作成、図書館司書支援、調理器具調整、調理室清掃
　１年　：八幡フィールドワーク支援（10月）
　２年　：職場体験代替学習講演会講師（11月）
　特別支援：茶道体験支援（２月）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○例年であれば、授業支援として、被服実習支援、水泳・剣道実習支援、書道（毛筆）実習支援等を実施していたが、今年度はコロナ禍のためやむなく実施を見合わせることとなった。代替支援として、マスク作成支援や図書館司書支援を提案し、多くの方が参加・協働してくださった。
○職員室に地域コーディネーターの座席を設けることで、連携を密にし、コロナ禍における対応等を協議した。
○３月に総括会議を開き、スクールボランティアさんから多くの意見を吸い上げ、来年度の支援内容について協議した。

【マスク作成　完成したマスク】

■　事業の成果
○コロナ禍のため、例年通りの取組とはいかなかったが、代替支援に多くの協力を得ることができた。
○マスク支援では、多くのマスクが学校に集まり、マスクを忘れた生徒等に渡すことができた。
○図書館司書支援では、例年以上の方の協力を得ることができ、図書室の本の消毒を終えることができた。

【図書館司書支援　書架の消毒】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○今年度はコロナ禍の影響もあって、限られたボランティア内容になってしまった。コロナ禍における授業支援やその他の支援内容についてさらなる工夫が求められている。
○本校の課題として通学マナーの悪さがある。ボランティアさんに立ち番等してもらうことも今後有効な手立てではないかと検討中である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人５回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。
○上記通学マナーの改善に向けて、学校運営協議会から地域へ依頼してもらうことも地域と学校の協働の実現に向けては有効な手立てではないかと検討中である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当　）

開巻有益　～心ときめく図書館の充実を目指して～

近江八幡市	活動名：八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

【　図書ボランティアによる掲示板　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇学校司書、地域学校協働活動推進員との連携した活動。
〇行事や学習内容に合わせた特設コーナーの設置。
〇季節や時期に応じた図書館内、図書館前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫。
〇ＰＴＡによる学級文庫の蔵書充実のための支援・協力。
〇図書ボランティアによる書架整理、学級文庫書架の製作。
〇近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。
〇家庭科の授業におけるマスクづくりの実習支援

■　実施に当たっての工夫
〇本年度、地域ボランティアの方々に授業支援に参加していただいた。来年度以降も継続できるよう、まずは実習の授業がある教科で授業内容の検討をした。
〇学校行事や授業での学習内容を把握し、教員、学校司書、地域学校協働活動推進員、ボランティアが連携し、特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行う。
〇生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように配慮する。
〇季節や時期に応じた図書室内、図書室前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫をする。

■　事業の成果
〇図書館の雰囲気の向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（ＰＯＰ）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。
〇ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。
〇図書館の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書館利用者が増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。
〇地域の方に指導いただくことで、普段とは異なる雰囲気の中、集中して取り組むことができ、より深い学びにつながった。

【　家庭科授業支援　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、本事業として地域学校協働活動推進員を配置されたことと、市から週２回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになった。しかしまだ定着とまでは至っていないため、事業の継続を望む。
〇今年度は家庭科のみの授業支援となったが、今後他教科にも展開していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
※開巻有益‥読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。
「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともに子供を育てる地域学校協働本部事業

近江八幡市	活動名：八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：30 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学校を支援していただく一方的な取組だけでなく、技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算を活用し、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へお裾分けを行っている。

【花いっぱい運動でひまわりを地域に贈呈】

（２）本校は、地域行事への生徒の参加を推進しているが、特に学区の運動会の日は部活動を中止して参加を呼びかけている。部活単位で運動会の役員も担っている。また、吹奏楽部の発表の場として、または、生徒会のボランティア活動の場として地域の文化祭等の行事にも参加している。（今年度に限り中止。）
（３）地域学校協働活動推進員のネットワークを生かして、学生ボランティアを募集し、テスト前の質問教室に講師として教えに来てもらったり、定期的に華道の先生に来校してもらい、お花を生けてもらうとともに、華道の世界の魅力を紹介してもらったり、地域の大工さんには合唱コンクール用の指揮台を製作していただくなど、学校環境作りに地域の方に協力していただくことができた。
（４）人権学習ではそれぞれの学年で、自らの体験や活動を語っていただく講師としてボランティアにお世話になった。さらに、定期テスト前に本校の卒業生で教師を目指している大学生を中心に質問教室の学習支援をしていただいた。

【地域の方からマスクをいただきました】

（５）部活動については、毎年、地域から大きな支援をいただいている。現在、テニス部、吹奏楽部では、ほぼ１年を通してお世話になっている。これらの部活動のボランティアは毎日の部活動だけでなく、練習試合、公式試合でも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○地域から学校にコロナ対応として何か支援できることはないかと地域学校活動推進員と協議をした結果、次の点について支援していただいた。
１．地域ボランティアの方が手作りマスクを製作し、全校生徒に届けた。
２．各教室に日よけのためのすだれを設置できるよう、地域に働きかけ、補助金をいただいた。

■　事業の成果
○保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。
○生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動することも増え、中学生の地域での活躍を評価して認めていただくことで自信を持つことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられる。学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。
○地域との連携・協働を進めるには、教員も地域に出向き地域の方と話したり、地域で活動したりすることが必要になる。そのための時間確保や時間外勤務、土・日の出勤等が新たな課題となる。
○事業予算を増額していただくことで、もっといろんな活動が考えられる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ふるさとに愛着と誇りを　～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～

近江八幡市	活動名 ： 安土中学校地域学校協働本部	安土中学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：50人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）地域との協働活動
「あづちチャレンジ」に応募し、安土まち協の皆さんといっしょに、生徒会のメンバーで今年度の飛び出し坊やの制作に取り組んだ。
環境委員会で、環境ボランティアの方とアジサイの剪定作業に取り組んだ。
また安土学区少年補導委員の皆さんと学校のアプローチ道にパンジーの苗を植え、環境整備を行った。
（２）地域への発信
２年生のふるさと学習（総合的な学習の時間）で、１年生から取り組んでいる観音寺城プロジェクトについて、地域の皆さんに説明した。あまり知られていない歴史遺産『観音寺城』を多くの人に知ってもらうための提案を行った。
（３）図書館ボランティア・環境ボランティア
民生児童委員の方に図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室を開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とした。また、中庭の植え込みの剪定を環境ボランティアの方にお願いした。

【飛び出し坊やの制作】

【パンジーの苗植え】

【観音寺城プロジェクトの紹介】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○　学校と地域のニーズを結びつけることを地域学校協働活動推進員と連携して考え、具体化するようにしている。
○　学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行ってきた。
○　新型コロナウイルス感染症対策として、大人数での活動は行わず生徒会や委員会、部活動単位での取組を中心とした。
○　地域の方々とともに活動する場の設定だけでなく、中学生の活動を地域に発信・紹介することにも取り組んだ。

■　事業の成果
○　地域の方に得意分野を活かした活動内容（環境整備や図書館ボランティアなど）で参画してもらうことにより、教育活動が深まった。
○　中学生の活動を地域に発信・紹介することで、地域から評価を受け、活動の場が広がってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○　ボランティアスタッフの充実を図る。
○　今まで実施してきた学年や学校全体での大人数による活動や狭い空間での活動を今後どのようにして行っていくか、新型コロナウイルス感染症対策を含め、見直しが必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
安土中学校HP　…　azuchi-jh@omihachiman.ed.jp

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の人に学び、地域に生きる私たち　（志津小学校）

草津市	活動名　：　志津小地域協働合校	志津小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人）　ボランティア登録数：200人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

【　昔のくらしや道具　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）老人会との連携
各字の老人会の協力を得て、例年、さつまいもの苗植えや収穫、昔ながらのあそび等の様々な体験活動を実施。子どもたちは、高齢者の生活実体験をとおして様々な知恵や工夫を知る。本年度は、コロナ禍における対応として、活動を厳選し、３年生の「昔のくらしや道具」だけを実施した。

【　どんぐりのひみつをさがそう！】

（２）地元企業との連携
地元企業であるパナソニックとの連携により、例年、５年生が田んぼの学校で収穫した米を使って行う「米パンで学ぼう、食エコ体験」等の体験活動を実施。学年に応じた様々な「エコ体験学習」を活用している。本年度は、コロナ禍における対応として、活動を厳選し、１年生の「どんぐりのひみつをさがそう！」だけをリモート授業により実施して、生き物とのつながりについて興味を深めた。
（３）けん玉活動の広がり
学校運営協議会は、けん玉活動を特色とする学校づくりを推奨しており、平成24年から全校児童がけん玉活動を通して集中力や自己肯定感を高めている。例年、地域行事“ふれあい広場”の１コーナーで、学校運営協議会委員の一人である地域学校協働活動推進員のコーディネートにより「けん玉教室ブース」を出店している。（本年度はコロナ禍の対応により出店自粛）また、志津まちづくり協議会が月に一回土曜日に「けん玉広場」を開き、参加希望の児童と共に、地域との交流や技術の向上だけでなく、集中力やコミュニケーション力の向上を図っている。

【　志津けん玉広場　】

■　実施に当たっての工夫
〇コロナ禍における対応として、活動を厳選した。また、実施する場合は、参加していただく講師やボランティアの数を減らしたり、学年で集まらずに各学級での実施としたり、リモートや動画による学習にしたりするなど三密を防ぐようにした。また、児童だけでなく、講師・ボランティアの方々にも検温や手指の消毒をお願いした。
〇地域ボランティアには、学習活動の趣旨を理解していただくために事前に直接お出会いして、詳細な打ち合わせをしている。
〇学校運営協議会での意見をもとに、子どもが輝ける協働活動を展開しようとしている。
〇活動後には、子どもたちが書いたお礼状や感想文をお渡しして、今後も支援や交流が持続していけるようにしている。

■　事業の成果
〇地域の方々との交流を通じて子どもたちは、地域のことを知りいろいろな発見をすることができた。これらを通して、地域の自然や人々に関心を持つと共に感謝の気持ちが育ってきている。
〇地域や企業の方々から教えていただく中で、より専門的な知識や技能が学べるとともに子どもたちが自分たちでできることを見つけ、さらに探究しようとする意欲を持つきっかけとなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇学習活動のねらいをしっかり持ち、「つながりと持続可能」を大切にすることで、児童が主体的に体験活動に臨めるようにしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇学校だよりや志津小学校のホームページ(http://www.shizu-p.skc.ed.jp/tiiki.html)で、地域協働合校事業の取り組みについて紹介している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

子どもと大人の共育ちをめざして　　　　　　（志津南小学校）

草津市	活動名　：　志津南小学校地域協働合校	志津南小学校　学校運営協議会 ：■有　☐無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務 0 人）　ボランティア登録数：125 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
☐郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
☐行　政　☐その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「芝桜プロジェクト」（４年生）
志津南環境美化ボランティアの方々を中心に、若草町内に芝桜の植え付けを行っておられる。そこで、小学校の敷地内にも同様に芝桜を植え、来春の校内を飾りたいと考え、地域の方々にお手伝いいただきながら、植え付けを行った。

（2）「昔遊び」（１年生）
生活科「昔遊びに親しもう」の学習において、いつもお世話になっている地域の方々を講師に迎えた。けん玉やめんこ、こま回しなど、昔ながらの遊びを教えていただくことで、自分たちもやりたいという意欲を高めることを図った。

【　芝桜プロジェクト　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇地域コーディネーターや担当していただく地域の方々と、事前の打ち合わせを実施した。打ち合わせの際には、感染予防を意識し、芝桜プロジェクトでは隣と間隔を開けたりマスク着用で作業をしたりした。また、昔遊びでは例年は地域のみなさんを固定し、１年生児童が部屋を移動して回っていたり、一緒に輪の中に入ってもらいながら昔遊びを交流していただいていたが、今年度は人の動きを抑えるために、児童を固定し地域のみなさんに部屋を移動していただいたり、会の趣旨を交流から活動のきっかけづくりに変更し、教室の前方で遊び方を披露していただいたりするなどの工夫をした。

■　事業の成果
〇地域の方々と一緒に校内で植え付け作業をしたことは、４年生でありながらも「自分たちが学校の代表である」という意識につながり、来春から高学年となる児童たちにとっては良い経験となった。また、自分たちの住む町も同じように地域の方々が大切にしておられることが分かり、自分たちも町をもっと大切にしていきたいという思いを積み上げるきっかけとなった。

〇数年来継続して行ってきた様々な活動が、今年度はほとんど実施することができず、地域の方々もさみしがっておられた。この一年で活動が途切れてしまわないよう、活動内容を充実させるため資料等を残すように心がけた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、子どもたちの学習が受け身になるだけでなく、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。また多様な学習機会が持てるよう、地域における人材や資源の有効的活用を考え、地域の風土、環境、文化とともに安全、防災、ＩＣＴ、情報、英語などの専門的知識を持つ方また経験のある方等、地域コーディネーターを中心に確保するとともに教育資源を活用し、学習教材を深め広げていき地域の活性化の一端を担うことが必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇年に３回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。会議で出た意見や助言等を参考に次の活動に活かしている。
〇夏季の登下校に関して、学校運営協議会で話題が出たことをきっかけに、学校・ＰＴＡ・地域が連携して、ＳＯＳプロジェクト（志津南おかえりストリート）を立ち上げ、通学路上の店舗に協力要請し、児童の安全を見守ることができた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
☐校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　☐その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

ふれあい　学び合い　心をひびかせる　草津っ子　（草津小学校）

草津市	活動名　：　草津小学校地域協働合校	草津小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成27年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　　　ボランティア登録数：120人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「なでしこの花を育てよう」
「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、なでしこの苗を植え、水やりや草引き作業等、日々世話をし、育てている。また、本年度から４～６年生の有志児童による種からの育成にも取り組んでいる。

（２）「水のめぐみ“米づくり”（５年）」「野菜作り（２年）」「サツマイモ作り（１年）」
第５学年の総合的な学習では、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしており、草ひきなどの世話も児童と共に実施している。サツマイモづくりや野菜作りも実施しており、例年だと、収穫後に「お米パーティー」や「サツマイモパーティー」を開催し、学んだことの発表会や収穫したお米やサツマイモをともにいただきながら交流を深めている。参加された地域の方々も児童の姿に感動され、交流の場を楽しみにされている。

【　第５学年　稲刈り・脱穀　】

■　実施に当たっての工夫
〇密を避けるために、学年ではなく学級単位での活動に切り替え、他者との距離をとることを意識して行った。マスクの着用、事前事後の手洗い消毒の指導も徹底した。
〇事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺い、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取り組みになるように話し合った。
〇活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。
〇児童との交流がその時限りになるのではなく、感謝の気持ちを感想文やお礼状として渡すことで、ボランティアの方々のやりがいにつながるように取り組んだ。

■　事業の成果
〇何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。
〇継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。
〇関わりが深まることで、児童は「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場をさらに設け、各学校職員に伝えることで、よりよい関係を目指したい。
〇ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をしていただいているおかげで、学習は予定通りに進んでいるが、一方で、「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性も感じている。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解しておくことが大切である。
〇ボランティアの方々の高齢化が目立ちはじめてきたこともあり、ＰＴＡや地域の方々の参加協力を得られるよう学校から地域へ発信していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇例年、年３回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。（本年度は未実施、個別に連絡）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

『人・モノ・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！　（草津第二小学校）

草津市	活動名　：　草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校　学校運営協議会：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：110人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　■行　政　■その他（草津市農業協同組合　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
５年生　米作りにチャレンジ
　毎年５年生では、総合学習で「米作りにチャレンジ」の学習に取り組んでいる。
　今年度も草津市農業協同組合（以後ＪＡと記す）及びエコスタイルプラザの方々に協力いただき、「あおばな館」横の水田で稲作を行った。今年は休校で田植えができなかったため教師が現地で田植えをし、子どもたちは、各学級でバケツでの苗の育成に取り組んだ。苗の成長を学習し、学級で「田んぼの学習」発表会をおこなった。９月の稲刈りには児童が参加することができ、稲の成長を喜ぶと共に農家の方々の工夫を学び、食べ物の大切さについて考える機会となった。11月には、お世話になったＪＡ及びエコスタイルプラザの方々を招き、「収穫感謝の会」を行った。ごはんに関するクイズや、お米ができるまでのジャンボすごろくなどをし、楽しみながら学習を振り返ることができた。また、自分たちで収穫した米を持ち帰り、家で炊飯したり食べたりしている様子を各自のタブレットで撮影し、紹介し合いお米の収穫に感謝することができた。

【　田植え出前授業　】

【　稲刈り体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　休校中のため、田植えは教師のみの体験となり、その様子をビデオで撮り、後日学習に活かした。またＪＡ草津の方々に来ていただき「出前授業」で田植えやお米の話をしていただいた。稲刈りは参加することができたので、密にならないようにバスの乗車人数を減らし、稲刈りも間隔を空けて行った。１グループの活動時間は短縮されたが、意欲的に取り組むことができた。
　例年、感謝の会では収穫したお米を炊飯しておにぎりにしてみんなで食べていたが、今年は、お米を持ち帰り、家で炊飯し、食べている様子を各自のタブレットで撮影してきて、「収穫感謝の会」で紹介するなど活動を工夫した。

■　事業の成果
　校区内の学習田が無くなったため、４年前より「あおばな館」横の田んぼをお借りし、ＪＡと環境経済部の方々の協力を得て学習に取り組んでいる。コロナ禍の中、活動内容に変更があったが、その中でもどのように児童たちにこの学習での学びを深めていくか検討し、ＪＡ及びエコスタイルプラザの方々と、工夫し取り組むことができた。田植えはできなかったが、その後の様々な学習で子どもたちは「米作り」に興味を持ち、お米になるまでの田んぼの様子や農家の人々の苦労や工夫について学ぶことができた。年度当初に年間計画の確認をし、１年間の活動に見通しを持つことで、地域コーディーネーターと連携して連絡やバスの予約などを早めに取ることができスムーズに実施できた。

【　収穫感謝の会　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　田んぼが校区外のため、夏休み前に１度全員で「稲と田んぼの生き物の観察」に行っているが（今年は実施できず）、田んぼの稲の成長を身近に知る工夫をしていきたい。バケツ稲に取り組むとともに、写真やビデオでの学習なども工夫していきたい。
　全体としては、ボランティアの方の年齢層や分野などが多岐に渡るように、広げていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
各学年、児童が体験し、感じ、考えて学ぶ機会を大切にしている。
活動内容は学校ホームページや学年・学校だよりなどで保護者に伝えている。
　http://www.kusatsu2-p.skcedu.jp/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各学年担当者　）

報告書記入者（　地域学校協働活動担当教職員　）

いいな　いいな　ともに学んでふれ合うまち　渋川　（渋川小学校）

草津市	活動名　：　渋川小学校地域協働合校	渋川小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：250人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

Ⅲ　地域学校協働本部の実践事例

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

○５年生は、「滋賀の郷土料理学習」を核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き、滋賀の５つの食文化財を中心に郷土料理の魅力について考えた。学習では、えり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食して味わった。日野菜漬けの魅力に迫るため、日野菜漬けの工場から遠隔授業を行い、漬物作りの工程や働く人々の思いについて学びを深めた。また、日野町から和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。さらに郷土料理に関する学習の成果を地域の人々に発信するために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。

○６年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。学習のまとめでは、滋賀の農産物やそれらを使った郷土料理の魅力を紹介する「渋川ＥＳＤミュージアム」を開館させた。また、日本農業遺産にも認定された魚のゆりかご水田米の米ぬかや、地元草津市の花でもあるアオバナの粉末を使った石けんを作って、農産物の魅力をＰＲする活動を行った。三重県への修学旅行では、三重の漁業・林業に学ぶとともに、滋賀の農業の魅力を発表して伝えてきた。

【えり漁の漁船からの遠隔授業】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。子どもたちが学校から出かけていく機会は限られるため、現地の様子がライブで伝えられる遠隔授業を活用してきた。琵琶湖船上から漁業の様子を伝えたり、魚のゆりかご水田から魚道が整備されている様子を伝えたりした。農園から生中継して、野菜や米やお茶の栽培方法の解説を聞きながら学習した。また、事前に食材を入手しておいて、漁師や農家の方々と生中継で結び、現地からの指導を受けながら学校の家庭科室で調理実演の見学を行うこともあった。コロナ下でも野菜や郷土料理を味わえるように、子どもたちによる調理実習は控え、ゲスト講師が調理実演をして、子どもたちが少量を味見できるようにした。さらに県内の他の小学校とテレビ会議システムを使って交流を深めることができた。

【三重の方に学んだことを伝える児童】

■　事業の成果

○本報告では、２事例のみ取り上げているが、どの学年でも地域の方の協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかり意識して取り組みたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の先生に学び、地域に誇りを持てる子に！　（矢倉小学校）

草津市	活動名　：　矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：90 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　■その他（ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト）

【　鎌で稲刈り体験　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇米の一生について学ぼう（田植え　５年生）
５年生の「田んぼの学校」の事業と連携し、地域の方の田を借用して米の一生について学んだ。田植えはコロナ禍の為、田んぼに出向くことができない代わりに、田植えの様子と米作りについて地域の方へのインタビューをビデオ撮りし、それを用いて学校で学習をした。
〇地域の方と稲刈り体験．収穫の喜び（稲刈り　５年生）
稲刈りのやり方の説明を聞き、体験した後、昔の道具を使って足踏み脱穀の経験もできた。最後は落ち穂拾いを行った。収穫を通して米の生長や米を大切にすることを学んだ。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇田植えについては、休校中で実施できないため、学年担任や地域連携担当教員、地域協働合校コーディネーターが借用田に出向き、田植えの様子や地域の方へのインタビューをビデオ撮りし、それを学校での学習に使用した。
〇稲刈りについては、地域のボランティアの方々へ実施前の検温と活動中のこまめな消毒をお願いした。あわせて、熱中症予防（水分の用意、スプリンクラーの設置等）に努めた。児童は、自宅での検温と稲刈り前後の消毒をした。実施中はマスクを着用して学級毎に時間をずらし、クラスをグループ分けするなどして密を避けた。

【刈った稲をコンバインへ】

■　事業の成果
〇コロナ禍で実施が危ぶまれたが、できる限りの感染防止策を講じて学びの場を確保することができた。田植えは実際に体験できなくても、ビデオを用いて、米作りの様子や米作りへの思いを知ることができ、次の活動へつなげることができた。
〇コロナ感染防止を中心に実施方法等を学年担任と地域のボランティアの方々との連絡を調整し、密を避けた方法で実施できた。

【　足踏み脱穀機の使い方の説明　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇新型コロナウイルス感染症や熱中症の予防をしながら、どのように充実した体験活動が仕組めるのか今後も成果と課題を出し合い、考えていく必要がある。
〇ボランティアの方々の高齢化が進み、活動の存続が危ぶまれている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇学校運営協議会に、まちづくり協議会会長や、地域コーディネーターにも参画していただいている。会議の中で、地域協働合校の取り組みについても紹介し、よりよい活動になるよう、助言などをいただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年の教員）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

手をつなぎ、心通わす　誘（ゆう）・融（ゆう）（融け合う）老上　（老上小学校）

草津市	活動名　：　老上小学校地域協働合校	老上小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：185 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○米や野菜の栽培・収穫
「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、子どもたちの農業体験・自然体験を行っている。子どもたちは米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、自分たちが口にする食材に感謝の気持ちが持てるようになることをめあてに学習している。
地域住民と協働することにより、農業の大切さを学ぶだけでなく、世代間の交流も図ることができ、学習の成果や感謝の気持ちを表現する場を通して、学習のみの関わりにとどまらず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係となり、地域の活性化にもつながっている。

【　草ふみ体験　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○実施にあたっては、地域コーディネーターが農業合校と学校の連絡調整を行い、プログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで、学校と地域の取組がつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、いつでも地域住民が確認できるようになっている。
○新型コロナウイルス感染症対策として、収穫した作物で一緒に調理したり、食したりする活動はできなかったが、家庭へ持ち帰り家族間で話題を共有しながら味わうことができた。

【　大根をそだてよう　】

■　事業の成果
○子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。
○推進委員は世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、親子間で地域の話ができるなど家庭教育的な役割も果たしている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○取組を充実させるため、入念な打合せや準備等が必要となる。学校・地域双方の負担を軽減するため、地域コーディネーターの果たす役割が必要不可欠となっている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○学校ホームページ　http://www.oikami-p.skc.ed.jp

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

やってみよう！２０２０　～地域とともに協同（協働）する学校～　（老上西小学校）

草津市	活動名　：　老上西小学校地域協働合校	老上西小学校　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験活動

　１年生のさつまいも、２年生の大根、５年生の米などの作物を、農業合校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。

　収穫したいもを、もみ殻を使って焼きいもにしたり、大根や米を家に持ち帰ったりして、収穫の喜びを感じることができた。

（２）学習支援

　５・６年生の家庭科の学習で、裁縫や調理実習の支援をしていただいた。

　支援のサポーターは、学習ごとに募集し、参加いただける範囲で協力いただいた。サポーターの方には、検温や消毒をお願いして、感染症対策にも協力いただいた。

　４人程度のグループに１人程のサポーターについていただいたおかげで、きめ細かい支援を行うことができ、子どもたちは、実習に充実感を感じることができた。

（３）読書活動の推進

　図書ボランティアや読み聞かせにたくさんの方の支援をいただいた。図書ボランティアは、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献いただいている。

　毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を使って読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせを大変楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

【　１年生　さつまいもの収穫　】

【　５年生　はじめての裁縫　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成、配布し、保護者や地域の方に１年間の見通しを持てるようにしている。

〇「できるときに、できることを」を合言葉に、協力いただける方に可能な範囲で幅広くサポーター募集を行っている。

〇サポーターのみなさんには、検温や消毒をお願いし、健康管理を徹底した。

■　事業の成果

〇地域コーディネーターを中心として、活動に見通しを持つことで、前年度までのサポーターとのつながりも維持継続ができている。

〇保護者がサポーターとして来ていただく場合、自分のお子さんの学級だけではなく、違う学級や、違う学年にも積極的に支援いただけるようになってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇感染症対策のため、例年通りの活動ができなかったが、場所の設定や衛生環境の維持などを工夫して、上記の活動を実施することができた。

〇サポーターとして来ていただいている方が、何度も来ていただいて大変ありがたいが、新しく来ていただく方を増やすために、活動の周知や発信を積極的に行っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇年間４回の学校運営協議会を開催している。地域協働合校の取組を知っていただき、活動の方針を協議した。今年度は、特にサポーターの取りまとめ方について詳しく協議できた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

すきです玉川　わたしも参加　つくるよろこび　（玉川小学校）

草津市	活動名　：　玉川小学校地域協働合校	草津市立玉川小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成28年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：０人（令和元年度130名）
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
玉川小学区は新興住宅と旧地区が混在した地域であり、これまでも各自治会や、学校とそれぞれ連携を取りながら、子どもたちの学習補助や、地域の特性を活かした活動の提供など、様々な協力をいただいてきた。それらの活動は地域の方にとっても、子どもたちにとっても非常に有意義な活動である。
しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、例年行っていた行事・活動が中止・規模縮小などの変更を強いられることとなった。その中でも地域で最も大きな行事の一つである「萩まつり」が中止になったことは、楽しみにしていた子どもや地域の方々にとって、非常に残念な出来事であった。
そんな中、子どものために、「何かできることを」という地域の方の思いを受け、学校と地域とが連携し、下記の取り組みを新たに実施した。

【　全校：やきいもパーティ　】

【　２年：バルーンアート体験　】

（１）毎年、地域の方の協力を得て、１年生が「さつまいも」の栽培を行っている。
今年度は、学校の畑に加え、地域の畑で収穫したさつまいもを調理し、全校児童で食する機会（やきいもパーティ）を設けた。開催にあたっては、事前準備や当日の調理など、地域の方の協力を得て盛大に実施することができた。焼きたてのさつまいもを食した子どもたちの表情は笑顔であふれ、休み時間にお礼の言葉を伝えたり、お礼の手紙を書いたりするなど、自ら地域の方へ感謝する姿が多く見られた。
（２）「萩まつり」で行っていた「バルーンアート体験」を２年生の学習活動の一環として実施した。当日の準備や指導など、地域の方の協力を得て、子どもたちはバルーンアートを十分に体験することができた。萩まつり用に準備していたバルーンを有効活用しつつ、子どもたちと地域の方が交流する機会を持つことができ、有意義な活動となった。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
三密の回避など、基本的な感染防止対策を行うことはもちろんであるが、「コロナ禍だからできない」のではなく、「コロナ禍でもできること」を前向きに見い出し、例年の慣習にとらわれずに具体的な方策を検討することが大切である。

■　事業の成果
特に上半期は、学校にボランティアや講師を招いて行う活動の実施が困難であったことから、様々な活動が中止または制限のある中での実施となった。そのような中でも地域の方は「子どもたちのためにできることを」という思いを強く持っていただいていることを再認識できた１年であった。そのような思いに応えるように、子どもたちも地域の方との活動を楽しむとともに、改めて地域の方々への感謝の気持ちや、地域のよさを感じるよい機会となった。コロナ禍がいつまで継続するかは不明であるが、地域協働合校の意義や目的に沿って、できる限り、活動の継続や新規事業の立案に努めたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
コロナ禍にあった今年度は、事業内容やその意義について、改めて検討し直すよい機会であったと考えている。そのため、今年度やむなく中止・縮小された活動を、次年度以降に再開・拡大するかについては、持続可能性や目的・意義を踏まえた上で、内容やあり方を再検討したい。「これまで続けてきたから」と安易に判断することなく、「子どもにとって有意義であるから」という本来の主旨に立ち返って、次年度計画を作成していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
玉川小学校運営協議会を毎学期実施し、地域協働合校の活動報告を行うとともに、委員からの指導・助言を得ている。今年度、新たな取り組みを計画・実施できたことも、会での協議がきっかけとなっており、開催意義は非常に大きい。地域協働合校での新たな取組や活動の調整など、今後とも積極的に学校運営協議会との連携を図りたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東　～つながろう～　（南笠東小学校）

草津市	活動名　:　南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校　学校運営協議会　:　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　■その他（　学校運営協議会　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○環境整備
　コロナでの休校明け、子どもたちが気持ちよく登校できるようにと地域の方々が草刈り、剪定、花壇の整備などをしてくださった。
　また、２学期には、地域の方だけでなく保護者にも呼びかけ、トイレと手洗い場の清掃をしていただいた。
　３学期には、窓ふきを中心に、普段子どもたちではできない所を、きれいにしていただく予定である。２学期は放課後に実施したが、３学期は、子どもたちの清掃時間に合わせることと、期間を１週間設定することで、より多くの保護者に参加していただこうと考えている。

【　外の手洗い場の清掃　】

○学習支援（ミシン、聞いてもらおう）
　地域の方が、５年生の初めてのミシン学習、１年生のことば・カタカナ・漢字・たし算・ひき算など、学習の定着を支援してくださった。
　具体的には、５年生には、ミシンの使い方を教えていただいたり、間違って縫ってしまった糸をほどいていただいたりした。１年生には、音読や計算カードを聞いていただいたり、自信のない子のそばについて一緒に読んでいただいたり、計算のヒントを言っていただいた。
　いずれも、できることを認めたり、困っている子のそばについて、その子ができるようになるのを支えていただいた。

【「みな小おうえんたい」の方にきいてもらおう】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　年度当初は子どもたちとともに活動することは難しかったので、地域コーディネーターと会議を重ね、できることを考えた。
　例えば、関わっていただける方を増やすために、ボランティアの内容や、募集方法を見直し、新たにチラシを作成した。また、ボランティアの名札も作成した。掲示板も作成予定である。

【　ボランティア募集のチラシ　】

■　事業の成果
・ボランティアとして登録してくださった方が増えた。
・名札があることで、ボランティアの名前を覚えた子もいる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
登録してくださったボランティアとの連絡の取り方の見直し。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　HP にて、活動を紹介している。http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

出会い・ふれあい・学び合い　～みんなで育てる山田の子～　（山田小学校）

草津市	活動名 ： 山田小学校地域協働合校	山田小学校　学校運営協議会 ： ■有　☐無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 28 年度(地域協働合校事業は平成 10 年度)　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
☐子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　☐学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
☐行　政　☐その他（　　　　　　　　）

【　ニゴロブナ稚魚の放流　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ニゴロブナ稚魚の放流

山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、琵琶湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。この活動を琵琶湖の環境を考えるきっかけとし、５年生の琵琶湖環境学習につなげている。

（２）室戸台風殉難慰霊式

本校では、今から 86 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。地域の方々にも参加していただき、被害にあわれた方の記録をもとに話を聞き、亡くなられた方々を追悼するため、全校で持ち寄った花を献花している。また、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌い自然の脅威について考えさせるきっかけとしている。

今年度は、代表児童及び、地域の方々のみ体育館に集まり、他の児童については、教室からのリモートでの参加とした。

【　室戸台風殉難慰霊式　】

（３）その他

読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、ビニールハウスでのネギ植えなど。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇地域との窓口を担任から、地域コーディネーターに移行していくことで、スムーズに調整が進み、より有意義な活動になるようにしている。

〇コロナ禍の対応として、全校児童で集まることは避け、変更可能なものはリモートでの実施に切り替えた。また、学年を集める場合は、一人ひとりの間隔が空けられる体育館を使用するとともに、換気と手の消毒等を実施した。

【アスパラ名人の話を聞こう（リモート）】

■　事業の成果

〇校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け、それぞれの学年の取組について紹介することで、多くの子ども達が掲示板を見るようになった。また、「〇年になったらこんなことができる！」「こんな場所、今まで知らなかったし、行ってみたい。」と自分達が住む地域への関心も高まっている。

〇歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。アンケート等でも「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇コロナ禍において、高齢の方を学校に招いたり、行事に参加してもらったりすることが大変難しい状況であった。次年度についても、リモートでの実施が可能かどうかなどを十分に検討する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校運営協議会に地域コーディネーターと担当教諭も参画し、連絡調整を年間３回実施。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　☐その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

協力して育つ　共に育つ　響いて育つ　子どもの夢育て　（笠縫小学校）

草津市	活動名　:　笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校　学校運営協議会 : ■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度 : 平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数 : １人（兼務１人）　ボランティア登録数 : 85 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験合校

人権の花「サルビア」を育てる活動に人権福祉委員会が取り組み、種まきから定植まで多くの地域ボランティアの方にお世話になった。種から発芽、苗の育成については、米作りでもお世話になっているボランティアの方にしていただいた。人権福祉委員会の子どもたちで育てたサルビアのプランターをまちづくりセンターや隣接する幼稚園に届けた。また、１２月の人権週間には人権福祉委員会の子どもたちから地域ボランティアの方へ感謝状を渡す様子を各教室へオンライン中継した。

【　幼稚園へのサルビア寄贈　】

（２）地域の人と学ぶ合校

・笠縫学区の民生児童委員さんが中心となって、学区の記憶絵を作成していただいた。３年生の社会科の「昔のくらし」の学習で学区の昔の様子を話していただいたことをもとに、地域にまつわる昔話や、小学校周辺の様子などを子どもたちは調べて学習した。

・たんぽぽ学級（特別支援学級）の子どもたちは、年に１回、学区の民生児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要なものを準備していただいたりと、積極的に関わっていただいている。

【　昔のくらしを調べる　】

（３）読書推進合校

ＰＴＡで組織する読書ボランティア「お話の森」の皆さんによる読み聞かせを２～３週間に一度、朝学びの時間（15 分間）に各学級の教室で行っている。

（４）地域安全・学校安全合校

子ども見守り隊の方々による登下校の見守りを行っている。長年続けていただいている方も多く、見守るだけでなく指導もしていただいている。１年間の感謝とお礼を伝える場として、３学期末の修了式に見守り隊の方をお招きしている。

■　実施に当たっての工夫

○地域のよさを感じたり学校や校区のことを詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりするような活動を大切にしていきたいと考え、教科等との関連をふまえ、活動を仕組んでいる。

■　事業の成果

○コーディネーターの方をはじめ、継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、教員以上に活動を把握されており、主だった活動にスムースに取り組むことができている。民生委員・児童委員さんのように、進んでアイデアを出していただくこともあり、地域の子どもたちの育ちに自分たちも積極的に関わっていこうとされる姿は、学校にとっても本当にありがたいことである。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○継続してボランティア活動に取り組んでいただく方が多いものの、一方で新たな人材を見出していくことが課題である。ボランティアの講師の方の高齢化が進んでおり、若い世代や子育て世代のボランティアに世代交代していくことが大きな課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会に地域コーディネーターが参画している。地域との連携はコーディネーターがこまめにとっていただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（地域協働会校推進教員）

ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子　（笠縫東小学校）

草津市	活動名　：　笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校　学校運営協議会：■有 □無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動すべてに■印
開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：100 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援〇図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア〇体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員
　□行　政　　□その他（　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇「あきとなかよし」　（１年生　生活科）
　１年生の生活科「あきとなかよし」の学習では、どんぐりなど秋の自然物で遊ぶ活動がある。それらの活動を支援していただくため、地域の方々の協力を得ることにした。活動場所は、学校近くの葉山川沿いの広場。遊びの種類は、「どんぐりゴマ・やじろべえ」「おなもみダーツ」「秋のかんむり作り」「10 円玉磨き」「笹ぶね浮かべ」で、それぞれのコーナーに地域の方々がおられ、順番に巡ってくる子どもたちの遊びを支援してくださるというシステムである。
　地域の方々は、材料となる植物（どんぐり・オナモミ・笹・スイバ・ツバキの実エノコログサなど）を事前に集め、各コーナーの準備を整えて子どもたちを迎えてくださった。「おなもみダーツ」の得点を記録してもらったり、「どんぐりゴマ」や「笹ぶね」の作り方を教えてもらったり、「秋のかんむり作り」では植物の名前を教えてもらったりと、各コーナーで子どもたちと地域の方々とのほほえましいふれあいの姿が見られた。ふれあう中で、自分のおじいちゃんの知り合いであることが分かり話がはずむ場面もあった。

【　おなもみダーツ　】

【　葉山川土手のごみ拾い　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇昨年は教室で行った活動だが、３密を避けるため校外へ出て場所の設定をしたので、コーナーごとの間隔も十分にとることができた。
〇事前に、地域の方々と教師との打ち合わせを入念に行い、学校が準備するものと地域の方が準備するものとを分担し、地域の方に材料となる植物などをたくさん集めてもらうことで、活動が充実した。

■　事業の成果
〇１年生から地域のフィールドで地域の方を交えた活動をすることで、地元を愛し、自然環境を大切にする素地が作れた。
〇遊びが充実したものであっただけでなく、地域の方とふれあいができたことを子どもたちは喜び、手紙を書いて感謝の気持ちを伝えるなど、学習の終わりが関係の終わりではなく、今後に関係をつなぐことができた。
〇これまでから本活動を支援してくださった地域の方々が、さらにネットワークを広げ支援者を募った結果、今回は大変多くの地域の方々に支援していただくことができた。今後、他学年の活動にも学習ボランティアとして参画してくださる予定である。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇今年度のコロナ禍において、従来通りの活動ができなかったものや活動規模を縮小せざるを得ないものがあった。しかし、コロナ禍が明けたとき、果たして従来のような取り組みに戻ることができるのかという懸念を抱く。地域との協働活動の価値や意義を明確に示していく必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇学校運営協議会のメンバーの一人は「地域協働合校推進協議会」の会長も務めており、子どもと地域との協働学習の様子も話題に上り、学習効果や懸念事項など把握してもらっており、学区全体が学校教育に協力的である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校長　　■教頭　　■地域連携担当教員　　■その他（　該当学年教員　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

ふるさと常盤から豊かな生き方を学ぼう　（常盤小学校）

草津市	活動名　：　常盤小学校地域協働合校	常盤小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：300人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

✤「ときわ探検」（３年生）れんこん農家の見学
今年度は、コロナの感染状況により、毎年探検にでかけていた神社やお寺の受け入れが難しくなった。そこで、学校運営協議会で相談し、今まで行くことのなかった「烏丸蓮根」の農家の方を紹介してもらった。れんこんの収穫時期に合わせ、見学日を設定し、間近でれんこんの収穫から、出荷までの一連の様子を丁寧に説明してもらった。ちょうど、社会科「畑ではたらく人びとの仕事」に掲載されていることもあり、地域に根付く総合学習だけでなく、社会科の学習も深めることができた。

【　烏丸蓮根農家の見学　】

✤地域の方に学ぶ平和学習（６年生）戦争体験講話
今年度は、コロナ禍において、広島方面への修学旅行の変更を余儀なくされた。平和学習を進めるにあたり、地域の方から話を直接聞くことで、戦争のことをもっと身近に感じ、平和学習を深めることはできないかと学校運営協議会で相談した。相談後すぐに、地域コーディネーターの方による講師の紹介で、学習をとめることなく、地域の方から話を聞き、自分たちが平和についてしっかり考えることが大事であることを改めて感じることができた。

【　戦争体験講話　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○必ずマスクを着用し、密にならないように、今まで室内で聞いていた話を外で伺ったり、教室から体育館などの広い部屋を活用したりして、児童同士との距離をとって活動をした。出かける際には、消毒液を持参し、手指消毒もまめにおこなった。

■　事業の成果
○事前に地域コーディネーターと担任、学校担当者で地域の方々の「ふるさと常盤」を愛する気持ちや、後世に伝えていきたいという思いが子どもに伝わるように、目の前の子どもに何を学ばせることが必要か相談してきた。
○特に今年度は、コロナ禍で状況が二転三転する中、地域コーディネーターの方が何度も訪問先に伺って、いつ学校が再開しても子どもたちが学習できるように、内容や日程調整などの臨機応変な対応により、学びをとめずに、制限がある中でも、学習を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○今年度、コロナ禍で予測不能なことの対応に追われ、ついつい後回しになってしまいがちな地域との連携も地域コーディネーターや、学校運営協議会の方々の支えがあったからこそ、計画していた地域学習を大幅に縮小することなくできた。コロナ禍で地域での受け入れや活動が不可能なこともあったが、その代わりの学習方法や場所・新たな人材発掘にもつながり、展望がもてた。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○毎回、学校運営協議会で進捗状況を報告して、各委員から相談、助言等を得ている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　該当学年教員　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

～地域と学校がともに子どもを育てる「おらが学校」をめざして～　栗中サポーターズクラブ

栗東市	活動名　栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成19年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：37人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援（家庭部）　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　■行　政　■その他（サポーターズクラブのボランティアさん：サポーターさん）

【　樹木の伐採・草刈り支援　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
安全で落ち着いた学習環境の支援（それぞれ月１回程度　学校行事支援は今年度基本中止）
・学習環境支援（各月１回程度）・・①ゴミ拾いを兼ねた授業中の廊下からの見守り
　②簡易マスク作り支援（今年度コロナ対策のため）③地域の方、保護者さんからのご寄贈タオルで雑巾作り支援（例年は家庭部員と一緒に制作、今年度はサポーターさんのみ）
　④玄関前生け花支援（玄関周りの美化）＊①は今年度コロナ感染防止のため中止
・環境整備支援（必要に応じて）・・樹木の伐採、中庭、グラウンドの草刈り支援
・図書室支援・・カーテンレール・本棚の修理、本の整頓、机椅子の消毒作業、新書蔵書作業
・通学ナマーアップ・・登下校時、サポーターさん自宅近所の危険地点での見守り
・学校行事支援・・ＰＴＡ主催環境整備作業支援　校外学習時、手原駅切符売場・周辺自転車置き場での支援　各行事参観
・総会(年２回)・・関係者が一堂を会し計画、報告、今後の方向性を話し合う。(今年度紙面でやりとり)
豊かな心の醸成
・栗中コミュニティガーデンでのエコロジー委員と季節の野菜作り支援
・「みんなの生活向上部活隊」・・部活動参加生徒たちと校区、近隣地域のゴミ拾い清掃（今年度、生徒との接触を避けるためサポーターさんだけで校門前立番と、ゴミ拾いを兼ねた校庭駐輪場の見守り支援に変更）
・部活動支援・・家庭部支援①浴衣の着付け指導②サポーターさん、生涯学習課の方、職員を招いてのお茶会（本年度中止）③寄贈タオルで雑巾作り

【栗中ガーデン野菜の栽培・収穫支援】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・持病のある方、高齢者がおられるため今年度は生徒との接触を極力さける。
・例年、地域との交流のため、一部地域の役員さんに近隣生徒が月ごとの学校通信を配達。今年度、生徒による配達を中止。担当者と一部サポーター会長協力による配達、各コミュニティセンター様のご協力による通信の配布、郵送の方法に切り替え届けている。
・校内の活動は、図書室、被服室など生徒がおもに活動する教室等から少し離れた特別棟で活動。校内の畑、駐輪場、グラウンドなど野外での活動に多く参加いただいている。
・図書室の消毒作業やキッチンペーパーで作った簡易マスク作り支援を新たに活動に入れた。
■　事業の成果
・コロナ過によりＰＴＡ環境整備作業ができなくなり、サポーターさんがかなりの頻度でグラウンドなどの草刈りをしてくださった。
・サポーターさんが地元の小学校にも出向き、小学校の草刈や樹木の伐採、花壇や野菜作り支援、見守り活動などを積極的に進めてくださり、活動の輪が広がっている。
・月ごとにサポーター通信を発行、地域・保護者の方に活動の様子を広く知っていただきその結果、①近隣ゴミ拾い清掃では、地域の方から「ありがとう」の声掛けをいただく。(今年度中止)②保護者・地域の方からタオルをたくさん寄贈していただき、継続して雑巾作り支援が可能になり、校内の美化の助けになっている。③エコロジー委員と野菜を作ることで、サポーターさんが元気をもらえると言ってくださっている。また、収穫した野菜は保護者・地域の方、生涯学習課の方や職員が購入、収益で自習コーナーにおく本を購入という循環がうまれ、生徒達の勤労体験の場とともに、いろんな方との連携や共通の話題ができつつある。

【キッチンペーパーで簡易マスク支援】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・サポーターさんは地域の役職も兼ねておられる方も多く、視野が広く素晴らしい知恵と技量を備えておられる。しかし、立ち上げから13年が過ぎ、高齢化が進み力仕事が年々難しくなってきた。志を次の方へつなげたいが、幅広い年齢層の勧誘が課題である。
■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校協議会のメンバーとしても学校に参画してくださり、しっかり連携できている。
■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（生徒指導主事　）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

★ 心豊かでたくましい実践力のある中主っ子 ★　つながる・ひろがる・かがやく！

野洲市	活動名：中主小学校区地域学校協働本部	中主小学校	学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：52 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　■その他［　環境学習　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

■行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援

・生活科や社会科、総合的な学習の時間の学習支援
（中主のすてき発表会、福祉学習ゲスト、田植え稲刈り体験学習支援等）

・環境学習支援（ヨシの苗植え、びわ湖への植え替え支援等）

・学習補充における支援（算数のびっこタイム）

・読み語りボランティアによる読み聞かせ

（２）環境整備

・教室の消毒作業、校内の除草作業、外手洗い場の清掃等

・読書ボランティアによる読書環境づくり
（掲示物、本の整頓や修繕、しおりづくり支援等）

（３）見守り活動

・登下校の見守り　・愛の声かけ運動

（４）中主学区マスコットキャラクター募集

【　中主のすてき 聞いて聞いて！　】

【　しっかり育ってね、私のヨシ　】

【　放課後 教室の消毒支援　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

（１）感染拡大防止のため、例年実施の活動の見直し
（近距離で行うミシンや手縫い等の家庭科学習支援、昔遊び支援は今年度は見送り）

（２）感染対策を十分考えた上で実施する活動
（距離感や換気、マスク着用を徹底した地域の方を招いての発表会等）

（３）コロナ禍だからこそ協力依頼をして実施した活動
（放課後の教室消毒作業、発表時感染防止ボードの作成等）

■　事業の成果

・学校の教職員だけでは満たせない「専門的な立場での関わり」や「たくさんの目できめ細やかにみること」、「安心安全面でのサポート」等により、児童の学習の充実とともに、不安感を減らし安心して学校生活が送れる環境づくりを支えていただけた。

・地域ボランティアの方との触れ合いにより、その人柄にも触れ、温かい繋がりができた。

・消毒作業等のサポートにより、教職員の負担軽減に繋がった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・年度初と年度末に、地域協働活動推進員と学校主担当、学年主任が簡単な打合せを実施し、主旨の確認、年間の活動の見通し、振返りからの次年度への引継ぎ確認をしておくようにし、有効活用ができるようにする。

・優しく丁寧に関わってくださっている地域の方々への感謝の気持ちを常にもち、表現できる児童の育成を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・合同学校評議員会等で、今後さらに、地域と学校でどのような子どもを育てていくのか、そのために双方どのような動きができそうかについて、具体的な話合いを進めていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

しのっこの豊かな心を育てるための活動～応援から協働へ～

野洲市	活動名：篠原小学校区地域学校協働本部	篠原小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：登録なし

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇読書推進活動
・毎週木曜日の朝読書の時間にあわせて読み聞かせを実施した。週ごとに学年をローテーションしていき、すべての学年での読み聞かせを実施した。
・定期的に図書室の環境整備作業を実施した。子どもたちが本に親しみが持てるようにレイアウトや分類番号の整理、分類板の設置をすることができた。

〇環境整備活動
・夏休みのＰＴＡ奉仕作業に合わせて、学校のフェンス周辺の草刈りを実施した。実施にあたって、ＰＴＡと連携をとりながら、ＰＴＡだけでは除草がしきれない箇所について確認し、重点的に実施することができた。

〇広報活動
・地域学校協働本部関係者に向けて、コーディネーター便りを発行した。
・保護者、地域を対象に広報誌「つなぐ」を発行し、広く活動の紹介ができた。

【　環境整備活動懇談会　】

【　読書推進活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・１学期はコロナ対応のため活動の実施を見合わせていたが、２学期に向けてできることから少しずつ再開することができた。
・コロナ禍において、多くの人数が集まっての会議が出来なかったため、少人数での話し合いを活動ごとに行った。
・文部科学省ＣＳマイスターを講師に招き、市教委担当者、地域コーディネーター、担当教職員との懇談会を開いた。
・ボランティアさんとの連絡ノートを作成し、連絡調整に活用した。

■　事業の成果
・読書推進活動を２学期から再開することができ、子どもたちの読書に対する意識を高めることができた。
・少人数での会議を開催することで、話し合いやすい雰囲気づくりができた。教員も参加することで思いを共有することができた。
・地域コーディネーターと共に研修会に参加したり、ＣＳマイスターを招いての懇談会を開いたりすることで、目指すべきビジョンの共有をすることができた。
・広報誌や学校ホームページを活用して、地域学校協働本部の活動を地域や保護者の方々に広めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍において、これまでの活動を見直していく必要があると感じている。チャンスととらえて、地域から学校への支援で終わらない、協働の活動にしていくための方法をＣＳマイスターに協力をいただきながら探りたい。
・地域と学校の課題を共有し、共に篠原の子どもたちの豊かな育ちのために考えられるコミュニティを目指していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・現在、学校運営協議会は設置されていないが、設置されれば、地域学校協働本部と一体となって、地域と共にある学校づくりを進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　主任事務主事　）

おらが学校　地域の学校　祇王小学校の子どもたちのために

野洲市	活動名：祇王小学校区地域学校協働本部	祇王小学校	学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：54人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・５年米づくり
学習田として田んぼを使わせていただき、稲刈り及び収穫祭を社会科の学習および総合的な学習の時間の活動としている。農作業の工夫や思いなどを話していただくとともに稲刈りの体験学習の指導に当たっていただいている。
・家庭科学習支援
５年生では、初めての裁縫での手縫いとミシン学習で糸の通し方から直線縫いまでを支援していただいている。６年生では、各児童が用意した布の裁断からミシンでの制作を支援していただいている。各グループに一人ずつついていただき、学習がスムーズに進んでいる。
・クラブ活動
毎月のクラブ活動に、地域で活動されているグラウンドゴルフ愛好家の方々に来ていただき、ルールやゲームの進め方、戦略や技術指導をしていただいている。各グループに一人ずつついていただいているので、児童もわからないことや尋ねたいことがあるとすぐに聞くことができる。児童と地域の方が楽しみながらクラブの時間を過ごすことができている。

【　５年稲刈り体験　】

【　家庭科の裁縫学習　】

【　クラブ活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・年度当初にコーディネーターと年間計画を共通理解し、教職員およびまちづくり推進協議会においても活動を広く周知している。
・今年度は、ボランティアさんには、高齢者も多いことからマスクをはずして行う体育科学習等では、支援の依頼を取りやめ、児童も地域の方も安心安全にたずさわれる活動にしぼって行うことにした。
・事前のミーティングをやめ、当日に学習のねらいや支援していただく点を説明する形に変えて行った。
・ボランテイアさんにも参加してよかったと思えるやりがいのある活動を心がけている。

■　事業の成果
・学校の教職員だけでは、十分に個別指導ができない点で、支援は助かっている。
・子どもたちが地域の方々とふれあう機会となり、地域により親しみが持てたとともに、地域のよさを学ぶことができている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・ボランティアさんが活動してよかったと思える活動となるよう地域の学校という意識を教職員全員が持ち取り組んでいきたい。
・ボランテイアさんが高齢の方が多いということから、コロナ対策も含め、継続可能な体制を考えていかなければならない。
・今年度できなかったが、これまで参加してきた地域行事への参加をできる範囲で行えるように検討する。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・来年度、学校運営協議会の立ち上げ準備年としていく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　校長　）

「みんなでめざそう！３ＵＰ（やさしく、かしこく、たくましく）」<三上っ子応援団の取組>

野洲市	活動名：三上小学校区地域学校協働本部	三上小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：個人登録 42 人　ＳＧ登録 160 人　同窓会役員登録 12 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（本部内の各団体　例：同窓会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）天保義民の生き方に学ぶ（６年）
　６年生は、総合的な学習の時間で、郷土の偉人「土川平兵衛」や天保義民の生き方について学んでいる。読本「郷土の偉人」などの資料を用いて事前学習を行い、地域ボランティアを講師に招いてフィールドワークを行うなど、たいへん深く学んできた。
　例年であれば 10 月 15 日に行われる天保義民祭に６年生全員が参列しているが、今年については、新型コロナ感染拡大防止のため参列を取りやめた。
　子どもたちは土川平兵衛の生き方や義民の心を学び、日々の生活や将来に生かしている。

【天保義民フィールドワーク】

（２）左義長体験（６年 ⟶ 全校）
　１月７日（木）、地域学校協働本部（同窓会や学校応援団）のボランティアの協力で、左義長体験を実施した。まず、ボランティアの皆様に大きな竹組の骨組みを立てていただき、６年が周囲を完成させた。そこに全校が集まり、各自が竹組の中に書写の作品や正月飾りなどを入れた。各学年の代表が点火すると、竹組は激しく燃え上がり、大きな音を立てて破裂した。子どもたちは、激しく燃える様子に驚き、それぞれの願いを抱きながら見守った。この体験で、地域の伝統を学び、地域行事に親しむことができた。

【左義長の竹組】

（３）その他、特徴的な活動
①郷土学習（３年）「まち探検」でのフィールドワーク、「ずいき祭り」のお話など
②稲作体験（５年）脱穀　③瓢箪づくり体験（４年）　④町探検（２年）
⑤マラソン大会（全校）周回場所での見守り　など

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
①密を避けるため三上山登山などは中止した。実施した活動については、密を避ける工夫と手洗いを徹底した。
②実施にあたっては、地域学校協働本部の関係団体との連携を図るとともに、学校だより等で広く募集を行った。

■　事業の成果
①学校目標の３ＵＰ（やさしさＵＰ、かしこさＵＰ、たくましさＵＰ）の実現に向け、豊かな地域人材を活用することができた。
②子どもたちは、郷土（三上）の自然や人々、文化のよさや素晴らしさを学ぶことができた。特色ある学校づくりの推進につながった。<学校評価「郷土学習」に関する項目：児童アンケート肯定的評価 89%、保護者アンケート肯定的評価 92%>

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
①学校教育目標の実現をめざして地域・家庭との連携で行う「３ＵＰ運動」を、本事業の柱（テーマ）に位置づけて進める。
②地域学校協働本部のもとに様々な地域の諸団体と連携を図るとともに、学校による企画だけでなく地域等による企画も進めていく中で、子どもが地域行事等に参画する場や機会を検討する。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　地域学校協働本部（学校応援団）の運営委員が学校評議員を兼ねている。現在、学校運営協議会は組織していないが、学校評議員会と協働した取組を意識的に行っており、将来の学校運営協議会との協働に向けた組織づくりに心がけている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　校長　）

「できる時に・できる範囲で」温かい学校支援を！

野洲市	活動名：野洲小学校区地域学校協働本部	野洲小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇学校からの依頼支援は、コーディネーターが支援ごとに参加サポーターを調整・決定をし、学校の担当者に報告している。

☆各学年校外学習　引率補助

☆５・６年生　家庭科授業指導補助（手縫い・ミシン・調理実習）

☆３年生：昔のくらし学習支援　４年生：そろばん授業指導補助

☆委員会活動補助

【 朝の読み聞かせの様子 】

■　実施に当たっての工夫

〇学校からの依頼支援のほかに応援団独自の支援をしている。

☆朝の読み聞かせ　…　朝学習の時間に各クラスにおもむき、絵本の読み聞かせを実施

☆図書美化　…　図書室の整備、図書の整理、図書の修理などを実施

☆落ち葉清掃　…　11 月 ～ 12 月に校門付近・駐車場周りの落ち葉清掃を実施

☆給食エプロン修理　…　子どもたちが使っている給食エプロンを預かって、ゴム交換やボタン付けなどの修繕作業を実施
〇活動の詳細は、「応援団通信」や学校応援団の校内掲示板、学校だより・学校ＨＰでお知らせしている。

■　事業の成果

（1）児童にとって
　地域の力が学校へ入ることにより、より豊かな学習効果を得られた。

（2）教員にとって
　授業中に支援が必要な児童への支援が充実した。

（3）地域住民にとって
　学校や地域の子どもたちが身近に感じられ、学校での活動に生きがいなどを見いだすことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・コロナ禍による感染症拡大予防のため、９月までは活動できずにいたが、10 月より徐々に感染症対策をしながらの実施となった。
・登録されている人数は多いが、活用されているのは一部の人に偏っているので、「学校の役に立ちたい」と思っている人と学校をよりスムーズに結んでいくシステムづくりが必要である。
・「できる時に・できる範囲で」温かい支援をモットーにこれからも取り組む。

■　その他

・地域学校協働本部の代表が、学校評議員として学校評議員会に出席し、様々な意見交流をしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

Ⅲ　地域学校協働本部の実践事例

「夢がふくらむ☆心豊かな☆元気に育つ」わくわくのびのび北野っ子

野洲市	活動名：北野小学校区地域学校協働本部	北野小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務なし）　ボランティア登録数：76 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　学校応援団フェスタ　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　■その他（　学校応援団推進委員会　）

【　夏の除草作業　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
ボランティアが依頼を受けて活動する形態が主流
（１）学習支援（家庭科学習ミシン縫いや手縫い、そろばん、音楽お琴、昔遊び体験等）
（２）読み聞かせ
（３）環境整備（除草作業や学級園の畑整備等）
（４）見守り活動（校区探検引率、登下校の見守り）
（５）その他（給食エプロンの修繕、正面玄関の生け花）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・ボランティア募集段階での「コロナ対策にかかる協力」を要請。
・ボランティアには、学校の行う安全対策に賛同･協力してもらえるよう、求められる行動について的確に示し、そのうえでのボランティア参加であることを丁寧に情報発信した。また、それらの対応を（応援団）広報紙等で保護者と共有し、活動への理解を促している。
・特別教室でのボランティア時には、授業終了後に清拭による消毒、換気を行った。
・ボランティア募集に関しては、高齢者への案内を控えている。

【　学校応援団フェスタ
・巨大カボチャの重さあてクイズ　】

■　事業の成果
・地域人材や保護者が教育の現場に参画することで、児童の中に「支えてもらっている」という意識が醸成されている。
・地域への帰属意識が高まった。　・来校者への挨拶が増えた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
≪課題≫
・本事業の教育的効果や目的意識などを、教員と関係者間で共有すること。
・一つ一つのボランティアを「作業」にしてしまわないよう、教員はその「目的」を自覚し明確に伝えられるようにする。
・ボランティアは、過度に委縮せず教員との対話を心掛ける。

【　そろばんの学習支援　】

≪展望≫
・学校だよりや学校応援団通信で活動内容を保護者や地域に広く発信することを継続。
・校内の活動拠点「学校応援団室」「学校応援団掲示板」の活用の継続。
・学年主任と学校応援団との懇談会の継続。
・応援団目標の設定や目的を「見える化」し、事業内容を教育課程に位置付けていく。
・年度初めに全職員が学校応援団の教育的効果や目的意識を共有できる場の設定。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会は設置していない。
・学校と学校応援団（地域学校協働活動）との連携のために、年 4 回程度の会議(推進委員会)を開催する。また、教員と学校応援団（地域学校協働活動）との連携の為に定期的に学年主任との懇談会を実施している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教職員は各々が必要に応じて協働する　）

報告書記入者（　教頭　　）

地域とともに創る子どもの未来～つながり、広げ、深める地域との歩み～

野洲市	活動名：中主中学校区地域学校協働本部	中主中学校	学校運営協議会 ：☐有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務なし）　地域学校協働活動員：20 人　ボランティア登録数：７人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり

☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

☐郷土学習　■その他［　あいさつ運動　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

☐行　政　☐その他（　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・地域ボランティアとともに幼稚園児に読み聞かせ活動　（読書強化月間）
・特別支援学級生活単元合同授業（JA 青壮年が農業指導）
・地域ボランティアの募集
・あいさつ運動
・「キラキラ中主タウン」生徒会と自治会の連携行事
・中主学区カレンダー作成
・中主学区マスコットキャラクター募集
・中学生地域貢献活動

【　読み聞かせ活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・検温、マスク、手洗い、換気、手指消毒の徹底
・活動後の消毒の徹底
・三密にならないようにソーシャルディスタンスを意識した活動

■　事業の成果

地域学校協働活動を推進して、学校評価アンケートの結果から、道筋を立てて物事を考えたり、体験したことからもっと深めようとする問題解決能力が向上している。また、教員と地域との連携意識も向上している。

中学生に地域の一員であるという意識が向上するとともに、地域の清掃活動など、自分の住む町をもっときれいに、そしてもっと住みよい町にしたいという思いが生徒に広がってきている。

【　ＪＡ農業指導　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①教員の意識改革

地域学校協働活動は、生徒の教育効果のみならず、教員の負担軽減にもつながることもふまえ、教員が地域と積極的につながる意識を改革する必要がある。

②地域と自分との関係性を見つめ直す

生徒自ら地域の一員であるということを自覚し、自分の住む地域との関係性を見つめ直し、生徒の自発的な活動に発展させることが重要である。

③地域の気づきにつなげる

学校と地域がつながることで地域の人の子育てや教育に対する気づきや意識向上につながる取組にする必要がある。学校に関わらない場面でもその気づきは役立つはずである。

④地域と学校・生徒との熟議

課題を改善するために熟議を進める必要がある。熟議には大人の意見だけでなく、子どもたちが参加できるようになることが大切である。

【　キラキラ中主タウン　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

中主学区地域学校協働活動コーディネーター会議として 10 名の方で協働活動の進め方や具体的な取組について協議している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　☐地域連携担当教職員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域とともに学校の活力を創る

野洲市	活動名：野洲中学校区地域学校協働本部	野洲中学校　学校運営協議会：☐有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：０人
☐学習支援（授業補助、学力補充等）　☐図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　☐学校行事支援
☐子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
☐郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　☐地域学校協働活動推進員等

☐行　政　　☐その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

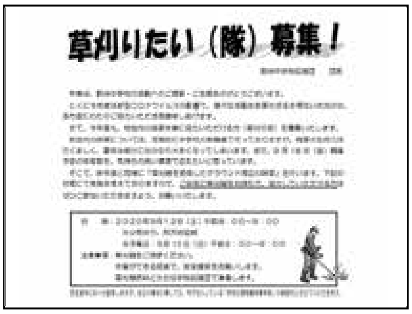
１．校地除草作業：「草刈りたい（隊）」
体育大会前の校地内環境整備として、保護者・地域の方に声をかけ、ボランティア「草刈りたい（隊）」を募った。
保護者や地域の方の協力が得やすいよう、土曜日の朝に開催した（今年度は９月 12 日（土）８：００～９：００）
草刈り械を使用するチームと鎌による除草チームに分けて行った。
当日は、教員、保護者、社会体育で学校施設を利用される方の参加があり、部活動に参加していた生徒も協力して、グラウンドや駐車場周辺の草を刈ることができた。

２．地域での文化部の活動紹介：三上悠紀まつりでの美術作品展示
地域のコミュニティーセンターで行われるイベントに、美術部の作品を展示していただいた。
個人作品だけでなく、体育大会で掲示した巨大壁画も展示していただき、地域の方々に中学生の頑張りを知ってもらい、中学校を身近に感じてもらうことができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

１．校地内の環境整備には多くの方の協力が必要となるが、感染症拡大防止の観点から、今年度は多数の参加者を募ることを差し控えた。９月上旬で、マスクをしながらの作業となるため、熱中症防止の観点から、飲み物もたくさん用意して行った。

２．例年、美術部だけでなく吹奏楽部も近隣の高齢者施設等に出向いて演奏を行っている。しかし、今年度高齢者施設を訪れることはリスクが高いと考え、施設を訪問しての演奏は差し控えた。そこで、演奏をビデオ撮影し、ブルーレイディスクに録画したものを送付する予定である。



【　草刈りたい募集チラシ　】

■　事業の成果

１．保護者や地域の方が除草作業をしてくださる姿を身近に見ることで、地域の方への感謝の気持ちをもたせることができた。とくに一緒に活動した屋外運動部の生徒たちにとっては、活動場所の整備に対する意識が高まった。

２．文化部に所属する生徒の活動発表の場が増え、活動意欲の向上につながっている。今年度は積極的に地域に出向くことができなかったが、中学生が地域の行事で活躍することで、地域の活性化にもつながっていくのではないかと思われる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

１．最大の課題は、協力いただける方々の確保である。感染状況が落ち着けば、もう少し活動の幅を広げ、保護者・地域に広く呼び掛けてボランティアを募ることができるだろう。また、地域学校協働本部コーディネーターに適した人材の確保も大きな課題である。学校としては、生徒の活動の様子を学校ＨＰや通信等で広報し、本校の教育活動に対する地域の方々の理解を深め、協力しやすい環境を整えていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

☐校　長　　■教　頭　　☐地域連携担当教職員　　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域と学校を結ぶ学校応援団の取組

野洲市	活動名：野洲北中学校区地域学校協働本部	野洲北中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：０人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・外部指導者による部活動指導
・図書ボランティアによる平日昼休みの図書室運営
・体育祭前のグランド・テニスコート等校舎周辺の環境整備活動

【　グランドの除草作業　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・夏季の屋外での活動は、早朝に活動する、水分補給を十分に行うなど、体調面に配慮して実施した。
・部活動や学級単位で生徒のグループを構成し、意欲的に活動できるようにした。
・活動日や活動時間、活動内容等に配慮し、より多くの方が参加できるようにした。
・活動前の体温を含む健康観察や、活動前後の手洗いの徹底、活動時の人と人との距離の確保を図り、新型コロナ感染症対策に努めた。

【　テニスコートの環境整備　】

■　事業の成果
・環境整備活動は事前の参加呼びかけに応じて、生徒・保護者・教員あわせて 343 人の参加があり、和やかな雰囲気の中で地域と学校が一体になって北中祭体育の部に向けての環境を整えることができた。
・大規模改修のため環境が様々に変化する中、図書ボランティアさんのおかげで、生徒が安心して読書できる環境作りができた。
・部活動では外部指導者のおかげで、生徒たちが専門性の高い指導を受けることができ、さらに顧問も学ぶところが多かった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・学校と地域の連携の効率化を図りながら、現在の活動を継続し、さらに拡充したり、新たな協働を作り出したりしていけるかが課題である。
・学校運営の効率化を図りつつ、学校と地域が協働できる部分を整理し、地域連携担当教員がスムーズに活動できる環境作りを行う。また地域と協働するための人材の確保も図り、連携を進めていきたい。さらに、生徒が地域で活動するための受け皿づくりも進め、学校の中だけでなく、地域での協働活動も創出したい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

子どもたちの「生きる力」を地域と共にはぐぐんでいこう！

湖南市	活動名 ：石部小地域学校協働本部	石部小学校 学校運営協議会 ：■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
本校は「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標において、学校と地域と家庭が協働し、活動を展開している。今年度は、コロナ禍の中でも子どもたちの「生きる力」をはぐぐむために、実際の体験活動が必要であると協議し、何ができるか、どうすれば安全にできるかを考え、感染対策を十分に講じた上で取組を進めた。
〇田んぼの授業(米作り)
　ふれあい農業いしべ21との協働
〇もちつき大会
　学校運営協議会　体験的活動委員会、地域、保護者との協働
〇いしべマジック教室
　学校運営協議会　体験的活動委員会との協働

【　田んぼの事前学習　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・田んぼの学習では、自粛期間中で田んぼでの校外活動ができなかったため、田植えの様子をビデオ撮影し、学習した。稲と田んぼの土を学校まで運び、バケツ栽培をし、実際に稲や土に触れる機会とした。
・ふれあい農業いしべ21、ＪＡの方をゲストティーチャーとし、事前学習の充実を図った。
・もちつき大会では、協議を重ね、事前準備にも時間をかけ、子どもたちの動線や消毒の徹底に努めた。
・いしべマジック教室では、子どもたちがマジック体験で密になることを避けるために、委員会のメンバー全員が事前にマジックを練習し、個々に指導できるようにした。

【　バケツに植えた苗　】

■　事業の成果
・事前学習やゲストティーチャーを招いての学習を重ねたため、詳しく学習ができ、子どもたちの力となった。
・子どもたちのお礼状や感想から、地域の方々への感謝の気持ちやつながりが感じられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・毎年取り組んでいるからと同じ活動をそのまま行うのではなく、子どもたちの実態やコロナ禍の状況を把握することが課題である。
・体験だけで終わるのではなく、体験学習にするために、学校と地域が協働することが大切である。

【　いしべマジック教室　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「子どもと地域がひびきあう！」　わたしたちの町を知ろう　すすめ！！石部南調査隊

湖南市	活動名　：石部南小学校区地域学校協働本部	石部南小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：175 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
６年生　私たちの町を知ろう！すすめ！石部南調査隊にて地域をめぐり歴史を学習した。
石部南緑化センター「六反古墳群」
西寺「勧請縄吊」「松明つくり」「いもち送り」
東寺「勧請縄吊」「長寿寺」「鬼走り」
宮の森「宮の森古墳」

【　鬼走り体験の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・石部南学区の歴史について、事前に本やインターネットで調べた。
・調査当日は密をさけるために各クラスの出発時間をずらした。
・地域の方をゲストティーチャーとしてお願いし、クラスごとに分けてお話をしていただいた。

■　事業の成果
・事前の打ち合わせで地域の方と十分に話をして、学習のねらいを伝えることができた。
・子どもたちは事前に本やインターネットで調べていたので、地域の方から直接お話を聞き、地元の歴史や伝統行事を深く知ることができた。
・学校応援団だよりを毎月発行することで、学校で行われている活動が地域や保護者に定着している。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域の豊かな文化や歴史を子どもたちや学校教育に生かせるように、今後も地域との連携は大切にしていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

【　六反古墳群　】

【　勧請縄吊　】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

こころ豊かに育て！みくもっ子　～地域の皆さまのあたたかいまなざしに見守られ～

湖南市	活動名：三雲小地域学校協働本部 （みくもっ子支援委員会）	三雲小学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務０人）　ボランティア登録数：290人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（1）スクールガード等　登下校時の危険個所の見守り、同行、あいさつ
（2）教育環境の整備　【環境ボランティア】花壇植栽、草刈り、
　【掃除ボランティア】掃除方法の指導、支援
　【図書ボランティア】図書室の整理整頓、見守り
　月例おはなし会、朝の読み語り
　【昼休みの見守り】　折り紙教室等
（3）学習・行事の支援　【家庭科：ミシン】【持久走大会：立番】【音楽：筝】
　【体育：マットの修繕】

【　登校時の見守り　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・活動中、休憩中の空間が密にならないよう配慮。手指消毒の準備
・学校からの一方的な支援の依頼にならないよう、各ボランティアの代表を中心に協議しながら、主体的で円滑な活動ができるよう心掛けた。
・児童の委員会活動に協力してもらい、ボランティアの活動を周知し協働した。
・単純にボランティアの数を増やすのではなく、普段から子どもたちをよく知り関わっている地域の方と繋がるよう心掛けている。

【　図書室の見守り　】

■　事業の成果
・三雲小学校でボランティアに関わった方が引き続き甲西中学校での読み語りやミシン学習の支援につながり、子どもに寄り添う９か年の見守りが出来る。
・これまでの活動を知った保護者の中から環境、掃除のボランティアの活動に参加があり、地域と学校の協働に関心を持ってもらえた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域と学校が双方向の活動となるよう、ボランティア代表者会、懇親会などの機会を持ち、地域と学校の願いをすくう必要がある。
・息の長い活動の継続のため、定番のスタイルで無理なく続けていくとともに新しいメンバーを迎え、一層洗練された活動にしていきたい。

【　持久走大会の立番　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・地域学校協働本部の取り組みを核にしながら、コミュニティ・スクール発足に向かっている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

将来の仕事の見つけ方　～なりたい自分になるための地域サポート～

湖南市	活動名：ひがしっこ地域学校協働本部	三雲東小学校	学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成23年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：130人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［ゲストティーチャー・校外学習引率・裁縫ミシン学習支援］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

【　ゲストティーチャーによる警察犬訓練の説明　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・ゲストティーチャー・・・４年生「将来の仕事について考えよう」
　○動物に関わる仕事(家庭犬・警察犬訓練所)
　○コンビニの仕事　○パソコンを使う仕事(ＷＥＢ作成)
　○自動車教習所の仕事
・朝の読み聞かせ・・・図書ボランティア
・ミシンボランティア・・・５年ナップザック製作
・スクールガード

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
「ゲストティーチャー」
・児童が興味を持っている職業の方を地元で探し学校で話をしていただいた。
・昨年の反省からの改善　聞きたい職業を選択→全員で聞く
・担任と時間、内容の詳細について十分に打ち合わせたうえでゲストティーチャーと打ち合わせた。
・事故防止のため、昼休み時間の説明や駐車場への誘導
・訓練犬を連れてこられるための児童のアレルギーチェック

【　ゲストティーチャーによるＷＥＢの仕事についての話】

■　事業の成果
・実施にあたって、相手の伝えてほしいこと、伝えたいことの確認が十分できたこと。ＴＶ、パワーポイントを使ったり、犬の訓練の様子を直接見たりすることができ、内容が児童に伝わりやすかった。
・昨年より継続して依頼した方は。内容をバージョンアップして授業の工夫をしてくださった。
・ゲストティーチャーの方からは「毎回呼んでください。」とうれしい言葉をいただいた。
・児童の感想
　「話を聞いて、仕事は楽しそうと思えたので早く大人になって仕事をしてみたい」
　「仕事はつらいものだと思っていたけど話を聞いて頑張れそうな気がしました。」
　「心に残ったのは、好きな事を仕事にできたら少しくらいつらくても頑張れるということです。」
・担任の感想「仕事をする上での大切な心構えや気持ちについても話してもらえたことで児童の心に響いた。ありがたかった。」

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍でも、その時の状況に応じてできることを模索し、柔軟に対応しながら一つ一つ次につながる活動になるよう心掛ける。
・学校(児童や先生)にも、来ていただいた方(ボランティア、ゲストティーチャー)にもプラスになる取組として継続していきたい。

【　英語での読み聞かせボランティア　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
地域学校協働本部の取組を核にしながら、甲西中学校区(甲西中学校、三雲小学校、三雲東小学校)で、コミュニティ・スクールへの移行の予定。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

持続可能な取組のために　～コロナ禍における活動の工夫と課題の共有～

湖南市	活動名：岩根小学校 地域学校協働本部 （ 根っこ応援団 ）	岩根小学校	学校運営協議会 ：■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：220人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■クラブ活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［ 夏休み中の就労体験学習 ］

■　事業を考案する主体
■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　■その他（まちづくり協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
本校は今年度、コミュニティ・スクールとなって14年目を迎えた。長年大切にされてきたキーワードや取組は多々あるが、「例年どおり」には実施できない年度でもあった。万策を尽くして取り組んだ中で、標題に沿ったものを２つあげたい。
⑴「ホタルまつり」はできなかったが・・・
⑵「コミュニティ・スクール活動報告会」は延期したが・・・
いずれの事業も、年間予定の中になくてはならないものであるが、感染症対策の関係で中止や延期をせざるを得なかった。その結果として、致命的な「途切れ」が発生してしまうことを回避し、「持続可能性」を生み出す契機とするために、以下のような工夫を実施することができた。

■　実施に当たっての工夫
⑴「ホタルまつり」はできなかったが・・・
本校のホタルまつりは、子どもたちに郷土愛と環境保護の思いを育てる活動である。中でも６年生は「お店活動」や「ホタル学習の発表」においてキャストとして活躍し、自分たちでまつりをやりきる達成感を味わう。また児童も地域住民も、体育館での活動を通して緊急避難場所での炊き出しのシミュレーションを体験する機会にもなっている。
しかしホタルまつりの時期は長い臨時休業が明けた直後だったため、中止するしかなかった。同時に４年生と６年生の教育課程に位置付いている「ホタル学習」は、内容を精選して実施することとした。
⑵「コミュニティ・スクール活動報告会」は延期したが・・・
３月４日に予定していた2019年度の活動報告会は延期し、次年度の９月29日に開催することができた。その名のとおり、実績を報告することによりＣＳの意義を周知し、広く支援や協力を得ることが目的である。しかし、毎年出席者を確保することはたやすいことではなく、何年も前から内容の軽減や茶菓の提供などの工夫が重ねられてきたと聞く。しかし、「課題と目標の共有による協働」を標榜するのなら、この機会こそ双方向の内容にすべきであり、事務局会議と理事会での協議を経て、グループ協議が成立する内容を計画することとなった。

【後半のグループ協議】

■　事業の成果
⑴来年のホタルまつりに向けて
12月７日、「ホタルを飛ばそう会」の方々が、自ら養殖されたホタルの幼虫（約1000匹）と川で採集したカワニナ（約3000匹）を持ってきてくださった。ホタル川へ放流した５年生は、「久しぶりに幼虫を見て４年生の時のホタル学習を思い出しました。」「来年のホタルまつりが楽しみです。」などの感想を述べた。地域の方々はたいへん喜ばれ、「子どもたちが自分の思いをしっかり話している。」「ホタルのことを大事に思ってくれている。」「感動した。」とまで話された。「思いを伝え、受け止める」活動が実施でき、半年後のホタルまつりをイメージすることができた。

【ホタルの幼虫の放流】

⑵ＣＳ活動報告会のグループ協議において
学校関係者評価を担っていただいている地域の方々と教育委員様など55名の出席を得て、取組の成果と課題を共有していただくことができた。感染症対策の一環として筆談を交えながら、「子どもの自尊感情を高めるために ～今後の取組の方向は～」というテーマで意見交換を行った結果、『●子どもが活動できる場づくり ●人との関わりを増やす ●ほめて育てる、愛情をもって叱る ●持続可能性・・・人にやさしく、自分も大事に ●自分の気持ちに素直に、主体的に』といったキーワードを紡ぎ出すことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇共通するのは「持続可能性」であり、事務局会議および理事会の内容や持ち方によって、先行きは大きく異なると感じた。

■　コーディネーターと協働する学校関係者　■校長　■教頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　）

報告書記入者（　校長　）

子どもたちとともに活動し、子どもたちに共感してつながる「菩っこを育てる会」

湖南市	活動名 ： 菩提寺小学校地域学校協働本部（菩っこを育てる会）	菩提寺小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　ボランティア登録数：220 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

毎年恒例の全校たてわり遠足「きらめき遠足」をコロナ禍の中、地域・保護者の協力で実施することができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○全校１年生～６年生を（たてわり）16 班に分け、各班教師以外に同行のボランティア（１・２名）をつけ、児童の行き帰りの安全や活動中の見守りをしてもらった。

○目的地までの道中の危険箇所に、保護者・地域の方（立ち番ボランティア）に立っていただき、児童の安全を見守ってもらった。

○コロナ禍での実施で、検温・マスク着用はもちろんだが、例年は手をつないで一緒に歩いたりしているところを、今回は間隔をあけて歩いてもらった。

【　遠足（行き）の様子　】

【　遠足活動時間の寄り添い　】

■　事業の成果

各班、前後には大人がいて移動途中も現地での活動時間も、児童に寄り添って見守り、低学年の児童も安心して活動することができた。

いくつもある交差点などの危険個所に必ず誰かが立っていて、児童の安全を確保することができた。また、立ち番ボランティアの方からの励ましの声掛けでくじけずに最後まで歩くことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

行事を実施する際にボランティアを募る作業をするのだが、募集時期と実施日の期間が短いため、ボランティアのみなさんに迷惑をかけることが多かった。年度初めに学校の年間予定を事前に知らせることで、ボランティアのみなさんの予定も立てやすくなると思う。

従来の募集方法だと個々にお願いしていたが、今年度、各支援（学習・安心安全・環境）のボランティアを新たに登録制へと変更中で、連絡方法等はラインやメールを活用できるようにしたいと考えている。

【　遠足（帰り）の様子　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

あすなろちくちくボランティアグループ　～　手作りのぬくもりで昔遊びを体験～

湖南市	活動名：菩提寺北小学校地域学校協働本部（あすなろ応援団活動）	菩提寺北小学校　学校運営協議会 ：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数：1 人　　ボランティア登録数：80 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［あすなろカーニバル・防災減災安全キャンプ主催］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　■その他（あすなろボランティア）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
保護者 OB の地域のあすなろボランティアの皆さんと現役保護者のお母さんたちで構成される「ちくちくボランティア」は週１・２回の活動をしている。

＊主な活動
家庭科授業の支援・家庭科クラブの支援・教室のカーテン補修・給食エプロン製作など活動は多岐にわたっている。今年度は１年生で行う昔遊びで使用できる大型布カルタの製作を中心に活動した。

【　大型布カルタ　表と裏　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
今年度はコロナ禍での活動となり、校舎内にはボランティアは立ち入ることはやめ、校舎外で出来ることを考え、あすなろハウス(ボランティアの拠点)での作業を中心とした。コロナ対策としてあすなろハウスの換気・マスク・消毒・毎日の検温をおこない各自体調管理にも気を配り、大型カルタの製作・給食エプロンの補修などの活動を持続した。

【　あすなろハウス・ボランティアの拠点　】

■　事業の成果
直接、子どもたちと触れ合うことはできなかったが、これからずっと使用してもらえる大型の布カルタなどの製作に時間を割くことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域の方と保護者が一緒になって活動する「ちくちくボランティア」の活発な活動がこのコロナ禍で制限を受け、思うように動くことは出来なかったが、その中でも知恵を出し合い活動を続けることができたのは地域と学校が一体となってのボランティアグループの強みだと感じた一年であった。
これからの展望としては安全にボランティ活動ができる環境を整え、こんな時こそさらにたくさんのボランティアさんに力を貸してもらいたい。

【　小学校のキャラクターあすなろちゃん　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）その他
学校運営協議会・PTA が主催する「あすなろカーニバル」に「ちくちくボランティア」も参加して、作り貯めた雑貨や小物をバザーで売り活動資金の一部としている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域の大人も 『チャレンジ 下田っ子！！』 ～ 子どもたちと日常を過ごすために ～

湖南市	活動名 ： 下田小地域学校協働本部	下田小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務２人）　ボランティア登録数：60人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

【　5年　稲刈りの様子　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度はコロナ禍という状況で、例年通りに活動ができないことが多かったが、そんな中でも子どもたちが充実した学校生活を送れるようにと地域の皆さんが積極的にボランティア活動に参加してくださった。

・４月（休校中）：キッチンペーパーによるマスクの制作
・５月（休校中）：５年「田んぼのこ」事業「田植え」
　５年生の子どもたちが参加できないため、ボランティアのみで実施
・学校再開以降：掃除ボランティア、１年よみきかせボランティア、暗唱チャレンジボランティア等、通年ボランティアの開始
　学習支援ボランティアの実施（４年：図工 / ５年：家庭科、図工、「田んぼのこ」稲刈り / ６年：家庭科）
　校外学習付添いボランティアの実施（１年：滋賀県畜産センター / ２年：まち探検 / ３年：なす畑見学・収穫）
　なすびぃずルーム（本部事務所）の開放開始（火曜、水曜の中休み、金曜の中休みと昼休み、子どもたちに開放）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・４月に計画し実施したマスクの制作時は休校中の活動だったこともあり、コロナ対策について学校とも相談しボランティア活動時のガイドラインを作成し、それを受けてなすびぃずルーム開放時の子どもたちのルールも作成した。
　（手指の消毒、手洗い、検温、体調管理、参加者の体温等の記録、３密の回避 等）
・５年生の活動である「田植え」がボランティアのみでの実施となったため、田植えについての説明や作業の様子を録画し、学校再開後に教材として使用した。
・５年生「稲刈り」には子どもたちも参加できたが、コロナ対策により、学年全体での活動ではなくクラスごとの活動となり、新しくタイムスケジュールを作成し実施した。
・１年生のよみきかせボランティアでは、コロナ対策により、子どもたちは自分の席でよみきかせを聞くようにしたため絵本が見えにくいなどの困りごともあったが、大型絵本や紙芝居などを使い、子どもたちが楽しめるように工夫した。

【　子どもたちとの約束事　】

■　事業の成果

・ボランティア活動の様子を録画し、教材として使用するなど、コロナ禍であるためにできた活動があった。
・「例年通り」では進められなかったことで、活動内容を見直すことができ、新しいスタイルでの活動方法をとることができた。
　例えば、５年生「稲刈り」では、クラスごとの活動になったことで、ボランティアが少人数の子どもたちに指導をすることができ、例年よりもスムーズな活動となった。
・なすびぃずルームの開放時、「おりがみの日」等ボランティアとの交流はできなかったが、今まではボランティアの皆さんの手助けがないと作ることができなかったおりがみの作品等を自分たちで考えながら作ることができるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度はコロナ禍という状況で参観等が少なかったこともあり、子どもたちの様子を見るチャンスとして初めてボランティア活動に参加してくださる保護者が数人いたが、感染が心配で参加をしない方もあり、今後もボランティアの確保が課題である。
・今年度、活動の見直しができたので、次年度も引き続き活動内容の見直しを進めたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度より、運動会の運営にも関わることとなり、新しく理事全員のポロシャツを作り運動会当日にそれを着用して観覧席の見守り等をおこなった。

今後も学校運営協議会の活動を周知するための広報活動も進める予定をしている。

【　理事のポロシャツ　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

「あい」のある学校・地域　　　つながれ水戸っ子！

湖南市	活動名　：　水戸小地域学校協働本部	水戸小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成22年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：65人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　■その他（ＣＳ理事会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・６月から活動がスタートし、まず初めに保護者向けのボランティア説明会を行った。
・読み聞かせ…図書ボランティア「たんぽぽの会」が月に２回、木曜日の朝の時間に各学級で15分間絵本や紙芝居、素話などを読んでくださっている。
・３年生の授業「水戸のヒーローをさがそう」では地域の中で活躍されている方がゲストティーチャーとして日頃の活動の内容や思いを子どもたちに話してくださった。
・５年生の環境学習では地域の茶釜川の水を使った実験を茶釜川を美しくする会、団地協会、市の生活環境課の方と一緒に行った。
・算数ぐんぐん教室…お昼休みに１，２年生を対象にした教室に来てもらい、くりあがり、くりさがりの計算や九九の暗唱を聞いていただいた。

【　みとっこ応援団説明会　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・活動の開始が遅れていたが６月にはボランティア便りを発行して保護者やボランティアに学校や子どもの様子をお伝えすることができた。高齢で接触することに不安のある方を考慮して訪問はせず、地域の回覧での案内と市民活動交流センターへの設置とした。保護者へは子どもから渡してもらっている。学校へのボランティアの参加は今までのように広く募らず、登下校の見守り、ＣＳ理事会、保護者など限られた方に声をかけた。読み聞かせはボランティアがマウスシールドを着用し子どもが前に集まることはやめ、席についたまま聞いている。
・「水戸のヒーローをさがそう」は１クラスずつ、ヒーローの皆さんを15分ほど教壇に立って話しをする方と廊下で待機する方に分け４人がローテーションする形で２回行った。
・環境学習の実験は体育館で間隔をあけて班に分かれて行った。大人が班に一人ついてパックテストの実験をし、その様子を子どもが記録を取るようにした。

【　環境学習　パックテスト　】

■　事業の成果

・説明会をしたことで１年生の保護者が学校に足を運ぶきっかけとなり先輩ボランティアと交流できた。活動の楽しさや苦労する点などを実際に聞いてもらい参加者が増えた。
・地域の方は教壇に立つことに緊張しておられたが授業形式で子どもは集中できていた。視覚的に興味を持てるように資料を用意してくださった方もいて、子どもたちも活発に質問し地域の方がどんな思いで活動をしているかを知ることができた。
・茶釜川の水、水道水、スポーツドリンクの水質実験をし色を見比べることは子どもたちにとってわかりやすかった。週末の茶釜川の清掃日の前に授業を設定することで、地域の活動への参加を促し、学びを深めることができた。

【　算数ぐんぐん教室　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・おにぎりパーティ、もちつき、茶道などの体験を実施できなかった。活動は減ったが参加された方からは子どもたちと触れ合うことで元気になったという声を聞き「してもらっている」だけではないと実感した年となった。勉強のボランティアは不安に感じている方も多かったがゆっくり自分のペースに合わせて聞いてもらえる時間が重要で子どもが自信を持てている様子や水戸っ子の力になっていることをお伝えしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・地域資源、人材の活用がスムーズだった。活動のＰＲとしてのぼりを制作する予定。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

学校に地域の力を、地域に生徒の活力を！

湖南市	活動名 ： 石部中地域学校協働本部	石部中学校 学校運営協議会 ：■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数： 126 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［入学試験面接指導等］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学 校　■地域学校協働活動推進員　■行 政　■その他（コミュニティースクール理事会等）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
☆ 「とびだし坊や」プロジェクト（石部の町に「とびだし坊や」を設置しよう）
新型コロナ感染症の流行により、体育祭や文化祭は規模の縮小を余儀なくされた。その中でも、地域に貢献でき、生徒の団結を示せるようなことができないかを生徒会執行部を中心に考えた。地域から通学時の交通マナーの悪さを指摘されることが多いことから、全校で「とびだし坊や」を設置し、交通安全への意識を高めていくことを目標にプロジェクトが始まった。

・まちづくりセンターに「とびだし坊や」の設置についての相談
・市会議員に「とびだし坊や」設置の協力依頼
・コミュニティー・スクールにて取り組みの経緯報告
・クラウドファンディングによる資金集め
・全校生徒にデザイン案募集
・全校生徒に設置場所のアンケート（地図にシールを貼る）
・市役所との折衝
・「とびだし坊や」の色塗り
・「とびだし坊や」の設置
・全校生徒への交通安全の呼びかけ

【とびだし坊や設置場所のアンケート 】

☆「湖南市みんなの夏祭り」に参加
新型コロナ感染症流行にともない例年８月に行われる湖南市の夏まつりは中止となった。しかし、湖南市在住の有志が、「湖南市みんなの夏祭り」を立ち上げ 10 月に実施することになった。代表者が中学校に訪れ、中学生の協力を依頼された。生徒会の執行部を中心に「湖南市みんなの夏まつり」の運営にかかわった。

【湖南市みんなの夏まつり 】

■ 実施に当たっての工夫
・生徒が主体的に動けるよう担当の教師の援助が必要である。

■ 事業の成果
・自分たちでつくった「とびだし坊や」が地域に設置されることで交通安全に対する意欲が高まる。
・地域や行政に働きかけ、ひとつのことをやり遂げた充実感や達成感を味わうことができた。
・地域の大人との交流を通して、社会人としてのマナーを身につけることができた。
・地域の方に、中学生の良い面を多く見ていただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域に生徒が出て行くとき、どうしても教員の指導や引率が必要であることが多く、生徒会担当教師などの負担増につながらないようにしていく工夫は必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）
・今年度は、新型コロナ感染症流行にともない生徒が地域に出て行く機会が非常に少ない状況になった。学校運営協議会の中で今までと同様に、地域に生徒がでかけていく仕組みをつくっていくことを確認した。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長　■教 頭　■地域連携担当教員　■その他（ 生徒会担当教師等 ）

報告書記入者（ 校長 ）

Chance(チャンス)・Challenge(チャレンジ)・Change(チェンジ)　～人とのかかわりを通して～

湖南市	活動名　：　甲西中地域学校協働本部	甲西中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：40 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
　例年であれば、小学生への宿題支援（異年齢交流）、文化祭体験講座（学校行事）、みちくさコンパス（地域行事）など地域と学校が協働した活動を行ってきたが、今年度については新型コロナウイルス感染症の影響で多くが開催できなかった。
　以下は今年度７月から開始した活動である。
・ミニ部活（体験活動）・・・地域ボランティア講師が指導・支援、ミニ部活として希望生徒が設定日に活動した。
・読み語り　・・・朝の読書の 10 分間で読み聞かせを行う。１・２年生が対象。読み語りスタッフ６名が活動。
・図書室整備　・・・本の登録やブックカバーをつける作業など、図書館司書さんのお手伝いや図書室の運営の補助。
・書写の講師　・・・書写の授業の支援を行う。お手本の準備や生徒の指導を行った。全学年生徒が対象。
・職業講話　・・・キャリア教育の一環で職業講話を行った。８名の様々な職種の講師に来ていただいた。
・ミシンの授業支援　・・・12 月より２月までの期間で１年生の家庭科の授業支援を行った。スタッフ９名で活動した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　事業を行う際には、マスクの着用や手指消毒を念入りに行うことはもちろんのこと、学級が入れ替わるたびに机やいすの消毒にも配慮した。スタッフの中にはご高齢の方もいらっしゃるので体調が優れないときは無理をせずに見送っていただいた。

【　ミニ部活　プログラミング　】

■　事業の成果
・読み語りは継続して行っており、長い物語のときは話の続きを楽しみにしている生徒もいて読書への興味の喚起になっている。
・書写の講師さんは地域で書写教室を開いておられる方にいていただき、事前に手本を多数準備してもらった。生徒への対応も慣れておられ生徒は回を重ねるたびにめきめきと上達していた。
・職業講話の講師さんには 40 分×２回の講話をしていただき、生徒は２名の違う方の話を聞くことができた。地元の方に講師をお願いしたので生徒は講師さんを身近に感じられ興味を持って聞いていた。
・読み語りと家庭科での授業支援は、小中連携することで、９年にわたる支援になっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で事業が制限されたり中止になったりして今までとは勝手の違う１年だった。今後もこの状態が続くようであれば事業の見直しや方法を変えていく必要がある。特に事業がもとで協働するスタッフさん達が新型コロナウイルスに感染してしまったらと考えると事業の開設に慎重にならざるを得なかった。
・地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南市の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。

【　書写の授業支援　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・生徒たちの学校や地域での活動が学校のH.Pの「お知らせ」に紹介されています。ご覧ください。　https//www.koseichu.com/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　　■教　頭　　□地域連携担当教職員　　■その他（　教科担任・該当学年教員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

まちに飛び出すボランティア部　ー地域とのつながりを大切にー

湖南市	活動名　：　甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務３人）　ボランティア登録数：21 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

校区にある２つの地域のまちづくり協議会の呼びかけに応じ、毎年、生徒がボランティアとして地域行事に参加している。これを日常的に地域とつながる窓口を作る、という意味でも、組織として活動する、という意味でも、長年の懸案だった「ボランティア部」を今年度、いよいよ創設した。

【　心づくしのアクリルたわし　】

ボランティアさんとともに学校の花壇等の環境整備をしたり、地域のイベントや勉強会に参加したりと地域や社会に貢献することを目指して活動をしているが、今はまだボランティアさんにお世話になることの方が多い状況である。地域でイベントがあるときには、ボランティアとして参加、または、全校に参加を呼びかけ、参加者を準会員として登録した。

10 月に開催された湖南市夏祭りでは、菩提寺まちづくり協議会の協力をいただき、今年もワッフル販売を担当した。模擬店はネットでの予約販売という形になったが予定の 100 個は予約で完売、試作から当日の製造、袋詰めなどを行った。また、菩提寺まちづくり協議会の支え合い事業の一環としてアクリルたわし作成の依頼を受け、家庭部の生徒が約 50 個のアクリルたわしを作成し、メッセージを添えてお渡しした。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

ボランティア部創部、地域の方と交流、さまざまなボランティアに参加、と考えていたが、コロナ禍でなかなかかなわないため、まずは学校の環境整備から始めた。地域の方にメダカや飼育用の鉢をいただき、ボランティア部で世話をすることに。玄関に並べ、学校を訪れる人の癒しとなっている。アクリルたわしを作成する際には、地域のボランティアの方が教えに来てくださり、スムーズに製作を進めることができた。直接触れ合うことが難しい中で、ものづくりを通して、それを受け取る人を思い浮かべながら取り組んだ。

【　夏祭りを盛り上げよう！　】

■　事業の成果

今年度、発足したボランティア部を中心に活動を進めるにあたって、「今だから笑顔でつながるプロジェクト」をスタート。こういう時だからこそ何ができるかを模索しながら、多くの方に助けられて活動してきた。夏祭りと同時開催されたハリキリンピックで小さい子どもたちにゲームを楽しんでもらう企画では、丁寧な消毒や笑顔での声かけをする中学生たちに、地域の方から「来年もぜひ」という声をいただいたことはうれしいことだった。できることが制限されている中でも、中学生が地域に出ていくだけで意味があり、さまざまな方法で地域とつながることができると実感した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

発足したばかりのボランティア部は、どうしても大人に頼ってしまう部分があり、大人が提案したことをする、という活動が多かった。今後は、できる限り生徒の意見を尊重しながら、生徒が主体的にやりがいを持って取り組めるような仕掛けを考えていきたい。さまざまな活動も、続けていくことで、「次はこういうふうにしたい」と自分たちの思いを出していけるようになるだろう。また、地元の企業などとも協働活動ができるようつながりを作り、関わっていきたいと考えている。

【　地域のイベントで子どもたちと　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールとして２年目を迎えたが、コロナ禍で満足のいくような活動ができていない。しかし、地域コーディネーターと学校支援員を兼ねた人材が、ボランティア部の活動や、まちづくり協議会との連絡・調整など大きな力を発揮している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教科担当･部活顧問等）

報告書記入者（　教頭　）

withコロナの中でもできることを工夫しながら

湖南市	活動名 ： 日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務０人）　ボランティア登録数：30人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
読み聞かせ　２学期４回、３学期４回、一年生の３クラス＋支援学級の計４クラスで、朝学習の時間に実施。地域の方４名に来ていただきました。
帯コン（本の帯コンテスト）　湖南市の中学校４校で、毎年実施していたが今年は中止。しかし、図書委員が、中心となり声をあげ、日枝中独自のコンテストを実施した。
消毒用タオル提供の呼びかけ
校内の消毒に使うタオル不足を補うため地域に呼びかけ古布の収集を実施しました。

【　本の帯コンテストの取組　】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・来て頂いた地域の方に検温をして頂き、健康管理票に記入し、記録として残すようにした。マスク・フェイスシールドの着用をお願いした。
・帯コンでは、生徒がボランティアさんに頼りすぎないよう、自分の考えで作品を作るよう距離を考え声かけした。

【　本の読み聞かせ　】

■ 事業の成果
読み聞かせ　地域の方が生徒の興味を引く内容の本を選んでくださったことにより、その本を図書室で探す生徒の姿が見られた。
帯コン　コロナ禍で様々な行事が中止になる中、生徒たちがやる気を見せ、日枝中魂で帯コンを実施までこぎつけることができました。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
参加して下さるボランティアさんの数がギリギリでまわっているので、もう少し余裕をもって活動ができる体制作りのため、新たなボランティアさん募集に力を入れたい。
年に３回発行の新聞（ＷｅＬｏｖｅＨＩＥ）にも大きくボランティアさん募集の案内を掲載した。

【　本の読み聞かせボランティアの皆さん　】

■ その他（学校運営協議会との協働等）
　学校の行事中止が続き、活動の空白時間を利用して一年間の動きを把握し、共通理解ができるよう、マニュアル作りを実施した。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響きあう教育を目指して　～コロナ禍でも出来ることとは？さあ今こそ、協働活動再発見！～

高島市	活動名　：高島学園地域学校協働本部	高島学園(小･中学校)　学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：活動ごとに登録

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　福祉活動　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等　■行　政　■その他（　公民館　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）休校中の活動

高島学園地域学校協働本部のある中学校体育館管理室に加えて、新たに小学校棟に地域ボランティアの拠点となる「修身堂」が設置され、ボランティアの皆さんの交流＆憩いの場となった。特に休校中はこの部屋を利用し、宿題等のプリント整理や丸つけ、また学校再開に向けてフェイスシールドの手作りした。

（2）授業へのかかわり

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した中、学校が必要とする授業のみにボランティア活動を展開した。活動内容としては高学年の家庭科支援や、登校から朝の会や授業参観等の見守り活動などが主な活動となった。こうしたことで、授業への関わりもスムーズに関われる良い機会となった。なお、恒例の道場シリーズ（九九・わり算・昔遊び）は形を変えて３学期に開催。

（3）中学生（生徒会）の地域への関わり

毎年だと地域の伝統行事やイベント等にボランティアスタッフとして大いに関わってきたが、今年度はそれが出来ず、試行錯誤の中、郷土の歴史遺産を守ろうと、地域の皆さんと共に清掃活動を行った。また、住民福祉ネットワークと連携し、中学校生徒会が中心となり配食サービスを受けられている方に月１回、作成したメッセージカードを添えた。受け取られた方からの感想も届き、生徒会の新しい取り組みとなった。メッセージカードは４年～９年までが心をこめて作成した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

コロナ禍の中、学校や地域ボランティアと一緒に「出来ることは何か」をその都度話し合い、互いが理解を深め、活動する事が出来た。感染対策を徹底し、安心出来る環境の中で活動を進めてきた。

【50 枚のメッセージカードを渡す】

■　事業の成果

〇コロナ禍の中で例えばメッセージカードの作成のように、文章で「心のキャッチボール」が出来た。また、中学生生徒会がメッセージカード作成のいきさつや方法等を小学生に説明することで高島学園の良さが発揮出来た。

〇民生委員児童委員、赤十字奉仕団、住民福祉ネットワークなど従来から関わりのある団体と学校との関係がより深まった。

〇日時の決められた参観日以外にも、地域ボランティアが参加することで学校への理解が深まった。また子ども達の良き理解者となることが出来た。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

コロナ禍で、今までの活動を工夫して行える様に努力する、活動の転換を行う、また、新しい活動を考える、などをテーマに学校や地域で話し合う回数が増えたことはプラスにとらえ今後の協働活動に活かしたい。

また、地域学校協働活動推進員が地域住民自治協議会等に参加することで、協働活動の必要性を今以上に地域住民に広げてきたい。

【大溝城跡　清掃活動】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会では、推進員が協働活動の様子を報告し、意見を聞くなどしている。また、今まで同様、協働活動への参加呼びかけを行っている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　生徒会担当教員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名 ： マキノ地域学校協働本部	マキノ東小･マキノ西小･マキノ南小･マキノ中学校　学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務０人）　ボランティア登録数：
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員
　■行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（1）学校ボランティアとの連携
　学校での地域協働活動を推進するための学校ボランティアの確保と継続的な活動を続けていくための仕組みづくりが出来つつある。学校ボランティアの募集と登録がマキノ地域の全ての学校で出来るようになった。今年度、募集、登録を始めた学校も12 月にはボランティアを登録したサポート会が創設され、会議も持たれた。２年目以降の学校も徐々にではあるが、行事等に協力いただけるボランティアが増えてきている。
（2）中学校と社会福祉協議会との連携
　これまで、昔あそびや地域サロンで小学校との連携は出来ていたが、中学校との連携はそれほどでもなかった。今年度は社会福祉協議会の職員と教職員が、今年度設置された中学校内の協働本部で話合いを持つことで、今年度の新型コロナウイルス感染症対策につながり、中学生の社会貢献にもつながる活動を実施することが出来た。

■　実施に当たっての工夫
　今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の方と児童が一緒に活動することが難しく、ボランティアの方に協力してもらう事業自体の実施が少なかったが、サポート会などの仕組み作り、また、新型コロナウイルス感染症への対応が求められたことが、社会福祉協議会との連携に発展し、地域の方や医療・福祉関係者への支援につながる児童たちの社会貢献活動の実施につながった。

■　事業の成果
○子ども　・地域への理解・関心の深まり
　・新型コロナウイルス感染症など社会的課題への関心の深まり
　・社会貢献
○学校　・新たなボランティア人材の発掘
　・円滑な学校行事の実施
　・地域への理解・関心の深まり
　・児童への社会貢献の機会の提供
○地域　・地域の教育力の向上、地域の活性化
　・社会参加の提供
　・世代を超えたコミュニティの形成

【医療用ガウンづくり】

【コロナ対策ポスターづくり】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　新型コロナウイルス感染症への対応が求められている現状では、地域の方に学校に入って来て頂くことは難しく、修学旅行をはじめとする他の地域への訪問、人との交流も難しい。このことから、新型コロナウイルス感染症が収束した時に協働活動にすぐ取り掛かれるように、学校が地域にとって身近な存在であることを広報するため、児童向けの事業であっても出来るだけ地域の人にも参観していただけるような情報提供を行うこと、また、県域を越えての移動が困難であることをチャンスととらえ、自分が住んでいる地域の地域資源の発掘、県域内の他の地域の魅力を学ぶべきと考える。
■　その他（学校運営協議会との協働等）
　学校運営協議会の主体的な活動が求められるが、そのためにも委員に、その目的を認識してもらい、行動してもらう必要があることから、基本となる学校の課題、目標を自覚してもらうために、教職員、ＰＴＡ、生徒会との熟議が必要と考える。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響きあう教育を目指して　～今津地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　今津地域学校協働本部	今津東小学校　今津北小学校　今津中学校 学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：　35人（今津東小学校　はなまる広場）
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇今津東小学校（学校応援ボランティア「はなまる広場」による活動）
・環境整備　…　除草作業、花壇整備、雪囲い設置　など
・学習支援　…　九九まる（九九暗唱確認）、読みまる（音読聞き取り）など
・事務作業支援　…　学級配布物の仕分け、夏休み課題のまとめ作業
・コロナ対策　…　ビニール衝立、マスク等作製
〇今津北小学校
・公民館との連携事業
（学校菜園づくり支援、支援学級でのひょうたん絵付け体験活動）
〇今津中学校
・福祉分野との連携活動　…　医療用防護ガウンの作成
・青少年育成学区民会議との連携活動　…　環境整備（プランター花の植え替え）

【　ビニール衝立を使って九九暗唱の確認　】

【　学校運営協議会での研修　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・学校側（各担任教職員のニーズ）の要望把握に努めた。
・ボランティア参加希望者への情報発信を工夫した。（メールなどによる情報の発信）
・直接参加できない地域の高齢者サロンなどの協力を得てマスクや工作用部品の作成を依頼した。
・今津東小学校ボランティア組織の広報「はなまる通信」として保護者・地域への情報発信、ボランティアの募集を行った。
・「今津ふくしの会」（今津住民福祉協議会）や今津民生委員児童委員協議会との連携を推進した。

■　事業の成果
・学校の活動に参加する地域の人が増加した。
・学校の活動内容を理解し、意欲をもって参加する人が増加した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・課題　ボランティア参加人数が限られてくるため学校側の要望に応えきるだけの体制を組めない。
・工夫　子どもたちの学習活動と地域の産業やボランティア活動をリンクさせ、地域理解の学習と活動を充実させていく。
・展望　地域学校協働活動と子どもたちの活動をリンクさせていくことができる。
また、「はなまる広場」活動が定着することで、地域内での認知が高まれば多くの支援を受けられる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
昨年度に今津中学校区で地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的な推進を目指し、管内小中学校の学校運営協議会会長と学校応援団（地域ボランティアの会）の各校代表、地域代表（区長や商工会など）を構成員として今津地域学校協働本部の組織を強化したが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本部組織の会議を持つことができなかった。各校の学校運営協議会での意見を共有する場として機能させ、学校や地域の課題解決につなげていくための地域学校協働活動としていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～朽木地域学校協働活動本部～

高島市	活動名　:　朽木地域学校協働本部	朽木東小学校・朽木西小学校・朽木中学校 学校運営協議会　:　■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成30年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：45人（15団体）
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）環境整備
地域の日赤奉仕団・更生保護委員・老人会等の方々が、小学校・中学校の校庭除草作業を申し出てくださり、まず一斉休校中、日赤奉仕団の方が「子どもたちが登校する前に除草作業をしておこう。」と東小学校・中学校の除草作業をしてくださった。その後、月に１回（最終月曜）除草作業をしてくださることになり、多い時には50人以上の方が来て草刈り機での除草もしていただき，数年手がつけられていないところまできれいになった。「運動会の練習、がんばっているね。」「みんな元気に勉強や運動をしてね。」「みんなの姿を見ながら，作業できて楽しかったよ。」などの声を直接関わることが難しいので、手紙での交流を行い、子どもたちと地域の方の関わりをつなぐことができた。（事務職員からアイディアをいただき、実行することができた）

（２）「西地区文化の集い」＆「ふるさと感謝祭」
新型コロナウイルス感染症のため、毎年別々に行っている文化祭と感謝祭を兼ねることとなり，さらに半日開催となった。前半の部は、子どもたちによる西小日記・オリジナル劇・和太鼓演奏と子どもたちは精一杯頑張った。和太鼓演奏では，中学生とのコラボ演奏があり，小学校と卒業生との強い絆を感じた（運動会準備では，大学生・高校生とのコラボ太鼓演奏もあった）。後半の部は、学校運営協議会委員の方による講演会「私とマイタケ」があり、マイタケとの30年の歴史を写真やスライドや楽しい語りで見ている子どもたちや地域の方々を笑顔にしてくれた。この行事においては、保護者の方々の作品展示の呼びかけや講演会の調整、会場準備・片付け等、また、地域の皆さんの子どもたちに向けるやさしいまなざしもあり、本当にあったかい空間となった。

（３）防護ガウンの制作
朽木住民福祉協議会から、今後の感染拡大に備え、医療機関や介護施設で必要となる防護ガウンの制作について依頼があり、生徒会役員が全校生徒の賛同を得て全校で取り組むことになった。生徒会会長から「感染症に対して，最前線で活動している医療の方をたくさん見ました。自分たちにも何かできないかと思っていたところ、この話が来ました。“人は人のために生きてこそ人である”という言葉を胸に、自分たちのできることを頑張ってやりましょう。」と全校生徒に呼びかけ、社会福祉協議会の方たちに指導していただきながら制作に取り組み防護ガウンを仕上げた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・地域の方と子どもたちをつなぐために，手紙の交換（学校に掲示）をした。
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を教師と相談しながら可能な限りボランティア活動や地域との協働活動を工夫した。
・学校運営協議会委員の役割を知っていただくために「地域とともにある学校づくり」の先進校の取り組みの紹介をした。

■　事業の成果
・喜びや感動や元気を感じる地域の方々が増え、自主的に学校や子どもたちに関わる方が出てきた。
・自主的に行動する（手伝う）中学生の姿と地域活動を結びつけることができた。
・学校運営協議会委員の方が、地域の子どもたちの課題について自主的に考えてくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・学校運営協議会委員との連携をとり、協働活動を進めたい。
・保護者や地域の人や学校（教師）の思いを大事にした協働活動にしたい。
・「学校つくりは地域つくり」という観点での協働活動を目指したい。

【中学生防護ガウン制作】

■　その他（学校運営協議会との連携等）
・学校運営協議会で、朽木地域全体の小中学校の実情が分かり，課題を共有しようという動きが出てきた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う地域づくりをめざして　～安曇川地域学校協働本部～

高島市	活動名：安曇川地域学校協働本部	安曇小　青柳小　本庄小　安曇川中 学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成30年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人　（兼務２人）　ボランティア登録数：45人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［各学校の連携　物品の調達　講師紹介　地域の方々の情報提供　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員　　■行　政　□その他（　　　　　）
■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
　①旧広瀬小学校を拠点としたマラソン大会の実施（安小　５・６年生）
　・「H28年度に廃校になった母校を拠点として、その地域でマラソン大会をしたい」という校長の思いを受け企画した。民生委員・住民福祉ネットワーク・近隣の保育園・事業所や福祉施設等から、たくさんの応援がありにぎやかなマラソン大会になった。

【 廃校を拠点としたマラソン大会 】

　②環境整備支援グループの結成（安小・安中・本庄）
　・毎月１回、定例で花壇整備を行うことによって、除草作業や来年の花植え準備などが計画的にできた。
　・「種まきから教えてもらおう」と園芸の得意な方から指導を受けたところ、芽出しも成功し花壇に植え替えができた。
　③間接的な学校支援活動（安小　青柳　安中）
　・新型コロナウイルス感染症予防のためのマスクや児童用トイレののれんを作成した。（安小　青柳）
　・今年度卒業生と卒業生担任のコサージュは、ほとんどの学校が業者からの購入予定だったが、地域の手芸が得意な方に依頼し、支援グループなども指導を受けて一緒に作成した。また卒業おめでとうボードも作成した。（安小　青柳　安中）
　・対面となる九九道場は避け、プリントを毎日、印刷・配布し、まる付けも行った。（安小）
　・地域支援活動も実施できないため、生徒と安中サポートボランティア（今年度結成）の皆さんで通学路周辺の地域のゴミ拾いを行った。（安中）

【　手づくりのコサージュ　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　・外部ボランティアに入ってもらうことについては、学校によって違うので校長や学校の意向を大切に学校からの依頼に応えるようにした。
　・コロナ禍においてできるだけ接触しないで、間接的に支援できることを考え、主に環境の整備を行ったが、除草作業だけなく様々な工夫やアイディアをいただき活動が行えた。
　・学校支援で来校される方は、毎日検温をしてもらい体調を整えて活動に参加していただいた。（当日も検温記録）
■　事業の成果
　①廃校を拠点としたマラソン大会の取り組み
　久々に地域がにぎやかになったととても喜ばれた。様々な場面で地元の協力をいただき、子たちも地域の方々に応援してもらって最後まで走り切れた。今後も続けていけるようにしたい。
　②特技を生かしたボランティア活動
　・コロナ禍に少しでも子どもたちが元気に過ごしてくれたら…との思いから、昇降口に生け花などを飾ったり、卒業式用のコサージュを作っていただいた。「自分の好きなことが役に立ってうれしいわ」と生き生きとしておられ、いろいろとアイデアをくださるなど、大変協力的だった。
　・子どもと密接になるミシン支援はできなかったが、「点検のみしますよ」と機械の調整をしていただいた。
　・旧広瀬小学校の除草をコツコツしてくださり、マラソン大会までにきれいにしてくださった。
　・賞状の名前書きなど、技術を生かして協力してもらえたことは非常にありがたかった。
　③中学生との交流
　花壇の整備やプランターの苗植え・学校周りのゴミ拾いなど、一緒に活動することを通して中学生の頼もしさや誠実さなどにふれ、とても気持ちよかった。この活動はこれからも定期的に実施していきたい。
■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　①間接的に支援できることをさらに、工夫して考えていきたい。
　②地域貢献的なことを小学生にもできるように考えたい。中学生も更に充実した取り組みができるように生徒と一緒に考えていきたい。
　（週３回生徒会と一緒に朝の挨拶運動をしている。大人がもっと増えてほしい。）
■　その他（学校運営協議会との協働等）
　学校行事や運営的なことや「どんな子どもを育てたいか」を話し合い、地域と学校が共通の目標を持ち、地域協働活動と一体化して進められるように考えたい。

【春の花の種まき・芽が出ますように】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（担任・担当者）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響きあう教育を目指して　～みんなで あたたかく 見守り育てよう「学而事人」の人に～

高島市	活動名　：　新旭地域学校協働本部	新旭南小・新旭北小・湖西中学校 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成30年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：139人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［教育相談窓口開設］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　■地域学校協働活動推進員等

■行　政　　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）**『徹底した学校支援活動』の展開**（南小「夢の会：会員52名」、北小「希望の会：会員42名」を核にした活動）

「登下校の見守り」、「校庭などの草刈り」、「学校施設の整備に関する備品の移動」、「児童用マスク作り」、「学校施設の除菌作業」、「読み聞かせ」、「図書ボランティア」、「九九道場」、「マラソン大会の安全監視」等できることなら何でも学校の支援要請に応える。

（2）**『学而事人おはようミーティング』の活動**（湖西中学校「むくげの花の会：45名」を核にした活動）

「地域の人がどんどん校内に入って、生徒の姿を見たり声かけをしてほしい」との中学校の要請に応えて平成30年度から毎日欠かすことなく続けてきた。会員が都合のよい日に始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。会員と生徒、教職員と会員、生徒と教職員、会員同士、保護者と会員などにぎやかなミーティングの場としている。支援活動の情報交換や打ち合わせの場でもある。

（3）**『郷土への理解を深める』活動**

新旭の偉人「清水安三先生」の教えである『学而事人』（学んで人に事える）をスローガンに掲げて地域住民や関係者が協働活動に親しみをもって関わっているが、市内の史跡を訪ねて郷土の歴史や偉人の功績を学ぶ「ふるさとウォーク」や針江の「かばた」学習など学校と地域の方やボランティアとの協働により郷土への理解を深めている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

各校「支援の会」を結成し、「月１回の世話人会を開催し、学校の支援要請への対応を協議する」システムを構築しているが、この世話人会において新型コロナウイルス感染防止対策を十分協議して支援活動を行っている。

基本的には見守り活動や環境整備活動を中心にして支援を行う。九九道場のような教科の支援では、アクリルパネルの活用、ボランティア活動日の前２週間分の健康観察票の学校への提出など感染拡大防止の対策をとっている。

【　おはようミーティングの様子】

■　事業の成果

「除菌作業など感染防止対策への支援で教職員の負担が減り子どもに関わる時間が増えた。」、「今夏には中学校や公民館で授業することになったが備品の移動や登下校の見守りなどの支援で無事乗り切れた。」小学校教職員の声。

「明るい挨拶が増えた。」、「遅刻がほとんどなくなった。」、「生徒のボランティア活動への関心が高まった。」中学校長の声。　「学校に入りやすくなった。」、「以前に比べ子供たちが落ち着いて授業を受けている。」ボランティアの声。　各校「支援の会」においては少しずつ保護者の会員も増え、会員以外の方々や各種団体にも学校のために積極的に動いていただける方が増えている。　コロナ禍でも３校のボランティアのべ活動人員は約6,000人が見込まれている。

特に下校見守り活動が充実し、町内での不審者情報がなくなり、運転者の交通マナーも向上した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・各校「支援の会」のリーダーの発掘、自主運営化、支援の輪を広げ持続可能な体制を構築していくこと。

・関係の団体や機関・施設等との連携を進め、小中学生の体験活動や地域貢献活動の場を拡げていくこと。

・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を拡げる地域総がかりの子育てにつなげること。

【九九道場の様子】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・各校の「支援の会」の世話人に「各学校運営協議会委員２名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（学年主任）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域とともにある学校・子ども応援団

東近江市	玉緒小学校　地域学校協働本部	玉緒小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：28 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　］

【 １年のおいも感謝の会 】

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員
　□行　政　□その他（　）
■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・**生活科（1年・２年）**
　「サツマイモを育てよう」：今年度は、４，５月が新型コロナウイルス感染症による臨時休校であったため、サツマイモの苗植えを児童自らが行うことができなかったが、休校中にボランティアの方が、畝づくりや苗植え、マルチシート張り等をしてくださった。
　サツマイモ収穫」：サツマイモの栽培でお世話になった方を感謝の会として学校にお招きし、歌や音読を発表したり感謝の手紙を渡したりして、感謝の気持ちを伝えた。例年のように、学校でサツマイモを試食することはできなかったが、収穫したサツマイモを題材とした絵を描いたり、家庭での試食の様子を日記に書いたりと学習の中で活用することができた。
・**社会科・理科・総合的な学習　（　3年・４年・５年・６年　）**
３年「地域探検」：　総合的な学習の時間では、地域にある大森城址、大森神社、牛舎、キュウリハウスを見て回った。瓜生津地区にあるお寺では、住職さんからお寺の歴史や地域でのはたらきについて説明していただき、子どもたちの質問に丁寧に答えていただいた。
４年「里山探検隊」：　地域にある大森町の里山広場に出かけ、自然の中で薪割りをしたり、のこぎりを使って木を切ったり、木の枝を集めてグループで協力して小屋を作ったりの体験をした。町づくり委員会の皆さんに丁寧に指導いただき、普段、学校の中では出来ない貴重な体験学習ができた。
５年「田んぼの学習」：今年度は、休校中であったため、５月の田植えを地主さんがしてくださった。５年生の児童は、ＪＡの方の指導を受けながらバケツで稲の栽培を行い、継続して観察を行った。９月には、「たんぼのこ応援団」の協力を得て、田植えや稲刈り、脱穀の体験学習をした。その後、応援団の方々を招いて「感謝祭」を開催し、米作りについて学習した成果を発表した。
６年「キャリア教育」：例年は、玉緒幼稚園を訪問して、現地での幼稚園教諭の仕事について学ぶ学習を行っていたが、今年度は園の先生を学校にお招きし、お話を聞いたり、事前に６年担任が撮影しておいた幼稚園での先生方の仕事の様子をビデオ視聴したりした。他にも、池田牧場の方、大工さんを招いて、それぞれの方の仕事に対する思いや姿勢などの話をしていただき、その後実際に仕事の体験をした。

【 「くむんだー」で大工の仕事を体験 】

・**家庭科(５年)**
　５年「初めてのソーイング」：手縫いの学習では、児童数人に１人ずつボランティアさんが付いてくださり、個々の児童にきめ細やかな指導助言をしていただくことができた。
・**その他**
　○図書室の環境整備（毎週水曜日）　○ミシンの点検作業（随時）　○登下校の見守り（毎日）
■　実施に当たっての工夫
・ボランティアの方との打ち合わせでは、学習のねらいを伝え、ご指導いただくポイントを確かめるようにした。
・今年度は感染症予防を考慮し、取組の時期や内容、感染予防の対策などについて事前に話し合い、ボランティアの方とも共通理解して実施した。
■　事業の成果
・新型コロナウイルス感染症の予防を考慮し、例年より参加していただけるボランティアの方の数が減るのは当然であると思う。その中でも、学校でできる最大限の活動の実現にご協力いただき、本当にありがたく感じている。
・回数を重ねるごとにボランティアさん同士も顔見知りになり、お互いに意見を出し合ってくださる姿があった。
■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・今年度の取組を見直し、来年度以降も実現可能な活動を検討したうえで、地域コーディネーターさんをはじめ、協力いただくボランティアの方に、早い段階でお知らせできるようにしたい。
■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

「必要な時に必要な支援を」を合言葉に、今後につながる継続した支援活動を

東近江市	御園小学校　地域学校協働本部	御園小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：23人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　　　　　　　）

【　読み聞かせボランティア　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校は、外国籍児童が全体のおよそ一割（約40名）在籍しており、基本的な会話や読み書きについて地域のボランティアが学習支援を行い、日常生活や学習活動に日本語で取り組めることを目的に活動を毎週定期的に行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、高齢者の方が多いこのボランティアの方には、万が一に備えて１学期期間中は活動を控えていただいた。２学期に入り、教室をわけて密にならないようにしながら活動を再開していただいている。

■　実施に当たっての工夫

本校では、「必要な時に必要な支援を」を合言葉に進めてきている。推進員が学校のニーズを的確に把握し、それに応じて人材を発掘していただいて支援を受けている。例年はマラソン大会や試走練習のボランティア、家庭科でのソーイング学習の補助、野菜栽培の補助など多岐にわたってお願いしている。

しかしながら、高齢者の方には無理をお願いできなかったので、今年度はマラソン大会やマラソン試走練習の交通安全ボランティアを保護者さんにお願いした。そうしたところ、ＰＴＡ役員さんを中心に、多数（20名）の保護者ボランティアに協力を仰ぐことができ、安全に活動を行えた。教員は支援の必要な児童へのサポートに回ることができ、満足のいく活動となった子どもが多くいた。また保護者自身も学習参観が制限されている中で、子どもの学校での様子を見ながらボランティア活動を行えることができたことに喜びを感じていただくことができた。

■　事業の成果

推進員による地域の方々への積極的な働きかけは、今年度はお願いしていない。本来であれば、学校の様子を地域の方々に知っていただけるよい機会となるのだが、今年度については、活動の範囲が制限され厳しい状況である。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、この状況が終息するまで今後も地域のボランティアさんをお願いすることにはためらいを感じている。せっかく今まで築き上げてきた地域ボランティアさんとの関係を切らせることなく、今後も地域との絆を深めていけるように働きかけていきたい。

また、地域ボランティアとともに保護者にも様々な活動のサポートをお願いしながら活動を広めていきたい。

【　マラソン大会のボランティア　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

お問い合わせ

東近江市立御園小学校　ホームページアドレス

http://www2.higashiomi.ed.jp/misonosho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

輝け南っ子！！　～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～

東近江市	八日市南小学校　地域学校協働本部	八日市南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成24年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：40人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）畑の先生による特別支援学級での植え付け作業（じゃがいも、さつまいも、大根）収穫

（２）芝生化されたグラウンドでの芝生刈りや水やり、施肥などのお世話

（３）南小学校読み語りグループによるスキルタイムでの読み語り

（４）大凧保存会による大凧作りの指導

（５）図書室壁面の飾り製作、飾り付け

【　図書室壁面飾り　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・特別支援学級の畑では、地域の方が先にうねを作ったり、マルチをかけて植える準備をしてくださることで、スムーズな植え付け作業ができた。

・読み語りでは、ボランティアと児童との間隔を空けるために、自分の席に座り静かに聞くようにした。

・図書壁面では、図書室で作業を行っていたため、休み時間などは児童が興味をもって側にきてくれていたが、今年度は密を避けるため、会議室などの別室で作業をし、児童との動線も重ならないように工夫した。

■　事業の成果

・定期的な芝刈りなど適切な管理がされることで、常に快適な状態で授業が行われる。また、休み時間や放課後などにも子どもたちの生き生きと活動する姿が見られる。

・季節感あふれる壁面飾りにより、図書室に対する子どもたちの関心がさらに高まった。

・特別支援学級の子ども達が、畑の先生に対して芋のツルで作ったリースのお礼を渡すなどつながりを深めている。

【　読み語り　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度は中止せざるをえなかった事業に対して、どのような方策をとれば実施できるようになるのか、関係機関と相談しながら活動再開に向けて取り組んでいきたい。

・市陸上記録会の指導や、地域学習、昔の暮らし、昔のあそびなど

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・南部まちづくり協議会と連携しており、スムーズな活動ができている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（事務職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推員　）

地域とともに歩む箕作小学校

東近江市	箕作小学校　地域学校協働本部	箕作小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：103 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

【田んぼの学習：稲刈り】

【大凧づくり】

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・３年生の総合的な学習では、地域の農家の方にニンジン畑を見学させていただいた。ニンジン栽培に関することで、苦労したことや、やりがいなどの話を聞くことができ、子どもたちの興味や関心の高まりが見られた。また、ビオトープにおける環境学習では、ビオトープの観察をするとともに、ＮＰＯ遊林会の指導員の方々に話を聞かせてもらい、子どもたちの環境への思いが深まった。
・５年生の田んぼの学習では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により、田植えはできなかったものの、バケツ稲で飼育した稲を栽培し、精米まで行ったり、太郎坊応援団さんをはじめ、ＪＡや市役所の方々のご協力の下、稲刈りや脱穀の体験をさせていただいたりして、大変貴重な体験をすることができた。また、ステップアップ事業では、田んぼの水やビオトープの水、近くの川の水などの水質調査をし、水を窓口にしての環境学習を行うことができ、田んぼの水質から、農家さんの環境に対する配慮を実感することができた。
・６年生児童が、八日市の伝統文化の大凧づくりを東近江大凧保存会の方々の協力を得て製作した。大凧には子どもたちが考えた判じもんを入れ、大凧保存会の方々の指導を受け、どのクラスも２畳の大凧をグラウンドで大空高く上げることができた。
・５、６年生の家庭科学習支援や低学年の「畑の先生」、５年生の「田んぼの先生」、読み語りなど、たくさんの地域の方にボランティア活動に参加していただけた。
・地域学校協働活動（地域未来塾）に係る活動として、夏休み学習会を３日間実施できた。地域で友達と学び合う姿が見られた。
・箕作小学校の児童だけでなく、聖徳中学校区の児童が校区の中心にある八日市コミセンで交流することができた。

■　実施に当たっての工夫
・各学年の学習のねらいや取組のテーマ〝見て・聞いて・やってみる〟をモットーにした学習活動について、地域学校協働活動推進員が教職員との打ち合わせを綿密に行い、適切な支援活動がなされるように努めた。
・地域に出かける活動では、事前に地域学校協働活動推進員と教職員が一緒に下見をして、児童の安全を第一に進めた。
・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個々人に幅広く声をかけている。
・これまでの取り組みを継続し、学校と地域、ボランティアの三者が共に安心感と親近感、信頼感がもてるように、いくつもの取り組みに継続して参加できるような工夫をしている。

■　事業の成果
・学区が広範囲であるため、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、公的機関、各種団体などと細やかに連携を図ってきたことで、外部から学校や地域学校協働活動推進員に声がかかるようになり、ボランティアからボランティアへと支援の輪にもさらに広がりがみられている。
・自分たちの住む町を学習する中で地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚や地域への親近感をもてるようになり、保護者からも活動を評価する声が聞かれる。地域では、子どもたちへの学習支援の継続と広がりが見られるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・今後も、「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆がさらに深まり、活動が充実したものにするためにも、教職員と地域学校協働活動推進員との打ち合せや相談が重要である。また、地域学校協働活動推進員が学習計画の立案への参画、活動後の反省や評価、問題提起、課題解決方法の探求などをすることで、発展的に循環した取組となるよう考えていくことが必要である。
・子ども達が多くの人と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう学校と地域との連携の充実を図るためにも、学校から地域への広報活動が不可欠である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　全教職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

地域とつながることで、幅広い体験や学びをはぐくむ

東近江市	八日市北小学校　地域学校協働本部	八日市北小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成28年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　　□地域学校協働活動推進員等
□行　政　　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・１年生、地域の方に竹とんぼを作っていただいての「竹とんぼ体験」・・・中止
・２年生　地域の川に出かけての「ザリガニつかみ」・・・中止
・３年生　地域のお年寄りに学ぶ「昔の暮らし」・・・実施予定
・４年生　地域の施設に出かけて「いきものの森での体験活動」
・５年生　地域の方にお手伝いいただいた「田んぼの学習」
・６年生　身近な方の職業について学ぶ「夢教室」
・全校児童　地域の方の声援と見守りを受けて、校区を走る「マラソン大会」
・全校児童　図書ボランティアによる読み聞かせ・図書室整備・・・中止
等々、地域の方にご協力いただくことで、様々な体験ができ学習が深まった。

【　４年生　いきものの森体験活動　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・今年度は、接触を避けるため、１年生の「竹とんぼ体験」や２年生の「ザリガニつかみ」など、毎年の活動ではあるが、地域の方と交流する活動は中止せざるを得なかった。
・４年生の「いきものの森での体験活動」では、学校からいきものの森へ行く道中の安全確保などにご協力いただいた。コロナウイルス感染症対策の観点から、間隔をあけて並ぶため例年よりも児童の列が長くなるので、大変ありがたかった。
・「マラソン大会」では、安全確保のために交差点などに立っていただいた。毎年は大きな声で声援をくださっていたが、今年度はマスクを着け、拍手等で感染予防をしながら応援していただいた。

【　全校　マラソン大会　】

■　事業の成果
・十分に交流をすることはできなかったが、校外での活動時に安全確保をしていただくなど、学びの環境づくりに大きく寄与していただいた。
・身近な方に職業についての話を伺うことで、将来に向けての夢を膨らませることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナウイルス感染症の拡大防止の対策を行いつつ、可能な活動を探っていきたい。
・活動を安定的に推進できるようにするためには、新たなボランティアやゲストティーチャーの発掘が必要である。
・学校便りやホームページを通じて学校の活動を広く地域の方に発信するようにした。情報の発信を通じて地域の方の理解を深めるとともに、さらなる協力を得られるようにしたい。
・学校が支援を受けることが多いが、地域と協働した活動を仕組めるように工夫していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	八日市西小学校　地域学校協働本部	八日市西小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：260 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員等　　□行　政　　□その他（　　　）

【　１年生　秋みつけ　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）「子ども見守り隊」の活動
　校区内の全地区で「子ども見守り隊」があり、児童登下校の見守り活動を継続している。学校からは児童の下校時刻を知らせ、見守りに隙のないようにしている。また、見守り隊からは通学路の危険個所や日常の児童の登下校の状況など、必要な情報を提供していただいている。今年度は実施できなかったが、夏季休業中の研修会や、３学期の「６年生を送る会」の参観など、教職員や児童との交流の機会をもつようにしている。
（２）生活科や社会科の校外学習の引率
　１年生の生活科の学習では、校区内の公園までの引率や、公園での遊びの支援等を学校ボランティアにお願いしている。山の中で活動範囲が広いため、学校ボランティアのおかげで、安全に学習を行うことができている。
　２、３年生では、町探検や校区探検を実施している。学習の経路や見学先施設での安全確保の観点から、学校ボランティアをお願いしている。学校ボランティアは地域の方なので、地理にも詳しく見学先の方とも知り合いのため、学習をスムーズに実施でき、安全面でも配慮できた。

【　３年生　工場見学　】

（３）家庭科の学習支援
　家庭科のミシンを使った実習では、児童が困ったり躓いたりするところを、学校ボランティアが支援することで、安心して学習できた。
（４）「田んぼの学校」での活動支援
　５年生の「田んぼの学校」では、調べ学習だけでなく、田植えや稲刈りなどの体験学習にも取り組んでいる。農業委員の方だけでなく学校ボランティアもお願いし、苗の植え方や稲の刈り方を教えていただくことで、児童が使い慣れない道具、鎌や千歯こきなどを安全に使うことができ、農作業について理解を深めることができた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○ 協働活動推進員と連携し、年間を通してどのような支援が必要か事前に検討しておく。また担当者だけでなく、各学級担任との打合せで詳しい内容を確認し、学校ボランティアと共有できるようにしている。
○ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のガイドラインに則り、三密を避け、マスクの着用、事前の検温などを徹底し、児童も学校ボランティアも安心して活動できるように配慮した。

【　５年生　田んぼの学校　】

■　事業の成果
○ 協働活動推進員と各学級担任との打合せを充分におこない、連携できた。
○ コロナ禍の中で数少ない機会であったが、地域の方とふれあうことができ、児童の学習の様子を見ていただいたり、児童が地域の方との接し方を学んだりするよい機会となった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○ 「見守り隊」の高齢化や感染防止対策などを考慮しつつ活動を充実させるためにも、学校から活動について理解していただけるような発信をしていく必要がある。
○ 今後、地域の行事やボランティア活動への児童の参加についても考えていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の力を学校へ！　ともにあゆむ「布引っ子応援団」

東近江市	布引小学校　地域学校協働本部	布引小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成29年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務　０人）　ボランティア登録数：55人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　　□部活動支援　　■学校周辺環境整備　　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　　□地域行事への参加　　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　　□その他［　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

【　３年　まちたんけん　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

通年　　ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、スクールガード活動支援
　　　　教育環境整備
４～５月　５年「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え
６月　　５年「田んぼの学校」田んぼの生物観察学習補助
６～７月　３年「まちたんけん」講師・郷土学習の補助
８～９月　５年「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
12月　　５年「田んぼの学校」まとめ学習発表会・感謝祭
12月　　布引っこキラリイルミネーション点灯式（メタセコイヤ飾りつけ）
１月　　６年　キャリア教育　地域先輩に学ぶ（和菓子職人・建築士に学ぶ）
２月　　４・５年　「和楽器を学ぶ」お琴体験学習

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇地域学校協働活動推進員の出勤日を固定することで、教員との円滑な打合せを進めることができた。
〇学校だより等で、地域と学校が連携・協働している事例を取り上げて広報に努めた。
〇地域学校協働活動推進員が地域のつながりを強固にするよう努力し、学校と地域の連携に努めた。
〇「布引っこ応援団」のチラシを継続して配布し、新たなボランティア人材の掘り起こしに取り組んだ。
〇コロナ禍の中でボランティアに来ていただく機会は減ったが、感染症対策を行い、密にならないよう実施回数を増やして取り組んだ。

【　職員室飛沫感染防止シート　】

■　事業の成果

今年度はコロナ禍での学校スタートであったが、校外学習の相談や教材の発掘、講師の依頼など状況に応じた対応をしていただき、郷土学習やキャリア学習等、例年と変わらず充実した活動ができた。地域にも学校ボランティア活動が周知されており、地域学校協働活動推進員を通して学校からの要望にも多数応えていただいた。

また学校教育環境設備にも尽力いただき、飛沫感染防止シートの製作をはじめ感染症対策のための教室整備を行い、子どもたちが安心して過ごせる環境を作っていただいた。さらに、「コロナ禍の中でも元気な一人ひとりがキラリ輝く布引っ子であってほしい」という願いを込めて、地域企業にも協賛をお願いし、大規模なイルミネーション点灯を実施していただいた。子どもたちの心に残るすばらしい活動となり、地域からの愛情を強く感じる一年であった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇支援ボランティアの継続性のために名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
〇広い校地の学習環境の整備のため、引き続き施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。
〇地域学校協働本部の活動について地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。

【　イルミネーション飾り付け　】

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　□地域連携担当教職員　　■その他（事務職員）

報告書記入者（　教　頭　　）

「地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり」（市原小学校）

東近江市	市原小学校　地域学校協働本部	市原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成25年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務０人）　ボランティア登録数：約80人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・「いつも身近に本を置こうプロジェクト」（地区集合場所に本があるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書）
・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業（地域農家見学、しめ縄づくり、和楽器鑑賞、江州音頭体験、マラソン大会見守、昔遊び等）
・お花のボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備（通年の活動）
・「絵手紙教室（講師は地域の方）」を年２回（６分会）お楽しみ昼休み企画を実施
・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境 読み語り 創作クラフト等のイベントなど）
・漢字検定の実施（７月、２月）児童のみならず、地域、教員・保護者の方からも募集。

【地域人材活用：昼休み絵手紙教室】

■　実施に当たっての工夫

・毎月１回、ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
・ぬくもり（手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
・「地域の日」をはじめ、持続可能な視点をもって続けることを大事にする。（持続可能な教育環境づくりを目指す）
・児童に豊かな情操が育つように、季節感や彩のある世界、相手意識を持たせた活動内容を提案する。
・ホームページの地域連携事業の更新を頻繁に行う。

■　事業の成果

・児童は、人と仲良く過ごすことを大事にし、学校は多様な学びの場であることを知っている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
・ホームページの更新を頻繁に行うことにより保護者・地域住民へ情報を提供し、協力を得ている。
・制限のある活動であっても、地域の人と児童の絆が深まり、学校全体に明るい笑顔と活気が感じられる。
・自然に生まれるあいさつや、心のこもった会話ができる。
・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよい ＯＪＴとなっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇課題

・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。
・各活動の前には、学校と地域が、目標の共有化を図る必要がある。
・事前事後の取組をおろそかにしない。コロナ禍の対策は常に考えておく。
・全校マラソン大会の安全な運営（スクールガードによる見守り活動７年目）
・「地域の日」令和２年度は、実質的には訪問者は無し。

〇工夫や展望

・ＨＰや広報紙等で、地域連携事業の周知の徹底をさらに図っていく。
・「地域の日」毎月第２水曜日の昼休みを自由参観の日に設定。
・地域の声を学校が聞くことができる場の実現。
・公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」(R2未実施)

【伝承体験：しめなわ作り】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

ホームページアドレス　http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学級担任）

報告書記入者（　市原小地域学校協働本部長　）

～地域の自然・人材を生かし、主体が起きて学ぶ山小っ子を目指して～

東近江市	山上小学校　地域学校協働本部	山上小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成29年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：24人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）　■学　校　■地域学校協働活動推進員等

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【２年生　生活科「町の名人を探そう」】

校区内の名人として永源寺地区コミニュティーセンターで開いている講座の中から、「バレトン」の講師の方の話をお聞きし、ミニ体験をさせていただいた。また、行き帰りの安全確保のためにスクールリーダーの方も来ていただいた。

【３年生　総合的な学習の時間(親子活動)　「森っ子スクール」】

地域の木材で作った板を使い、鳥の巣箱を作った。里山会や振興会の多くの方がボランティアとして指導に関わってくださったので、少し難しい作業もあったが楽しく充実した活動になった。

【４年生　社会科「地域の発展につくした人々：永源寺ダム」
総合的な学習の時間「やまのこ学習：千種街道を歩く」】

永源寺ダムの学習で、ダム本体とダム建設のために転居を余儀なくされた地域の見学をした後、その地域から移築されたお寺に行き、その当時の話を聞かせていただいた。その後、やまのこ学習の一環で、校区にある伊勢（現三重県）まで続く千草街道を、歴史にも詳しいボランティアさん達に案内していただきながら歩いた。針葉樹や広葉樹が豊かに育つ山中を気持ちよく歩く体験ができ、充実した学習となった

【４年生：千草街道を歩く】

【５年生　総合的な学習の時間「愛知川生き物調査」】

愛知川清流会の方にご協力いただき、学校の近くを流れる愛知川で生き物調査を行った。また、水生生物だけでなく、水質についても調べ、川の水質と生態系について学習を深めた。今年はコロナ禍の影響で、例年行っている和南側での観察を行わず、清流会のボランティアさんもお断りするなど活動を縮小した。

【６年生　総合的な学習の時間「地域学習、キャリア教育」】

地域学習の一環で日本最古級の土偶の発掘現場に行き、発掘当時の様子について話していただき、レプリカもいただいた。また、永源寺こんにゃくが昔ながらの製法(薪ゆで)で作られる様子を見学させていただきながら、地域の活性化について語っていただいた。その後、相谷町の里山に行き、ボランティアさんの指導で里山整備活動の体験をしたあと、倒木作業の見学や里山整備を継続しながら仲間と生きがいを持つことの大切さなどの話をしていただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○どの学年の取り組みでも、ボランティアの方々との活動前に、担任と地域学校協働活動推進員との綿密な打ち合わせを行い、学校とボランティアの方が、活動の目的や子どもに付けたい力について共通の認識を持てるようにした。

○地域学校協働活動推進員と地域コーディネーターとの話し合いを増やし、互いに持っている情報を交流しながら活動の幅を広げていった。

■　事業の成果

○地域の自然環境や人材を活用し、学校教育活動の中に地域の力を生かす機会が増えた。

○地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、主体的・意欲的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感を伴った理解や、追及していくきっかけを見つけることができた。

○ボランティアの方々の経験や知識を生かした活動を展開していくことで、その方々にとっても自分を生かす場となり、活発な地域づくりにつながる活動になった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動の工夫や展望

○地域学校協働活動推進員が中心となって進めていくためには、日ごろから地域に出ていくことで学習の質が向上する内容にはどのようなものがあるのか、また地域の優れた人材をどのように学校教育と結び付けていったらいいのか等を考えながら交流していくことが大事である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

山上小学校HP：http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

【地域の方に支えられて、地域に学ぶ】

東近江市	五個荘小学校　地域学校協働本部	五個荘小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：120 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援
・生け花、和太鼓などを使ったクラブ活動における支援を行う。
・地域の方から昔のくらしについて説明し、洗濯板や七輪を使った体験活動の支援を行う（３年）。
・地域の方から昔の遊びについて教えていただく学習支援を行う（１年）。

（２）学校行事支援、子どもの安全確保、見守り
・まちたんけん（２年）、校区探検（３年）や地域環境学習（４年）の校外学習等の引率補助、交通安全見守り。
・登下校時の見守りや引率活動、挨拶運動。

（３）学校周辺環境整備
・校地内、中庭等の植木剪定、樹木の下回り整備作業等
・校地内花壇の除草、整備作業等

【　和太鼓クラブ　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・まちたんけんや校区探検の実施時には、グループに分けて出発時間を変えたり、探検ルートをずらしたりして、できる限り人数が分散するようにした。
・昔のくらし体験活動では活動の種類を厳選し、１グループあたりの人数を可能な限り少なくして密にならないようにした。
・スムーズな実施のため、ボランティアやコーディネーターの方との打ち合わせの時間を確保した。

【　３年校区探検　船板壁　】

■　事業の成果
・地域に残る歴史的な建物を目の前にして、町並み保存会や近江商人屋敷の方に直接お話を聞くことができ、より地域に誇りや愛着を持つことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・感染症のため、何年か続いていた裁縫支援や読み語り活動、福祉施設を訪ねたり地域のサロンと交流したりする活動を中止せざるをえなかった。次年度は何らかの方法で実施できるよう方策を探りたい。。
・学校運営協議会と連携し、学校の教育方針を共有しねらいにあった活動を展開していきたい。

【　見守り活動　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校ホームページ　http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とつながる学校づくり　「みんなで育てよう　愛東南の子どもたち」

東近江市	愛東南小学校 地域学校協働本部	愛東南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：27人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇全校【ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み聞かせ】
　週２回の「本の時間」の読み聞かせ
〇クラブ活動【手芸クラブ】　消しゴムはんこの制作指導と支援
〇１年生活科【昔遊び名人に教えてもらおう】
　コマ回し、あやとり、お手玉、おはじきなどの指導と支援
〇３年総合的な学習の時間【愛東の農家の名人さんに学ぼう】
　イチゴ、梨、柿、なす、白菜を栽培されている地域の農家さんへの見学
〇３年総合的な学習の時間【愛東のエコを考えよう】
　地域コーディネーターとともに菜の花館へ出かけ、地域のエコシステムの学習支援
〇４年社会科地域教材【井について調べよう】
　ゲストティーチャーの引率のもと、鯰江井の見学
〇４年生社会科【県内の文化財と年中行事】
　ゲストティーチャーから、地域の神社の祭りについての話を聞き、わらで縄をなう体験を行う。
〇５年総合的な学習の時間【米について調べよう】稲刈り、脱穀の作業
〇５年家庭科【わくわくミシン】
　ミシンを使ったエプロン作りの学習支援

【４年　総合的な学習の時間（地域の祭り）】

【３年　総合的な学習の時間（白菜農園見学）】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇地域学校協働活動推進委員と教職員が打ち合わせをする時間を設定し、学校支援の年間の見通しを共通理解できるようにした。
〇学校側のニーズを地域学校協働活動推進委員にしっかり伝え、人材の掘り起こしをしてもらった。
〇６月からの学校再開となったが、校外での活動やゲストティーチャーの招へい等は２学期から行うこととし、地域コーディネーターと連携し、実施時期について当初の計画を練り直した。
〇学校だよりや学年だより、ＨＰ(http://www2.higashiomi.ed.jp/aiminamisho/)等で、ボランティアさんの活動の様子などを紹介した。

■　事業の成果
〇ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み聞かせは、継続的に続いていることで、子ども達の読書の習慣化や質の向上につながっている。
〇地域学習においては、専門的な知識や技能をもっておられるゲストティーチャーを招くことで、より学習効果が上がった。その成果を、保護者や地域の方々、また、招待したゲストティーチャーの方々に発表することができた。
〇新学習指導要領の実施に伴い、新しく学習することになった４年生社会科「県内の文化財と年中行事」の単元の学習に関わって、担任がいち早く地域コーディネーターと連携し、地域教材の発掘をしたことで、子どもたちの学習意欲がより高まった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇登録の名簿を年度ごとに見直し、異動等で教職員がかわっても、継続的に地域との連携がとれるような体制づくりが必要である。
〇地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させ、新たなボランティアの人材の掘り起こしを進める。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	愛東北小学校 地域学校協働本部	愛東北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員等数： 1 人（兼務 1 人）　ボランティア登録数：32 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　　□部活動支援　　□学校周辺環境整備　　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　　□地域行事への参加　　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①読み聞かせ活動

愛東北小学校では、読書ボランティアの方の支援によって行っている。全学年を対象にした読み聞かせが、毎月１回、朝の始業前に、また１年生と２年生対象のものが各学年月２回程度、下校前にある。子どもたちは、ボランティアの方による読み聞かせの日を心待ちにしており、朝、控え室に当番が迎えに来てくれる。絵本だけでなく、紙芝居等、工夫した読み聞かせに目を輝かせ聞き入っています。読み聞かせ後、ボランティア間で交流の時間を持ち、お互いに工夫点などを学び合うようにしている。

【　読み聞かせの様子　】

②５年生「たんぼのこ」の体験学習

当校は、ＮＰＯ法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の方々の協力を得て、「たんぼのこ」の学習が進められています。

農村地域の本校の児童も、最近では農業体験に乏しくなっている中で、この体験学習は貴重な場となっています。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を見届ける学習等を通じて、米作りの苦労と喜びをあじわうことができると思います。お米の収穫後には「感謝の集い」を開き、ご協力いただいたボランティアの方々を招いて学習の成果を発表し、収穫の喜びを実感する機会をもっています。

今年度の稲刈りでは、ボランティアの方の支援のおかげで、うまく鎌を使い、ほめられる中で意欲的に活動することができました。

【　稲刈りの様子　】

③５・６年生の家庭科ミシン学習への支援・補助

ミシンの学習は、学級担任のみの指導では十分な手が届きにくく、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要です。そこで、ボランティアを募ったところ７名の支援スタッフが確保でき、ミシンの学習で糸縫いをしました。ボランティアと子どもたちの和やかな交流の中で家庭科の学習が進み、子どもたちの充実した顔が見られました。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○関わっていただく地域の方々と学校との、お互いの負担とならない適度な距離感を保つように努めています。
○学校への地域住民の関心や思いが高まるよう、ボランティア人員が少しでも増えるようにしています。
○今年度はコロナ禍ということもあり、読み聞かせ活動は２学期から始めました。読書ボランティアの方にもマスクを着用していただき、アクリル板を前に置いて読み聞かせを行っていただきました。また、「たんぼのこ」の学習では、田植え体験ができなかった分、何度も田んぼの観察に出かけ、ボランティアグループ等の方々のお話を聞く機会をできる限り設けるようにしました。

■　事業の成果

○ボランティアの方の支援により、児童の学習効果が上がり、学習への励みにつながっています。
○子どもたちとの交流の中で、少しずつ学校支援の輪が広がっているように感じます。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○子どもたちの学習や生活の充実についての現場のニーズに応えるために、学校教職員と地域コーディネーターの連携を密にするように努めたいと思います。
○地域人材を効果的に学校教育につなげていくために、情報収集のアンテナを高くし、ボランティアの更なる拡充に努めたいです。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○当本部では、学校側の依頼に対し、情報などを集約的に持っておられるところへの協力依頼を第一歩としています。
学校ＨＰ　http://www2.higashiomi.ed.jp/aikitasho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　　地域連携担当教員　　）

地域と連携、生きた学びを求めて！

東近江市	湖東第一小学校　地域学校協働本部	湖東第一小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：35 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ドローンを飛ばして校区探検
　コロナ禍で新年度の学校再開が遅れ久しく登校を待ち望んだ子どもたちに「学校ってやっぱり楽しいところ！」と、学校で学ぶことの喜びを体感できる授業を準備した。地域のドローン会社に無償協力を依頼し３年生の校区探検をドローンの空撮で試みた。題して「空からまちたんけん」。テスト飛行や打合せ、授業案作成は休校中の時間を使って念入りに行い、事前の空撮資料と授業当日のライブ撮影による臨場感を持った町探検ができた。

【３年ドローンで校区探検】

（２）平柳古墳群探検
　６年生が市史編纂室元職員の案内で校区内にある古墳群の見学をした。子どもたちが住んでいるこの地域の古墳を実際に訪ねることで、歴史を肌に感じ興味関心を高めるとともに、地域の再発見やその後の歴史学習を深めることを願った取り組みである。歴史専門家からの説明解説は、その当時の人々の暮らしぶりや願いにも思いを巡らすことができ、今の生活が古人の歴史の上に成り立っていることなどを知り、見学の意義をいっそう高めることができた。

【6 年 校区の古墳を訪ねて】

（３）収穫の喜び田んぼの学校
　コロナ禍の下、体験学習が大幅に制限され田植えは中止となったが、秋の収穫体験学習は予定通り３～５年生で行うことができた。離農や農業の集団経営により、昔は当然のように家庭で体験していた農作業を、農村地域に育つ子どもたちとはいえ限られた子どもしか経験しなくなっている。そのような環境の中で、私たちの主食である米の収穫体験は、食文化を学ぶ土台として貴重な学習である。地元の営農組合を中心に JA 湖東、市農業水産課、農業委員さん等の協力を得て、稲刈り体験を行うことができた。

（４）食育を深める地産地消学習
　今年度はあらたに５年生で、JA の協力を得て大豆を教材に地産地消の学習を深めた。自分たちと食の関わりについて地域と結びついた農業学習で、社会科の農業とも関連を持たせ、農業および食糧問題を具体的な農産物で考える契機ともなった。
　また、特別支援学級では学級で育てた大豆を材料に味噌造りを行い、自分たちの手で食料を得ることの大切さや難しさ、そして喜びを体験的に学んだ。

【田んぼの学校】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・コロナ禍による「三密」防止で体験学習や授業時数の制限があった中、3 年生の社会科「まち探検」はドローンの学習利用で町の特色を直感的に知ることができ、なおかつ授業時数短縮を図り効率的に行うことができた。
・見学先（西堀栄三郎記念探検の殿堂）でのコロナ禍による規制で見学が難しく、インターネット閲覧による事前の調べ学習に重点を置き、時機を得て本見学を行い、深化を図った。
・５年生では総合的な学習の時間に「田んぼの学校」を位置づけ、米の収穫後の調理実習や協力者への感謝会などを総合的に進めていたが、今年度はその多くができず教員で炊いたご飯しか食べられなかったのは返す返すも残念であった。

■　事業の成果
・ボランティアや各種事業体の協力により地域と学校が結びついた学びを進め、学校の取り組みへの関心を高めることができた。
・地域教材や地元産業に根ざし学習を進めることで、知識から知恵、生きる力へと学びの質を高めることができた。
・学校教育でのドローン利用により学習効果をあげた。また、メディアの取材もあり地域への学校教育内容の紹介ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・ドローンでの校区探検はビジュアルに理解ができ、今後、隣接の学校にも広めたい。またその教育利用の可能性を探れるとよい。
・各種団体とのつながりを見つけ、読書ボランティアの増員など各ボランティア拡大のアンテナを張っていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　各教諭　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進委員　）

育てよう湖二っ子！（ありがとう　素直な気持ちを大切に）

東近江市	湖東第二小学校 地域学校協働本部	湖東第二小学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進委員：１人　ボランティア登録数：38 人
■学習支援員（授業補助、学力補充）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）
毎月第２・第４火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。10 年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。

②音楽ボランティア
入学式や卒業式の伴奏や合唱練習に参加していただいている。

③茶道・華道
６年生の総合的な学習で、日本の伝統文化を学ぶ時間として、華道の先生を招き、指導していただいた。生けた花を「湖二っ子フェスティバル」の会場に展示し、保護者や他学年の児童に見ていただいた。

④夏休み宿題教室
長期休業中の学習支援として、平成 29 年から宿題教室を実施している。地域の社会人や大学生、高校生に協力を得て、学習支援を行う。

【　計算ボランティア　】

【　夏休み宿題教室　】

■　実施に当たっての工夫
・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
・保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用

■　事業の成果

①学習支援ボランティア
・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・子どもの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっており、保護者の喜ぶ声もある。
・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー
・学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
・地域の方からは「子どもたちに分かる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

③環境ボランティア
・数年来、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアさんの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。このことも長年取り組んできた成果であるといえる。

④地域とともにある学校づくり
・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組もうとする気運も高まっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
（湖東第二小学校）　http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教　頭　）

子どもの「まなび」を地元発見につなげよう！

東近江市	湖東第三小学校　地域学校協働本部	湖東第三小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：27 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校協働活動推進員等　□行政　□その他（　　　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（1）まち協歴史文化プロジェクトと連携して、２年生の生活科「まち探検」を「清水芋掘り体験」を組み込んだ「まち探検」とした。
（コロナ禍での秋の芋おこし体験のみ急遽実施した。）
同地区の実施であるので、昨年に続いて、案内役にまち協歴史文化プロジェクトのメンバーが加わった。
（2）本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施するなど、熱心な取り組み状況である。昼休みに定期的に発表活動をしているが、「三密回避」のために学年ごとの実施とした。「朝読書」には、一般の読書ボランティアも巻き込んで毎月「読み語り」も実施した。中学校への広がりも続いた。
（3）伝統の花壇づくりを継承すべく園芸ボランティアが三年目を迎え、児童にも活発な活動を生み、成果も現れた。
（4）１年生の「秋みつけ」で、今年度も「すこやかの森グランドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導などもお世話頂き、さらに深みと広がりのある活動になった。

【清水芋掘り体験】

【あめんぼ活動読み語り】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○年度当初の自宅待機によって今年度の「三年まち探検」は全面的に中止したが、年度当初「読み語り」において、放送による録音での実施を試みた。
○６年生の歴史学習で、地域学校協働推進員が、今までの「まち探検」の振り返りと古代渡来人と「愛知井」のことを絡めて、ゲストティーチャーとして関わった。
○６年生の平和学習（歴史学習）で、この地域の昔の写真やその他の戦時中の写真などを提供して、出前授業に至るまでの学習に厚みを持たせる資料提供と、打合せを行った。疎開時代の経験を語るゲストティーチャーを今年度も招聘しての授業につなげることができた。
○一昨年度末から発行を始めた地域コーディネーター通信を今年度も月刊で発行した。
○６年生の「キャリア教育」において、新たに「協和工業」社長の協力を得て実施できた。

「愛知井」とともに

【『愛知井とともに』
校区に回覧で配布】

■　事業の成果
○読書ボランティアやその他のボランティアなどが、かねてから登録していただいている方の紹介でさらに新たなメンバーが加わり、複数の活動（学校周辺の危険箇所の点検と整備）へと広がりを見せた。
○担任とコーディネーターが連携することで、取り組みに緻密さも生まれ、今年度の「生活・社会科の研究」に深まりが生まれる一助となった。さらに、「まち協」歴史文化プロジェクトとの連携も生まれて広がり（小田苅・長地区観光案内『まち歩き』）を見せた。
○１年生の生活科では、「秋みつけ」で、「湖東地区グランドゴルフ連盟」との連携が続き、今年もすこやかの杜での活動ができた。
○『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなり、近くの「こもれび『小田苅家』」での「あじさい食堂（子ども食堂）」への参加者も徐々に増え、連携を深めている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動の工夫や展望
○コーディネーターと各担任の連絡調整には放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。
○「こもれび『小田苅家』」での活動と地域での活動を有機的につなげ、さらに深めるために、放課後や土曜日の活動のルール作りを模索していかなければならない。

■　その他
○まち協子育て支援プロジェクトとの連携も模索している。体育運動ウェア・楽器等の交換会の実施などが行われている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　■地域連携担当職員　■その他（担任・労務員等）

報告書記入者　（　地域学校協働活動推進員　）

子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～

東近江市	能登川東小学校 地域学校協働本部	能登川東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：70人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【環境整備】

ボランティアさんからの提案で、校舎内外の環境整備を行っている。例年に引き続き、ミシンのメンテナンスを行ったほか、今年度は能登川中学校のボランティアとも協力して、前庭の剪定作業を行った。

【　前庭の環境整備作業　】

【ゲストティーチャー】

人から直接学ぶ学習や交流体験学習を大切にしている。６年生のキャリア教育では、地域の薬剤師さん、大工さん、保健師さんから学ぶことができた。身近な方から働くことの大切さを教えていただくことができた。３年生では地域で働く農家の方からお話を直接していただき、自分の住む地域の農業の様子を学ぶことができた。

【駐車場整理】

運動会にかわる「体育の授業参観」は、密を避けるために分散で行った。駐車場の出入りが多かったため、駐車場整理を行った。

【　６年　キャリア教育　】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・今年度は、新型コロナウィルス感染防止のため、ボランティアと子どもたちが直接出会う活動は控えるようにした。子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりには今できることは何かを考えて、できることを少しでもしていくようにした。
・年度当初に各学年と打ち合わせを行い、１年間の見通しをもって、計画的に活動できるようにしている。
・推進員のネットワークやボランティアさんとのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げるとともに、お互いの交流を大切にしている。

■ 事業の成果

・今年度も、４名の方が新たに登録してくださり、ボランティアさんが計70名となった。なかなかいつも通りの支援活動はできなかったが、これから、コロナ禍でも、できるかかわりを考え、子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをしていきたい。

【　６年　能体験学習　】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校がめざす子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。
・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。
・人から学ぶことを大切にし、人とかかわる力・つながる力をつけたい。（教師も）

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして

東近江市	能登川西小学校　地域学校協働本部	能登川西小学校 学校運営協議会 :☐有 ■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：75 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　☐部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
■郷土学習　☐その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
☐行　政　■その他（地域教育協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

能登川西小学校区のコミュニティには、１世紀前からの「共生共育」の歴史があり、11 自治会と同窓会、教育推進会の関わりのもと、平成 16 年に西小学校区地域教育協議会が発足した。家庭や地域の教育力を上げるために、活動に賛同するボランティアの定例会から学校支援が始まった。「共生共育」の理念を受け継ぎ、学校の子どもたちが積極的に地域に関わっていくことで、地域と学校が連携・協働し「ふるさとを大切にする子」「地域社会に貢献できる人材」「将来の地域の宝」の育成をめざしている。

【外美化・花育の日】

●ふるさとを美しくする活動

本校は環境美化の取組を積極的に行っている。「外美化・花育の日」を定期的に設け、全校児童がグラウンドの草むしり等に汗を流している。また、学校ボランティアによる環境整備も盛んで、花壇の世話やグラウンド周辺の草刈り、学習田の整備やトマトの苗植え等の学習支援を自主的に行っていただいている。

「ふるさとを美しくする活動」は、全校児童による地域に向けての美化活動である。同じ登校班の児童が協力し合って地域の美化活動をすることにより、奉仕的精神と環境保全の意識を高めることを目的としている。

水曜日の集団下校時に登校班長はゴミ袋を持ち、班員が拾ったゴミを集めながら下校する。下校に付き添うスクールガードが、活動に加わることもある。この取組をとおして、児童は地域を大切にすることを体験的に学び、また、地域に対しても学校の取組をアピールするよい機会となっている。

【ふるさとを美しくする活動】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・年度当初に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配布し、学区の方々の理解と協力が得られるようにした。
・西小学校区地域教育協議会の定例会と、そのネットワークを活用し、さらに支援者を広げる努力をしている。ただし、定例会については、新型コロナウイルス感染症予防のため回数を減らし、密を避けるため会場を会議室から体育館に変更して開催した。

■　事業の成果
・地域学校協働活動推進員の取組により、持続可能な発展が期待できる事業となった。また、口コミで地域ボランティアの輪がさらに広がりつつあり、主体的に学校支援に関わってくださる方が増えてきた。
・人との関わりを通して、子どもたちの体験が「本物」の体験になり、ふるさとが好きになり、地域と自分の関わりを考えながら学校生活を送ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・これからも持続可能で発展する取組になるように、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（学級担任等）

報告書記入者（　教　頭　）

地域に感謝　子ども応援隊

東近江市	能登川南小学校　地域学校協働本部	能登川南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）芝生の校庭

平成 27 年６月に校庭が芝生化されて６年目となる。新型コロナウイルス感染症予防のため、制限のある中ではあったが、子どもたちは、休み時間や体育の授業時など、転んで大きなケガをすることはほとんど無く、安心して、思い切り体を動かすことができる。

管理面では、毎週水曜日の放課後、地域のボランティアの方で構成する芝生応援隊のみなさんを中心に、芝刈りや施肥をしていただいている。コロナ禍により、今年度は実施できなかったが、例年、ＰＴＡ事業として校庭を開放し、地域の方に芝生のグラウンドを楽しんでいただいている。

【　芝生の管理作業　】

（２）猪子山活動

本校は猪子山の麓にあることから、「身近な教材」として、全学年が年間を通して猪子山を利用した学習に取り組んでいる。その際、地域のボランティアの方には引率や、ゲストティーチャーとしても、度々お世話になっている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

地域学校協働活動推進委員の方を中心に、毎週水曜日の午後に、定期的に打合せを行い、可能な範囲でご協力をいただいた。今年度は、特に、３密になる活動は避けたため、地域の方との昔遊びやいきいきサロン等、室内での活動はできなかったが、サツマイモ掘り、猪子山活動、山路川調査、マラソン大会立哨など、屋外での活動を中心にサポートいただいた。

来校時には、マスクの着用や手指消毒等、感染症予防へのご協力もお願いしながら活動を行った。

【　山路川調査　】

■　事業の成果

コロナ禍により、実際に地域の方とともに活動する機会は、昨年度に比べて減ったものの、毎週の芝生管理作業やマラソン大会に向けての試走や本番での立哨等、大変な中でも、自分たちのために一生懸命活動してくださっている地域の方の姿を見て、子どもたちは感謝の気持ちを深めることができた。

また、登下校時や不審者情報が入ったときの見守り活動等、学校生活以外でも児童の安全面で配慮をいただき、非常に助けていただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの方は、地域でも様々な活躍をされている方が多く、今後、無理なく安定して活動を支えていただくためにも、新規ボランティアの方に入っていただく等、組織の充実を図っていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症が、今なお終息の見通しが立たず、拡大しているなかで、いかに地域と連携した活動を取り入れ、学習効果をあげるかが、今後の大きな課題である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学年主任）

報告書記入者（　教　頭　）

地域と共に歩む学校！ボランティアによる安心・安全の学習サポートと環境整備！

東近江市	能登川北小学校　地域学校協働本部	能登川北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：29人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○地域と学校が協働した活動
（1）学習ボランティアによる学習指導・学習支援
・総合的な学習の時間･･･ヨシ刈り体験での地域人材育成・郷土学習・地域学習引率補助（４年）
・総合的な学習の時間･･･福祉学習の地域人材育成（４年）
・社会科･･･米作り体験（５年）
・家庭科･･･ミシン・裁縫（６年）
・音楽科･･･雅楽体験（６年）
・総合的な学習の時間･･･ハウス野菜の土づくり・栽培（６年）
・学校行事（交通安全教室・マラソン練習と大会）サポート
（2）環境ボランティアによる校地内環境整備
・樹木の剪定や校地の除草、花壇の世話・水やり等、学校の環境整備を実施
（3）登下校時の児童の見守り活動
・登校時の安全ボランティアや下校時のお迎え当番の活動

【福祉学習】

【マラソン大会】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○４年目となる今年度は、学校の再開を見守りながら、新規ボランティアスタッフ募集の呼びかけのタイミングを図ったり、例年とは違った流れの中での参加の仕方を模索したりした。
○学習面でのサポートの機会が見送られた分、ＰＴＡ活動に加わっての剪定・計画的な除草作業等、校地内環境整備の活動の計画を試みた。

■　事業の成果
○学習ボランティアの専門的な指導や個別指導により、子どもが分かりやすく安心して学習に取り組むことができた。
○校外学習の引率や行事のスタッフに協力していただくことで、職員の負担軽減と安全安心の見守り体制の確保ができた。
○新規のボランティアの発掘とボランティア名簿の整理ができ、学習のサポート体制や環境整備の継続的な体制が整備できた。
○地域コーディネーターがボランティアとの連絡調整することで、担任の業務の負担軽減につながった。

【ヨシ刈り体験】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○これまでからある組織や連携事業を、今後いかに地域と学校の協働事業へと発展させていくのかが課題である。また、地域と学校が連携してどのような子どもを育てるのか、地域学校協働活動の将来のビジョンをどう描くのか等を話し合う機会を設定することが必要である。
○学校課題として、登下校の児童の安全確保がある。教職員やＰＴＡの活動だけでは、困難な状況にあり、今後は幅広く地域の方々の見守り体制を構築することが急務である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　担任・事務職員　）

報告書記入者（　校長　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	蒲生東小学校　地域学校協働本部	蒲生東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：26人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［ あかね通学合宿ボランティア ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材をいかしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、地域住民ならではの経験をいかしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施している。

今年度は、１年生の生活科「いちにのさんぽ」、２年生の生活科「学校周辺探検」、総合的な学習の時間では、３年生の「昔の生活体験」、４年生の「福祉シニア体験」「高齢者交流会」、５年生の「田んぼの学習」、他に６年生の社会科「あかね古墳見学」・理科「地層見学」などへの支援をしている。

【１年生　いちにのさんぽ】

■　実施に当たっての工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続してる。「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けている。

毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合っている。また、２～３か月先を見通して参加者を募っている。今年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の対策として、１学期は、活動が止まっていたが、９月より外での活動から、徐々に再開してきた。感染リスクが大きい活動は実施を見合わせるものの、感染症対策がしっかりとれる活動については、できる範囲の中で実施してきた。

■　事業の成果

地域の方々の専門性や技能を生かした支援や安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができた。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっている。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能にふれたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができている。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動している。

【４年生　高齢者交流会】

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっている。

恒例となっている活動への支援については、参加されるボランティアの方々が内容をしっかりと把握して参加され、ボランティア会議で振り返りを行い、次年度の活動に生かすという流れができている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの参加や育成、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題となっている。毎月のボランティア会議への参加は難しいが、できるところで支援したいという方がおられると考える。広くボランティアを募集できるシステム作りが期待される。

【５年生　たんぼの子　脱穀体験】

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　校　長　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。

東近江市	蒲生西小学校　地域学校協働本部	蒲生西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：28人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。

（２）「田んぼの学校」や「総合的な学習の時間」の取り組みでは、学校支援ボランティアに協力してもらい、学習指導をおこなっている。
「あかね防災キャンプ」は、コロナ禍でも防災型宿泊体験として６年生を対象に実施した。
また、地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業をおこない、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。

【防災キャンプ　煙幕体験の様子　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○今年度より学校支援ボランティアを広く地域に募集し、応募いただいた方を中心にボランティア活動を推進した。ボランティア会議をもち、活動の予定や活動内容の紹介、ボランティア同士の自己紹介を行った。これまで関わりが限定的だった方も、（スクールガードはスクールガード、図書ボランティアは図書ボランティアのみの活動ということが多かった）、広く学校支援の活動に参加いただける形にした。

○コロナ禍においても感染防止対策を行い、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。

【地域の森の保全活動を見学　】

■　事業の成果

○地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。

○あかね防災キャンプでは、コロナ禍でも感染防止を意識した防災訓練ができ学びが多かった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○ボランティアの方の高齢化による負担感があるため、保護者にもボランティア活動への参加を呼び掛ける。

○今年度地域にボランティアを公募したことを継続して、安定的な人材確保に努める。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

コロナ禍における避難所生活を体験しよう

東近江市	蒲生北小学校　地域学校協働本部	蒲生北小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：63人（SG56、図書５、その他２）
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　■その他（蒲生地区まちづくり協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

あかね防災キャンプ2020

【　新聞紙で作ったスリッパ　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

東近江市防災危機管理課による避難所体験の指導
蒲生地区赤十字奉仕団による防災食の指導と協力
社会福祉協議会による福祉体験学習の指導

【防災危機管理課の指導で居室作り】

■　事業の成果

児童の防災・減災意識が高まった
児童が仲間と協働することの楽しさを味わった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

例年は通学合宿を実施しているが、今年度はコロナ禍でもあることから、
感染予防対策を徹底したうえで、防災キャンプを実施した。
次年度以降は、通学合宿を実施したい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

次年度からコミュニティ・スクールを立ち上げ、地域との協働を更に進めたい。

【　初めて食べる防災食　】

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域に根ざし、地域と共に育つ学校の創造を目指して

東近江市	玉園中学校　地域学校協働本部	玉園中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：15人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　　　　　　　）

【　八風太鼓練習風景　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）玉園フェスタにおける八風太鼓の演奏
・御園地区の八風太鼓を、３年生の玉園フェスタ活動の一部に加え、地域の方に指導をしていただき、地域文化を広め、地域の良さを確認する。
地域で八風太鼓を習っている生徒が、他の生徒に太鼓の演奏を指導することで、より地域との関係が深まった。
また、地域の先輩に指導を受けることで地域における縦のつながりが深まりつつある。

（２）部活動（ソフトテニス、水泳、吹奏楽）の指導において、専門的な技術指導をしていただいている。

（３）性教育や薬物乱用防止、がん教育の授業など、専門的な知識を持ち合わせている地域の教育機関（大学等）の専門家を招聘して授業をしていただく。（本年度はコロナウイルス感染症予防対策として全ての事業を中止）

（４）平和学習においては、愛東地区の県立平和祈念館のスタッフにお願いして、地域に根ざした平和学習を展開している。（２月に実施予定。）

（５）地域の文化祭に生徒作品を展示し、学校での学習活動の成果を地域の方に見て頂く機会とした。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○地域のコミュニティーセンターとの連携をより深くする。

○校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘につとめる。また、びわこ学院大学等へボランティアのニーズを積極的に発信する。（今年度は、コロナ禍により事業が中止となった。）
今後は、リモート環境を整備し、リモートによる講演などを企画していく必要がある。

○学校だより、ＰＴＡ広報等を通じて、保護者、地域に発信をしている。
本年度は、感染症対策として生徒の活動状況や発表の場を地域の方や保護者に見学いただく機会を持てなかったため、学校ＨＰの活用や、三者懇談会の待ち時間にビデオ上映を行うなど例年にない対応を行った。

■　事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏取り組みは、四年目を迎え定着しつつある。地域の文化と学校の融合、中学校と地域の関わりを築いている。

○部活動指導においては、生徒が専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域の自治会の高齢化や子供会や自治会の廃止など、地域活動の維持が難しくなりつつある。コーディネーター的人材の発掘もだんだん困難な状況となりつつある。この状況下で、御園小・玉園中で地域文化の継承として「八風太鼓」の取り組みは、とても大切な要素を含んでおり、指導者・継承者の引き継ぎを支援していく取り組みにつながる。その意味で、文化祭等での太鼓演奏は必要不可欠であり、今後益々コミュニティーセンターとの連携が重要と考える。

○今後の「連携・協働」を視野に入れると、学習支援などの単なるボランティアではなく、学校と地域がひとつのものを創り上げていく活動を創造することが必要である。生徒全体の活動よりも、生徒会委員会、部活動などの単位が地域と共に活動することによって、地域が活性化するような取り組みを創造することを展開していきたい。

【　玉緒コミセン作品展示　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員

□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　校　長　）

Ⅲ　地域学校協働本部の実践事例

地域とともに活動する聖徳中学校

東近江市	聖徳中学校　地域学校協働本部	聖徳中学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：56 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
①　図書ボランティアによる読み語り活動を 10 月から再開いただいた。
②　環境ボランティアさんによる道路に面した植え込みの除草や剪定をいただいた。
③　朝の挨拶運動に参加いただいた。
④　職業講話をしていただくための人材の発掘

【　環境ボランティア　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
学期に数度、運営会議をいただきどのようなことを今年度実施できるか協議いただいた。特にコロナ禍でも有り、読み語りで飛沫防止を少しでも行うためワイヤレスマイクと小型のスピーカーで対応していただいた。
また、環境ボランティアでは、土曜日に活動いただいたことも有り、生徒とのソーシャルディスタンスにも心がけていただいた。

【　読み語り　】

■　事業の成果
①　読み語りは、落ち着いた雰囲気の中で実施することができた。地域の方に中学生の様子を見ていただく機会になり、聖徳中学校の現状をお知らせすることが大変よかった。
②　環境ボランティアは、土曜日の授業日に実施されることが多く、生徒が地域の皆様が本校のために頑張ってくださっている姿を見て、感謝の言葉をかけることができた。
③　特に土曜の登校日の朝に挨拶運動に来てくださり、生徒を励ましていただいたことが大変有意義であった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
①地域の要望と学校での活用をうまく連携させること
②様々な要望にあった人材の発掘
③運営会議の定例化

【　職業講話打ち合わせ　】

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（部活顧問、事務職員　）

報告書記入者（　校　長　　）

『力いっぱい！心いっぱい！』地域とつながろうプロジェクト　～チーム船岡～

東近江市	船岡中学校　地域学校協働本部	船岡中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成24年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：５人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
＝地域に見守られて＝
（１）図書室開放隊：新規
本校では毎週月・水・金曜日の昼休みに図書室を開放している。生徒会の担当者が図書室の鍵を解錠・施錠を行っている。そのため、20分間の昼休みの内、運営できているのは10分程度である。そこで、本年度から地域の力をお借りして、図書室の解錠・施錠を行っていただいた。
（２）部活動支援の実施
昨年に引き続き、本年度も女子バスケットボール部、男子ソフトテニス部に対して、外部指導者に継続して指導を行っていただいた。
（３）その他
・英語授業で使用する教材（パンプキンなど）の調達。
・２年生で実施していた職場体験学習が中止となった。そこで、地域の方数名をゲスト・ティーチャーとし、働くことについて学習を行った。

【　図書室開放の準備　】

【　部活動指導　１　】

【　部活動指導　２　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
（１）・コロナ感染を配慮し、現在は、解錠・施錠が中心の動きで、生徒との距離をおいている。今後は、貸し出しなども行い、生徒との交流を予定している。
・図書室の担当教員とボランティアさんが、連携を密にすることで、昼休み時間等の変更に対応する。
（２）・コロナ感染防止のため、活動日や時間等の変更が多かったため、担当教員との連携を密に行った。

■　事業の成果
（１）昼休み時間20分を有効に活用することができ、開放時間が増えたことで生徒からの喜びの声も多い。
（２）競技専門者からの指導は、生徒の部活動に対する取り組み姿勢に向上心をもたせることにつながった。
（３）学校だけでの行動・取組よりも、学習内容に深み、高まりがある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
コロナ禍の中、昨年までできていた地域交流（祭り、運動会、文化祭など）が中止となった。そのため、自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な活動に取り組み、参画することで、「自尊感情の育成」につなげることができなかったことが残念である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
《 船岡中学校ホームページＵＲＬ 》http://www2.higashiomi.ed.jp/funachu/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域と学校が協働し、自然豊かな環境の整備を通して、持続可能な環境づくりを推進する。

東近江市	永源寺中学校　地域学校協働本部	永源寺中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：４人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　□地域学校協働活動推進員等
　□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
校地内環境整備
〇本校の労務員が日々精力的に校地内の樹木を伐採・剪定している。
〇本校の職員が校地内を整備していることを校長より地域の方に発信し、つなぎ役になる。
〇地域の方の動きは次の通りである。
・学校評議員会の方が精力的に、ボランティア除草活動を実施してくださった。
・ＰＴＡ役員の方を中心に、有志の方々がボランティア除草活動を実施してくださった。
・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）のコーディネートにより、校舎周辺の成長した樹木の剪定や伐採など、学校だけでは対応できない部分でご協力いただき、見通しの良い校地になった。
・地域の方で自主的に校地まわりの除草作業をしてくださっている方がおられる。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・日頃より、管理職と労務員・事務職員、地域学校協働活動推進員が連携し、校地内の環境整備を話し合い、労務員が主に整備をしている。学校の内外にむけて、校長より情報の発信をしている。
・活動の実施に際して、コロナ対策を含め、事前の打ち合わせを丁寧に行った。目的の共有や、配慮を要すること、当日までの準備等について具体的な打ち合わせをすることで、充実した取り組みとなった。
・企画の段階から、できるだけ学校と地域の両方に有益なものとなるよう配慮している。

■　事業の成果
〇学校の教職員のみでは円滑に行うことができない活動を行うことができた。特に広い校地内に生い茂っている樹木のなかには、立ち枯れしていて危険なものや、校舎に接して光を遮ってしまうものがあるため、技術や機械が必要なため学校だけでは処理することができなかった。
〇ボランティアの皆さんのご協力を得るとともに地域の方もご協力いただき、地域に育まれている学校という意識が生徒と職員に育っている。

【　校地内環境整備１　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇生徒の学校生活（授業や部活動など）との日程調整が難しかった。
〇20 年以上前に植えられた木が育って、素人には手が付けられなくなっていることから、今後もボランティアさんの協力を得ながら環境整備を継続する必要がある。
〇生徒数の減少により学校職員の数も減り続けることから、持続可能な環境づくりを考えていかなければならない。

【　校地内環境整備２　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　□教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　校　長　）

ふるさとのよさとつながりを感じる地域との連携（五個荘中学校）

東近江市	五個荘中学校　地域学校協働本部	五個荘中学校　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務○人）　ボランティア登録数：16人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　■地域学校協働活動推進員等
　□行　政　■その他（　市商工会五個荘支部　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
①部活動支援
　剣道部の指導をお願いしており専門的な技術をはじめ、礼儀・作法等も指導をしていただいている。生徒たちはたいへん意欲的に取り組んでおり、本年度は交流戦として行われたブロックの大会において個人戦で好成績者を出し、団体戦でも女子が２位になるなど、よい結果につながっている。

【　剣道部での指導の様子　】

②学校行事支援（メモリアル花火）
　今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの行事や活動が中止・見直し・縮小を余儀なくされた。特に３年生においては修学旅行や部活動の締めくくりなど、本来ならば中学校生活の集大成としての活動ができなかった。そのことを知った商工会五個荘支部の計らいで本校３年生と五個荘小学校６年生のために「メモリアル花火」事業を企画していただいた。準備段階として商工会事務局と地域学校協働本部長である本校校長が綿密に連携し、その指示のもと関係教員、PTA 役員が準備並びに当日のスタッフとして参画した。この企画は卒業する３年生や保護者にとって大きな思い出と励ましとなり、生徒たちからも「とてもきれいで感動した」「社会全体が大変な時に僕たちのためにこんなことをしてくれて感謝します」との声があがっていた。今回の事業は年度当初の計画段階ではなかったものであるが、日頃の地域との結びつきを密にしていたことから実現することができた。

【　メモリアル花火とイルミネーション　】

③学校行事支援（タイムカプセル計画）
　３年生が卒業に際し、将来の自分に向けた手紙を書き、タイムカプセルに入れて埋設する。埋設にあたっては地域の方のボランティアにお願いしている。（３学期事業）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・部活動の支援にあったては管理職、顧問と指導者とが密に連絡をとりながら、指導方法や練習日程について調整を行っている。
・「メモリアル花火」については対象者を小中の最終学年に限定して密を避けるとともに検温や看護師の待機などで対応した。

■　事業の成果
　新型コロナウイルス感染症拡大の影響で様々な活動が制限された一方で、この状況下で学校が地域と連携し何ができるか、何を発信できるのかを考えることができた。教職員をはじめ、生徒や保護者が「世間よし」の精神のもと地域に育くまれていることを実感できた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　例年取り組んでいる図書館開放支援ならびに朝読書時の読み聞かせボランティアの活動が新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応として今年度は実施できなかった。次年度に向け、密を避け安心・安全の環境の中で実施していく方法を模索していく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　五個荘地区は、「地域の子どもは地域で育てる」をキャッチフレーズに、青少年育成に関して熱心な地域であり、地域学校協働活動推進員をはじめ、多くの地域の方々に支えらながら、日常活動や防災学習等の行事に協力していただいている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
　■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	愛東中学校　地域学校協働本部	愛東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：７人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取り組み、施設等を知り、ふるさと愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取り組みを進めた。

（１）「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を全学年で実施した。
（２）生徒会のボランティア活動として、歩道の花植えなど、地域の環境美化活動を実施した。

【　生徒会花植えボランティア　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
（１）「総合的な学習の時間」の実施に関しては、事前に会議を開き、学校の情報と地域の情報を交流するとともに、感染症対策についても入念に打ち合わせをした。
（２）定期的にコーディネーターと校長が話し合いを持ち、学校の困っていること、地域が学校に望んでいることの情報交換を行った。
（３）１学期に校区の小中学校と校区の地域コーディネーターが集まり情報交換を行った。

【　１年 総合的な学習の時間　】

■　事業の成果
・全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただいたりすることができた。
・学校やＰＴＡ活動ではできない環境整備ができた。
・生徒も地域の一員としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・学校行事や部活動との関係から、日程調整が難しい。
・コーディネーターと連携し、また学校ＨＰ等で学校の活動について発信・周知し、部活指導やゲストティーチャーなどに携っていただける地域の人材を発掘していきたい。
・コロナ感染症の影響で、幼稚園・保育園・高齢者施設への訪問ボランティアなど、交流を伴う活動が実施できなかった。次年度の活動について、地域の感染状況に応じた調整が必要である。

【　外部コーチによる指導　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域と連携した学校づくり

東近江市	湖東中学校　地域学校協働本部	湖東中学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成29年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：12人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

■行　政　□その他（　　　　　　）

【　読書ボランティア　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）図書ボランティアによる本の読み聞かせを毎月１回行っている。
（２）ボランティアによる地域学習。３年生に、湖東地域の歴史や地理に関する説明をしていただいた。
（３）行政（青少年育成会・保護司会・ＰＴＡ）と連携し、登校時の見守りをしていただいた。
（４）部活動支援として、卓球・吹奏楽・バスケットボールの部活動で、地域の方による技術指導を行っていただいた。
（５）生徒の普段の活動では行うことが難しい樹木の手入れ等の環境整備をしていただいた。
（６）地域主催の行事に、中学生ボランティアとして生徒が参加する。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　例年は、湖東ふるさと祭り等のイベントへ中学生のボランティアが参加協力を行っているが、今年度はコロナ禍によりイベントが中止となった。そのため湖東地域のみに流れる有線放送で、地域主催の標語入賞作品を放送する等、できることで地域に協力した。

【　地域学習　】

■　事業の成果
（１）本の読み聞かせでは、穏やかな時間を過ごすことにより良い一日のスタートとなるとともに、読書活動への関心を高めることができた。
（２）地域学習では、自分たちの住んでいる湖東地域についての学びを深め、地域への関心を高めることができた。
（３）部活動の支援をいただくことで、技術面や精神面での生徒の良い成長につなげることができた。また、指導者が増えることで、生徒により細かな対応をすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
（１）生徒会を参加させることにより、地域と学校、生徒にとってより有意義な活動としていくこと。
（２）様々な技能をもつ地域人材の情報集約と協力体制の構築。
（３）開かれた学校を目指し、定期的な運営会議の開催等。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　校　長　）

地域コーディネーターを中心とした地域人材による学校・地域の環境整備

東近江市	能登川中学校 地域学校協働本部	能登川中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：19人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等

□行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

１　能登川地区まちづくり協議会が主催している、駅前に設置されているプランターの花植活動に、例年、本校生徒も参加しています。
　花植は春と秋の２回行い、その後の水やりなどの世話は、生徒が当番を決め、学校への登校前に行っています。夏休みや冬休み中も欠かさず行っています。本校では、この取組を「フラ輪ー・プロジェクト」と称し、今では、生徒会事業の１つに位置づけ、引き継がれているイベントとなっています。
　一昨年から、この取組に地域学校協働ボランティアの方々も加わり、一緒に作業を行いました。その結果、地域学校協働活動推進員の提案により、この取組を中学生だけではなく、中学校区の小学校や高等学校にも呼びかけ、地域全体の取組に広げていく方向で進行しています

【　駅前での花植活動　】

２　毎月、小学校、中学校の校地内の草刈りや樹木の剪定作業に来ていただいています。地域コーディネーターの呼びかけで、毎回５～６人のボランティアの方々に手分けをして草刈り、樹木の剪定のお手伝いをしていただきました。例年ＰＴＡ奉仕作業などでも校地内の環境整備をお願いしていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点より中止となり、環境整備をしていただく機会が激減した中、ボランティアの方々には大いに助けていただきました。

【　校地内での草刈・剪定作業　】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

　昨年から生徒会図書委員会が行う昼休みの図書室運営を図書委員会とボランティアの方々と協働していただいておりました。ただ、今年はコロナ禍の中、対面で行う活動もあるため、残念ながら活動していただけませんでした。次年度からの再開に向けて準備を進めていきたいと考えています。

■　事業の成果

１　まちづくり協議会と学校との間に、地域学校協働活動推進員が入ったことで、きめ細かな打ち合わせが効率的に行えた。
　また、中学校だけの協力体制から小学校や高校を巻き込む事業へと広がりを見せた。
２　新型コロナウイルス感染症等まん延防止の観点より、ＰＴＡ奉仕作業など学校の環境整備をしていただく機会が激減する中、地域コーディネーターをはじめ、ボランティアの方々には大いに助けていただきました。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校行事の中でボランティアさんにどのようにかかわっていただくかを検証すること。

○ボランティア活動とは言うものの、消耗品等の購入予算がないこと。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の力で豊かに育まれる蒲生の子どもの笑顔

東近江市	朝桜中学校　地域学校協働本部	朝桜中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：２人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
部活動支援
・外部コーチ（協働活動支援員）の方に来校いただき、剣道部とサッカー部の指導をしていただいた。
地域人材育成
・近隣の社会福祉施設の窓に美術部が制作したウインドーアートを設置する際に、地域学校協働活動推進員に立ち会っていただいた。

【地域学校協働活動推進員に立ち会っていただいたウインドーアートの設置】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・協働活動支援員による部活動の指導においては、指導時におけるマスクや専用フェイスシールドの着用等の感染防止対策の実施をしていただいた。
・感染予防を考慮した練習メニューを作成いただき、指導を行っていただたい。
・地域学校協働活動推進員に立ち会っていただく際は、マスク着用などの感染防止対策をしていただいた。

【剣道部の指導の様子その１】

■ 事業の成果
・優れた指導により、技術面・精神面において、生徒の能力が向上した。
・地域学校協働活動推進委員の働きによって円滑に、地域と連携した取組を進めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・指導の時間がさらに確保できると望ましい。
・働き方改革を踏まえて、さらに多くの部活動において同様の指導が実施されることが望まれる。
・地域学校協働活動推進員の方とは、今後コロナ禍にまつわる様々な課題について指導や助言及びご協力をいただいていきたい。

【剣道部の指導の様子その２】

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　部活動顧問　）

報告書記入者（　教　頭　）

One Team 柏原　「はびろの里コミュニティ」

米原市	活動名　：柏原学区学校協働本部	柏原小学校・中学校　学校運営協議会■ 有 □ 無 柏原こども園　学校運営協議会□ 有 ■ 無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務２人）　ボランティア登録数：40人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校協働活動推進員　□行政　■その他

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
小中連携・児童生徒の交流の促進
・柏原小学校のはびろウオークラリーに中学生も参加
　小中学生の交流と地域全体で子どもを見守ることを目的に、柏原小学校の全校児童と中学３年生が９つの班に分かれて約5.5キロのコースをクイズやジャンケン大会をしながら回った。地域学校協働活動推進員の方とボランティアの方に安全パトロールを担当してもらった。この計画の立案にあたっては、下見から学校運営協議会委員の方々にも参加いただき協力してもらった。

【はびろウオークラリー】

・「はびろイエスタディ週間」

　柏原こども園、小学校、中学校で、学習強調週間を設け同じ時期にそれぞれの校園で家庭学習に取り組んだ。柏原こども園では、家での読み聞かせ、小学校では「ラインズ」、中学校では定期テストに向けての自主学習ノートの取り組みを中心に家庭学習を推進した。学校運営協議会が作成している「わいどりーぶす」という地域広報誌に掲載し柏原学区全体にも取り組みを紹介した。

【中学生とジャンケン大会】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・小中合同のはびろウオークラリーでは、コロナウイルスの感染防止対策として大人数を避けるために中学生の参加を３年生のみとした。しかし、全校で雰囲気を盛り上げるために「One　Team 柏原」をイメージした缶バッジを一人ひとりが製作した。当日は、帽子に１，２年生が作った缶バッジも付けて３年生が参加した。
・コロナ禍で家で過ごす時間が増えていることから、「はびろイエスタディ週間」を小中だけでなくこども園にも広げそれぞれの発達段階に応じた家庭学習を推進できた。

【中学校　全校缶バッジ製作】

■　事業の成果
　こども園、小学校、中学校の連携および地域との連携の要として、この事業を展開することで地域全体の風通しがよくなり、課題や成果が把握しやすく、同一歩調で取り組みを進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
　コロナ禍での対応が今後も続きそうなことから、臨機応変に活動計画を変更できる組織作りが必要である。また、このような状況を踏まえた新たな計画を模索しなければならない。そのために、学校運営協議会と連携し情報の共有や熟議が重要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　本来は、こども園はコミュニティ・スクールには参画しないが、柏原区では従来から連携をしており今後も子ども園と小･中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。

■コーディネーターと協同する学校関係者（該当するすべてに■印）
■　校長　■　教頭　■　地域連携担当教員　□その他（　　）

報告書記入者　（　校長　）

『子どもは地域の宝』～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名　：　河南学区地域学校協働本部	河南小学校、河南中学校、学校運営協議会　：　■有　□無 かなん認定こども園　　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成27年度　　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務２人）　ボランティア登録数：90人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　■その他（河南学区学校運営協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
本学区は、中山道の醒井宿と番場宿を含む宿場町であった地域のため、歴史や文化の史跡が多く、小中学校ともに地域学習に取り組んでいる。その活動は地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また、小学校での「ふれあい広場」では、地域サロンの方々にご協力いただきながら実施している。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○講師やボランティアはできるだけ河南学区に在住の方々にお願いするようにと、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。
○本年度は「河南学区教育フォーラム」が新型コロナウイルス感染症対策のために中止となったため、地域学校協働活動推進員が活動内容を広報にまとめて、学区内の全戸に配布した。

【 河南小学校　ふれあい広場 】

■　事業の成果
○新型コロナウイルス感染症予防のためかなん認定こども園が休園中に本の整理をすることができた。また、「おたのしみ会」で本の読み聞かせができた。
○河南小学校の「ふれあい広場」では、地域のサロンの方々にご協力いただいた。折り紙や竹とんぼ、将棋、カロム等で地域の方々と楽しいひとときを過ごすことできた。
○河南中学校の家庭科のミシン縫いの授業には、教員１人ではなかなか目の届きにくいところを、数名のボランティアに学習支援をしていただくことができた。
３学期には、国語科の書き初め会や音楽科の和太鼓教室に、その道に長けた地域の方々に学習支援をしていただく予定である。
○河南学区学校運営協議会が主催の「まいばら教育フォーラム in 河南 2020」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったが、地域学校協働活動推進員が本年度の活動を広報にまとめて、地域住民に広く周知することができた。

【 河南中学校　家庭科学習支援 】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が校園長に偏りがちなところがある。
校園の校務分掌で「地域連携担当者」にその職務をしっかりと任せられる校内体制をとらなければならない。
○中学校では学校教育目標の重点目標に「地域を愛し、地域から愛される学校」を掲げて、地域からの支援だけでなく地域行事等へのボランティア活動を推進している。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため地域行事等も自粛されてボランティア活動が少なかった。今後も進んでボランティア活動への呼びかけを進めたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
昨年度から小中で連携して「河南学区学校運営協議会」を立ち上げている。今年度は「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱい挨拶いっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」の３本柱で事業の推進を図っている。学校運営協議会委員には地域学校協働活動推進員も加わって、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働活動推進事業の一層の連携を図っている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ふるさと伊吹　ふるさとを愛する心を育てる地域協働活動

米原市	活動名　：　伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校　春照小学校　伊吹小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 いぶき認定こども園　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成29年度　　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：60人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　　□その他（　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）いぶきフェスティバル
伊吹小学校の学校運営協議会と連携・協働して「いぶきフェスティバル」を計画・実施している。この取組は前半を生活科や総合的な学習の時間を中心とした学習の成果を発表する児童の部。後半を学校運営協議会の皆様にお世話になり、「わたしたちの伊吹山」「ホッケーの町いぶき」など、伊吹の伝統や文化を学ぶ地域の部の２部構成で行った。どちらの部も、地域の特色や伝統・文化に関わる取り組みに直接触れ合う機会を通して、地域についての理解を深め、地域のよさや課題を発見する機会となっている。

【地域学習　わたしたちの伊吹山】

【地域学習　ホッケーのまちいぶき】

（２）環境整備・栽培ボランティア
自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草作業が大変であることから地域コーディネーターが中心となって、地域の有志者に声をかけていただき、複数回校地の除草作業等を行った。また、地域の人と児童・生徒が協働し、花壇やプランターに花の植え付け等の栽培活動を行った。このように、季節ごとに花が咲き、整備された美しい学校環境づくりに貢献していただいた。

（３）伊吹地区教育フォーラム
伊吹中学校区では、毎年、園及び小中連携事業の一環として、校種を超えて教員と地域がともに学び合う「伊吹地区教育フォーラム」を実施している。今年度は「地域と学校でともに子どもを育てていこう」というテーマにそって伊吹小学校の授業公開と、各校園のコミュニティ・スクールの取組実践交流を行う予定であった。しかし、感染拡大を受けて大人数が集うことができなくなったため、紙面による実践交流を行うこととなった。コミュニティ・スクールの仕組みとともに、各校の主な実践で構成し伊吹地区全世帯へ配付した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・感染防止のための環境整備や、消毒作業等、計画段階から児童・生徒が安全に活動できるよう検討していただいた。
・学校行事の運営に対しても様々な助言をいただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域と連携・協働した活動の中で、中学校区の園・小中学校の連携をさらに推進していく。
・地域コーディネーター、学校と地域を結ぶコーディネート担当の資質向上をはかり、学校・地域双方にとってよりよい活動になるよう仕組んでいく。
・子どもたちが、学校での学びを地域で活用したり、地域での学びを学校生活の中で発揮したりするなど、学校を含めた地域社会全体で子どもを育てようという意識が高まっていけるよう学校が主体となって地域に働きかけていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・各校の学校運営協議会同士の交流や、情報交換などを進められるとよい。さらに、こども園との連携が進められるよう配慮していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　□その他（　　　　　）

報告書記入者（　教　頭　）

米原を愛し米原に貢献できる生徒・児童の育成を地域とともに

米原市	活動名　：　米原学区地域学校協働本部	米原中学校　米原小学校　　学校運営協議会：■有　□無 まいばら認定こども園　　　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：（元号）平成28年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務○人）　ボランティア登録数：90人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等　□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）総合的な学習の時間での指導
　各学年の総合的な学習の時間に、地域学習として青パパイヤ・さつまいも・ネギ・生姜・大根・タマネギ等の栽培を行った。農業指導をされている方に来ていただき、畑をトラクターで耕していただき、農作物の植え付けや収穫の方法についても指導をしていただいた。中学３年生は、焼き芋の収穫祭を行う時に地域ボランティアの方５名に来ていただき、火起こしの方法等を指導していただいた。その後、生徒との交流をもつことができた。
（２）中学２年生職業体験学習での指導
　例年の職場体験学習が実施不可能なため、12月10日に地域ボランティアの方５名に来ていただき、モノづくりを実際に指導していただいた。制作物は、中庭で生徒や地域住民が交流するための机３基、椅子24脚、校舎内に花を飾る花台９台である。その後、収穫祭を行い、調理・試食を通して生徒との交流の場をもつことができた。
（３）生徒会との連携
　本校では、ラヴプロジェクトとして、福島県への支援や世界の恵まれない子どもたちへのワクチン接種のために、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行っている。その趣旨を理解していただき、各クラスのアルミ缶回収箱、ペットボトル回収箱を製作してもらった。今後は、イラスト等の装飾を生徒会や創作部で行う予定をしている。
（４）認定こども園
　庭園の環境整備、柵を制作
（５）小学校
　夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業
　児童や地域の方が交流をもつための机１基、椅子８脚制作

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・２名のコーディネーターをそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として分担し、学校との連携調整を密にした。
・中学校内に地域支援本部室を設置していることから、地域の方と接する機会が増え、コロナ禍における学校についても随時意見交流をすることができた。（２年生職業体験学習の方法についても意見交流を行い、実施することができた）
・本年度、中学校での夏休み親子愛校作業が、コロナ禍のため中止になったが、学校ボランティアの方で学校内及び周辺の草刈りを２日間実施していただいた。このようにコロナ禍であっても環境が整えられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・コロナ禍の中であったが、充実した活動ができているのは、地域コーディネーターの人柄と尽力による部分が大きい。この活動を持続発展的なものにするためにも、コーディネーターの役割を理解して行動してくださる地域の方がさらに増えてくれればありがたい。
・地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを学校とコーディネーターが連携し発掘していく必要がある。
・コーディネーターを含め、ボランティアの謝金は予算化されているが、多岐にわたる活動のため、不足の事態が生じている。また、食料費の予算措置がないので困っている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
　コミュニティ・スクールの指定を受け、３年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するうえで、両輪となりうまく機能している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域人材を生かした特色ある学校づくりの推進～中学校区の連携～

米原市	活動名：大東学区地域学校協働本部	大東中学校・大原小学校・山東小学校 学校運営協議会 ： ■有　☐無 山東幼稚園・大原保育園　学校運営協議会 ： ☐有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成29年度　　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務０人）　ボランティア登録数：30人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　☐学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　☐学びによるまちづくり
☐地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　☐地域行事への参加　☐ボランティア・体験活動
☐郷土学習　☐その他［　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
☐行　政　☐その他（　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○環境整備ボランティア
校地内の樹木の剪定や校地整備、除草作業やプール掃除等の環境整備に取り組んでいただいた。
○部活動支援
バスケットボール部で、専門的な技術指導をしていただいた。大会でもベンチに入り指導していただいた。
○学習支援
コロナの影響による臨時休業明け、家庭科の授業で生徒がマイマスクづくりをしたときに、ミシンの使い方等を指導するボランティアに授業支援をしていただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○「大東中学校教育フォーラム」として、中学生と地域の関係者が一緒に「ＳＮＳの使用」に関する講演を聞き、意見交流をする機会を計画したが、コロナウイルス感染防止対策のため、中学生のみでの実施となった。その他、計画していた授業公開・交流会も実施ができなかった。次年度改めて計画したい。

【　マイマスクづくりでの支援　】

■　事業の成果
○教員の働き方改革推進に大変有効であった。
○児童生徒の学習活動が充実した。
○地域の方に学校の教育活動に関心をもってもらったり、足を運んでもらったりするきっかけ作りとなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○人材発掘・人材確保を進めていかなければならない。
○学校と地域をつなぐコーディネーターの手腕がカギである。
○学校側としては、マンネリ化しない手立てが必要である。
○潤沢に使える予算の確保が必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○コミュニティ・スクール事業とのすみわけを明確にしておくことが必要である。
○地域の願いを踏まえて、地域とともに歩む学校づくりに寄与できるような取組としたい。
○学校にも地域にもメリットがある取組を推進していきたい。

【　学級園の除草作業　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　☐その他（　　　　）

報告書記入者（　　校長　　　）

地域の子どもたちの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名　：　双葉学区地域学校協働本部	息長小学校 坂田小学校 双葉中学校 学校運営協議会 ：■有　□無 おうみ認定こども園　学校運営協議会 ：□有　■無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動内容全てに■印

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　　）

【　６年生　雅楽鑑賞　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）読み聞かせボランティアによる読書活動
・毎月２回、朝読書の時間に各学級にて読み聞かせの実施・図書室の環境整備や図書館司書と協働した蔵書の登録
・２年生の近江図書館見学時の引率と見学補助

（２）地域の方に学び地域の方と学ぶ学習活動
・１年生（生活科）…昔遊び体験　６つの昔遊びを紹介いただき、子どもたちがそれぞれ体験する。
・３年生（社会科）…昔のくらし　60 代・70 代・80 代の３人の方から子どもの頃の生活や出来事のお話を聞く。
・５年生（家庭科）…ミシンの基本操作とナップザック制作　ミシン操作の補助をしていただく。
・６年生（音楽科）…雅楽鑑賞　神明神社の「紫雲社」さんによる雅楽を鑑賞し、楽器についての説明を聞く。
・５年生（総合的な学習の時間）…地域防災学習　自分の住む地区の防災について、現地で説明を聞く。
・６年生（総合的な学習の時間）…キャリア教育　２名の方から、仕事の内容や思いを聞く。

（３）学校内及び周辺の環境整備
・校舎周辺の草刈りと中庭の木の剪定等を実施

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○担任からの要望を学校担当者がとりまとめ、学習の目的の共有と補助内容について地域学校協働活動推進員と打合せを行った。その際に地域ボランティアに協力頂きやすいよう日程を早期に決定するようにした。
○事前確認の打合せと、事後の振り返りを地域学校協働活動推進員と学校担当者で行い、次年度に向けて改善点を挙げた。
○児童からのお礼の手紙等を通して、学んだことや感謝の気持ちを地域ボランティアの皆さんへ伝え、活動の様子は通信にして各家庭・地域に知らせた。
○感染症予防対策として、活動内容の見直しや変更、できる限り広い会場の使用、そして感染状況の変化に伴い変更や中止が必要な場合についても速やかな判断・連絡ができる体制をとった。

■　事業の成果

○図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来ていただき、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくださったことで、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。
○保護者や地域の方に学校に入っていただいたり、学校から地域に出かけたりすることで、地域とともにある学校づくりにつながっている。各ボランティアの皆さんは分かりやすく丁寧な準備や説明をしていただけるので子どもたちは安心感や満足感を得ながら学習ができた。
○専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習が充実した。
○子どもたちが活動する場所の木の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださるおかげで、安全で美しい学校環境づくりが行えた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○ここ２・３年継続した活動ができている。新しくボランティアを申し出てくださった方も含めて学習を継続していくことができるよう配慮する。
○より充実した地域学校協働活動となるよう努め、コミュニティ・スクール坂田小学校を支えていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　　　）

報告書記入者　（　地域連携担当教職員　）

地域との連携・協働を深め、児童の学校愛・地域愛を高める学習を目指して

日野町	活動名：日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学林を活用したやまのこ学習（第４学年）
先人の尽力により受け継がれてきた日野小学林の学習活動への活用が日野町林業研究会の方々の指導により実現できた。第４学年のやまのこ学習で、学林をフィールドに森林学習や散策等、充実した学習活動を行った。学習のまとめでは、体験を通じて課題を持った事項について調べ、グループ毎に紙上により発表した。

【学林でのやまのこ学習（第４学年)】

（２）町づくりへの参画を図る行政との連携学習（第６学年）
第６学年の国語科「町の幸福論」、総合的な学習の時間「幸福にくらすための町づくり、日野の歴史を学ぶ」の総合学習。体験学習では、地域ウォークラリーを行い、ボランティアガイドさん、施設関係者等から具体的に学ぶ。また、行政機関と連携し、統計情報等の提供をうけ、“将来の日野町”をテーマにICTを活用してプレゼンを行う。発表は町長や町議会議員、地域振興に取り組む方に行い、まとめとした。

（３）子どもの見守り活動
11月２日より新たに始まった（今年度は10回を予定)。月２回、校区在住の９名の方が児童昇降口であいさつを行っていただいている。回数を重ねることで、互いの顔がわかる関係となり、下校時の児童の見守りにもつながっている。

【これからの日野町についての提案（第６学年)】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
○事業の本格実施は２学期からとした。学習の意図、見通しだけでなく、感染症対策（会場、指導方法等）について相談し、依頼を行った。保護者に対しても、外部指導者、ボランティアによる学習活動について周知を行った。
○目指す子どもの姿や身につけさせたい力について共有するとともに、参画者の思い・願いについても受け止め、学習活動の質を高めるように意識した。

■　事業の成果
○これまで学習での活用ができていなかった小学校の学校林を活用した地域学習（第４学年での「やまのこ学習」）を初めて実施できた。例年PTA活動の一つとして学林整備作業を行っているが、保護者の作業意識の高まりや作業への児童の参加も見られた。
○国語科や総合的な学習の一体的な学習を通して、児童が“日野町”の未来について町長や町議会議員等に具体的に提案することで地域への愛着心を高められた。令和３年２月末に実施される地域ガイドボランティア講座に10名の児童が参加申し込みを行った。
○地域の皆さまによる昇降口でのあいさつ運動が11月から開始され、地域においても、お互いにあいさつができる関係がさらに増えてきた。保護者アンケートにおいても、あいさつに関する肯定的評価が５ポイント向上した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○参加人数や会場の都合により、例年１回実施の活動が複数回実施となる等参画者に負担をかけることがあった。協力していただく参画者は高齢者が多く、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、安心して協力していただける環境づくりが求められる。
○新教育課程の実施に伴い、各学年の学習素材（教科書）が変更された。その中で、新規に協力してくださる方をさがす必要があり、校区内のさらなる人材や教材の発掘が必要である。

【昇降口でのあいさつ運動】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○学校だよりだけでなく、ホームページにより学校の取組を広く発信している。
日野小ホームページ：https://www.rmc.ne.jp/hinosho-shiga/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

学校・家庭・地域の　きずな・つなぐ・むすぶ～

日野町	活動名　：　西大路地域学校協働本部	西大路小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）自立学習
支援学級の児童が、野菜を栽培している地域の方にお願いして野菜を分けてもらい、自分たちが育てた野菜と一緒にマルシェを開催した。地域の方にチラシを作って配布し、お客さんになってきてもらった。
野菜を分けてもらうお願いをしたり、野菜を売ったりすることで児童は人との接し方や積極性を学ぶことができた。
売上金で布製のエコバックを作り、独居老人宅へプレゼントし、達成感を味わうことができた。
（２）環境整備
昨年同様、長休みに児童が行っている除草作業に児童と一緒に除草していただいた。

【　マルシェの様子　】

■　実施に当たっての工夫
今年度は、新型コロナ感染に気をつけた計画と活動を行った。

■　事業の成果
今年度は新型コロナウィルスの影響で、地域の方と触れ合う活動は少なかったが、協力を呼びかけると地域の方は快く小学校に足を運んでくれた。昨年までの活動により、小学校に関心を寄せる方が増えているように感じる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
これまでを振り返ると、それぞれの活動が単発で実施されていることが多い。
地域学習では、教員や地域の方々と話し合いながら、１年生から６年生までの学習が総合的に結びつくような活動計画を立てていければと思う。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校運営協議会とは年に数回会議を持ち、様々な意見を交換して現状についてお互い理解を深めるようにしている。

【　運動場除草作業の様子　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員　■その他（　各学年担任　）

報告書記入者（　教頭　）

「なんぴが大好き」～地域の良さを学校に取り入れ郷土を愛する心を育てる～

日野町	活動名 ： 南比都佐地域学校協働本部 ふるさと絆事業（なんぴっこ支援事業）	南比都佐小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
南比都佐小学校区は、自然に囲まれた田園地帯が広がる地域にあり、地域住民の学校に寄せる期待は大きく協力的である。ふるさと絆事業を通して、地元の特産物を守り広めていく活動や近接する特別養護老人ホームとの交流、また、地域の歴史を学ぶ活動等で地域の方々に支援をいただいている。
本校の特徴的な活動として、地域の特産物である日野菜を地域素材とした学習に全校的に取り組んでいることがあげられる。年間を通じた日野菜栽培には専門的な知識と技能を必要とするため、「南比都佐地区日野菜原種保存会」の方に指導に来ていただいている。日野菜学習は子ども主体の探求的な学習をめざし、各学年の段階に応じた計画を立てている。また、子どものつぶやきや疑問を大切にして課題を設定している。
毎年秋には、各学年が育てた日野菜から特によいものを選び、植え替えを行う。次の年の春には植え替えた日野菜から種を取り、全校の種まきに使うほか、地域の方にも販売している。今年も多くの種を販売して地域の方々に喜ばれた。
このような日野菜学習を通して地域の人々と関わり、地域への関心を深め地域への愛着がもてるようになればと考えている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学校とふるさと絆支援員との打ち合わせは主に電話やメールで行った。また、地域の方が学校に来られる際には、マスク着用等の協力をいただいている。４、５月は学校休業中であったため、田植え等は地域の方の協力と職員作業で行った。
・毎年、日野菜を使った調理を全学年が行っているが、今年については調理活動に制限があるため、感染リスクが低い「エビづけ」の方法で調理を行った。

【日野菜の苗植え】

■　事業の成果
・地域の方との毎年の積み重ねの協働学習により、日野菜学習は子どもたちの探求的な学習として定着している。
・担任の声を集約することで、支援が必要な授業に地域の適切な人材にきていただくことができた。
今年度から新たに算数科でのそろばん学習の指導補助に地域の元銀行員の方が来て下さり、充実した学習ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・子どもたちの学習支援に必要な地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する体制をさらに充実させたい。
・今後のコミュニティ・スクールの本格的な導入に向け、学校と地域の在り方について研修に積極的にする等、先進事例を参考にしながら進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教員
□その他（　）

【そろばん指導補助】

報告書記入者（　教頭　）

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名　:　必佐地域学校協働本部	必佐小学校　学校運営協議会　:　□有　■無

地域学校協働本部概要
開始年度 : 平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数 : 1 人　ボランティア登録数 : 45 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　　　　　　）

【 3年「日野祭の歴史と祭り囃子のお話 」 】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（1）見守りあいさつ運動
・朝の登校時間帯に、地域の 18 団体で組織する「必佐小見守り応援隊」やＰＴＡ有志の皆さんが交代で校門付近に立ち、見守りあいさつ運動に取り組んだ。
（2）体験的な学習への支援
・実習などの指導や支援を経験豊かな方にお願いし、きめ細かな支援を必要とする学習でアドバイスや手助けなどの支援をお願いした。（家庭科のミシンや手縫いの実習、焼き芋、そろばん等）
（3）ふるさと学習支援
・日野町の特産品や伝統行事など、ふるさとをテーマにした総合的な学習や社会科で、地域の方に指導をお願いした。今年度は新たに日野祭についての学習で祭の歴史や曳山のお話を聞いたり、祭り囃子の演奏を聴いたりした。（日野菜学習・日野祭）

■　実施に当たっての工夫
・事業の広報とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業に対する理解と協力を得られるようにした。
・本事業の質の向上と改善のため、見守り応援隊の全体会議を年間２回行っている。
・学校のホームページで活動内容を広く地域へ発信している。

■　事業の成果
・見守りあいさつ（声かけ）運動を４年近く続けてきたことで、地域の方々と子どもたちのつながりが増してきた。子どもたちからもあいさつができるようになってきた。また、元気にあいさつをするということだけでなく、子どもたちの登校のリズムが整ってきて、スムーズに学校生活のスタートを切れるようになってきた。
・昨年度から民生委員会、日赤奉仕団など、子どもの生活に関わる 18 団体を「必佐小学校見守り応援隊」として組織化した。そのことで見守りあいさつ運動の他、学習ボランティアや支援者として参加してくださる方も増えた。
・ボランティアの方々が適切に支援をしてくださるおかげで、子どもたちは技能を習得できただけでなく、「苦労したけどいいものができた」という達成感、満足感を味わうことができている。
・たくさんの方に支援してもらえることで、教師は積極的な学習計画を立てることができ、地域教材や人材を活かした授業づくりに努めるようになってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・見守り応援隊の方々を中心にボランティアや指導者をお願いしているが、地域にたくさんおられる適任の方がまだ把握できていない。今後も引き続き人材の開拓に努めていく必要がある。
・指導者（担任）の願いや指導方針を尊重しながら、若い先生の経験にもなるように、活動推進員からの提案も織り交ぜながら打ち合わせを綿密に行う必要がある。

【　２年「焼き芋」　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・支援ボランティアの活動だけではなく、学校運営の様子や子ども達の学習の様子を右に記載のＵＲＬで紹介している。　https://hissa.shiga-saku.net
■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　□その他（　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

桜谷の子どもでよかった ～地域の温かい支援で学校教育活動をより豊かに～

<table>
<tr><td>日野町</td><td>活動名 ： 桜谷地域学校協働本部
愛称：桜谷学区ふるさと絆事業（さくらっ子事業）</td><td>桜谷小学校　学校運営協議会 ： □有　■無</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：14人　ボランティア登録数：100人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　］</td></tr>
</table>

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
□行　政　□その他（　　　　　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
運動会の団体演技指導：4･5･6年が、運動会の団体演技で江州音頭も取り入れた「地域ダンス」を創作し踊ることを計画した際に、地域の方に江州音頭の由来等をお話ししていただき、そのことを踏まえてダンスを創り上げることができた。後日、子ども達の手紙には、「地域の江州音頭の由来などを教えていただいたことで、思いをこめた創作ダンスができあがって、かっこよく踊ることができた。」という感想がつづられており、それを読んでくださった地域の方からも、「あんなに見ていて感動するダンスを創り上げてくれて、お話ししたかいがありました。」という言葉をいただいた。

【　運動会団体演技　】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
ボランティアとして参加されるのは、「HOT けん桜谷隊」や、老人会を中心とする地域の方々である。活動の種類や日程によって参加いただける方を地域コーディネーターが中心となり、呼びかけや調整を行った。コーディネーターが毎年ボランティアと教職員を対象に振り返りアンケートを実施し、年間活動の見直しや改善に役立てている。

■ 事業の成果
今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、例年行っているいも植え、田植えができず残念であったが、田植えや芋植えの様子を町内オンライン学習システムにアップロードすることができた。また、学校再開後は、２年生の生活科「季節の野菜栽培」や、３年生の総合的な学習「日野菜」の栽培を行い、これらの活動では、地域の方々に教えていただいたり、支援していただいたりすることで、それらを上手に育てる方法、食材としての作物の大切さや、自然の偉大さ、地域のあたたかさを体感できる機会となっている。
学習や作業・事業後には、子ども達がお礼の手紙を書き、それによる心のつながりが学校と地域の距離を縮めている。
地域の方からは、「子どもと対話ができ、楽しく作業が進められた」「子どもが学校に在籍していなくても参加できることはうれしい」など、地域と学校の連携を進んで行ってくださることのわかる感想をいただいた。

【　日野菜の収穫　】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
年間計画を立てる段階での見直しと、実施後のふり返りは必要である。例年行っている活動が多いが、改善を加えることも大切であり、学校も支援に来てくださる方も双方の考えを聞くことがこの事業では大事である。地域コーディネーターが昨年度末に、学校、地域に向けてアンケート調査を行ったので、振り返ることができた。

■ その他（学校運営協議会との協働等）
今年度は、毎年実施している「森のレストラン」の活動ができなかったため、11月19日に行った学習発表会の様子を放映し、日頃いろいろな場面で支援をいただいている地域の方々に感謝の気持ちを伝えることにした。十分な活動とはいえなかったが、子ども達が生き生きと学習活動を行っている様子を見ていただくことで、地域の支えに対して、感謝の気持ちを忘れないようにとの思いはこれからも大切にしていきたい。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　　　　　）

報告書記入者（　教頭　）

仲間や地域との絆を結び、自己の確立を目指す日野中生を目指して

日野町	活動名　日野中学校地域学校協働本部	日野中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：個人　25人　団体　７団体

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）敷地内環境整備作業

・約100m近くの花壇の手入れや周囲に植わっている木々の剪定をして頂いた。

・校庭のサツキが多くの部分で枯れていたため、地域のボランティア団体にご指導をいただきながら、植え直しを行った。

【さつきの植栽】

（2）読書活動推進事業

・１、２年生を対象に毎週火曜日に、各学年１クラスずつではあるが、地域の読み聞かせグループの協力を得ながら、読み聞かせ活動を実施した。

・１年生「誰かに絵本を読んでみよう」２年生「ブックトーク」支援学級「大型紙芝居を使用しての読み聞かせ」など、各学年、全クラスを対象に地域の方を講師に招き、図書館司書等の協力を得ながら、読書活動推進の授業を行った。

（3）家庭科・保育実習での校舎外移動に関しての交通立番・見守り

３年生・家庭科の保育実習で「あおぞら園」まで自転車での往復路の安全を支援していただいた。

■　実施に当たっての工夫

（1）については、昨年度同様、作業当日に現場にてご指導いただけたことで、地域とのつながりをより深めることができた。

（2）については、今年度で２度目の取組ではあった。４つの読み聞かせグループと図書館司書の協力を取り付けたこと、クラス単位で行うことで、より読書を身近に感じられる取組になった。

（3）については、教員だけでは、回りきれない立番を行うため、各方面の協力をいただいた。

【ブックトーク（未来に向かって）】

■　事業の成果

地域にある様々な得意分野をお持ちの方々に、ご協力を頂くことで、多方面にわたる活動が可能となった。また、本年度３年目を迎え、将来にわたる活動の礎を築くことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業実施上の課題は、教職員へ学校地域協働活動推進事業について理解を深めさせることが難しいことである。理解が十分でないため、教科や分掌としての要望や期待がうまく汲み取れなかった。地域には、様々なマンパワーがあり、学校で活用できる場面がまだまだ存在する。次年度は、教職員の学校地域協働活動推進事業への理解を浸透させ、地域の力を学校に取り入れると同時に、中学校からの地域への発信を増やしていきたい。また、現在、設置がすすめられている学校運営協議会との連携を深めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

本校には、地域学校協働活動推進協議会が設置されており、学期ごとに実施報告や今後についての報告書を出している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　用務員　）

報告書記入者（　教　頭　）

子どもたちの学習を支えるために～学校・家庭・地域ぐるみの学校支援活動～

竜王町	活動名　：　竜王町地域学校協働本部	竜王幼稚園・竜王西幼稚園 竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校 学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：６人（兼務１人）　ボランティア登録数：575 人（平成 22 年～）
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
□学　校　■地域学校協働活動推進員等
■行　政　□その他（　　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学習支援
・家庭科のミシンや裁縫等の学習で５名程度のボランティアが授業に参加し、個別に行き届かない指導をボランティアが補助をしている。
・休校期間中の児童の学力遅延を補うため、ボランティアが「はなまる先生」として、児童が自宅等で行った自主学習の成果の丸つけをしたり、暗唱の聞き役を行ったりしている。
・幼稚園児たちの生活を支援していただける保護者を募集し、絵本ボランティアとして、絵本の貸出や返却の支援を行っている。

【 はなまる先生 】

（２）学校行事支援
・両小学校のスキー教室にボランティアが参加することで、充実した指導ができている。
・幼稚園や小学校の授業参観やＰＴＡ行事等に子育て中の保護者も参加できるように託児支援を行っている。
（３）地域学習
・両小学校児童に町内の魅力を知ってもらうことを目的に、地域学習の一環として「まち探検」のボランティアを募集し、子どもたちと一緒に地域を歩き説明をすることで、地域への愛着を持ってもらうことができる。
・中学校にて、町内 12 か所の文化・歴史・産業等に関する訪問先に、生徒が班ごとに分かれて訪れ新聞にまとめる活動の支援を行った。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・学校支援中、児童との間隔をとりながら親身な対応を心がけている。

■　事業の成果
・地域学校協働本部に届いた児童からの感謝の手紙をボランティアの方へ送付することにより、「元気をもらえた」「協力してよかった」等の声を聞き、ボランティアの方の生きがいの場を提供できた。
・家庭では見ることの出来ない学校での姿を、ボランティアとして参加することにより、違った一面を見ることができ、新たな発見ができた。
・ボランティアと児童が顔見知りになり、地域でのコミュニケーションが取れる。
・これまでは、児童が自宅等で行った自主学習の成果を教員が丸つけをしていたが、ボランティアが「はなまる先生」として丸つけを行うことで、教員が児童と向き合う時間ができ、教員の働き方改革の一助にもなった。

【 絵本ボランティア（貸出支援） 】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域にはたくさんの人財があるにも関わらず、ボランティアの継続や新規発掘に苦戦している。
・学校と地域で双方向性のある展望を持った活動を行うためには、社会に開かれた教育課程をいかに実現するかが重要な鍵となる。そのため、地域連携にかかる年間活動計画を作り、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。
・統括地域学校協働活動推進員を公民館に設置しているが、学校からの急な支援依頼の対応に苦戦している。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会で熟議した内容（どんな子どもに育ってほしいか、子どもの健やかな成長に地域はどう関わるかなど）を地域学校協働本部でいかに具現化していくか検討を加えたい。
・より深い学校支援を行うためには、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にする必要がある。町内にある校園全てに、学校運営協議会は設置できいるが、まだ地域学校協働本部との連携の完全な実現にまで至っていない。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教員　■その他（　学年主任、学級担任　）

報告書記入者（　公民館　公民館係　）

「地域とともに多賀の子を育てよう」多賀町地域学校協働本部の取組

多賀町	活動名 ： 多賀町地域学校協働本部	町内6校園	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：123人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　　　　　　　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員等
■行　政　□その他（　　　　　　　　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）読み聞かせ（小・中・幼・保・こども園）
長年実施している校園での読み聞かせに加え、中学校でも実施。毎日の「朝読書」の時間（各自で本を読む時間）に月に数回読み聞かせを行った。静かに聞く体制など、幼小中連携の成果が表れていると感じる。
（２）福祉・琴・環境学習
地域のサークル等により、コロナ感染対策をしながら、教科書に準じ体験も交えて実施。福祉学習では自分にできることを考える時間や手話・点字なども教えていただいた。また、環境学習として新たに中学校特別支援学級の生徒に花・野菜作りを収穫から販売まで年度当初より継続して指導していただいた。

【多賀中学校：職場学習（看護）】

（３）職場学習（中学生進路選択の一助として）
例年、各事業所で職場体験を実施している２年生に対して、今年度は、さまざまな資格を持つ職業のボランティアに「仕事の楽しさ・やりがい・苦労」等を実践を交えて講話していただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
今年度は活動内容が大きく制限された。密を避け、短時間で活動を終えるなど工夫しながらの日々だった。その中で、学校再開後すぐに読み聞かせの活動をはじめた。マウスシールドを準備したことで読み手には話しやすく、聞き手には表情がわかるものとなった。

■　事業の成果
コロナ禍により屋外での活動を積極的に行った。特別支援学級の生徒に対して種まきから収穫・販売と一連の流れを指導していただき、毎日の野菜の生育状況を中学生と共有することができた。また、中学生の職場学習の一環として地域の様々な業種の方による講話および実践を受け、進路選択の一助となる活動ができた。ボランティアの方からは「この話をいただいてありがたい」との感想もいただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
学校支援のさらなる充実を図るため、より多くのボランティア活動を創出することが必要である。ボランティアの募集をより広く行い、子どもたちが本物に触れる学習をすすめるよう学校との連携を図っていく。

【特別支援学級：大根の収穫】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
６校園でのボランティア活動を推進するため、各校園の空き教室を「集いの部屋」として活用し、情報交換等ができるよう働きかけていく。また、定期的にボランティア活動だより「ボランティア通信」を発行し、地域・校園・公共施設で回覧および掲示して、活動内容について周知している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員
□その他（　　　　　　　）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

令和2年度　地域未来塾　活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	17	放課後学習会	東中学校	東中学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	西中学校	西中学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		地域の方による学習支援	城北小学校	城北小学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		土曜教室　てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区 支援地域協議会
		学び育ちＬＬ教室	中央中学校	中地区公民館	○	中央中学校区 支援地域協議会
		水曜ゼミ	南中学校	南中学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		がってん教室	城南小学校	城南小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		夏休み前算数教室	城陽小学校	城陽小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		夏休み学習教室	亀山小学校	亀山小学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		彦根中地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中校区 支援地域協議会
		学力補充教室	鳥居本小学校	鳥居本小学校	○	鳥居本中校区 支援地域協議会
		未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		はえみ　サマースクール ホップタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		「ぐんぐんクラブ」	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
湖南市	3	放課後質問教室	石部中学校	石部中学校		
		放課後学習会　放課後日本語教室	甲西中学校	甲西中学校		
		日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、３年進路支援	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	5	いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		放課後学習会 夏休み・冬休み全校学習会	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		小論文対策講座				
		米原学習教室（MGK）	米原中学校	米原中学校		
		土曜学習会	河南中学校	河南中学校		
日野町	1	ちょこっと学習会 （地域未来塾）	日野中学校	日野中学校		
竜王町	1	土曜龍王塾（雲竜塾、昇竜塾）	竜王中学校	竜王中学校		
多賀町	2	土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	多賀中学校	○	株式会社　ケイ・エム・ ジーコーポレーション
		放課後児童見守り （学びっこタイム）	大滝小学校	大滝小学校		

子どもたちのやる気を応援！！

彦根市	活動名： 放課後学習会	東中学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 図書室・理科室ほか　開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： 27 日（開催ペース：週１日）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 15 人　学習支援員等 平均人数： ５人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまずいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

学習教科は自由。生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけている。

【 学習会の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら運営。「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れ、欠席する場合は連絡があれば尊重し引き留めない。当日の昼休みには、放送で学習会のお知らせをし、申込者以外の参加も受け入れている。学習時間が長い（１時間半）ので、１時間経つ頃に気分転換をはかっている。個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、生徒に、学習の振り返りやボランティアへの連絡・メッセージ等を記入してもらい、ボランティアとの交流に活用している。

コロナ感染予防のため、生徒・ボランティアともにマスクの着用を徹底。座席の取り方、換気等に配慮。感染拡大時は３年生を優先して開催するようにした。

■ 事業の成果

「自分が決める」を大切にしているので、参加する生徒は、まじめに主体的に取り組んでいる。長年支援してくださっているボランティアが多いので、個々の生徒への配慮も細やかで、生徒との関係も良く、良い雰囲気の中で学習会ができている。不登校の生徒が参加するなど（別室対応）、学校では対応しにくい生徒も支援することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいような学習会にするため、担任をはじめ教職員との連携や情報共有をこころがけたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

未来のために！「来たれ未来塾！」

彦根市	活動名： 学力補充教室	西中学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 本校被服室・理科室　開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： 32 日（開催ペース：週１日）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 25 人　学習支援員等 平均人数： ６人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的

・学力補充を目的とした学習教室の開催。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

・休業中に、今までに学習した内容の復習や十分理解できていないところの補習を行うことにより、基礎学力の定着と学力補充を行う。
・受験を目前に控え、希望進路の実現に向けて学力の向上を目指す。

【 学習会の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・全学年、希望者を募って実施した。
・飛沫感染防止用の衝立を使用して支援した。
・指導前には、学習支援員の検温と消毒を行った。

■ 事業の成果

・生徒に自分の弱点を把握させ、その克服に向けて反復学習をして学力の定着を図った。
・一人ひとりの生徒の実態に応じた個別の学習支援を実施した。
・生徒が地域住民や地域の大学生と交流することで地域への所属意識が持てた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・新型コロナ感染症拡大のため、学習支援員を確保することが難しかった。

■ その他

・さらに学習支援員を増員したい。

報告書記入者（ 教頭 ）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名： 放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 教室 開始年度： 平成31年度
年間開催日数： 18日（開催ペース：週１日） 地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 18人 学習支援員等 平均人数： ３人
・学習形態 ：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）
・教室のもち方 ：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他

■ 活動の概要と目的

算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け個別指導を主とした教室を、４～６年生の希望者を対象に年間通して18回開催した。

【 ４年生 放課後バックアップ教室 】

■ 特徴的な学習支援内容

プリントやドリルの内容を基礎・基本を中心とするとともに、個に応じて選択ができるように用意し、個別指導を主とした学習支援ができるようにした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

下校時、確実に保護者が迎えに来られるかどうかを確認し、迎えが可能な児童のみ参加することとした。

■ 事業の成果

地域の方々に個別に丁寧に指導していただいたことで「分かった！」という思いを強く持つことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

地域の方による学習支援

彦根市	活動名： 地域の方による学習支援	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無

主な活動場所： 学校教室 開始年度： 平成31年度
年間開催日数： 46日（開催ペース：週２日） 地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 30人 学習支援員等 平均人数： ４人
・学習形態 ：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 ■その他（ 授業前の帯の時間等 ）
・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他

■ 活動の概要と目的

教員志望の大学生や地域住民により、個々の学力向上を図ることを目的とした学習支援を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

・教員志望の大学生が、教科学習に苦手意識のある子どもに寄り添いながら個別指導を行った。
・英語に堪能な地域住民が、一人ひとりの子どもに向き合いながら英語によるコミュニケーションを図った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

本年度は、コロナ禍での取組のため、地域住民の協力体制を積極的に進めることが困難であったことから、将来教員を目指している大学生の協力を呼びかけ、学校で実施している対策に基づいて学習支援を行った。

■ 事業の成果

児童からは「分からなかったところが分かってうれしい」「できなかったことができてすっきりした」という声が聞かれた。教員からは、「普段時間をかけることができなかった児童にじっくりと教えることができてよかった」という声が聞かれた。このようなことから、学力補充に関して一定の効果があったと考えている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習に関するボランティアを担っていただける人材は地域住民の元教員が多かったが、コロナ禍でも協力が得られるように、今後も教員を目指している大学生等への参加呼びかけを進めていきたい。

報告書記入者（ 学校運営協議会担当 ）

来てみる・やってみる　「土曜教室　てみる」

彦根市	活動名：　土曜教室　てみる	中央中学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	理科室	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	15 日（開催ペース：週・月２日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務０人）
平均参加人数：	20 人	学習支援員等 平均人数：	12 人

・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

子どもたちへの学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

【　感染対策を講じた上での実施　】

■　特徴的な学習支援内容

１対１または子ども２人に指導者１人とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にして、学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみにしている子どもも多い。２時間程度の学習であるが、学習の休憩時間を交流の時間として設定し、支援員と子どもたちとの交流の機会を設けている。毎回のしめくくりの時間に子どもに活動の振り返りをさせて、ここでの学びが他の活動や時間に広がるようにしている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して行っている。感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクをつけて学習するとともに教室内にパーテーションを設置している。毎回、実施後に学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■　事業の成果

個別指導により、つまずきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、学習意欲の向上や学習方法の定着にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員やサポーターの確保、企画・運営ができる地域コーディネーターの確保が必須である。

報告書記入者（　教頭　）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名：　学び育ちＬＬ教室	中央中学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	中地区公民館	開始年度：	平成 24 年度
年間開催日数：	40 日（開催ペース：週１日、月４回）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務０人）
平均参加人数：	13 人	学習支援員等 平均人数：	10 人

・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

【　ＬＬ教室の様子　】

■　特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にし、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイス　ブックで発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

感染予防対策として健康確認と入退室時の手指消毒を行い、マスクを着用して学習し、教室内では間隔をとって行っている。

■　事業の成果

子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校傾向や配慮を要する子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になり、地域での居場所づくりになっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材の整備と教材の保管場所の確保が課題である。

報告書記入者（　教頭　）

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名： 水曜ゼミ	南中学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所：	図書室	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	14 日（開催ペース：週１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	20 人	学習支援員等 平均人数：	３人

・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
○ 放課後学習「水曜ゼミ」（10～２月）は、３年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。
○ 例年実施している夏休み補充教室は、今年度は実施していない。

【　水曜ゼミ　】

■　特徴的な学習支援内容
学習支援員は、教員や地域の住民、大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容のプリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
水曜ゼミは受験を控えた３年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。地域コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し学習支援員の確保にあたっている。

■　事業の成果
家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。

報告書記入者（　教頭　）

「わかった」「できた」子どもの笑顔のために

彦根市	活動名： がってん教室	城南小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所：	教室	開始年度：	平成 31 年度
年間開催日数：	３日（開催ペース：年３日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	120 人	学習支援員等 平均人数：	６人

・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・夏季休業中の３日間を設定し、１日２時間、１学期の学習内容を中心とした学力補充を行う。

■　特徴的な学習支援内容
・個々の児童の課題や児童が高めたいと考える力に合った学習内容を選択できるようにしている。発達段階に応じて、前半は、同一課題をもとに基礎的な学力の定着を図り、後半は、個々の選択した課題に対する支援をする形で実施する学年もある。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・開催要項を全家庭に配布し、目的や取組方法等を担任から児童へ説明した上で、希望者を募る。コロナ対応として、課題別やグループ学習を行わず、自教室の自分の座席での学習とした。
・参加児童の検温と記録をするとともに、学習後は机、椅子等を消毒した。

■　事業の成果
・コロナ禍ではあったが、例年と同程度の参加者数であった。普段の学習以上に、教師や支援員に気軽に質問する児童の姿が見られ、課題を克服でき、満足そうな姿が多く見られた。また、今年は特に担任が指導の中心であったので、個々の学習状況を十分把握した上での指導ができたことが指導する側としても成果であった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・コロナ対応として個別学習が中心となったので、個々に十分に対応できる、指導する側の人員確保が一番の課題である。感染の拡大状況によっては、外部の方の支援をどこまで求められるか、支援を受けられるか、随時検討して対応する必要がある。

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

つなげよう　子どもを育む　地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：　夏休み前算数教室	城陽小学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　各教室　　開始年度：　平成31年度
年間開催日数：　３日　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務１人）
平均参加人数：　120人　　学習支援員等 平均人数：　８人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

昨年度までは、夏季休業中に実施していたが、今年度は午前中の授業を終え、午後の時間を利用しての３日間（７月20日(月)・21日(火)・22日(水)）とし、いずれも13:00から14:25までの実施とした。算数科を中心に、個別の学力補充を目的とした。

【　算数学力補充教室　】

■　特徴的な学習支援内容

保護者からの希望または、担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心として進めることができた。つまずきや戸惑いには、個別にスモールステップによる支援を行うことができた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

保護者あてに希望者を募る、または、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す

声かけをすることで参加を呼びかけた。支援員として、学区内の滋賀県立大学の学生、本校の卒業生、そして元教員に呼びかけをして、たくさんの方の支援を得ることができた。コロナ対策として、マスクを着用することや、密にならないようオープンスペース等を利用して実施した。

■　事業の成果

基礎、基本の積み上げが不十分な児童にとって、個別対応の支援は心強く、また反復や発展の演習問題を示されることで、自身のつまずきに対して意欲的に向き合い学習をすすめることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

たくさんの参加者に対応できるように、支援いただける支援員の確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアの発掘をしていきたい。

報告書記入者（　教頭　）

夏休み学習教室～基礎・基本の学力の定着を目指して～

彦根市	活動名：　夏休み学習教室	亀山小学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　教室　　開始年度：　令和２年度
年間開催日数：　３日（開催ペース：夏季休業中）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務０人）
平均参加人数：　100人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

・夏季休業中の３日間（８月３日・４日・５日）、いずれも８：20から11：00まで実施した。
・基礎・基本の学力の定着を目的としている。

【　夏休み学習教室の様子　】

■　特徴的な学習支援内容

・昨年度まではプリントやドリル等を使った自習形態であったが、ほとんどの児童が参加する状況であるため、教科書やノートを使用した通常の授業形態もあわせて行うこととした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・今年度は特に「長期にわたっての臨時休業により欠けた学習機会を確保するため実施します」と参加を呼びかけた。
・コロナ禍の状況なので、外部の方の来校はできるかぎり控え、支援員は少人数にした。

■　事業の成果

・それぞれの教室に担任以外の教員（支援員）がいることで、個別指導をしたりプリントの採点をしたりして、効果的に学習を進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・次年度は、状況により、地域に広く声をかけて学習支援員を確保し、よりきめ細かな支援ができるようにしたい。

報告書記入者（　教頭　）

学びを育む学習会

彦根市	活動名： 彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 被服室　　開始年度： 平成 28 年度
年間開催日数： 40 日（開催ペース：10 月以降週２回、夏季休業）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 10 人　　学習支援員等 平均人数： ４人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　毎日の授業だけでは、十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習してよいのかわからなかったりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

【　３年生放課後学習会　】

■　特徴的な学習支援内容
＊夏季休業中の補充学習および質問教室
　全学年の生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員の数名で行っている。
＊３年生の放課後学習会
　10 月から毎週火曜日・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語等の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
＊マスクの着用と使用する教室には消毒液の設置と使用後の消毒作業を実施している。
＊学習支援員を確保するため、募集ポスターとチラシを製作し、近隣の大学に配布した。
■　事業の成果
＊家庭学習に取り組めない生徒が、学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに、意欲的に取り組めていた。
■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
＊学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。
＊支援の回数が事業費によって左右され、十分な学習機会を設定することが難しい。
■　その他
・活動状況は、本校ＨＰにて掲載している。https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

報告書記入者（　教頭　）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名： 学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 教室　　開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： 10 日（開催ペース：1学期６～７月、２学期 11～12 月）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： ５人　　学習支援員等 平均人数： ２人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
生徒の学力補充を目的として放課後の学習支援を実施。
■　特徴的な学習支援内容
基礎的な問題や分からない問題を中心に、個別に学習支援をしている。
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学校が長期の臨時休業となったため、学校が再開された６月から、学習面で不安のある生徒を対象にして実施した。
■　事業の成果
　個別対応を中心にしたので、生徒からは「わかりやすかった」と好評であった。
■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　昨年度までは、長期休業期間に実施してきたが、今年度は中学校再開後、放課後の時間が比較的に長かったので、平日に実施できた。今後は、平日の放課後に定期的に実施していけるとよい。
　学習支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが課題である。

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

輝く笑顔　一人ひとりの「わかった！」をめざして

彦根市	活動名：　学力補充教室	鳥居本小学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　教室　　開始年度：　令和２年度
年間開催日数：　18 日（開催ペース：月３日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務０人）
平均参加人数：　15 人　　学習支援員等 平均人数：　１人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

国語科・算数科を中心に、少人数で個別指導を実施し、基礎基本の学習内容の定着を図る。

■　特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきには、個別に対応し、「わかった」を実感できるように支援する。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

会場となる教室の消毒や換気、室内温度等をこまめに確認し、感染症の拡大防止に努めた。

■　事業の成果

国語科・算数科にとどまらず学習そのものに苦手意識をもつ子どもがいるので、「わかった」「できた」が実感できるような課題設定を心がけた。その結果、一つ一つ学習を積み上げることの大切さに目を向けることができるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

日課を工夫して放課後の時間を生み出すようにしてきたが、高学年では、学力補充のための時間を確保することが難しかった。特に、感染症の影響で、長期休業中に補充教室を実施できなかったのが残念だった。

報告書記入者（　教頭　）

本当にわかったと生徒が感じる学習サポート

彦根市	活動名：　未来塾	稲枝中学校　　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　多目的教室、図書室　　開始年度：　平成 28 年度
年間開催日数：　34 日（８月以降　週１回　月５回）　　地域学校協働活動推進員等数：　２人（兼務０人）
平均参加人数：　15 人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　■その他（　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

・目的　自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る。

■　特徴的な学習支援内容

・夏休み、９月から２月までの毎週水曜日、保護者懇談会の期間に実施。３年生を対象に高校入試に向けた学習支援。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・生徒の募集→３年生の生徒及び保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集。
３年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や教師から見て受験対策を必要とする生徒に勧める。
当初の応募人数が 31 名と多数であったので、密を避けるため２班編制とした。

■　事業の成果

・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学習支援員の発掘が大変であり、ボランティアに頼るだけでは、継続は難しいと考える。
・学校と地域コーディネーターの打合せが重要である。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 教室　開始年度： 平成30年度
年間開催日数： 22日 （開催ペース：月２回）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 18人　学習支援員等 平均人数： ４人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
２・３年生の児童を対象に、月に２～３回程度の学力補充の時間を計画した。

■ 特徴的な学習支援内容
児童がつまずきを感じている学習内容を選び、個別指導の形式で学習支援をした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
学期ごとに希望者を募った。密を避けるため、また、個に応じて充実した指導ができるように、参加する人数には制限をかけた。感染症対策として、着席する席をできるだけ離し、手指消毒やマスク着用の徹底を図った。学習支援員は検温を実施した。

【 学習支援の様子 】

■ 事業の成果
漢字や計算など基礎的な力を高めることで学ぶ意欲を向上させることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学習支援員は経験豊富な元教員の方ばかりのため、学習支援活動自体の課題は特に無い。今後も事業が継続し、子どもたちの学力補充ができるように希望する。

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

わくわく　はえみ学習

彦根市	活動名： はえみ　サマースクール ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 各教室　開始年度： 平成30年度
年間開催日数： ８日（開催ペース：夏休み３日、月１日（ホップ））　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 18人　学習支援員等 平均人数： ７人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（ グループ学習 ）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
・学習内容の理解に課題を要する子どもの学力補充。
・確かな学力の定着をめざすグループ学習。

■ 特徴的な学習支援内容
・ホップタイムについては、高学年の実施とし、学年を２グループに分け実施した。課題については、３つの難易度のプリントを作成し、自分の力量にあった問題を解きながら進めていった。

【 ホップタイム 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・「はえみ　サマースクール」については、毎年希望者を募って実施していたが、希望者が多数になることが予想されたため、今年度は学年３人程度の参加とした。

■ 事業の成果
・ホップタイムの児童アンケートでは、少人数で行うこの学習で、「分からない所が分かるようになった」「学習が楽しくなった」と答える児童が増えた。また、支援員が子ども２～３人に１人付くため、分からない所があるとすぐに支援に入れるため、全員が課題をやり残すことなく学習することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・長期休業中は登下校の安全確保が難しく、この取組に参加できない児童が出てくることが課題である。

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

わかる楽しさを味わい、学ぶ意欲を高める「ぐんぐんクラブ」

彦根市	活動名：　「ぐんぐんクラブ」	稲枝北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　教室　　開始年度：　平成28年度
年間開催日数：　40日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務０人）
平均参加人数：　５人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
少人数の個別指導のような学習で、「わかる」楽しさを味わい、自信をつけ学習への意欲を高められるようにする。

■　特徴的な学習支援内容
課業日の月曜日（１～３年生）水曜日（４～６年生）、学期ごとに参加児童を募集し、定員を８名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数を中心に宿題をしたり、担任が個に応じた課題（プリント等）を準備したりし、個別の進度で学習を進める。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、４～７名と少人数で実施している。感染症対策として、前年度まで使っていた狭い部屋ではなく、通常の教室において、常時換気しながら、密にならないように席を離して実施している。

■　事業の成果
集団での学習では身につきにくい児童への個別の支援が充実し、大変効果があった。学習に苦手意識のある児童にとって、わからないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「わかった」という実感をもちやすい。また、個別に苦手な分野に絞って復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、声のかけ方に工夫が必要である。効果があることを知らせ、児童へ声をかけると共に、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。課題の準備が間に合わないことがあったため、担任との連携を密にしていく必要がある。

報告書記入者（　教頭　）

学習習慣の定着を目指すための放課後学習

湖南市	活動名：　放課後質問教室	石部中学校　学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　普通教室　　開始年度：　平成28年度
年間開催日数：　75日（開催ペース：週２～３日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務０人）
平均参加人数：　15人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
・家庭での学習がうまく進まない生徒に放課後の教室を使い、予習や復習をすることで学習習慣の定着をめざす。

【　学習会の様子　】

■　特徴的な学習支援内容
・テスト前の学習でのわからないことを教える。
・学校の宿題のわからないところを支援する。
・実技教科の遅れている作業を援助する。
・授業内容が理解できていない部分を再度教える。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・手洗い、検温、マスク着用など基本的な感染症対策を実施。
・人数が多いときは、教室を分け、密を避ける。

■　事業の成果
・参加者が徐々に増加してきた。
・意欲的に学習に取り組む姿が多く見られた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・支援する人材の確保
・冬季は、６時間授業を行うとほとんど放課後の時間がない。
・学年が上がるにつれ、学習内容が難しく専門の教科以外は教えることが難しい面もある。

報告書記入者（　校長　）

あせらず・あわてず・あきらめず　～自分の未来を切り拓こう～

湖南市	活動名：放課後学習会 放課後日本語教室	甲西中学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　甲西中学校　　開始年度：　平成 26 年度
年間開催日数：　57 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：　２人（兼務０人）
平均参加人数：　15 人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

≪放課後学習会≫　本校の生徒の課題として、家庭学習がほとんどできていないことが挙げられる。家庭での学習環境が整っていないことも考えられるが学習方法がわからないことも要因である。そこで、地域の方や元教員などに学習ボランティアとして支援していただき、自主的・主体的な学習習慣を身につけるため、進路実現に向けて９月から放課後週２回１時間実施している。

≪放課後日本人語教室≫　日本語習得がまだ十分でない外国籍生徒にとって授業だけで教科の学習を十分に理解することは非常に難しい。特に国語は漢字や文法など丁寧に教える必要がある。放課後にワークやプリントを中心に少人数でできるだけ個別に支援を行った。テスト前にも集中講座を行った。

【　学習の様子　】

■　特徴的な学習支内容

・毎回５教科の中でテーマを設けて（例：数学「因数分解」）、プリントを使用して学習に取り組んだ。また３年生については過去の入試問題にチャレンジした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・参加者が多い時には図書室など広い会場を使用して密にならないようにした。

■　事業の成果

・その場だけでなく家に持ち帰って学習の続きをするなど、家庭での学習習慣につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学力に課題やしんどさのある生徒にもっと参加してもらいたい。そういった生徒への参加を促す配慮のある声かけを行う。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員・教頭　）

未来に羽ばたく子どもたちへのサポート　外国籍生徒への日本語教室、３年生進路支援

湖南市	活動名：日枝中未来塾 外国籍生徒日本語教室、３年進路支援	日枝中学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　日本語教室　　開始年度：　平成 29 年度
年間開催日数：　12 日（開催ペース：月１日と休業中）　　地域学校協働活動推進員等数：　６人（兼務３人）
平均参加人数：　10 人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

　学力の保障や学校生活の安定のために、日本語の支援が必要な生徒に対して、学校支援員や地域のボランティアさんの支援のもと日本語学習会、進路支援を実施する。

■　特徴的な学習支援内容

　外国籍生徒が年を追うごとに増えている本校では、通訳機等を活用して、子どもたちの学習支援を行い、生活の安定と進路支援を行っている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

　希望参加ではあるが、三者懇談会や通訳を介し、生徒の状況を話し合い、参加を促進している。また、長期休業期間に実施することで、学習リズムの維持を図っている。

　コロナウィルス感染拡大防止策として参加者全員に体温の計測、入室時のアルコール消毒を徹底。

【　日本語教室での学習　】

■　事業の成果

　ボランティア、支援員の丁寧で、個別的な支援による取り組みの結果、生徒の学習意欲の向上や、進路に対する前向きな姿勢がみられる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

　ここ数年継続的に取り組んでおり、毎年一定数の参加者もあり成果が出てきている。長期休業中に一定期間実施するためにボランティアさんを含む指導者の人員確保が不可欠である。

　また、コロナ禍における設備機器や教室内の消毒における人員確保や、生徒たちだけでなく支援員の感染拡大防止策を実施するにあたり、学習会運営の財政的な基盤整備が必要である。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

学力補充「いつやるの、今でしょう！」

米原市	活動名： いつ今教室	大東中学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 多目的教室・図書室他　　開始年度： 平成 25 年度
年間開催日数： 20 日　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 15 人　　学習支援員等 平均人数： ４人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
概要：定期テスト前や長期休業中、３年生の入試前の時期に学力補充教室やテスト対策教室を実施する。
目的：低学力生徒の基礎学力定着
自宅で、一人で家庭学習に取り組むことが難しい生徒への支援
希望進路実現に向けて、弱点補強に取り組もうとする生徒への支援

■ 特徴的な学習支援内容
・参加希望を募っての実施
・課題プリントを作成した個別指導

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・参加募集のチラシを作成しての呼びかけ

■ 事業の成果
・生徒からは「分かりやすく教えてもらえた」という感想が多い。
・保護者からの継続実施を望む声が多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学習支援員の確保と日程調整

報告書記入者（ 校長 ）

放課後学習会　＆　夏休み全校学習会　＆　冬休み全校学習会

米原市	活動名： 放課後学習会 夏休み・冬休み全校学習会	伊吹山中学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 本校ランチルーム　他　　開始年度： 平成 30 年度
年間開催日数： 放課後 15 日　夏休み３日　冬休み１日　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 50 人　　学習支援員等 平均人数： ５人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要と目的
長期休業や定期テスト前の放課後を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分のペース応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得する。さらに授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組んだり、個別に質問できる場として開催した。

■ 特徴的な学習支援内容
複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、自由に質問ができるような形態をとっており、多くの生徒が参加を希望し、学習を進めることができている。
部活動に配慮して、長期休業中は、部活動のない午後に実施した。

【 山中サマー・スクール 】

■ 事業の成果
長期休業中や、部活動停止期間となる定期テスト前に実施したことで、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。さらに、できるだけ多くの学習支援員を招聘することで、多様な生徒の学習支援が可能になった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
生徒のニーズに応じるようにするため、学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。

報告書記入者（ 教頭 ）

小論文対策講座

米原市	活動名： 小論文対策講座	伊吹山中学校	学校運営協議会：■有 □無

主な活動場所： 本校 IT 教室　　開始年度： 令和元年度
年間開催日数： ３日　　地域学校協働活動推進員等数： ０人
平均参加人数： 13 人　　学習支援員等 平均人数： １人
・学習形態　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

本校３年生の生徒を対象に、本県県立高等学校特色選抜や推薦選抜での入学検査で課される小論文に対応するため、地域住民であり、元高等学校教員でもある講師を招聘し、「小論文対策講座」を実施した。

■　特徴的な学習支援内容

生徒は、本県県立高等学校のこれまでの小論文の問題を課題にして、本番さながらに挑戦するとともに、学習支援員を務める講師が一人ひとりの小論文を添削することで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるように支援内容を工夫した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

自分の希望する進路に応じて、３年生に講座参加の希望を募った。広い特別教室を会場とし、感染予防に努めた。

【　小論文対策講座　】

■　事業の成果

保護者や生徒からも、「実施して欲しい。」との声があり、地域のニーズに合っている。生徒一人ひとりが複数の小論文の課題に取り組み、また、講師により個別に添削を行うことで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるようになり、充実した講座となっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

小論文の添削に時間がかかり、勤務時間外にかけて添削していただかなければならない課題が生じたため、人材を増やすなど工夫する必要がある。

報告書記入者（　教頭　）

学校と地域の力により、子どもの学びを支えていく

米原市	活動名： 米原学習教室（ＭＧＫ）	米原中学校	学校運営協議会：■有 □無

主な活動場所： 米原中学校　　開始年度： 平成 29 年度
年間開催日数： 70 日（8月１週目５日間、10 月以降月平均 10 日開講）　　地域学校協働活動推進員等数： ２人（兼務０人）
平均参加人数： 13 人　　学習支援員等 平均人数： 1～２人
・学習形態　：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

コロナ禍の中、授業の進度が例年より早く、また、学習の不安を抱える生徒も多い中、長期休業中に低学力の生徒を中心に学習支援を行った。３年生は２学期から放課後の時間を活用し、５教科(国語・社会・数学・理科・英語)の講座を開催した。３学期は入試の小論文講座を１月に４回開催した。

■　特徴的な学習支援内容

今年度は、短い夏季休業であったが、８月の第１週に１～３年の全学年、生徒が課題を持参し、元教員と地域ボランティアが個別指導を行った。３年生は 10 月より入試に向けた５教科の講座を開講した。１月には入試の小論文対策として元国語教員が指導にあたった。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

全保護者あてに、案内を出した。課題の多い生徒は直接声をかけた。

夏季学習について、参加生徒が多い場合は指導教室を２教室にした。

■　事業の成果

一人では課題に取りくめない生徒も、提出することができた。３年生については講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を２学期から行うことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今年度は、退職教員の豊かな経験を活用した学校教育活動支援事業で任用された教員ＯＢに指導を依頼し、生徒の学習意欲も向上した。

報告書記入者（　教頭　）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動 ～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名： 土曜学習会	河南中学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 河南中学校　　開始年度： 平成 29 年度
年間開催日数： 12 日（開催ペース：月２日）　　地域学校協働活動推進員等数： ０人（兼務０人）
平均参加人数： 11.7 人　　学習支援員等 平均人数： ２人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

月２回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のために、その場を提供して、生徒の学びの基礎を育てる。

【　土曜学習会の様子　】

■　特徴的な学習支援内容

本校を卒業した大学生を講師に招き、自主的に学習を進める上でわからないところをすぐに質問できる体制にした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

保護者あてに開講予定を事前に知らせて、生徒の都合のつく時刻に参加できるようにした。部活動練習後に参加する生徒も多くいた。

■　事業の成果

家庭では集中できず家庭学習が進まない生徒も、土曜学習会に参加して頑張っている生徒に感化されて、集中して学習に取り組むことができた。また、わからないところをすぐに講師の大学生に質問することができて、理解を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

講師の大学生の都合もあり、開催日を決定することに苦慮した。定期テスト前には多くの生徒が参加することから、今後も学習　する場の提供は必要と強く感じた。

■　その他

土曜学習会を開催する前日には保護者あてにメール配信をして周知した。

報告書記入者（　教頭　）

気軽に学ぼう、気軽に尋ねよう、ちょこっと学習会

日野町	活動名： ちょこっと学習会	日野中学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 各教室　　開始年度： 平成 30 年度
年間開催日数： 13 日（開催ペース：定期テスト前など）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： ６人　　学習支援員等 平均人数： ８人
・学習形態　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

１回の学習会に１～２名の大学生の学習支援員を配置し、多人数に対応できるようにした。基本的には、個別学習支援の形を取り、各自が行う学習に寄り添い、質問を受けたことに対応してもらう、解き方のアドバイスを示してもらうなどの支援をお願いした。一人では学習に向き合えない生徒、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的としている。

■　特徴的な学習支援内容

本年度は、コロナ禍の影響も有り、９月からの実施となった。部活動のない日や定期テスト前を意識した日程調整を行い、より多くの生徒が参加しやすい期日になるように心掛けた。また、支援員を本校卒業の大学生にお願いすることで、生徒にとってより身近で親しみやすい存在になっていたと考える。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

参加者の募集については、全校生徒が使用する昇降口に、月ごとに実施日を掲示した。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と、積極的な参加を促すようしてもらった。

■　事業の成果と課題

今年度の事業への生徒の参加状況をみると、３年生を中心に、昨年度よりも大幅に多くなっていた。また、昨年度は、参加者が固定していた傾向にあったが。本年度は、多くの生徒が参加できていたようである。本年度は、本事業を担当している教員の教え子が、支援員として多く協力してくれたが、毎年このような形で実施することは困難であると考える。支援員を学校単位で確保するのは、大変に難しいことである。そこで、行政の単位で支援員の募集や登録を進めていただき、それらを上手く活用させていただく方向にしていくことが、本事業を継続させていくために、必要なことと考えている。

報告書記入者（　教頭　）

土曜龍王塾　～「望み高かれ！」輝く未来に向け“志高く生きていく生徒の育成”を目指して～

竜王町	活動名：　土曜龍王塾（雲竜塾、昇竜塾）	竜王中学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　竜王中学校　　開始年度：　令和２年度
年間開催日数：　23 回　　地域学校協働活動推進員等数：　０人（兼務０人）
平均参加人数：　78 人　　学習支援員等 平均人数：　10 人
・学習形態　：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・中学３年生を対象に、大学生や教員ＯＢなど、地域住民から幅広い協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい子どもの学ぶ機会として、また、家庭学習の習慣が十分に身についていない学生への学習支援の場として事業を実施する。

■　特徴的な学習支援内容
・雲竜塾（発展的な学習・特色選抜入試対策）と昇竜塾（基礎的基本的学力の定着）の２つのコースを実施し、生徒のニーズに合わせて生徒たちの主体的な学習を支援する内容としている。

【　教室の様子　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・検温・消毒を実施し、教室（会場）を分けて実施した。

■　事業の成果
・受講生も多く、学習支援に貢献するとともに、竜中ＯＢの大学生や教員ＯＢなどの地域住民が講師として協力するなど、学校と地域が連携協働するきっかけの場となっている。また、参加した受講生は希望する高校に進学できる割合が増加している。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・受講生が増えた場合、学習教材や講師謝金などの必要な経費が増加し、予算が必要となる。また、それに見合った必要な講師数を確保し続ける必要がある。

報告書記入者（　町担当者　）

教育委員会・学校・提携塾が連携して、中学生の学力向上を図る　土曜講座（サタスタ）

多賀町	活動名：　土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　多賀中学校　　開始年度：　平成 21 年度
年間開催日数：　18 日（開催ペース：月３日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人
平均参加人数：　25 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
・中学生の学力伸長を目的に、中学校と連携をして、希望を募り、年間 18 日間、土曜日の午前中に、多賀中学校を会場として開講している。

■　特徴的な学習支援内容
・提携塾に講師派遣を依頼し、国語・数学・英語の３教科の学習を、学年別に 50 分間ずつ、中学校の年間計画に沿って学習をすすめている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・中学校・提携塾と調整して開講日を決め、学びやすい講座とし、宿題を伴う学習を行い、家庭学習とタイアップした効果的な学びの場とした。また毎年、町立博物館を会場として行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、多賀中学校に変更し、換気・消毒等の徹底を行った。

【　土曜講座風景（２年生）　】

■　事業の成果
・経済的に塾に行けない子どもへの学習機会となり、保護者から大変喜ばれている。また、学校と連携した指導と効果的な個別支援により、学習に自信を付けた子も多い。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・個別支援の充実を図るために、更に奨学金受給者・大学生・ボランティアの参加拡大を図り、広く募集していく。

報告書記入者（　町担当者　）

学びも遊びも充実した学びっこタイム（放課後見守り）

多賀町	活動名： 放課後児童見守り（学びっこタイム）	大滝小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 大滝小学校　　開始年度： 平成28年度
年間開催日数： 約60日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 16人　　学習支援員等 平均人数： ２人
・学習形態　：□個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（　宿題プリント、音読、計算カード　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　■その他

■　活動の概要と目的

・低学年児童の下校時の安全確保、学習時間の確保、地域住民とのふれあいを目的に、大滝小学校と連携して、年間約60日間、毎週木曜日・金曜日に実施している。

■　特徴的な学習支援内容

・木曜日は宿題のあと、みんな遊びとして、地元産の木材（端材）を使って工作やゲーム、昔遊び等を、金曜日はパソコン、英語、地域サークル等による万華鏡作りやよさこい、読み聞かせ（本に関するゲーム含む）など遊びを組み込んだ内容を毎回実施している。

【　学びっこ風景（バランスボール）　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・参加児童は１・２年生全員。ボランティアは随時募集し、ローテーションにより様々な活動に関わっていただいている。また、児童には月間予定を事前に知らせ、活動に興味を持たせるようにしている。コロナ対応としては密を避ける活動内容を選定し実施。

■　事業の成果

・児童は「今日はどんなことをするの？」など実施を毎回楽しみに参加しており、保護者も事業の継続を希望されている。ボランティアの方は、子どもたちと学ぶ活動・遊ぶ活動を通して楽しい時間を一緒に過ごし、子どもたちに「昔の遊びを教えたい」「毎回子どもたちと会うのが楽しみ」など良い感想を多く持たれ、児童もボランティアもほぼ欠席することなく参加されている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・事業内容の充実を図るために、ボランティアの参加拡大を図る必要がある。地域住民やサークル等にも広く募集していく。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

令和2年度　放課後子ども教室　活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	主な実施場所	対象学校区名	委託	委託団体名
近江八幡市	4	寺子屋　沖島	沖島小学校	沖島小学校		
		寺子屋　岡山	岡山小学校	岡山小学校		
		寺子屋　金田	金田コミュニティセンター	金田小学校		
		寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校	老蘇小学校		
草津市	1	放課後自習広場	笠縫小学校	笠縫小学校		
栗東市	2	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	葉山東小学校		
		治田西のびのび広場	治田西小学校	治田西小学校		
野洲市	6	中主地域子ども教室（中里学区）	コミュニティセンターなかさと	野洲小学校 中主小学校 篠原小学校 祇王小学校 三上小学校 北野小学校	○	野洲市地域教育協議会
		中主地域子ども教室（兵主学区）	コミュニティセンターひょうず		○	
		篠原地域子ども教室運営協議会	コミュニティセンターしのはら		○	
		ぎおう子ども体験教室	滋賀県立アイスアリーナ		○	
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		○	
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		○	
東近江市	5	みなみっこ学習会	南部コミュニティセンター	八日市南小学校		
		八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校	箕作小学校 八日市北小学校		
		放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校	市原小学校		
		湖東第二小学校　地域学校協働本部	湖東第二小学校	湖東第二小学校		
		東近江アミーゴ教室	東近江市福祉センター ハートピア	八日市南小学校 箕作小学校 八日市北小学校 御園小学校 玉緒小学校 玉園中学校		
日野町	5	日野小チャレンジ教室 （日野小てらこや）	日野小学校	日野小学校		
		放課後チャレンジ教室	西大路小学校	西大路小学校		
		書道教室・科学教室	南比都佐公民館	南比都佐学校		
		必佐小学校区放課後子ども教室 「放課後必佐寺子屋」	必佐小学校	必佐小学校		
		桜谷小学校　放課後学習	桜谷小学校	桜谷小学校		
豊郷町	2	夏休みわくわく学習会	豊郷小学校	豊郷小学校		
		夏休み質問教室	日栄小学校	日栄小学校		

※　豊郷町は、町独自で実施

「めあて」を持ち、集中して学習に取り組むことで基礎学力定着・アップ！

近江八幡市	活動名： 寺子屋 沖島	沖島小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 沖島小学校多目的ホール　　開始年度： 平成 28 年度
年間開催日数： 45 日　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務０人）
平均参加人数： 12 人　　平均スタッフ数： ２人
・活動内容 ：■学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）
・教室のもち方 ：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要
内容 … 宿題や自主学習に取り組む。
対象 … 水曜日は全児童、金曜日は１，２年生児童

【 放課後学習の様子 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
わからないところを中心に学習支援員に聞きながら、国語の漢字ドリルや算数の計算ドリル、計算プリントなどの宿題や復習に取り組んだ。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
必要に応じて学校の教員が補助教員として指導にあたっている。

■ 他事業との関わり
なし

■ 事業の成果と課題
○「放課後に一定時間学習する。」という意識と集中した姿が見られた。特に、高学年に行くにしたがって時間いっぱい宿題に取り組んでいるので、下学年も見習い、よい雰囲気で学習に向かえている。
○ 宿題が中心で、予習や復習といった自主的な学習に取り組む姿は少ない。放課後学習と家庭学習の連動について指導していく必要がある。

報告書記入者（ 教頭 ）

～新たな発見、新たな学びを～

近江八幡市	活動名： 寺子屋　岡山	岡山小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 教室　　開始年度： 平成 31 年度
年間開催日数： 13 日　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 50 人　　平均スタッフ数： ４人
・活動内容 ：■学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）
・教室のもち方 ：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要
○ 子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に３０分程度実施した。学習支援員は４名で元教員である。今年度は参加希望者が多く、教室を２つ使ってクラスをつくり、支援員２名ずつで指導にあたった。

【 放課後学習開講式 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
○ 今年度は１学期に学校休業期間があったため、後期からの開講となった。学習支援員が元教員で、それぞれ、国語、社会、算数と専門性を持っておられるということもあり、宿題や学校の学習の補充を行うことはせず、専門性を生かした学習活動を行った。算数では数の仕組み、位どりの楽しさを味わい、国語では論語などの漢文や古文なども提示し、子どもたちの学習意欲の向上を図った。

■ 事業の成果と課題
○ 将来学ぶ学習内容を先どりすることで、子どもたちは興味を持って学習に取り組むことができた。
○ 学習支援員が様々な教材を工夫し準備していただいているが、予算が十分でない。

報告書記入者（ 教頭 ）

安全な放課後、安心な居場所づくりを！

近江八幡市	活動名： 寺子屋　金田	金田小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　金田コミュニティセンター　　開始年度：　平成29年度
年間開催日数：　10日　　地域学校協働活動推進員等数：　１人
平均参加人数：　20人　　平均スタッフ数：　３人
・活動内容　：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　■その他

■　活動の概要
・４年生の児童（希望者）が放課後コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・市スポーツ推進課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。
・前半は学習タイム、後半には五色百人一首や俳句づくり、防災学習、地域学習等、児童が興味をもったプログラムを組んだ。
・密集を避けた座席の配置や活動部屋を確保した。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。スポーツの際は学校体育館を開放した。

■　他事業との関わり
・特になし

■　事業の成果と課題
・事後のアンケートでは児童も保護者も大満足な様子で、楽しく充実した活動を振り返っていた。
・参加を希望する児童が多く、場所の関係で抽選となった。参加したい児童が一人でも多く参加できる仕組みづくりが望まれる。

報告書記入者（　教頭　）

寺子屋老蘇で学習方法を身に付け基礎学力アップ！地域とともに

近江八幡市	活動名： 寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　老蘇小学校　図書室　　開始年度：　平成30年度
年間開催日数：　14日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務０人）
平均参加人数：　10人　　平均スタッフ数：　３人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
・基礎学力の定着をめざした学習活動をする。
・地域の学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・計算力の向上をめざして、毎回はじめに「百ます計算」をする。
・決められた学習をするのではなく、各々がやろうと決めた学習をする。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・対象の３・４年生が６時間授業の日に設定し、図書室を活用できるようにした。
・放課後児童クラブが校地内にあるので、寺子屋が終われば各自参加できる。

【　寺子屋老蘇　】

■　他事業との関わり
・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業期間中に「寺子屋」を全学年対象に実施している。

■　事業の成果と課題
成果・コロナ禍のもとでの実施なので、学年別に少人数で学習する機会となり、児童はよい支援を受けられた。
・支援員や教職員など、ひとりに関われる大人が多いので、疑問をもったときにすぐ解決できる環境がある。
課題・下校時刻が遅くなるので、保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童がいる。

報告書記入者（　教頭　）

学びのセーフティーネット　～学習習慣の定着を目指して～

草津市	活動名：　放課後自習広場	笠縫小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　笠縫小学校各教室　　　開始年度：　平成30年
年間開催日数：　26日（開催ペース：週2回）　　　地域学校協働活動推進員等数：　1人（兼務1人）
平均参加人数：　12人　　　平均スタッフ数：　2人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
・1～3年生の参加児童が指定曜日の放課後集まり、宿題や自主学習に取り組む。
・自学自習を行うことで、児童の学習習慣の定着を図る。
・課業時間に学習したことを反復することで学習意欲を高め、家庭学習へとつなぐ。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・校内教室で実施し、終了時刻を高学年の下校時刻に合わせることで、安全に過ごし下校できるようにしている。
・学年ごとに学習する部屋を分け、支援員の見守りのもと、集中して学習できる環境を整えている。
・図書室を使用することにより、課題終了後も継続して読書するなどの学習習慣を定着させるための時間が確保されている。

【　安全な下校に向けての工夫　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・支援員が、参加に関わる児童の家庭と連絡を取り合ったり、準備を行なったりしている。
・児童クラブとの連携を図ることにより、児童が安全に下校できる体制を整えている。

■　他事業との関わり
特になし

■　事業の成果と課題
・参加している児童は、一定時間主体的に学習する習慣がついてきた。
・宿題等が終了した児童へのサポートや参加する家庭から連絡がない時の対応などが今後の課題。

報告書記入者（　教頭　）

放課後のあそびば葉山東ふれあい子ども広場

栗東市	活動名：　葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　葉山東小学校体育館、コミュニティセンター葉山東　　　開始年度：　平成17年度
年間開催日数：　約30日（　開催ペース：週1日　）　　　地域学校協働活動推進員等数：　12人（兼務3人）
平均参加人数：　36人　　　平均スタッフ数：　13人
・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
毎週水曜の放課後（～16:30まで）、葉山東小学校体育館で［軽スポーツ（ボール遊び等）］、コミセン葉山東で［将棋］［クラフト（工作・塗り絵など）］を実施しています。また、年に3回、全員でお楽しみ会を実施しています。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
スタッフの方が季節やその場の状況に応じた遊びや作品づくり等の指導を実施してくださっています。
コロナ対策：例年より募集人数を縮小し、集合時の手指消毒・体温計測や、換気をしながら活動しています。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
特にありません。

【　お楽しみ会でのニュースポーツ体験　】

■　他事業との関わり
特にありません。

■　事業の成果と課題
成果：各教室での活動を通して様々な遊びの体験や文化に触れ、地域住民・他学年ともふれあえる良い交流の場となっています。
課題：スタッフの人員確保（待遇の面でお願いしづらい）が課題となっています。
保護者からは「17:00頃まで実施してほしい」との声がありますが、
待遇の面もあり、スタッフの方にお願いしづらい状況です。

報告書記入者（　葉山東学区地域教育協議会 事務局　）

地域と学校が連携しなかまづくりと人権意識を高めるのびのび広場

栗東市	活動名： 治田西のびのび広場	治田西小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 治田西小学校　開始年度： 平成21年度
年間開催日数： 18日（ 開催ペース：月１～３日 ）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 15人　平均スタッフ数： ８人
・活動内容 ：□学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 ■スポーツ ■その他（ 平和学習など ）
・教室のもち方 ：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他

■ 活動の概要

・地域と学校が連携し、互いに助け合い、励まし合う活動を通して、人権意識を高め差別をなくしていこうとする態度の育成や連帯意識の高揚を図り、地域でのなかまづくりを進めてきました。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・人権学習、集団遊び、創作活動、平和学習、スポーツ活動など毎回内容を変えながら、様々なジャンルの体験活動を行いました。

・人権学習の一環として、地域のふれあい文化祭でステージ発表を行っていましたが、中止になったので、校内向けに「コロナの中で気をつけて欲しいこと」として国連が作ったロゴマークをみんなの紹介するＶＴＲを作って、人権の大切さを呼びかけました。

【 距離を保って持ち上げよう 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・学校教員も参画して、地域のボランティアの方とともに活動を運営。

■ 他事業との関わり

・地域のグランドゴルフクラブとの連携、日本語学習教室で学ぶ方のお話 など、資金的にも支援してもらっています。

■ 事業の成果と課題

・コロナ禍で参加希望人数は例年の半数にとどまったが、軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動を通じて、子どもたちは楽しく過ごす中で、異学年同士の子どもたちの交流もでき、仲間意識が少しずつ育ちつつあります。サポーターとして事業に係っていただいている地域の方々や、地域の様々な団体の方々と一緒に活動することにより、地域の方々と子どもたちとの交流を深めることができました。スタッフの高齢化、スタッフの不足が課題になっています。

報告書記入者（ 学校担当者 ）

体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名： 中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： コミュニティセンターなかさと　開始年度： 平成18年度
年間開催日数： 20日　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 10人　平均スタッフ数： ２人
・活動内容 ：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他

■ 活動の概要

茶道クラブ、手芸クラブ、各月１回、年間10回を小学生以上対象で行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

【茶道クラブ】・子ども達に12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしている。

【手芸クラブ】・子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校を通じてチラシ（申込用紙）を配布している。

■ 他事業との関わり

学校行事と子ども教室事業の日程調整を行い、参加しやすい環境づくりに努めている。

【 手芸クラブの様子 】

■ 事業の成果と課題

〔課題〕・子ども達の習熟度にバラツキがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。
・子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。

〔成果〕・集中力の持続性や達成感を得られ、そのことが学習意欲の高揚に結び付く一助となっていると考えられる。

報告書記入者（ 中主地域子ども教室運営協議会事務局／中里学区 ）

みんな仲良く楽しくチャレンジ！心豊かな中主っ子

野洲市	活動名： 中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： コミュニティセンターひょうず　開始年度： 平成 18 年度
年間開催日数： 10 日（開催ペース：月１日）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 10 人　平均スタッフ数： ２人
・活動内容　：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要
子どもたちが積極的に、学校では経験できない事にチャレンジする中で仲間作りや精神的な拠り所作りの場を提供している。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
今年度はコロナ感染拡大を考慮して、クッキング教室は中止としたが、茶道クラブや生け花教室などは、回数や人数を減らしたり、検温、マスク着用、換気などに配慮しながら実施している。

【　生け花教室　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
小学校を通じてチラシを配布したり、行事が重ならないようにしている。

■　他事業との関わり
毎年、コミュニティセンターひょうずの収穫祭において、茶道クラブの生徒にお抹茶コーナーを担当してもらっているが、今年は収穫祭が中止となり、日頃の練習の成果を披露することが出来ず残念である。

■　事業の成果と課題
どの教室も６年生まで続ける子どもがほとんどで、技術の上達と共に仲間を思いやる心や協調性が養われているように思う。また、少ない時間ではあるが子どもたちが安らげる居場所の提供にもなっているように感じられる。

報告書記入者（　教頭　）

自然に触れ、人に触れ、さまざまな体験を通して健やかな成長を育む

野洲市	活動名： 篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： コミュニティセンターしのはら　開始年度： 平成 17 年度
年間開催日数： 58 日（　開催ペース：週・月５日　）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： ７人　平均スタッフ数： 1.5 人
・活動内容　：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の中止、延期をしてきたが、学校再開と同時に、出来ることから感染防止に努め再開した。（茶道、手編み、フラワーアレンジ、ロボット・プログラミング、Ｊr．オーケストラ）

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
密を避けるため、茶室から広い和室に変えたり、大ホールを使用したり、また消毒液を備え対応した。

【　しのはらジュニアオーケストラ　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学校を通じて、事業募集のチラシを配って頂いた。先生が見学に来られた事業あった。

■　他事業との関わり
今年度はトレトレ祭りを中止したが、文化祭の展示は実施し、フラワーアレンジ教室と手編み教室の参加児童の作品を展示した。

■　事業の成果と課題
コロナ禍でも活動できるものや、方法が確立できたことは評価できるが、今後も続くであろう感染対策の徹底と、料理と食事を伴うイベントの在り方が課題である。

報告書記入者（　篠原地域子ども教室運営協議会事務局　）

いろんなことにチャレンジしよう!! 「ぎおう子ども体験教室」

野洲市	活動名： ぎおう子ども体験教室	祇王小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所：	滋賀県立アイスアリーナ	開始年度：	平成 17 年度
年間開催日数：	１日	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	16 人	平均スタッフ数：	13 人

・活動内容　：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要
・今年度はコロナ禍により、定期開催を断念しスケート教室を開催しました。

【 親子ふれあいスケート体験教室 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・体調の確認と体温チェック、マスクの着用を徹底し、密にならないよう参加人数をおさえた。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校や地域と、企画や募集を連携している。

■ 他事業との関わり
・なるべく多くの子どもたちに参加してもらえるよう日程・内容を調整の調整をしている。

■ 事業の成果と課題
・地域の人と交流することで、子どもたち自ら地域の大切さを学んでくれている。

報告書記入者（ コミュニティセンターぎおう事務局 ）

新しいことにチャレンジして新しい自分を見つけよう。仲間と一緒に楽しもう。

野洲市	活動名： 三上楽しいクラブ活動	三上小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所：	コミュニティセンターみかみ	開始年度：	平成 14 年度
年間開催日数：	３日（ 開催ペース：月１日 ）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	10 人	平均スタッフ数：	１人

・活動内容　：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■ 活動の概要
・生け花（10/３,11/21,12/26 全３回） ※工事に伴い１月～中止

【 生け花クラブの様子 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・コミュニティセンターで作成した体温と体調確認シートを毎回提出してもらうこととした。
・活動前後に手洗いをすること、椅子の間隔を開けて距離をとること、マスク着用を義務付けした。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校内でのコロナ対策を聞き参考にさせていただいた。（シートの作成等）

■ 他事業との関わり
・コミュニティセンターで毎年開催している悠紀まつりに生け花を出展、地域の方々や親御さんにも見ていただく機会を作っている。

■ 事業の成果と課題
・コロナ感染が心配される中、サポーターの方にご理解とご協力をいただきスタートすることができた。
・出席率も高かったことから、居場所作りとしての機能を果たしその必要性も改めて確認された。
・飲食と対面を伴うクッキング、茶道、将棋ができなかったので次年度どのような対策をすれば活動できるかが課題。

報告書記入者（ 三上地域教育推進委員会事務局 ）

活動を通じてみんなと触れ合う「北野っ子フレンドリークラブ」

野洲市	活動名： 北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： コミュニティセンターきたの　　開始年度： 平成８年度
年間開催日数： 24 日　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 25 人　　平均スタッフ数： ７人
・活動内容 ：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 ■スポーツ □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他

■ 活動の概要
青少年育成が年間計画を立案し学校を通して募集し、土曜日の９時 30 分から２時間の活動。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
１～３年生は保護者の送迎を原則とした。緊急時のために、固定及び携帯電話の番号を通知願っている。健康推進員、又他に活動されている方々に依頼して活動。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
コミュニティセンターきたの敷地内を活動基本としているので連携はない。

■ 他事業との関わり
北野育成会活動だけで他の事業との関わりは、スタッフ不足で対応出来ない。

【 囲碁教室 】

■ 事業の成果と課題
教室の編成を同年代のみにせず、クラブ形式とした。学校では機会が少ない料理教室、お菓子作り教室などに多く時間を充てる。
今後の課題 ： 指導者探し、ｻﾎﾟｰﾀｰの後継者が問題として残る。

報告書記入者（ 北野小学校区青少年育成会会長 ）

わかった！できた！～地域の人々と学ぶ学習会～

東近江市	活動名： みなみっこ学習会	八日市南小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 南部コミュニティセンター　　開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： ２日 （夏休み）開催日数 ２日　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 16 人　　平均スタッフ数： 10 人
・活動内容 ：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）
・教室のもち方 ：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 ■その他

■ 活動の概要
・休業中の宿題などの支援を通じて、学習習慣を身につける

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・今までは、２時間学習をし、学習後に低学年はカルタ、高学年は百人一首を実施していましたが、コロナ対策のため学習のみにし、コミセン全室を貸し切りにし、子ども達の間隔をあけて学習。
・スタッフの高校生には、保護者の了承を得て参加してもらった。
・ボランティアの方にはフェイスシールドをつけ、体温や体調の確認を行った。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校から教職員が訪問したことで、児童のやる気があがっているように思う。
・参加児童の担任から引き継ぎをうけ、その子に応じた対応を行った。

【 学習会の様子 】

■ 他事業との関わり
・南部地区まちづくり協議会と一緒に活動をしている。ボランティアの募集だけでなく参加児童のおやつ代や学生ボランティアへの謝礼など金銭的な補助もしてもらった。

■ 事業の成果と課題
・今年度は学校の始まりが遅く長期休暇の変更などあり、毎年８日間実施している学習会が２日しかできなかった。
・子ども達の学習支援の受け皿として、地域児童の見守りを行えた。
・今年度については、コロナ禍の状況下において休業期間が短く、学習会を実施できる日数も限られていたが、次年度は、実施日数を増やしていきたい。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推員 ）

子ども達の健やかな成長を願い、地域・学校・家庭が手を携え合う学習会

東近江市	活動名： 八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 八日市コミュニティセンター　　開始年度： 平成 29 年度
年間開催日数： ３日　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 11 人　　平均スタッフ数： ５人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・地域の児童の夏休みの宿題を、地域のボランティアが支援する。

【　国語や算数を手伝ってもらえて、やり方を思い出せた　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・学習だけでなく、英語遊びやダンスなどを取り入れて、児童が楽しんで参加できるように工夫している。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校では、夏休み学習会を児童へ周知してもらっている。
・主催団体から、年２～３回、校長に活動報告をして、指導助言を受けている。

■　事業の成果と課題
・地域学校協働活動（放課後子ども教室）に係る活動として、夏休み学習会を３日間実施できた。地域で友達と学び合う姿が見られた。
・箕作小学校の児童だけでなく、聖徳中学校区の児童が校区の中心にある八日市コミセンで交流することができた。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

地域で学び、地域で育つ「市原っ子」の明るく楽しい共同学習の場

東近江市	活動名： 放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 市原小学校　　開始年度： 平成 25 年度
年間開催日数： ８日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 40 人　　平均スタッフ数： ４人+３人（新規）
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（コンピュータを活用した自主学習ｅライブラリ、初めてのプログラミング）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
１年生～３年生は前半 16:00～17:00　保護者送迎
４年生～６年生は後半 17:00～18:00　保護者送迎
（ 30 分間は図書室で自学・共同学習、30 分はコンピュータ室で「ｅライブラリ」または上学年は「プログラミング」学習 ）

【　友だちと学び合う子どもたち　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・『まなびぃ　ふりかえりカード』に「今日のめあて」を記入して学習に取り組む。
・終了時点、児童は「マナビィふりかえりカード」に成果などを記入している。
・児童が主体ですることを決めている。支援者は必要な時に寄り添うのみ。
・ｅライブラリでの学習を個々に積み上げている。
・令和２年度から「初めてのプログラミング」を上学年でおこなっている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・要請はしていない。一般教員は適宜自由に児童の様子を見に来る形。
・管理職等が PC の準備、受付を手伝い、後始末、施錠などの管理は管理職。

■　他事業との関わり
・特に無し

■　事業の成果と課題
・「まなびぃ」の日を楽しみにして参加申し込みを継続している。リピーターが多い。
・送迎ができにくい保護者の参加希望をどうするかが課題。小字草の根ハウス等での開催を望まれているが人材不足である。
・児童は「小学校（図書室・コンピュータ室」は学びの場）と認識しているので、主体的に学習を行っている。
・担当している人への挨拶、靴を並べて脱ぐなどのマナーが育ってきた。

報告書記入者（　市原小学校地域学校協働本部長　）

夏休み宿題教室

東近江市	活動名： 湖東第二小学校　地域学校協働本部	湖東第二小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	湖東第二小学校	開始年度：	平成20年度
年間開催日数：	３日（開催ペース：週３日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人
平均参加人数：	20人	平均スタッフ数：	９人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
・長期休業中の学習支援

【　夏休み宿題教室　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・地域の社会人や大学生、高校生に協力を得て、学習支援を行う。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・担任や関係職員もできるだけ参加し、学習支援を行う。

■　他事業との関わり

■　事業の成果と課題
長期休業中の学習課題など、子どもたちの学習を支援していただき、学習意欲の高まり、につながっており、子どもたちも満足感を感じている。保護者の喜ぶ声もある。参加いただいているボランティアの方々は子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると、喜んでくださっている。

報告書記入者（　教頭　）

「地域に根づき育つ子」の育成

東近江市	活動名： 東近江アミーゴ教室	東近江市地域学校協働本部　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	東近江市福祉センター　ハートピア	開始年度：	平成23年度
年間開催日数：	36日（開催ペース：毎週土曜日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（統括ＣＯ）
平均参加人数：	10人	平均スタッフ数：	９人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
・毎週土曜日　午後２時から午後４時
・国語、算数、社会等の学習支援及び日本語の習得

【　交流会の様子　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・参加者それぞれの課題に応じた個別教科学習の実施
・かるた等を活用した日本語習得学習
・低学年対象にブロックや積木を使っての指導

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校からの宿題等の支援

■　他事業との関わり
・更生保護女性会との交流会を開催（主催：更生保護女性会）

■　事業の成果と課題
・個々の課題に応じた学習支援を実施することで課題克服及び日本語習得の成果が感じられる。
・参加者のつながりが生まれ、よき居場所となっている。

報告書記入者（　統括コーディネーター　）

「日野小チャレンジ教室（日野小てらこや）」の取組

日野町	活動名： 日野小チャレンジ教室（日野小てらこや）	日野小学校　学校運営協議会： □有　■無

主な活動場所：	少人数教室	開始年度：	平成 29 年度
年間開催日数：	50 日（　開催ペース：週３日　）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	25 人	平均スタッフ数：	５人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要

学校再開後６月中旬より取組を開始した。算数について、学習の土台となる計算等の復習のための補充プリントに取り組んだ。

【　日野小チャレンジ教室（日野小てらこや）　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

補充プリントを多数用意し、児童の実態に合わせて取り組めるように工夫した。参加児童を少数とし、苦手なところが理解できるよう個別指導を行った。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

各学級において、チャレンジ教室への参加の呼びかけをした。また、学習支援員とともに学級担任も学習指導に当たった。

■　事業の成果と課題

今年度は、対象学年を広げ、３年生以上とした。毎回、大変集中して、じっくりと学習に取り組む児童の姿が見られた。複数のスタッフがいることで、苦手な問題や自分一人では取りかかりにくい課題に対して困っている児童へ、個別の声かけや指導ができた。児童からも「集中して勉強できた」等、有意義な学習の場となった。保護者アンケートより対象学年をさらに広げてほしいとの要望もあり実施方法や参加対象について今後検討が必要である。

報告書記入者（　教頭　）

放課後にじっくりゆっくり勉強タイム！　西大路小放課後チャレンジ教室

日野町	活動名： 放課後チャレンジ教室	西大路小学校　学校運営協議会： □有　■無

主な活動場所：	図書室・４年教室・６年教室	開始年度：	平成 29 年度
年間開催日数：	32 日（開催ペース：週３日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	13 人	平均スタッフ数：	３人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要

学習に支援が必要な児童（４年～６年対象）を中心に、放課後、総合教育センターの「ガッテンプリント」や宿題を行う。

【　こつこつプリントに取り組む児童　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

・昨年度の反省を踏まえ、また、コロナ感染拡大予防の観点からも今年度は少人数での学習スタイルをとることとした。また、４年生以上対象ではあるが、「ガッテンプリント」（算数科）の小学３年からプリントに取り組むことで、各自が苦手なところを再度復習するよう工夫した。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

時々、担任が様子を見に来て、指導を行う場面もあった。

■　他事業との関わり

特になし

■　事業の成果と課題

＜成果＞　少人数での学習なので、個々の学習のつまずきがわかり、個々に応じた学習を行うことができた。
＜課題＞　参加している児童は小学４年生からの対象だったため、計画より早く小学３年～４年のプリントを終了した。

報告書記入者（　教頭　）

「なんぴが大好き」 ～地域の学び場づくり～

日野町	活動名： 書道教室・科学教室	南比都佐小学校 学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 南比都佐公民館　開始年度： 平成 29 年度
年間開催日数： 40 日（開催ペース：月２回書道　月１回科学）　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 25 人（書道教室）５人（科学教室）　平均スタッフ数： ２人（書道教室）１人（科学教室）
・活動内容　：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・硬筆・毛筆の書き方の基礎を習得する。（書道教室）
・様々な実験を通して、科学の楽しさを味わう。（科学教室）

【　書道教室　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
・毎月の作品を公民館のロビーに展示、文化祭に作品を展示している。また、滋賀県書道協会の検定に出品している。
・マスクの着用、広いホールでの実施等の対策をとっている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・書道教室の講師が学校での書写指導支援を行っている。

■　他事業との関わり
・地域の文化祭に作品を展示している。

■　事業の成果と課題
・毎回、楽しみにしている児童が多く、地域の良き学びの場として定着している。

報告書記入者（　教頭　）

“できた”“わかった”を増やし、子どもたちの学習意欲を引き出す

日野町	活動名： 必佐小学校区放課後子ども教室「放課後必佐寺子屋」	必佐小学校 学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 少人数教室　開始年度： 平成 29 年度
年間開催日数： 71 日（ 開催ペース：週３日 ）　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 10 人　平均スタッフ数： ２人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要
・中・高学年を対象とした補充学習の実施

【　学習の様子　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・教科は算数に限定（プリントを使っての学習）する。
・算数の基礎基本について、苦手や遅れが見られる部分の補充を行う。
・授業内容の理解が不十分な部分の補充を行う。ただし、宿題は取り扱わない。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・参加児童は授業終了後、下校せずに放課後 15:35～16:20 に少人数教室で学習する（下校は保護者の迎えを基本とする)。

■　他事業との関わり
・令和２年度退職教員の豊かな経験を活用した学校教育活動支援事業（県幼小中教育課）

■　事業の成果と課題
・理解が不十分であった学習内容の復習ができ、日常の授業がよくわかるようになってよかったという児童の感想があった。
・学習したプリントをファイルに綴じていくことで自分のがんばりが目に見えてわかり、さらなる意欲につながった。
・指導が必要と思われる児童であっても、保護者による下校の迎えができないため参加できないという児童がいる。

報告書記入者（　教頭　）

理解に応じてチャレンジ！「わかった！」「できた！」～放課後学習～

日野町	活動名： 桜谷小学校 放課後学習	桜谷小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 和室　　開始年度： 平成29年度
年間開催日数： 26日（ 開催ペース：週１日 ）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 31人　　平均スタッフ数： ４人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
木曜日　１，２年　14:45～15:30
　　　　３～６年　15:30～16:15
この時間帯を活用し、校内の和室で算数学習を進めている。

【　和室での放課後学習　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・参加の希望者を募るが、放課後の時間帯であるので、下校の仕方が前もってわかるように連絡カードを作る。カードの項目は、学童へ行く、バスで帰る、お迎えで帰るなどを記入できるようにしておく。
・学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。何を学習したのか、どこがわからなかったのかなど振り返ることができるようにする。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学期毎に出席カードを作り、参加する日を学習日の月曜には確認する。希望による参加が中心であるが、欠席などで学習した方が良いと考える子どもには、担任から声もかける。学童に行く子どもは、この学習を終えてから学童に向かう。

■　事業の成果と課題
本年度、要望があった基礎習熟コースと、発展挑戦コースに分けて開催した。成果として、基礎コース受講児童からは、「わかりにくかったところがわかるようになった。」発展コース受講児童からは、「難しいけれど、おもしろくてやりがいがある。」という声があった。課題としては、2コースに分けたことで１回の出席数は少なくなったが、まだまだ人数が多く、個々に対応しきれない場面があった。

報告書記入者（　教頭　）

夏季休業中学力補充教室「夏休みわくわく学習会」（豊郷小学校）

豊郷町	活動名： 夏休みわくわく学習会	豊郷小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 各教室　　開始年度：
年間開催日数： ２日　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 87人　　平均スタッフ数： 30人
・活動内容　：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）
・教室のもち方　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　■行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO等関係者　□その他

■　活動の概要
○ 既習の学習内容の定着を中心に、個のつまずきに寄り添った補充学習をねらいとして、町と小学校が協働して学習教室を開催している。子どもたちは、大学生や町の機関などから参加していただいた方にわからないところを教えてもらいながら学習する。１・２時間目は国語と算数のプリント学習を中心に学習する。３時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいは百人一首、かるたを用いた学習や「科学実験工作教室」の開催など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。

【　科学実験工作教室　】

■　実施に当たっての工夫
○ 保護者に募集案内を配り、懇談会で担任から保護者に直接参加を呼びかけたり、事前に学習を周知したりして、児童が積極的に学習会に参加できるよう努めた。コロナの状況もあり、事前のボランティアスタッフとの打ち合わせは各教室で行うことで、スムーズに進められるようにしている。

■　事業の成果と課題
○ 休業中の児童の様子を把握し、生活リズムの改善につなげることができた。
○ 既習内容の復習を中心に学習することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡したりする機会ができた。
○ 参加児童どうしや担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、夏季休業中でも学級のつながりをもつことができた。
○ 事業を運営するにあたっての準備に時間がかかるのでスムーズに運営ができるようにしていきたい。

報告書記入者（　児童支援加配　）

個のつまずきに寄り添った質問教室（日栄小学校）

豊郷町	活動名：　夏休み質問教室	日栄小学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	日栄小学校	開始年度：	平成 20 年度
年間開催日数：	２日	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	63 人	平均スタッフ数：	33 人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）
・教室のもち方：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　　　）
・スタッフの属性：□企業関係者　■行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要

夏季休業の開始とともに２日間、自主参加の学習会を午前８時 15 分～10 時 50 分まで開催した。地域の教員 OB や役場職員、県内外の大学生等をボランティアスタッフとして招き、児童の学習支援をお願いした。１回を３校時に分け、時間のメリハリを付けて夏休みの課題に取り組ませ、子ども２人につき１人の指導者がついてきめ細かな指導を行った。

【　個別指導の様子　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

夏期休業の短縮による子どもたちへの負担を配慮し、夏期休業中の課題に一人でなかなか取り組むことができない児童や、学習内容定着に不安のある児童のために、質問教室という形で実施した。全員を対象に募集をかけたが、目的をはっきりさせたことで参加対象をしぼることができ、密をさけると共に、超少人数の指導を行うことができた。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

募集から実施まで、担当者間で連携しねらいや実施方法など打ち合わせを密に行った。

■　他事業との関わり

質問教室のボランティアスタッフと町の他の事業で出会うことがある。

■　事業の成果と課題

学習内容定着に不安のある子どもに、じっくり関わることができ、苦手な問題の確実な理解につながった。子どもたちや保護者の感想からも、「分からないところを質問できて、できるようになった。」「夏休みの宿題をすぐに見てもらい、直しまで完璧にしてもらって良かった。」と、好評であった。早く課題が終わった子どもに対しては、自主学習の内容や取り組み方へのアドバイスもできた。

子どもたちの中には、休み時間や休憩時間に地域の大人や大学生のスタッフと話すことを通して、大人への憧れや大学に行きたいと感じる子もおり、キャリア教育の視点からも良い機会となった。

報告書記入者（　児童支援加配　）

放課後児童クラブの現状

令和２年７月１日現在

１　放課後児童クラブ数実施状況

（１）　小学校の状況

小学校区数	220 か所	児童数	80,396 人
小学校１～３年生の総数	39,570 人	*４～６年	40,826人

（２）　放課後児童クラブの概況

	公立公営	公立民営	民立民営	合　　計
設置・運営主体別クラブ数	106	164	103	373

（３）　放課後児童クラブの状況

調査項目		公立公営	公立民営	民立民営	合　　計
実施場所別放課後児童クラブ数	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	48	19	2	69
	学校敷地内専用施設	37	63	0	100
	公有地専用施設	18	55	0	73
	民有地専用施設	0	1	26	27
	民家・アパート	0	0	8	8
	公的施設利用	2	14	13	29
	団地集会室	0	1	0	1
	保育所	0	0	8	8
	幼稚園	0	1	0	1
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	3	40	43
	その他	0	5	1	6
	合計	106	164	103	373
登録児童数別放課後児童クラブ数	９人以下	0	0	3	3
	１０人～１９人	3	6	12	21
	２０人～３５人	44	49	37	130
	３６人～７０人	31	71	44	146
	７１人以上	28	38	7	73
	合計	106	164	103	373
障害児受入数別放課後児童クラブ数	受入なし	13	21	46	80
	１人	31	24	21	76
	２人	21	31	16	68
	３人	16	28	10	54
	４人以上	25	60	10	95
	合計	106	164	103	373
平日の終了時刻別放課後児童クラブ数	１７：０１～１７：３０	0	0	0	0
	１７：３１～１８：００	16	0	2	18
	１８：０１～１８：３０	46	0	7	53
	１８：３１～１９：００	37	0	21	58
	１９：０１～２０：００	0	0	11	11
	２０：０１～２１：００	0	0	0	0
	２１：０１～２２：００	0	0	0	0
	合計	99	0	41	140
休日の開館状況別放課後児童クラブ数	土曜日（毎週実施以外）	90 (6)	164 (52)	86 (60)	340 (118)
	日曜・祝日	2	76	10	88
	長期休暇	99	29	46	174
学年別児童数	小学校１年生（障害児）	1,852 (88)	2,433 (143)	1,096 (48)	5,381 (279)
	小学校２年生（障害児）	1,540 (64)	2,246 (147)	992 (31)	4,778 (242)
	小学校３年生（障害児）	1,234 (53)	1,770 (122)	745 (27)	3,749 (202)
	小学校４年生（障害児）	830 (25)	1,232 (90)	585 (26)	2,647 (141)
	小学校５年生（障害児）	332 (17)	721 (65)	308 (5)	1,361 (87)
	小学校６年生（障害児）	152 (10)	400 (35)	147 (6)	699 (51)
	その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計（障害児）	5,940 (257)	8,802 (602)	3,873 (143)	18,615 (1,002)
学年別利用（登録）できなかった児童数	小学校１年生（障害児）				25 (0)
	小学校２年生（障害児）				6 (0)
	小学校３年生（障害児）				10 (0)
	小学校４年生（障害児）				44 (2)
	小学校５年生（障害児）				118 (4)
	小学校６年生（障害児）				58 (0)
	その他（障害児）				0 (0)
	合計（障害児）				261 (6)

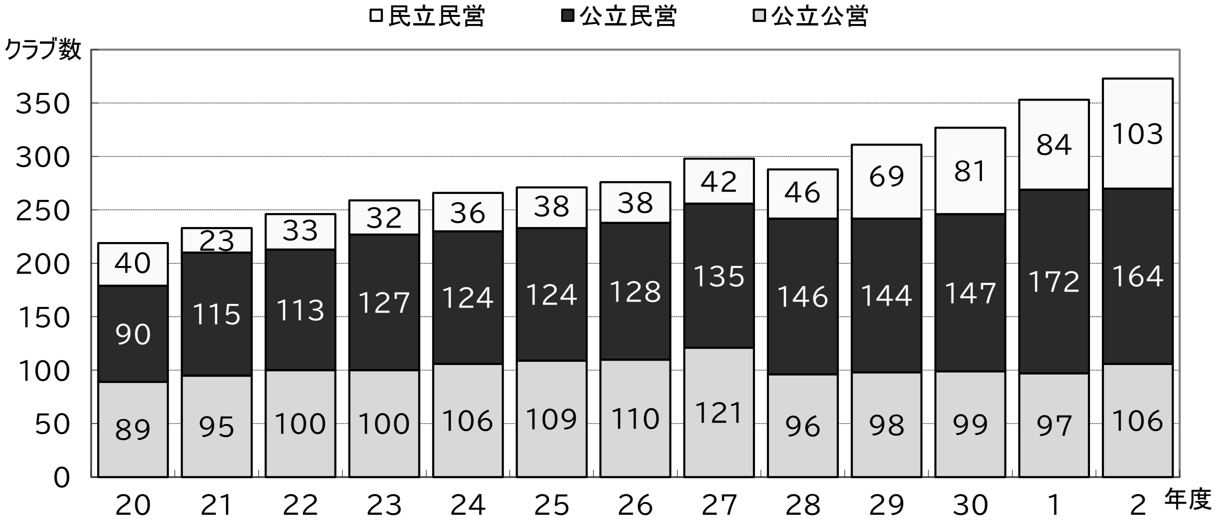
注：（　）内の数は、再掲である。

（４）　市区町村の実施状況

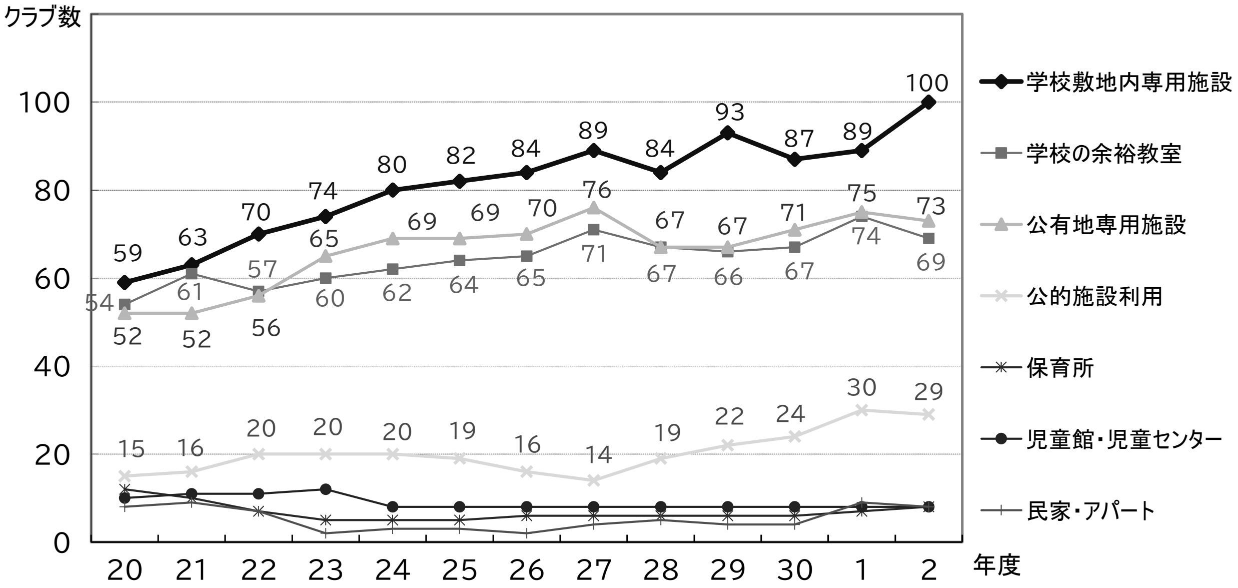
全市区町村数	実施率	実施市区町村			合　　計
A	（B／A）	市（特別区）	町	村	B
19	100 %	13	6	0	19

2　放課後児童クラブ数の推移

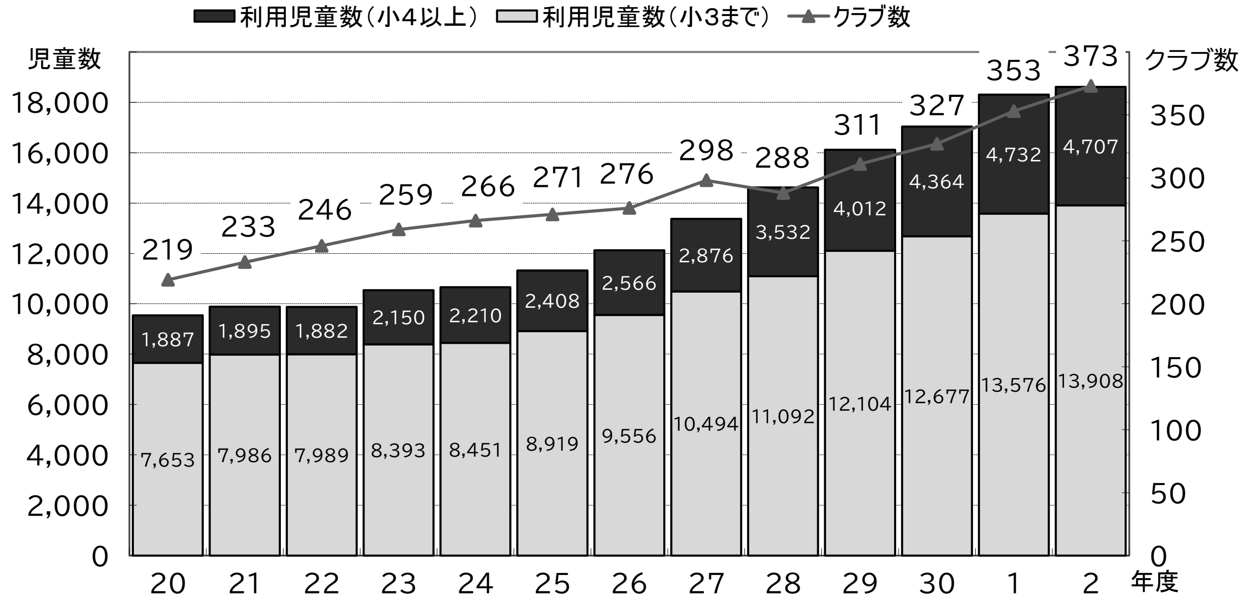
運営主体



主な実施場所



利用児童数・クラブ数



令和2年度　土曜日の教育支援　活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	主な実施場所	委託	委託団体名
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校		
		ひがしっこ教室	三雲まちづくりセンター		
		さんさん教室	学区内のまちづくりセンター など公共施設		
		土曜教室	岩根まちづくりセンター		
		学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校		
		菩提寺学区　土曜日の教育支援活動 ～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		
		しもだっこ土曜教室	下田まちづくりセンター		
		土曜日の教育支援活動	水戸小学校、水戸地区の公園 水戸菜園		
東近江市	12	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　初級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　中級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス　上級	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ KIDS　FLOWER（キッズフラワー）	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター	○	
		玉緒キッズダンス教室（初級）	玉緒小学校体	○	玉緒地区 地域教育協議会
		玉緒キッズダンス教室（中級）	玉緒小学校体	○	
竜王町	5	竜王キッズクラブ　クッキングクラブ	竜王町農村女性の家 竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ　サイエンスクラブ	竜王町公民館　他		
		竜王キッズクラブ　書道クラブ	竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ　チャレンジクラブ	竜王町公民館　他		
		竜王キッズクラブ　竜王ユースプラス	竜王町公民館　他		

地域で子どもたちを支えるいしべっ子学習教室

湖南市	活動名： いしべっ子学習教室	石部小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 石部まちづくりセンター　開始年度： 平成 27 年度
年間開催日数： ５日　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 80 人　平均スタッフ数： 14 人
・活動内容 ：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）

■ 活動の概要・特徴的な活動

長期休業期間に集中して学習に取り組める場を提供し、子どもたちの学習意欲が高まるよう支援をしている。

【 夏休み学習教室 】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

まちづくり協議会に協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習できるように配慮した。終了後、参加児童にふりかえりを書いてもらい、部会で反省会を開き、改善すべき点を明確にしている。

コロナ対策として、１日を２部に分け、密にならないような参加人数にした。受付前に児童の検温、手の消毒、前半と後半の間に机などの消毒作業も徹底した。

■ 事業の成果と課題

地域の学習支援ボランティアやまちづくり協議会の協力に支えられ、のべ 403 人の子どもたちが参加し、集中して学習に取り組めた。分からないところはすぐに質問できるようにしているので、子どもたちの中に達成感が得られた。

いしべっ子学習教室が児童や保護者にも浸透し、年々参加人数が増えてきている。そのため、教室や学習支援ボランティアの確保が課題である。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

「子どもと地域がひびきあう！」 しめなわ作りに挑戦しよう！

湖南市	活動名： みなみっこ土曜講座	石部南小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所： 石部南小学校　開始年度： 平成 28 年度
年間開催日数： 11 日（ 今年度は５日開催 ）　地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 40 人　平均スタッフ数： 10 人
・活動内容 ：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）

■ 活動の概要・特徴的な活動

みなみっこ土曜講座では「ふるさと意識の醸成」「主体性の育成」を大きな柱とし、校区にある県立近江学園を舞台に子どもたちへの研修を行ったり、地域に伝わる伝統行事に参加したりと、地域の特性を生かした活動を行っている。

今年度は５年生が田んぼの子で作ったもち米の藁を使い、６年生全員がしめなわ作りを体験した。

【 しめなわ作りの様子 】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域ボランティアには事前にしめなわ作りを体験してもらうことで、子どもたちにスムーズに教えることができた。

学校応援団だよりを毎月発行することで、学校で行われている活動が地域や保護者に定着している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）

当日は密にならないように、地域ボランティアの人数を増やして、各グループが少人数になるように、そして体育館を広く使い行った。

今年度はコロナ禍の影響で、11 回の講座中５回のみの開催となった。

■ 事業の成果と課題

６年生の体験活動を中心に行ったため、５年生以下の子どもたちの参加が出来なかった。

学校外で行われる講座が中止となった。

報告書記入者（ 地域学校協働推進委員 ）

地域と協働して開く「ひがしっこ教室」

湖南市	活動名： ひがしっこ教室	三雲東小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 三雲まちづくりセンター 開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： 10 日（ 開催ペース：夏休み週２回／秋週１日 ） 地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 25 人 平均スタッフ数： ３人
・活動内容 ：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）

■ 活動の概要・特徴的な活動
夏休みの宿題・自主学習の支援、折り紙アート（うちわ作り）・絵手紙・お抹茶
オリジナルフォトフレーム作り（水風船スタンプ） 折り紙で名札作り
秋季に「ふるさと歴史探訪」を実施
（うつくし松・夏見神社・盛福寺・新明神社・観音寺・夏見神社）

【 折り紙アート作り 】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・三雲学区まちづくり協議会との連携による講師の依頼
・地域のボランティアセンター（ボランティアグループ）湖
・卒業生（大学生）への声かけ
■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）
・三雲まちづくり協議会との連携
・地域人材を活用した体験学習、学力補充に関わっていただき、取り組みについて知っていただく場とした。
・密をさけるため、上学年と下学年に分かれての実施、及び、広い会議室を使用
・会場での検温、アルコール消毒、マスク着用、換気、実施前と実施後の机やいすの除菌作業
・申し込み時と開催日にコロナ対応についての児童への説明
■ 事業の成果と課題
・スタッフの人数が安定してきた。継続的に関わっていただいていることで、内容が変わっても運営がスムーズになってきた。
・安全面を考慮して開催できたことが、コロナ禍で出会えなかった友達と一緒に過ごせる機会となり、児童にも笑顔が見られた。
■ その他
・コロナの状況が落ち着けば、「中学生のスモールティーチャー」を呼びたい。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

地域ぐるみで子どもを見守る「さんさん教室」

湖南市	活動名： さんさん教室	三雲小学校	学校運営協議会： □有 ■無

主な活動場所： 学区内のまちづくりセンターなど公共施設 開始年度： 平成 27 年度
年間開催日数： 10 日 地域学校協働活動推進員等数： １人
平均参加人数： 20 人 平均スタッフ数： 15 人
・活動内容 ：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）

■ 活動の概要・特徴的な活動
地域で活動されている講師を招いての絵てがみ作り、お抹茶の体験学習。夏休みの宿題や自主学習の支援。秋季には歴史探訪（うつくし松自生地、夏見神社、観音寺他）を実施。
■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
みくも学区まちづくり協議会と連携し、各地区からのスタッフの配置や材料費の支援を受けることが出来た。
■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）
コロナ対策として、検温、消毒、換気をし、下学年（１年～３年）と上学年（４年～６年）に分けて日程を組み１会場の人数を減らした。飛沫防止対策として会話が少なくなるよう「絵てがみ作り」を主に取り組んだ。「歴史探訪」は屋外での学習ではあるが、マスク着用を徹底した。

【 絵てがみ作り 】

■ 事業の成果と課題
学習だけでなく参加型の体験を企画したことで、参加希望者は増加傾向にある。例年、人気のある「抹茶体験」は継続して行い「歴史探訪」は地域の歴史を知る機会としてシリーズ化していきたいと考えている。
■ その他
昨年度、中学生に依頼した「スモールティーチャー」はコロナ禍のため取りやめた。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

自尊感情を高める学習支援　～ ふり返りの共有を大切に ～

湖南市	活動名：　土曜教室	岩根小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：	岩根まちづくりセンター	開始年度：	平成 22 年度
年間開催日数：	20 日	地域学校協働活動推進員等数：	１人
平均参加人数：	６人	平均スタッフ数：	７人

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

個別の指導・支援を要する通常学級児童の内、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として個別の学習支援を実施している。原則個別指導の体制を構築し、国語と算数の基礎的内容を窓口として自尊感情を高めることを目指している。

【　苦手意識に寄り添う　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

スタッフは校区在住の元教員・保育士および教育や福祉等を志す学生等であり、平日の学校支援員を兼ねている者もいる。人から人にリレーされた情報により、校区外・市外から来てくれている学生もいる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

・対象児童の人数・・・適正規模により指導・支援の質を保てる範囲を維持し、保護者の理解と協力を得ること。

・目的の共通理解・・・弱みを受け入れながら課題に取り組むことをとおして、自尊感情を育てること。

・体制の構築・・・現職の教員は管理職のみとし、運営もスタッフも地域人材が担うこと。

■　事業の成果と課題

○ 間違いを恐れずに課題に取り組むことで、スタッフと児童および児童相互に自己開示的な人間関係が形成される。

○ 専門家による音読指導を組み込むことで、表現に関するポイントの理解や自分の変容に対する自覚が生まれる。

○ スタッフのふり返り会は、児童の姿や指導のあり方を話し合うことを通して学生が学び合う場となっている。

△ 家庭状況や児童の意向の変化により、通いたくても通い続けられなくなる児童が年間１～２人発生する。

■　その他

・外国にルーツのある児童の支援を行う場の充実に向けて検討を続けている。

報告書記入者（　校長　）

自分たちの地域を知って、いろいろ学ぼう　！

湖南市	活動名：　学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター	開始年度：	平成 26 年度
年間開催日数：	３日	地域学校協働活動推進員等数：	２人（兼務２人）
平均参加人数：	24 人	平均スタッフ数：	６人

・活動内容　：□学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

今年度は、夏休み勉強会や郷土学習等年間 10 回予定していたが、コロナ禍の中、３回（内１回は２月予定）実施。活動としては、地域の資材を使っての門松作り、書道教室など。

【　12 月門松作り　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

学区内の豊かな資源（竹林の竹、松等）から必要な材料を調達したり、制作にあたっての説明や指導をしてもらったり、まちづくり協議会の協力を得て、もの作りを体験できた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

普段、何気なく見ている植物も、生活の中でいろいろな活用方法があることに気づき、自分の住んでいる地域の良さを再確認する機会を持つことができた。

コロナ禍での対応としては、密にならないように活動部屋をいくつかに分け、検温・マスク着用は徹底した。

■　事業の成果と課題

今年度の活動としては、充分満足いくものではなかったが、実施した活動に対しては、参加者から「参加して良かった。」という言葉をもらうことができた。少ない回数ではあったが、事業の存在が児童だけでなく保護者にも浸透しているように思えた。

■　その他

次年度は、コロナも収束し計画通りに活動ができたらと願う。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

菩提寺学区　土曜日の教育支援活動　～地域の子どもが繋がる～

湖南市	活動名： 菩提寺学区　土曜日の教育支援活動 ～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校　学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　菩提寺北小学校　菩提寺まちづくりセンター　　開始年度：　平成22年度
年間開催日数：　４日　　地域学校協働活動推進員等数：　１人
平均参加人数：　45人　　平均スタッフ数：　５人
・活動内容　：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

菩提寺学区にある菩提寺北小学校・菩提寺小学校の２校が菩提寺まちづくり協議会の支援のもと、毎年１０回の土曜日の教育支援活動をおこなっている。しかし今年度はコロナ禍の中４回しか実施できなかった。（絵画教室・門松づくり・書道教室・凧づくり）

【　間隔をあけての書道教室　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

講師や指導はすべて地域の方にお願いして、また推進員以外にもたくさんの支援員がサポートし、２校集まっての体験活動もスムーズにおこなわれた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

参加者の安全を最優先に感染予防対策をしっかりすることを徹底
マスク・手指消毒・受付での全員検温・密を避けるために使用する部屋を分散

■　事業の成果と課題

事業前半で計画していたものはすべて中止となり、後半の事業は開催の仕方を模索し感染予防を徹底しながら開催した。
子どもたちが笑顔で楽しそうに取り組んでいる姿をみて、来年度は計画が全て実施できるように期待している。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「らくらく勉強会」との連携で見えた新しい形　～しもしょうサマースクール2020～

湖南市	活動名：　しもだっこ土曜教室	下田小学校　学校運営協議会：■有　□無

主な活動場所：　下田まちづくりセンター　　開始年度：　平成26年度
年間開催日数：　４日　　地域学校協働活動推進員等数：　３人（兼務２人）
平均参加人数：　20人　　平均スタッフ数：　８人
・活動内容　：■学習支援　□体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

毎年実施してきた「しもしょうサマースクール」だが今年度はコロナ禍という状況で、中止も視野に入れ計画をしていた。そんな折、「らくらく勉強会」と連携して実施するという案があり、コロナウイルス感染症対策を万全にすることで実施に至った。

【　学習の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

「らくらく勉強会」と連携することで普段学校での活動に参加しているボランティアとは違う地域のボランティアの方々と接することができ、ともに活動することができた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・コロナ感染予防のために、子どもたちや保護者には「健康観察カード」での健康管理や消毒の徹底などに協力していただいた。参加したボランティアも同じように健康観察を徹底し、当日はマスクやフェイスシールドも着用して活動にあたった。
・参加者を「らくらく勉強会」に通っている子どもたちに限定し、時間割り等も勉強会のスタイルに合わせて実施した。
・まちづくりセンターにも感染予防のための対策について助言をいただいた。

■　事業の成果と課題

・コロナ禍という特殊な状況でも実施できたことは大きな自信となったが、無事に活動を終えても、感染していないか一定期間体調を心配しなければならないのは辛かった。
・「らくらく勉強会」のスタイルで実施したことでスムーズに活動をすることができたので、次年度にも引き継ぎたい。
・まちづくりセンターとも連携をしっかりとることができたので、今後の活動時にも活かしていきたい。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

水戸っ子　学ぶ力アップ！教室　～子どもが活躍できる場を地域と共に～

湖南市	活動名： 土曜日の教育支援活動	水戸小学校	学校運営協議会： ■有　□無

主な活動場所： 水戸小学校、水戸地区の公園、水戸菜園　　開始年度： 平成 26 年度
年間開催日数： 11 日　　地域学校協働活動推進員等数： ９人（兼務２人）
平均参加人数： 23 人　　平均スタッフ数： ４人
・活動内容　：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　まちづくり　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・外国にルーツのある子どもたちの勉強会、地域の防災訓練、清掃活動、芋の収穫体験。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・ＣＳ理事会で子どもにつけたい力は何か、そのためには地域で活躍できる場を与えることや保護者に活動を理解してもらうことが必要と考え自治会やまちづくり協議会との連携を図った。夏休みの活動には水戸小出身の大学生にも参加してもらった。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・これまで広く募っていたボランティアを限られた方にした。案内にはマスクの着用や検温と消毒への協力を必ずお願いした。勉強会の教室は学年で分けるようにして子どもの座る席も間隔をとり換気を行った。屋外の活動では、目的を明確にするよう工夫し時間の短縮や距離をとりながら行うこととした。

【　晴天の下、芋の収穫！　】

■　事業の成果と課題
・勉強会では、日頃からサポートしてくれているボランティアが子どもと顔見知りなこともあり、温かく寄り添ってくださった。
・コロナ禍で地域の活動も減っていたことから芋の収穫体験活動には予想を上回る参加があり、このような機会を待っていたのだなと感じ子どもたちが楽しむ様子を見て地域の方が喜ばれていたことや、地域の方や地域資源を子どもたちが知る機会となった。

■　その他
・親子での参加を意識して呼びかけ、地域と子ども、学校の活動をつなげられるよう取り組んだ。この活動を継続していくことでそれぞれの距離が近くなり地域と共に子どもを育てる意識を高めていきたい。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会： □有　■無

主な活動場所： 蒲生コミュニティセンター　　開始年度： 平成 14 年度
年間開催日数： ６日（ 開催ペース：月１日 ）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： ３人　　平均スタッフ数： ２人
・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法についても話をしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。他に指導者間のネットワークも利用。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちに感じてもらいクラブ員を増やす工夫をしている。
・コロナ対応としては、活動中のマスク着用はもちろん、活動を始める前に子ども・おとな全員の検温および手指消毒を実施している。

【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題
・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、積極的に練習に集中する様子が見られる。
・動き自体が地味なものなので、その面白さが理解されにくい。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：　蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：☐有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	令和元年度
年間開催日数：	６日（開催ペース：月１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	５人	平均スタッフ数：	２人

・活動内容　：☐学習支援　☐体験活動　■芸術・文化　☐スポーツ　☐その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

・制作上の面白さと同時にガリ版発祥の地としての意義もつたえている。

・一人ひとり制作する内容が違うので、それぞれの思いを大事にしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・ガリ版をともなった地域おこしとして来られている協力隊の方に指導してもらっている。また、新ガリ版ネットワークの方にも指導をお願いしている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・最初は簡単な作業でできるガリ版印刷をおこない、次第に自分のすきな図柄などに移行していくようにしている。また、布製のトートバッグなどにもガリ版印刷をし、目先を変えている。

【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題

・ガリ版印刷の楽しさを理解してもらうと同時に、蒲生地区がその始まりの地であることを理解してもらえた。

・地味な作業であるためＰＲがむつかしく、仲間の輪を広げるのがむつかしい。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：　蒲生マックスクラブ マックスダンス　初級	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：☐有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 24 年度
年間開催日数：	６日（開催ペース：月１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	18 人	平均スタッフ数：	１人

・活動内容　：☐学習支援　☐体験活動　■芸術・文化　☐スポーツ　☐その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

・初級のメンバーはほとんどがダンス未経験者である。また低学年が多い。

・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。そのため、子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。

・初級はメンバー数が多いので、より広い場所（小ホールフロア）に会場を移して密にならないようにしている。

【　練習の様子　】

■　事業の成果と課題

・子どもたちは意欲的に教室に参加している。

・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。

・練習時間が短いために全体の動きを合せるのが難しいことがある。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ マックスダンス　中級	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　蒲生コミュニティセンター　　開始年度：　平成 26 年度
年間開催日数：　６日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務１人）
平均参加人数：　５人　　平均スタッフ数：　１人
・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。
・少人数のため密にはならないが、活動中は常に窓を開けておくなど、換気に注意している。

【　発表会の様子　】

■ 事業の成果と課題
・子どもたちはより難度の高い技能を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるためステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

■ その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ マックスダンス　上級	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：　蒲生コミュニティセンター　　開始年度：　平成 27 年度
年間開催日数：　６日（開催ペース：月１日）　　地域学校協働活動推進員等数：　１人（兼務１人）
平均参加人数：　９人　　平均スタッフ数：　１人
・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

【　練習の様子　】

■ 事業の成果と課題
・子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

■ その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER（キッズフラワー）	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 14 年度
年間開催日数：	４日（開催ペース：２か月に１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	８人	平均スタッフ数：	２人

・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。

【　クラブ員の作品　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
・作品を年度末のマックスクラブ発表会などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。

■　事業の成果と課題
・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 28 年度
年間開催日数：	30 日（開催ペース：週１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	14 人	平均スタッフ数：	２人

・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学３年生以上を対象にしている。
・週１回の合同練習と楽器を家に持ち帰っての練習で、技術レベルが落ちないようにしている。

【　発表の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
・指導者の知り合いなどで他地域の指導している方の協力も得ている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
・発表会に出場して、ステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■　事業の成果と課題
・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれるようになった。
・週一回の練習のため、上達速度がおそい。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 14 年度
年間開催日数：	６日（開催ペース：月１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	18 人	平均スタッフ数：	２人
・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　）			

■　活動の概要・特徴的な活動
・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
・マックスクラブ発表会で地域の子どもたちに体験教室を実施している。

【　作陶の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・職員以外の人にも声をかけ、幅広く人材を探している。
・クラブ員の保護者に当番制を敷き、活動日には２名ずつ補助として入ってもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・子どもの自主性を尊重し出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。

■　事業の成果と課題
・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
・制作時間に個人差があり、早く終わった子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子どもへの対応が難しい。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東・西・北小学校　学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 20 年度
年間開催日数：	５日（開催ペース：月１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	10 人	平均スタッフ数：	４人
・活動内容　：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）			

■　活動の概要・特徴的な活動
・館外活動が基本であり、子どもの五感を使っての活動をこころがけている。
・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。

【　カヌー体験　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を、その回の内容に応じて依頼している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）
・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するものなどでクラブ員の興味を引き付けるようにしている。

■　事業の成果と課題
・東近江地域への理解を深めることができた。
・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしても遅い早いが出来る。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名： 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東・西・北小学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	蒲生コミュニティセンター	開始年度：	平成 14 年度
年間開催日数：	25 日（開催ペース：週１日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	20 人	平均スタッフ数：	５人

・活動内容　：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。

・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。

・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

【　発表会の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・わらべ組を卒業した高校生や大学生・社会人などに指導してもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。

・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。

・練習時間をいつもより短くして、感染防止を行っている。

■　事業の成果と課題

・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■　その他

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名：　玉緒キッズダンス教室（初級）	玉緒小学校	学校運営協議会：□有　■無

主な活動場所：	玉緒小学校体育館	開始年度：	平成 27 年度
年間開催日数：	30 日（開催ペース：週・月３日）	地域学校協働活動推進員等数：	１人（兼務１人）
平均参加人数：	10 人	平均スタッフ数：	３人

・活動内容　：□学習支援　□体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や 他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図ってみた。

【　教室の様子　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

コロナウイルスで学校が休みになり、少し休んだが学校の体育館は止めて、わたむきホールに会場を変えてダンスの場所の消毒、手の消毒、マスクの着用、体温の測定等を厳重に行った。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

■　事業の成果と課題

コロナ禍での巣ごもりを解消する事ができた。運動不足の解消に大きな成果が有ったと思います。

■　その他

この事業の世話役さんが無いのが課題になっている。

報告書記入者（　玉緒地区地域教育協議会　会長　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名： 玉緒キッズダンス教室（中級）	玉緒小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 玉緒小学校体育館　　開始年度： 平成27年度
年間開催日数： 30日（開催ペース：週・月３日）　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）
平均参加人数： 10人　　平均スタッフ数： ３人
・活動内容 ：□学習支援 □体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ □その他（　　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
　インストラクターの指導により、低学年層の子供達を中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。又、音楽や 他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図ってみた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　コロナウイルスで学校が休みになり、少し休んだが学校の体育館は止めて、わたむきホールに会場を変えてダンスの場所の消毒、手の消毒、マスクの着用、体温の測定等を厳重に行った。

【 教室の様子 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）

■ 事業の成果と課題
　コロナ禍での巣ごもりを解消する事ができた。運動不足の解消に大きな成果が有ったと思います。

■ その他
この事業の世話役さんが無いのが課題になっている。

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 会長 ）

今日からパティシエ！～作って楽しむクッキング～

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ クッキングクラブ	竜王小学校・竜王西小学校	学校運営協議会：□有 ■無

主な活動場所： 竜王町農村女性の家、竜王町公民館　　開始年度： 平成27年度（中断年度あり）
年間開催日数： ８日（おうちクッキングを含む）　　地域学校協働活動推進員等数： ３名（兼務３名）
平均参加人数： 10名　　平均スタッフ数： １名
・活動内容 ：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（　　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動
　栄養士である地域住民を講師に迎え、調理の基礎を学び、技能の向上はもとより、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　町健康推進員を長年務めておられる地元栄養士の方に指導を受けることにより、健康にもよいお菓子から料理に至るまで分かり易く学ぶことができる。

【 ブッシュ・ド・ノエル作り 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）
・地元の特産品である果樹等を有効活用して、講師が考えたクリスマスやバレンタインなど季節のイベントにあった簡単に作れるお菓子や料理作りをしている。
・感染拡大防止のため、10月までは講師が考えたレシピを各家庭に送付し、自宅でおうちクッキングに挑戦してもらった。
・11月より本格的に開講し、マスクやフェイスシールドを着用し、自分の物のみを調理する形をとっている。

■ 事業の成果と課題
・配付したレシピを使い、親子で作ったという声もいただき、クラブ時だけでなく家庭での実践に結びついている。
・本年度は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大を考慮し、一人で一から調理をすることで実践力が高まっている。
・クラブで習得した調理技術が、家庭でのお手伝いの幅を広げている。
・講師から提供されたレシピを子どもにもわかりやすいようにイラストを挿入して作成することや食材の買い出しなど、職員の負担が大きい。

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

今日からワタシは、理科博士！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校・竜王西小学校	学校運営協議会： ■有　□無

主な活動場所：	竜王町公民館　他	開始年度：	平成 18 年度
年間開催日数：	９日	地域学校協働活動推進員等数：	３名（兼務３名）
平均参加人数：	12 名	平均スタッフ数：	３名

・活動内容　：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動

サイエンスを通し、新しい学びや技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師に指導を受けることにより、分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、クラブ生のみの参加を条件として開催している。小さい子どもがいる家庭は、事前に連絡をいただき家族参加も可能としている。

・屋内での活動は座席の間隔を広くとるなど、密にならないように工夫している。

【　冬の野鳥観察会　】

■　事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察会、野鳥観察会、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、理科離れがさけばれる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。

・家族参加も可能なため、知識の向上はもとより、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。

・活動開始から 10 年以上が経過しているが、１年生から参加できるクラブのため人気が高い。一方、低学年は保護者同伴とはいえ、対象者が１年生から６年生までと幅広く、みんなの歩調を合わせた活動の進め方が難しい。

報告書記入者（　公民館　公民館係　）

ひと文字ひと筆に心を込めて、モノにしよう綺麗な字！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王小学校・竜王西小学校	学校運営協議会： ■有　□無

主な活動場所：	竜王町公民館	開始年度：	平成 23 年度
年間開催日数：	20 日（ 自宅学習を含む）	地域学校協働活動推進員等数：	３名（兼務３名）
平均参加人数：	21 名	平均スタッフ数：	２名

・活動内容　：■学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　　　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

書道を基礎から学び、硬筆と毛筆の技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

県の展覧会等でも受賞経験のある有段者の元町職員に指導を受けることにより、連携や情報共有が安易で、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫　（コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、物の貸し借りを禁止して運営している。

・小学校２年生から６年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができているので、６年生まで継続してくれる子どもが多い。

【　硬筆指導　】

■　事業の成果と課題

・技能の向上をめざして、練習（復習）を重ねる継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。

・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。

・原則として月２回の開催のため、学校行事や地域行事等との重複や講師の都合等により日程変更も多く、日程調整に苦戦している。

・２年生から参加できるため、毛筆の準備が一人でできない子どももおり、講師がかかりきりになることも少なくない。

報告書記入者（　公民館　公民館係　）

自分へのチャレンジ！達成した先には成長がある！

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所：	竜王町公民館 他	開始年度：	平成22年度
年間開催日数：	８日	地域学校協働活動推進員等数：	３名（兼務３名）
平均参加人数：	17名	平均スタッフ数：	２名

・活動内容 ：■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ ■その他（ 郷土学習 ）

■ 活動の概要・特徴的な活動

さまざまな体験にチャレンジすることで技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

【 スカイアドベンチャー体験 】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の農園や消防署員、元教師に指導を受けることにより、活動内容に応じて、より分かり易く学ぶことができるうえに知識を身に付けられる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）

・感染拡大防止のため、クラブ生のみの参加を条件として開催している。（屋外活動は、家族の参加も可能としている。）
・夏休みに２泊３日の防災キャンプを計画していたが、感染拡大防止対策として宿泊を取りやめ、防災デイキャンプとして実施した。
・地元住民を講師に迎えることにより、地域とのつながりを実感することができる。

■ 事業の成果と課題

・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、内容によっては活動に制限を設けざるを得ないことがある。
・カヌー体験、防災デイキャンプ、スキー教室等では、受講料以外に体験活動費用として負担金を徴収しなければならず、保護者の負担が増大する。
・宿泊体験等は、内容によっては事前研修の必要があり、講師以外にも指導員や協力者をお願いする必要があり、準備が大変である。

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

未来に羽ばたけ！子ども吹奏楽団♪

竜王町	活動名： 竜王キッズクラブ 竜王ユースブラス	竜王小学校・ 竜王西小学校	学校運営協議会： ■有 □無

主な活動場所：	竜王町公民館 他	開始年度：	昭和62年度
年間開催日数：	50日	地域学校協働活動推進員等数：	３名（兼務３名）
平均参加人数：	15名	平均スタッフ数：	３名

・活動内容 ：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）

■ 活動の概要・特徴的な活動

楽器演奏を通し、音楽の基礎知識を身に付け、技能の向上や両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

【 楽器練習 】

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方に指導を受けることにより、分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫 （コロナ禍における工夫・対応等）

・講師が３名いることにより、分からないところはじっくりと各個人の技能にあわせた練習をすることができる。
・クラブ生に希望楽器の調査を行ったうえで、講師が体格や肺活量等をもとに、子どもにあった楽器を選んでいる。
・卒業生のほとんどが、中学校で吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。
・中学校の吹奏楽部と良好な関係が築けており、公民館主催の演奏会や中学校吹奏楽部の定期演奏会等で合同演奏ができる。
・楽器演奏による飛沫感染を防止するため、練習を公民館ホールや部屋をわけて行っている。（一方向を向いて演奏）
・唾抜き部分にビニールを被せる等、楽器に溜まる唾の処理を的確に行うとともにゴミは各自で持ち帰っている。

■ 事業の成果と課題

・本年度は、新型コロナウイルス感染症により、県フェスティバルや町イベントが軒並み中止となったことで、発表の機会がほとんどなく、練習の成果を披露できず、クラブ生のモチベーション維持が難しい。
・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。
・受講生は担当楽器が決まっており、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習に支障がでることがある。そのため、日程設定に工夫が必要である。
・開催時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

令和2年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町および取組教育支援活動（9市町18活動）

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援体制の構築	家庭教育を支援する取組の展開	運営委員会の設置	訪問型の家庭教育支援
1	彦根市	○	○	○	○	○
2	近江八幡市	○	○	○	○	
3	草津市			○	○	
4	栗東市			○	○	
5	甲賀市		○	○	○	
6	湖南市		○	○	○	○
7	高島市	○	○	○	○	
8	日野町	○		○	○	
9	竜王町			○	○	

○家庭教育を支援する取組

	市町名	チーム数	家庭教育支援員数	主な活動内容					アウトリーチ型支援 ※			活動対象（それぞれの子供を持つ保護者に対する活動）			
				学習講座	親子参加型行事プログラム	相談対応	情報提供	その他	家庭訪問	保育所・幼稚園・小中学校等	その他企業等保護者が集まる場所	乳幼児	小学生	中学生	高校生以上
1	彦根市	2	4			○	○		○	○			○		
2	近江八幡市	9	9	○	○	○	○			○			○		
3	草津市	0	24	○			○			○		○	○		
4	栗東市	0	1	○	○	○			○	○		○	○		
5	甲賀市	1	8	○	○		○					○	○		
6	湖南市	4	5	○		○	○		○	○			○		
7	高島市	1	7	○	○					○	○	○	○	○	○
8	日野町	0	0	○	○					○		○	○	○	
9	竜王町	0	0	○	○							○	○	○	○
合計		17	58	8	6	4	5	0	3	7	1	6	9	3	2

※アウトリーチ型支援（家庭訪問、就学時健診、入学説明会、保護者会・参観日、PTA研修会や企業など、保護者が集まる場所に出向いて行う支援）

（令和2年度事業計画書をもとに作成　令和2年7月時点）

彦根市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や共働き家庭、ひとり親家庭の増加、保護者にとって身近な相談相手がいない等の課題や不登校・虐待などの課題が増加している。「子ども・子育て、若者支援に関する市民の意識調査」（平成 30 年 12 月）においても、小学５年生の保護者の 23.4%、ひとり親家庭の 37.1%が利用したい支援として「進路や生活などについて何でも相談できるところ」と回答している。また、困難な家庭の子どもや保護者に対して必要な支援について、教育機関の 46.6%が「進路や生活などについて何でも相談できるところ」と回答するなど、家庭教育支援についてのニーズは大きい。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等をすることで、親子に関する問題の解決を目指す。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援事業運営委員会の開催

　　市教育委員会事務局、子育て支援部局・福祉部局の参加による運営委員会の開催（年２回）

（２）２小学校区における家庭教育支援チーム会議の開催

　　当該校の管理職、関係教職員、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、市事業担当者等

（３）家庭教育支援員の配置とアウトリーチ型支援の実施

　　各小学校区支援地域協議会に２名程度の家庭教育支援員を配置し、相談や児童支援、情報提供等、アウトリーチ型の支援を実施

（４）研修の実施

・支援のノウハウや成果・課題の共有、スクールソーシャルワーカーの助言等により家庭教育支援員の資質向上を推進
・家庭教育支援員による教職員への OJT 研修や放課後児童クラブ支援員への研修を実施

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・学校の臨時休業明けや長期休業明けの児童の状況を注視し、その対応に努めた。
・家庭教育支援員は、マスクを着用し、訪問家庭の了解を得たうえで対面、相談業務にあたった。
・換気や座席数、会議時間等に配慮して家庭教育支援チーム会議を開催した。

■本年度の成果

・県のモデル事業として、アウトリーチ型の支援を行う仕組みづくりができた。
・公的機関や学校の教職員ではない立場の家庭教育支援員が関わることで、保護者に変化が見られるなど、地域人材の役割とよさが見えてきた。
・当該校の若手教職員や放課後児童クラブ支援員を対象とした研修会を実施し、児童や保護者に関わる方々が家庭教育や保護者・児童理解を学ぶ機会を設けることができた。

■今後の課題

・縦（小中連携）と横（中学校ブロック内全小学校）への展開を図り、地域として一貫性のある家庭教育支援を図るとともに、事業実施校の拡充を目指した取組が必要である。

佐和山っ子の笑顔のために　ゆったりと紡ぐ信頼、信頼の上に重ねる支援

彦根市　　　本事業実施年度　令和２年度	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ■　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ） （佐和山小学校）	（　114　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること（佐和山小学校）	
A：家庭教育支援チーム数	（　１　）チーム
B：家庭教育支援員数	（　２　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　１　）か所
D：前項（C）の配置場所名	（佐和山小学校）

■　活動の具体的内容

〇家庭教育支援チームの設置・活動等

本校区は交通の便に恵まれており、商工業がさかんである。また彦根駅東側の開発も進み、住宅地やマンション等の建設が著しく、従来からの住民と新しい住民が混在している校区である。核家族が多い中、突然の転勤や外国からの来日で住居を構えた方も多い。

従来からの地域組織は継続されているが、こういった状況に適した急速なパワーアップは、なかなか難しい。そこで、見識が広く子育てにも携わってこられた地域の方を核として、気軽な相談や助言を通して家庭の教育力をゆっくり高めていこうという趣旨で、「佐和山小学校家庭教育支援地域協議会」を設置した。

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営等

スクールソーシャルワーカーをアドバイザーに迎え、本校校長・地域連携教員・彦根市生涯学習課員・２名の家庭教育支援員で、本会を運営している。会議では必要に応じて関係者を招き、家庭への支援について検討をする。

〇アウトリーチ型家庭教育支援の実施等

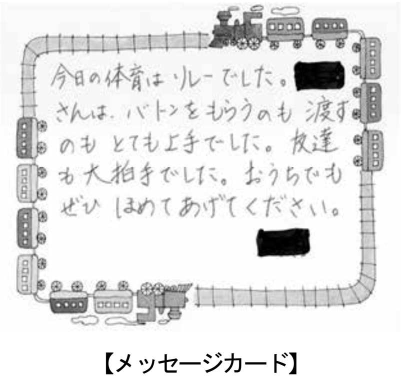
本会は佐和山小学校に設置するが、アウトリーチ型として協議会から積極的に支援の手を差し伸べていくことにした。本年度は、不登校児家庭を中心に支援を実施していった。

■　特徴的な活動内容

〇不登校児童を抱える家庭への支援

本校にも何人かの不登校傾向の児童がいる。その中の「子どもにどうかかわってよいのか。」と困惑しておられる保護者に支援をしていくことにした。しかしながら面識のない支援員が突然保護者に会うことは難しいため、支援員はまず子どもにかかわった。学習支援ボランティアとして学級に入り、学校での学習や生活の支援をし、その頑張りやよさをメッセージカードにして保護者に送り続けたことで、保護者と支援員は、顔を合わす前からつながることができた。

保護者にメッセージカードがたまりかけたころ、担任が保護者に支援員との面談を促すと、保護者は快く応じた。面談の中で、保護者は、家庭内の様子や子どもの不登校について支援員に詳しく話した。この話を基に支援対策会議を開き、スクールソーシャルワーカーのアドバイスをもとに、担任や保護者が該当の子どもへのかかわりを「何に困っているの？」と変えたところ、教室へスムーズに入れるようになった。現在は、両親が「私たちが子どもへのかかわり方を変えなければいけない。」と担任に話している。支援員は、引き続き保護者の良き相談相手として、学校訪問や家庭訪問をしている。



【メッセージカード】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇「彦根市新型コロナウイルス感染症対策市民活動補助金」の制度を受けて購入したパーテーションを諸会議で用いることで、会議参加者の接触や飛沫の防止に努めた。

〇支援員が保護者や児童にかかわるときは、マスク着用・消毒・非接触を心掛けた。

■　事業の成果

〇スクールソーシャルワーカーの助言が、家庭・保護者への支援を的確に方向づけた。スクールソーシャルワーカー・学校・支援員の連携のよさが、支援を効果的にした。

〇支援員が、保護者とつながるステップがよかった。子どもとの信頼関係が、保護者・家庭との信頼関係につながった。アウトリーチ型ではこういったステップを大切にしたい。

【支援対策会議の様子】

■　事業実施上の課題

〇プライバシー保護の視点から、家庭に入り込むことはなかなか難しい。また気軽に相談したいと保護者が考えても、支援員の携帯電話番号や住所の公開は難しい。アウトリーチ型の弱さのカバー策を考えていかねばならない。

〇家庭・保護者の困り感と支援欲求が必ずしも一致するとは限らない。時期も含めて、その見極めが大切である。

報告書記入者　（　事業担当教員　）

家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業

彦根市　　本事業実施年度　令和２年度	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ■　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 90 日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　１　）チーム B：家庭教育支援員数　（　３　）人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　（　１　）か所 D：前項（C）の配置場所名　（旭森小学校）

■　活動の具体的内容

○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

○学習講座・行事の実施等

３学期に児童・保護者理解についてのOJT研修を校内で行い、若手教員９名がスクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員から話を伺った。具体的な例などを検証しながら児童理解、保護者理解を進めるとともに望ましい対応のあり方について研修を行った。様々な家庭環境の児童が在籍する中、特に若手の教員にとっては、保護者の思いに寄り添い、適切な言葉がけをすることが難しい場合があるので、大変参考になった。

【家庭教育支援研修会】

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を行い、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員２名、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨や支援する家庭の絞り込みを行った。また、夏季休業中にチーム会議を開催し、１学期の進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。さらに支援対象の児童に関わるケース会議に家庭教育支援員も同席し、支援のための情報交流を行った。

○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援を週１回定期的に行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登校したりした。初めは緊張気味だった児童も、家庭教育支援員といろいろな話をしながら一緒に歩いて登校することで打ち解け、安心につながっている。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○家庭教育支援員にケース会議に同席していただき、情報を共有することで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

■　事業の成果

○定期的な家庭訪問が刺激となり、訪問日には保護者が自ら子どもを送り出そうとする姿勢が見られるようになった。

○家から学校まで家庭教育支援員といろいろな話をしながら登校することで、児童の不安が軽減し、登校機会が増えた。登校後もしばらく傍らに付き添うことが児童の安心につながった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話してくださるようになった

【家庭教育支援員が参加するケース会議】

■　事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

報告書記入者（　教頭　）

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

元々、周りとの関係性が少なかったり、孤立傾向にあったりする家庭が少なくなかったが、今年度のコロナ禍において自宅で過ごす時間が増えたことで、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭の存在がクローズアップされてきた。また、「～してはいけない。」と感じる環境の中で、子育ての難しさを感じている親もいるようである。そのような中で不安や悩みをかかえたまま子どもと向き合う保護者もいる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合もある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。また、誰かとつながることで、保護者自身の家族や地域で生きにくさを感じていることへの、不安や課題を軽減できるようにする。そして、安定した子育てにつながるようにする。

■本年度の活動

（１）市内９小学校における各家庭支援チームによる活動の展開
- ・定期的な支援チームでの情報共有会議
- ・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施
- ・家庭教育支援員による相談活動

（２）市子育てサロンの実施と家庭教育支援員の交流
- ・２学期と３学期に１回ずつ、市内小学校の保護者対象の子育てサロンの実施、終了後のふり返りと、小学校等への概要報告

【　市子育てサロン　】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

子育てサロンの内容を、参加者同士の距離を維持できるものとし、会場の中で三密を避けられるよう、通常より広いスペースで換気を行い、参加者数を制限した。また、消毒スプレーやマスクを準備し、実施前後の消毒作業を行い、サロンを実施した。

例年参加者が集まりやすい飲食を伴う企画を実施しなかったため、参加者が集まりにくかった。

■本年度の成果

今年度コロナ禍において自宅で過ごす時間が長くなったことで、いろいろな場面で家庭の教育力について議論される場面が見られた。また、次年度全校園がコミュニティ・スクールとなる本市にとって、家庭教育が今後さらに重要になってくることが浸透しつつある。

■今後の課題

例年、委員だけで行っている推進協議会に支援員も同席し、現状と課題を洗い出す機会とした。その中で、支援チームが組織として動けていないのではないかという声があり、支援員を支える体制づくりが課題だと確認された。今後、困っている保護者と学校のニーズに応えられるよう、事務局と学校とが連携を密にすることが必要である。

【おしゃべりさろん】

小学校は家庭教育支援のプラットホーム

近江八幡市　　本事業実施年度　　平成21年度	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ■　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　236　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること

Ａ：家庭教育支援チーム数　　（　９　）チーム

Ｂ：家庭教育支援員数　　（　９　）人

Ｃ：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数

（　９　）か所

Ｄ：前項（Ｃ）の配置場所名

（八幡小学校、島小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校）

■　活動の具体的内容

○家庭教育支援チームの設置・活動等

・不登校や問題行動をはじめとする教育相談対応が必要な児童の家庭や地域での状況を把握するため、校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、家庭教育支援コーディネーター、訪問教育相談員等でケース会議を開催し、状況の確認と家庭への支援の方法を探る。状況によっては、地域の民生委員との情報共有を図っている。

・市で開催される子育てサロンに参加した保護者と情報交換や教育相談を行い、内容によっては担任や管理職に伝え、学校の教育相談につなげている。

○学習講座・行事の実施等

・学校を会場に「子育てサロン」を開催し、保護者が子育てについて気軽に話せる機会を設定する。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

・毎月開催する家庭教育支援チーム連絡会において、学校と地域が情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や指導にいかしている。特に長期休業前には、気になる児童をピックアップして地域での見守りを依頼している。

・より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やSSW、福祉のケース検討会等へつなげている。

・民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めている。

○保護者に対する情報提供等

・保護者が多数参加する場に、「家庭教育支援員」として出向き、活動の一端を紹介する。また、その場を活用して保護者などから情報収集を行うことで、家庭支援につなげている。

○訪問型家庭教育支援の実施等

・連絡会議・ケース会議の内容をもとに、家庭教育支援員が主催する子ども食堂等の機会を活用して、気になる家庭への声かけや話し相手となり支援している。

■　特徴的な活動内容

○保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる座談会（ほっこりカフェ）

○家庭教育支援員に地域イベントへの参加を依頼し、地域での児童の実態把握に努めた。

【ＰＴＡ総会での事業説明】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○例年、簡単なお菓子を作りながら、保護者同士が子育てについて気軽に話せる機会（子育てサロン）を設定してきたが、コロナ禍のため実施しなかった。

○参加しやすいように、日時の設定の仕方や、コミュニティセンター行事とのタイアップなど実施場所や内容の検討。

■　事業の成果

○４月からの臨時休校期間中には、家庭教育支援員が主催する子ども食堂等の機会を活用して、家庭支援を行っていただけた。また、その様子等を学校に積極的に伝えていただいたことから、情報をもとに担任が家庭訪問するなどして、効果的に支援にあたることができた。

○会議で取り上げたことで方針が決まり、気になる児童の保護者をＳＳＷとつなぐことができた。

【市子育てサロンの様子】

■　事業実施上の課題

○共働き率が年々増加して、今年度は学童利用率が35%を超えているので、平日開催の活動への参加者が少ない。週末や放課後開催、学童との連携のあり方について今後検討していきたい。

○効果的に事業を展開するためには、他の機関や福祉のケース検討会等とのタイムリーな連携が重要である。家庭教育支援員の勤務時間や立場では限界があるので、教育相談担当者や管理職などが調整、運営に積極的に関わる必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　）

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和２９年）より、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる子育て世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（１）家庭教育学習事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位ＰＴＡの実施する家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位ＰＴＡにおける特色のある家庭教育学習事業を支援。

【姿勢矯正で集中力アップ！子どもの姿勢講座】

小学校と PTA 共催によるオンライン講座

（２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。

今年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校と連携した学習会の実施ならびに１歳６か月の乳幼児健診の場の活用が困難であったため、図書館との連携により家読の大切さの啓発を試みるとともに、地域の公共施設を利用した家庭の教育力の向上を図る講座を、オンデマンド配信し、家庭教育機会の確保に努めた。

（３）家庭教育に関する情報発信

市広報紙において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布するなどの情報発信を行う。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

〇新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、対面講座の中止を考慮、コミュニティＦＭ放送局㈱えふえむ草津の協力によるオンデマンド配信を行った。

・家庭で考える新型コロナウイルス感染症予防に関する講座

■本年度の成果

地域の公共施設における家庭教育サポート事業　２講座

乳幼児健診における家読の啓発（チラシ設置）　11 日

新型コロナウイルス感染症の影響により、乳幼児健診の場に外部者の立ち入り不可となったことにより、チラシ配布による啓発を行った。

■今後の課題

・次年度以降についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校での講演会の自粛や、乳幼児健診での外部者の受け入れが困難な状態が見込まれるため、家庭教育サポート事業の進め方を十分検討する必要がある。

・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出について、新しい手法の展開を検討していく。

報告書記入者（　生涯学習課職員　）

草津市家庭教育サポート事業～地域で育む家庭の力～

草津市　　　本事業実施年度　平成 26 年度	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	２講座（　11 日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　０　）チーム B：家庭教育支援員数　（　０　）人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　（　０　）か所 D：前項（C）の配置場所名　（　　　）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身につけるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信により、家庭の教育力の向上を図るとともに、子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

〇保護者に対する情報提供等

市広報紙において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、家読や家庭で考える健康管理、自尊感情に関する啓発チラシや資料を配布することで、情報発信を行う。

〇学校と連携した家庭教育機会の提供

小学校との連携のもと、時期・テーマ等実施希望調査を行い、希望に合致する外部講師を教育委員会が招聘し、学習機会を提供する。

〇絵本ｄｅうちどくサポート広場

参加率の高い１歳６か月の乳幼児健診で、家庭読書をツールとした家庭でのコミュニケーションの育みの推進を図るため、絵本の掲示および読み聞かせに関する啓発ＤＶＤの上映、図書館司書による読書相談などを月３回（年間３６回）実施する。（今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施）

〇地域の公共施設を利用した家庭教育機会の提供

図書館など市の公共施設を利用し、家庭の教育力向上を図る講座を実施する。

・滋賀県警や少年センター職員によるインターネットトラブル防止に関する講演
・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示

■　特徴的な活動内容

〇地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

・対象年齢等を限定することにより保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整
・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示し、図書の貸し出しについて案内することにより、家庭での継続した学びとなるよう促す。また、実施テーマを会場施設（図書館）に関連しない内容とすることにより、普段図書館に来ることの少ない保護者に対しても図書館の利用と家読の大切さの啓発を実施

〇１歳６ヵ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

・たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布するとともに、家庭での読書環境に関するアンケートを実施し、口頭で家読の啓発を行う。（今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施）

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇新型コロナウイルス感染症拡感染拡大防止対策として、対面講座の形式をコミュニティＦＭ放送局（株）えふえむ草津の協力によるオンデマンド放送に切り替えた。

・家庭で考える新型コロナウイルス感染症予防に関する講座

■本年度の成果

地域の公共施設における家庭教育サポート事業　　２講座
乳幼児健診における家読の啓発（チラシ設置）　　11 日

■　事業実施上の課題

〇学校と連携した家庭教育サポート事業

近年、共働き家庭が急増していることもあり、休日に親子で参加できる講座を実施するなど、より参加しやすい学習機会の実施方法について検討するとともに、多様化するニーズを汲み取り、関心の高いテーマを設定するなど、より多くの保護者に受講いただけるよう工夫を凝らす必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　職員　）

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

【　個別の学習支援　】

（１）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

（２）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童５名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

（３）連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や当該児童の担任に、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

（４）保護者に対する情報提供

学校だより等において、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

今年度は、保護者の子育て相談や児童への関わりが６月のスタートとなったため、学校再開時の学校だよりに家庭教育支援員の紹介を載せ、子育てに悩んでおられる保護者が、早急に相談できるようにした。また、学校再開時には臨時休業期間分に活動ができなかった分を追加していただけたので、保護者や児童に多くの対応が必要な時期に手厚い支援が行えた。

■本年度の成果

どんな力を家庭で育てていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか。家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

家庭の教育力アップをめざして　～栗東市の家庭教育支援～

栗東市　　本事業実施年度　令和２年度	
活動内容 ☐　地域人材の養成 ☐　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ☐　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　73　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（　0　）チーム
B：家庭教育支援員数	（　1　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　1　）か所
D：前項（C）の配置場所名	（　治田東小学校　）

■　活動の具体的内容

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や該当児童の担任に、保護対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

○保護者に対する情報提供等

６月学校再開時に学校だよりにおいて、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだ時は、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

【子育て相談窓口】

■　特徴的な活動内容

○就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだ時は相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

○校内適応指導教室における支援・保護者相談

個別懇談会等で、児童の様子をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりを円滑にするための手立てについて助言したりした。

○中学校区人権教育地域ネット協議会の研修会

「目の前の子供の気持ちは・・・」という内容で講演会を行ってもらう予定であったが、中止となったため、紙面での発信をしていただいた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○今年度は、保護者の子育て相談や児童への関わりが６月のスタートとなったため、学校再開時の学校だよりに家庭教育支援員の紹介を載せ、子育てに悩んでおられる保護者が、早急に相談できるようにした。また、６月からは、臨時休業期間分も来ていただけたので、保護者や児童に手厚い支援が行えた。

■　事業の成果

・研修会や相談会を通じて、学校と情報を共有することで児童への支援を効果的に行うことができた。

・家庭教育支援員が、じっくり話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、子どもへの関わりが改善してきた。

■　事業実施上の課題

・福祉部局との連携をどう深めていくかということが課題である。

・保護者が自分の子育てについて振り返ったり、保護者同士が家庭教育について交流したりする機会をどのように設けていくとよいのか検討していきたい。

報告書記入者（　治田東小学校教頭　）

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

・子どもとの向き合い方や自身の育児に悩む保護者は多い。とりわけ、保護者自身、日々の忙しさから自分自身を振り返ったり、見つめ直したりする時間が取れず、子育てに自信が持てない人が多くなってきているのではないかと感じる。また、子育てに関する情報量は多くあるが、その割に、内容については玉石混交であるため、情報に振り回されたり、そのとおりにうまくいかないと悩む保護者もたくさんいる。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親(時には祖父母)に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

・子育てに関する正しい情報を的確にとらえ、振り回されることのない子育てを働きかける必要がある。

■本年度の活動

（１）学習講座・行事の実施等

子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】

４校実施

（２）保護者に対する情報提供

家庭教育についての情報をブックスタート時に配布

【　命の学習での１コマ　】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・使用する人形や児童自身の消毒の徹底、部屋の換気、児童着席の間隔を確保するなどのコロナ対策を徹底した。

・中規模校については、例年の２倍の時間を確保し開催した。

（１校時×２コマ）

■本年度の成果

・新型コロナウイルス感染症により、ほとんどの事業を中止せざるを得なかったが、「子育て親育ち講座（命の学習）」については、小学校の要望により、開催することができた。

・どの児童も、助産師の話を真剣に聞き、真面目に取り組む様子が伺え、命の大切さについても実感しているようであった。

【　命の学習での１コマ　】

■今後の課題

・保護者のさまざまな悩み解決や子育てのサポートにつながるような、新規テーマやメニューの開拓が必要である。

命の大切さ、かけがえのないものと感じる学び　～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容 □　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	7日 ※ブックスタート事業は除く

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　1　）チーム B：家庭教育支援員数　（　8　）人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 D：前項（C）の配置場所名 家庭教育に関する講座等を実施する際に、家庭教育支援員として活動。

■　活動の具体的内容
〇学習講座・行事の実施等
子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】

〇保護者に対する情報提供等
ブックスタート、子育て親育ち講座について掲載している
「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行（年間版）

【男性教諭の模擬出産、児童の羞恥心をゼロに！】

■　特徴的な活動内容
〇子育て親育ち講座（命の学習）【小・中規模小学校対象】
講座を希望する小学校と連携し、助産師を講師に招き、命の誕生、大切さについて学習し、家族に対し感謝するとともに、自分の命・周囲の人の命、共にかけがえのないものであることに気づく。
【小規模校】
男性教諭の模擬出産、妊婦体験スーツの着用や赤ちゃんのお世話体験の後、あらかじめ保護者から児童に宛てられた手紙を読み、保護者に宛てて返事の手紙を書く。
【中規模校】
講師の話（自己肯定感・自尊感情の話を中心に）、DVD の視聴、赤ちゃん人形の抱っこや妊婦スーツ着用体験を通し、生命の神秘、人の誕生の素晴らしさ、思春期の心と体について理解を深める。

〇「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行（年間版）
ブックスタート時に配布している。

【体験の最後はみんな上手に抱っこできるように】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
〇使用する人形や、児童自身の消毒の徹底。部屋の換気。児童着席の間隔をしっかりと確保する。

〇中規模校については、例年の２倍の時間を確保し、開催した。
（１校時×２コマ）

■　事業の成果
〇新型コロナウイルス感染症により、ほとんどの事業を中止せざるを得なかったが、「子育て親育ち講座（命の学習）」については、小学校の要望により、開催することができた。

〇どの児童も、講師の話を真剣に聞き、真面目に取り組む様子が伺え、命の大切さについても実感しているようであった。

■　事業実施上の課題
〇事業や講座の参加につながる周知方法を検討する必要がある。

報告書記入者（　子育て政策課職員　）

湖南市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化、今般のコロナ禍における地域交流機会の制限等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育に困難を抱えた家庭が少なくない現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育の充実には難しさのある社会状況の中、家庭環境が多様化もしており、子どもが学校生活に適応できないといった困難を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を大事にしつつ、地域をはじめとした様々な人とのつながりの中で、家庭教育を支援する協働の関係づくりが重要である。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりができ、子どもの育ちを豊かにすることができる。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援チームの設置・活動

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」

・保護者対象に毎週水曜日の定例開催を基本にしているが、曜日固定で来ることができない人もいるため、チラシ案内で不定期にも「ほっとサロン」を開設。子ども支援を通して家庭への訪問型支援に発展例もあり。

②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け

・支援員２人で、学校での子どもとのつながりの上に立った保護者の信頼を基に、家庭へ「訪問型支援」を実施。11 月末現在 104 件の訪問実績である。

③石部小学校…チーム名「さんぽ」

・保護者対象に毎月 10 日、20 日、30 日を基本に、子育てサロン「さんぽ」を定例開設。数名程度ではあるが毎回参加者がある。

④菩提寺北小学校…チーム名「あすなろカフェ」

・保護者対象に各週水曜日に「あすなろハウス」で「あすなろカフェ」を定例開設。今年度は保護者が学校へ来にくい状況であることから、行事等での子どもの様子を映像化して視聴会も開催。

（２）学習講座・行事等の実施　【子育て講演会の開催】

各チームで保護者のニーズを受け止め、必要な情報を得ることのできる講演・講座を年１回開催している。同講師による教職員研修の実施校もあり。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍にあって、保護者も学校へ来にくい現状がある。学校・子どもの様子を伝えるために映像等で視覚化して情報提供の一助としたり、サロン開催日を固定せず弾力的な運用をしたりして、保護者との接点をできるだけ持てるよう工夫が見られた。

■本年度の成果

家庭教育支援の情報提供の場である「サロン」の定期開催とともに、支援を届ける「アウトリーチ型」の家庭教育支援について実践校の事例報告を基にした支援員の交流会を開催することができた。

■今後の課題

支援の必要な家庭との接点の根本は子どもとの関係作りである。他の活動との併任等の工夫により学校における支援員の活動の幅を広げるための体制作りが必要である。

三雲小学校　繋がる、続ける、見守る（ポレポレ～ゆっくりゆっくりの子育て～）

湖南市　本事業実施年度　平成 25 年度	
活動内容 □　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 ■　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（213 日）12 月末現在

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（ ４ ）チーム
B：家庭教育支援員数　（ ５ ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　（ ４ ）か所
D：前項（C）の配置場所名　三雲小学校、石部小学校、菩提寺小学校、菩提寺北小学校

■　活動の具体的内容

〇家庭教育支援チームの設置・活動等
平成 25 年度より開始、28 年度から支援員２人体制

〇学習講座・行事の実施等
令和３年２月 12 日　第 3 回ポレポレ子育て応援講座開催
講師　滋賀県 SSW　スーパーバイザー　上村文子氏

【ポレポレ子育て応援講座】

〇保護者に対する情報提供等
12 月　ポレポレ通信第 1 号発行

〇訪問型家庭教育支援の実施等
支援員が学校と相談の上、必要に応じて訪宅

■　特徴的な活動内容

〇支援員が日々の登下校の見守りから校内外で多くの児童との関わりがあり、長年継続している。

〇不登校傾向の児童や支援の必要な児童や保護者、孤立傾向にある家庭との繋がりを作る個別対応と訪問型による保護者支援に重点を置いて活動している。

【世代間交流の様子】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

〇学習講座や放課後スペースなどの実施にあたっては、換気、検温、消毒、マスクの徹底、時短にするなどの工夫をした。

■　事業の成果

〇支援活動を継続してきたことにより、世間話から子育ての話までできる多くの保護者との繋がりができた。

〇令和元年６月より保護者と共に始めた放課後スペース（地域での学習支援・居場所づくり）が、地域の方々にも認知されたことにより、地域サークルの陶芸、将棋などで世代間交流も始まっている。

■　事業実施上の課題

〇訪問型の活動では、支援員が長期に渡り築いてきた信頼関係があり、次の支援員との引継ぎが難しい。

〇全地域での放課後スペースの開設に向けて、様々な家庭や児童に対応できる人材の育成が必要である。

報告書記入者（家庭教育支援員）

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

子どもを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化しており、様々な媒体から発信される多くの情報に触れることで、自分の子育てに不安や負担を感じる保護者もいる。また核家族化、少子化が進んでいるため、保護者自身も実体験を通して学んだ経験があまりない。一方、子育て世代が働きに出ている間、祖父母世代が子どもと過ごす場面が多く、子育てに対する考え方の違いにとまどう祖父母も多い。地域住民も子育て世代や子どもたちと関わる機会があまりないなど、保護者が気軽に相談できる機会がない。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

「地域の子どもは地域で育てる」という考え方のもと、祖父母世代も各種講座で「子育ての現状」を学び、これまでの経験を活かしながら、保護者と一緒に子どもを育んでいくことを目指す。

【地域教育力向上講座の様子】

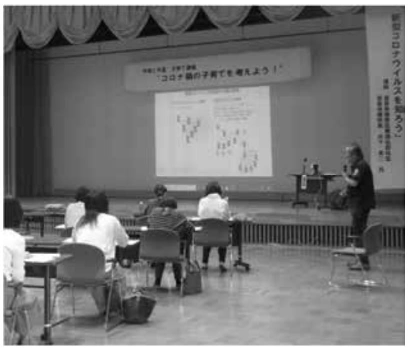
■本年度の活動

（１）地域教育力向上講座

「地域の子どもは地域で育てる」という考え方のもと、今の子育てや保護者を取りまく環境について、保護者だけでなく祖父母世代や地域の子育てに関心のある方が学ぶ。

（２）共育学習会

保護者、祖父母と子どもが一緒に育っていくために気をつけたいことや、子育ての実情について滋賀県助産師会より講師をお招きした。



【共育学習会の様子】

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

同年代の子どもを持つ保護者は、子育てに関する悩みにも共通点がある。そのため公民館や園・学校が協力し、行事に合わせて保護者同士の交流を図ることができるような機会を設けた。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

（１）と（２）の講座開催にあたり、来場には感染に不安を感じる方もおられると予想されたため、講師と NPO 法人の協力を得て、講座終了後動画配信を行った。そのため、実際に会場に足を運ぶ方が少なかった。

【子どもにどうかかわりあうか講座】

■本年度の成果

NPO 法人や福祉部局、市立図書館など複数の課が協力することで、開催にあたるアイディアや工夫を取り入れることができた。

■今後の課題

新型コロナウイルス感染症の流行により会場に足を運ぶことをためらう方もいる。来場者への十分な感染症対策と、今回の動画配信のように時間を気にせず自由に受講できる手法が必要である。

「コロナ禍の子育てを考えよう」

高島市	事業実施年度　平成 26 年度
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　24　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　1　）チーム
B：家庭教育支援員数　（　7　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　（　　）か所
D：前項（C）の配置場所名　（　　）

■　活動の具体的内容

○地域人材の養成等

地域教育力向上講座

子どもの成長には周囲の大人の関わりが大切です。「地域の子どもは地域で育てる」という考え方のもと、今年は「コロナ禍の子育てを考えよう！」をテーマに、新型コロナウイルスと、思春期の子どもへの接し方など保護者、祖父母にも関心の高い題材を取り上げ、専門家からお話を伺った。

○学習講座・行事の実施等

子どもにどうかかわりあうか講座

同じ年代の子どもを持つ保護者同士では、子育ての中で感じる困りごとや、悩みも近いことが多いため、市内の園や学校で保護者が集まる機会を利用して、交流を深めながら家庭教育について学んだ。

共育学習会

働く保護者が多くなるなか、祖父母世代が子育てに果たす役割も大きくなっている。しかし、昔と今の子育ての違いにとまどったり、互いに遠慮する場面もあるため、今の子どもを取り巻く環境について知識を深め、お互いが気兼ねなく助け合えるコツについて、滋賀県助産師会より孫育て講座講師を招聘し学んだ。

【手作りマスクの展示】

【関連図書貸出コーナー】

■　特徴的な活動内容

○講師と市内 NPO 法人の協力を得て、講座終了後、３日間動画配信を行った。

○市立図書館や福祉部局とも協力して、関連図書の貸出や、手作りマスクの作り方の展示をした。また、家庭で過ごす時間が増えているため、家庭で簡単に作れる料理のレシピや、おうちあそびの紹介など、来場者に興味を持ってもらえる会場づくりに努めた。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○講座の動画配信、手作りマスクの展示、もしサポ滋賀 QR コードの設置など

【おうちレシピコーナー】

■　事業の成果

○動画配信を取り入れたことで、会場に足を運べない方や日程の合わなかった方にも受講していただくことができた。また、複数の団体が協力しながら様々な展示を行い来場者の関心を高めることができた。

■　事業実施上の課題

○動画配信により時間を気にせず受講できる反面、実際に足を運ぶ方が予想したより少なかった。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、集まってもらうことが難しいが、安心して会場に来て質問をしたり、展示を見たりしていただけるよう今後も感染予防対策が重要である。

報告書記入者（社会教育課　担当　）

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児への不安やストレスを抱える親が増えている。

また、生活習慣の乱れや経済的な困窮などの課題を抱えた家庭も増加傾向にあり、家庭教育支援の必要性が高まっている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

これから親になる方や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、学習機会の提供、仲間づくりの機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

【親子ぷれすて】

■本年度の活動

（１）交流の場「親子ぷれすて」の開催

毎月１回、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと交流することで、情報交換や子育ての悩みの解消の場として開催。

（２）学習講座の実施

・子育て学習会･･･保育園・幼稚園・小学校・中学校（７講座）

・就学前学習講座･･･全小学校（５校）で年１回

・マイナス１歳からの子育て講座･･･１講座

・親育ち講座･･･２講座

（３）地域人材の育成

・子育てサポーター養成講座･･･２講座

【マイナス１歳からの子育て講座】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

・各講座の開催にあたっては、オンライン配信を実施し、自宅で参加できるよう配慮した。

■本年度の成果

・親子ぷれすての開催により、保護者同士のつながりが生まれ、交流や情報交換の場として、子育ての悩みやストレスの解消につながっている。

・各講座により、子どもとの関わり方や成長段階に合わせた接し方などを保護者に学んでもらうことができた。

・各事業の実施にあたり、学校や関係課と連携して取り組み、充実した支援を行うことができた。

・子育てサポーターとして、新規で２名のサポーターを確保することができた。

■今後の課題

・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。

日野町の取組

日野町	本事業実施年度　平成23年度
活動内容 ■　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　40　日）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（　　０　）チーム
B：家庭教育支援員数	（　　０　）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（　　０　）か所
D：前項（C）の配置場所名	（　　　　）

■　活動の具体的内容

就学前学習講座（５講座）、ＰＴＡ等子育て学習会（７講座）、親育ち講座（２講座）、マイナス１歳からの子育て講座（１講座）、親子ぷれすて（１２回）を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（６回）、子育てサポーター会議（５回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（２回）を開催している。

【　就学前学習会　】

■　特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、１日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス１歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママを目指し子育て講座を開催した。

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

子育て応援通信「ゆっくりおおきくなあれ」（毎月１日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス１歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定している。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、各講座のオンライン配信を行い、自宅から参加していただけるよう配慮した。。

■　事業の成果

〇就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、１日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

〇ＰＴＡ等子育て学習会

実施単位をＰＴＡにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

〇マイナス１歳からの子育て講座

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■　事業実施上の課題

〇各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう情報発信を工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子に対し、子育て情報や学習機会を提供できるよう取り組む必要がある。

〇子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促すなど、しっかりと育成していく必要がある。

報告書記入者（　　生涯学習課職員　　　）

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

大きく変容する社会のあり様に伴い家庭および地域の教育力低下が叫ばれ、また、子どものスマホの所持率も年々増加する中で、子ども達の家庭での「基本的生活習慣」が崩れてきている。このことは、学力の低下にはじまり、ひいては子ども達の未来の可能性を奪うこととなる。そこで、ＰＴＡ会員を中心とした住民が地域の絆を深め、「基本的生活習慣」の改善をはじめとした子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決が求められている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、実践を通して地域全体で子どもたちを育む体制づくりをめざす。そのために、学校・家庭・地域が協力し、学習や相談の機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共有するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。併せて、子どもたちの夢と希望の実現に向け、学校はもとより保護者間の連携を深めると共に、それを支える地域社会の構築により家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きぬく力」の向上に努める。

■本年度の活動

（１）教育フォーラム2020の開催（11月１日）

（２）家庭教育支援研修会の開催（３月４日）

【　教育フォーラム2020　】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

教育フォーラムや家庭教育支援研修会など、集団を前提に実施する事業では、従来と同様の形態で実施することが困難なことから、検温や消毒などの物理的対策と人数制限や会場変更などの企画内容を見直し開催した。本年以降もコロナ禍の状況が続くようであれば、オンラインでの配信なども検討していく必要があるが、これを実現するには従来以上に、準備時間や人員、予算等が必要となる。

■本年度の成果

・教育フォーラムでは東北大学加齢医学研究所所長・教授の川島隆太さんに科学的なデータをもとに基本的な生活習慣、スマホの使い方、親と子の関わり方が子ども達の成長に大きく影響していることについて講演をいただき、家庭での規則正しい生活習慣の大切さやスマホとの使い方について学ぶ機会を提供することができた。

・学校園単位で講座・行事等はコロナ禍の影響により５校園のうち１校園の開催となったが、代替として教育委員会が主催となり、家庭教育支援に関わるＳＣや、教諭などを対象として家庭教育研修会を実施する。（３月４日開催予定）

■今後の課題

教育フォーラムや研修会などは、参加者が限定的であり、真に家庭教育支援が必要な家庭への啓発や支援には、直接的に結びついていない。「気づき」が必要な家庭の関係者に参加してもらえる研修会や啓発方法、または直接的な支援を検討していく必要がある。

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～

竜王町　　本事業実施年度　平成 24 年度	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援体制の構築 ■　家庭教育を支援する取組 □　訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（　3日　）

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A：家庭教育支援チーム数　（　0　）チーム B：家庭教育支援員数　（　0　）人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数　（　0　）か所 D：前項（C）の配置場所名

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施等

・家庭教育支援研修会　各学校園や教育委員会において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

・教育フォーラム　町内ＰＴＡを中心とした住民が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

■　特徴的な活動内容

〇竜王町教育フォーラム 2020

11 月１日（日）午後に開催。対象者はＰＴＡ関係者、社会教育関係者、地域住民等。「学校と家庭、そして地域。共にめざそう！竜王っ子の「学ぶ力の向上」～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～」のテーマに基づき、現役中学生や社会教育委員、保護者代表等による「早寝早起き朝ごはんを実践するために~大人が変われば、子どもも変わる」を議題としたミニパネルディスカッションの後、「基本的生活習慣が子ども達の未来を守る」と題して、東北大学加齢医学研究所所長・教授の川島隆太さんに科学的なデータをもと「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や親と子の関わり方が子ども達の成長に大きく影響していることや、スマホの使い方次第で子どもの学力に大きく差が表れることなどについて講演をいただき、家庭での規則正しい生活習慣の大切さやスマホとの使い方について学ぶ機会となった。

【竜王町教育フォーラム 2020】

■　実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

〇教育フォーラムでは、コロナ対策を徹底し開催することを強く示した案内チラシを別途作成し、ＰＴＡ関係者に配布することで、参加者に安心してもらうことにより、コロナ禍においても参加者を集めることができた。（240 名参加）

〇教育フォーラムでは、広い会場への変更、受付の分散、退出口の分散、サテライト会場の設置、席の間隔確保、入場制限、検温・消毒などを始めとする徹底したコロナ対策を行った。

■　事業の成果

〇アンケートの結果に基づくと、教育フォーラムの参加者の「基本的生活習慣」を見直すきっかけづくりとすることができた。参加者の多くはＰＴＡ保護者であり、家庭での「基本的生活習慣」に関する教育の重要性を改めて認識していただけ、一部の人には行動変革を促すことができた。

【コロナ対策を講じての開催】

〇教育フォーラムには保護者だけでなく中学生（主に生徒会）にも参加してもらったことで、フォーラム後には生徒が自発的に教育フォーラムに関して新聞を作成し、他の生徒にも、「基本的生活習慣の大切さ」を伝えるなど波及的な効果が生まれた。家庭教育に関することは保護者への啓発などが今までは多かったが、今回は、当事者の中学生が聞いたことで、子どもから親というボトムアップで内容が伝わったこともあり、「子どもに言われたからには、親も変わらなければいけない。」という声も聞かれた。

（例：スマホのルールを家庭で決めてほしい、朝ごはんを作ってほしい　等）

■　事業実施上の課題

〇教育フォーラムへの参加者へは素晴らしい啓発となったが、参加していない保護者（聞いてほしい保護者）に家庭教育の重要性などをどう伝えていくのかが課題。

〇今年度は新型コロナウイルスの影響によって研修会等の人を集めておこなう事業が実施しにくく、開催することができたとしても従来以上に準備や予算が必要となってしまう。

報告書記入者（生涯学習課員）

多賀町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化・共働き家庭の増加により、子どもとのスキンシップの時間が少なくなり、また保護者が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少し、子育てや家庭教育に不安を抱える保護者も増加してきている。都市化やライフスタイルの多様化など、社会環境の変化により、世代間や地域内の交流・協働の機会の減少により、人間関係が希薄化し、地域の教育力の低下を招いている。豊かな人間関係や社会性を育む生活の場としての地域のコミュティづくりが必要となっている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

・子育てへの不安を解消し、子育て環境や支援体制を整備する。

・家庭・学校・行政・企業・地域等が連携して、青少年を取り巻く問題を解決し、青少年が自主的に社会参画できる地域社会をつくる。

■本年度の活動

（１）子育て支援に関する情報提供に努め、同世代の子どもを持つ保護者、育児サークルなどとの交流を促進し相談業務の充実を図った。

・子育て支援（相談）

（２）地域で活動する子育て団体を対象に活動支援を行った。

・親子ふれあい活動
「リズムトレーニング教室、ベビーマッサージ」等

・子育て講演会
多賀幼稚園「子育て講演会」
「子供たちの未来を守るために大人ができること」

【リズムトレーニング教室の様子】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

密になる事業を避け、利用施設の運用方法に合わせ少人数で可能な限り、安全対策を講じながら実施した。

【ベビーマッサージの様子】

■本年度の成果

コロナの影響で十分に事業を実施することができなかったが、子育て支援としての相談事業も、口コミで広がり、初めて参加する保護者も増えていった。

■今後の課題

・補助金交付の活動支援が中心で、主体的な活動となる事業を実施していく検討する。

・多賀町子ども・家庭応援センターや多賀町青少年育成町民会議など関係機関の連携をさらに強化するため、それぞれの目標と役割分担を整理し、明確にしていく必要がある。

Ⅷ　滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

1　目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

2　事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

（1）CSアドバイザー派遣

①趣旨

・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（ＣＳアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。

・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

②CSアドバイザー

（令和2年度　滋賀県教育委員会作成　コミュニティ・スクール　リーフレットより）

③派遣実績

	派遣日 出役時間	派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要　①参加者　②テーマ・内容
1	5月19日（火）	湖南市立三雲東小学校	伊藤　照男	① 校長3名、市担当者1名
	15:00 ～ 17:00	甲西中校区学校運営協議会学習会		② 地域とのつながりの一層の強化を、中学校区での小中連携を基盤にした学校運営協議会の設置で実現する運営モデルの構築
2	6月23日（火）	東近江市役所	伊藤　照男	① 行政関係者、地域学校協働活動関係者　等　55名
	15:30 ～ 17:00	東近江市地域学校協働本部本部長（担当者）合同連絡会		② 学校と地域が元気になるコミュニティ・スクールのあり方
3	7月29日（水）	甲賀市役所	伊藤　照男	① 行政関係者7名、小学校長5名
	9:30 ～ 11:30	コミュニティスクールにかかる管理職研修会		② コミュニティ・スクールの導入に向けて
4	8月28日（金）	草津市役所	北島　恭雄	① 学校運営協議会委員、地域学校協働活動関係者等　51名
	13:30 ～ 16:00	コミュニティ・スクールくさつ研修会 兼 地域コーディネーター研修会		② コミュニティ・スクールと地域協働合校（地域学校協働活動）の一体的な推進について

5	8月28日	(金)	伊香高等学校　校長室	山田　薫	①	学校関係者、学校運営協議会委員等　12名
	15:30 ～	17:00	伊香高等学校 学校運営協議会		②	学校の経営方針や地域との連携、今後の取組等について
6	9月11日	(金)	滋賀県CSアドバイザー会議	6名	①	CSアドバイザー、県教委生涯学習課　10名
	14:30 ～	16:30			②	滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
7	9月14日	(月)	彦根市　南地区公民館	北辺　禎雄	①	社会教育委員7名
	17:30 ～	19:00	彦根市社会教育委員A部会		②	コミュニティ・スクール推進に向けて、社会教育委員としてどんなことができるか
8	10月2日	(金)	野洲市総合防災センター	髙木　和久	①	学校教職員　27名
	10:00 ～	12:00	野洲市学校応援団 運営協議会		②	地域学校協働推進事業について学ぶ
9	10月5日	(月)	高島市立今津東小学校	松田　幸夫	①	小中学校長、教職員、学校運営協議会委員、市教育委員会　14名
	13:30 ～	16:00	学校運営協議会　視察		②	学校と地域の連携～先進地の事例に学ぶ～
10	10月6日	(火)	守山市役所	髙木　和久	①	市教委(学校教育課・社会教育課)　5名
	9:30 ～	11:50	守山市教育委員会 コミュニティ・スクール研修会		②	コミュニティ・スクールについて
11	10月13日	(火)	多賀町中央公民館 「多賀結いの森」	北辺　禎雄	①	学校教職員 30名
	14:45 ～	15:45	多賀町教育委員会職員・ 小中学校教頭・補佐研修会		②	～地域と共に歩む学校園づくり～・地域と共に歩む学校園づくりに向けての教育委員会の役割について・コミュニティ・スクール導入における具体的な方策について
12	10月23日	(金)	近江八幡市立 武佐コミュニティセンター	伊藤　照男	①	市内学校教職員、地域学校協働活動関係者等　21名
	15:00 ～	16:30	近江八幡市 コミュニティ・スクール研修会		②	コミュニティ・スクールの導入と充実について
13	11月19日	(木)	近江八幡市立 武佐コミュニティセンター	伊藤　照男	①	市内学校教職員、地域学校協働活動関係者等　17名
	15:00 ～	16:30	近江八幡市 コミュニティ・スクール研修会		②	コミュニティ・スクールの導入と充実について
14	11月19日	(木)	米原市立坂田小学校	北辺　禎雄	①	米原市立小中学校長10名
	10:30 ～	12:00	米原市校長会研修会		②	学校運営協議会の充実発展を目指して
15	11月20日	(金)	県立野洲養護学校	髙木　和久	①	野洲養護学校　管理職および関係職員　5名
	10:00 ～	12:30	学校運営協議会設置 に向けての研修会		②	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入について
16	11月24日	(火)	野洲市立篠原小学校	髙木　和久	①	野洲市学校教育課2名、地域学校協働活動推進員3名
	10:00 ～	12:00	地域学校協働活動推進事業 について学ぶ学習会		②	地域学校協働活動推進事業について学ぶ
17	11月24日	(火)	あいこうか市民ホール	伊藤　照男	①	甲賀市教育委員会職員5名、市内小中学校管理職　26名
	9:30 ～	11:30	コミュニティ・スクールにかかる 管理職研修会		②	コミュニティ・スクール　導入と充実について
18	12月21日	(月)	県立野洲養護学校	髙木　和久	①	野洲養護学校　管理職および拡大運営委員　20名
	16:00 ～	16:30	校内拡大運営委員会		②	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入について
19	1月5日	(火)	近江八幡市立桐原小学校	髙木　和久	①	近江八幡市教育長、教育委員会職員、市内校園管理職　80名
	13:30 ～	16:30	冬季管理職研修会		②	コミュニティ・スクールの導入と推進の具体的手法
20	1月26日	(火)	野洲市立野洲小学校	松田　幸夫	①	市内小中学校　事務職員　11名
	14:30 ～	16:30	野洲市事務職員研修会		②	「事務をつかさどる」職としての地域協働への関わり
21	2月12日	(金)	草津市役所	北島　拳雄	①	学校教職員等　20名
	15:00 ～	16:30			②	次年度の円滑な学校経営のスタートに向けて大切にするべきこと

（2）コミュニティ・スクールの研修の充実

①コミュニティ・スクール推進フォーラム（詳細は「Ⅰ　推進協議会の取組」の項に掲載）

②管理職研修

■日時　　令和２年 12 月４日（火）　９：30～12：15

■会場　　滋賀県総合教育センター　新館４階 研修室Ａ

■内容等

・総合教育センター主催新任教頭研修において、「地域と連携・協働による学校づくり」をテーマにした研修を設定。コミュニティ・スクールの制度や、目的、県内で取り組まれている具体的な実践事例を通して、管理職として求められる役割について理解を深めていただいた。

・小・中・県立学校の副校長・教頭　　86 名が参加。

（3）推進協議会・連絡協議会の開催

①学校を核とした地域力強化プラン推進協議会

・ＣＳアドバイザーはオブザーバーとして参加し、自身の経験やアドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

②コミュニティ・スクール連絡協議会

・県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する目的で設置。

・各市町コミュニティ・スクール担当課、県立学校の代表者、ＣＳアドバイザー等が参加し、推進方策や効果的な運営方法等の情報共有・情報交換を行う。

開催実績

		市町		県立学校
		参加者：担当課職員　等		参加者：県立学校教職員　等
第1回	日時 会議名 場所	7月10日（金） 「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 東館7階大会議室	日時 会議名 場所	県立学校経営等協議会 県立学校校務運営等協議会 ～中止～
	内容	・「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進」をテーマに講演 ・市町の推進状況等交流	内容	県設置方針説明 県推進事業等情報提供 について、県立学校に資料を送付
	参加者	93名	参加者	県立学校に資料を送付
第2回	日時 会議名 場所	10月30日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム 東館7階大会議室	日時 会議名 場所	10月30日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム 東館7階大会議室
	内容	・導入・運営に係る講演 ・導入校関係者によるパネルディスカッション	内容	・導入・運営に係る講演 ・導入校関係者によるパネルディスカッション
	参加者	市町教育委員会・学校関係者 21名	参加者	県立学校関係者　30名
第3回	日時 会議名 場所	「学校を核とした地域力強化プラン」 成果報告会 ～オンデマンド配信による実施～	日時 会議名 場所	「学校を核とした地域力強化プラン」 成果報告会 ～オンデマンド配信による実施～
	内容	・地域学校協働活動・コミュニティ・スクールの取組報告 ・「学校と地域の繋がり方を再考する」をテーマに講演	内容	・地域学校協働活動・コミュニティ・スクールの取組報告 ・「学校と地域の繋がり方を再考する」をテーマに講演
	参加者	オンデマンド配信	参加者	オンデマンド配信

（4）県立学校の学校運営協議会設置推進

①県設置方針を策定

・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。

・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

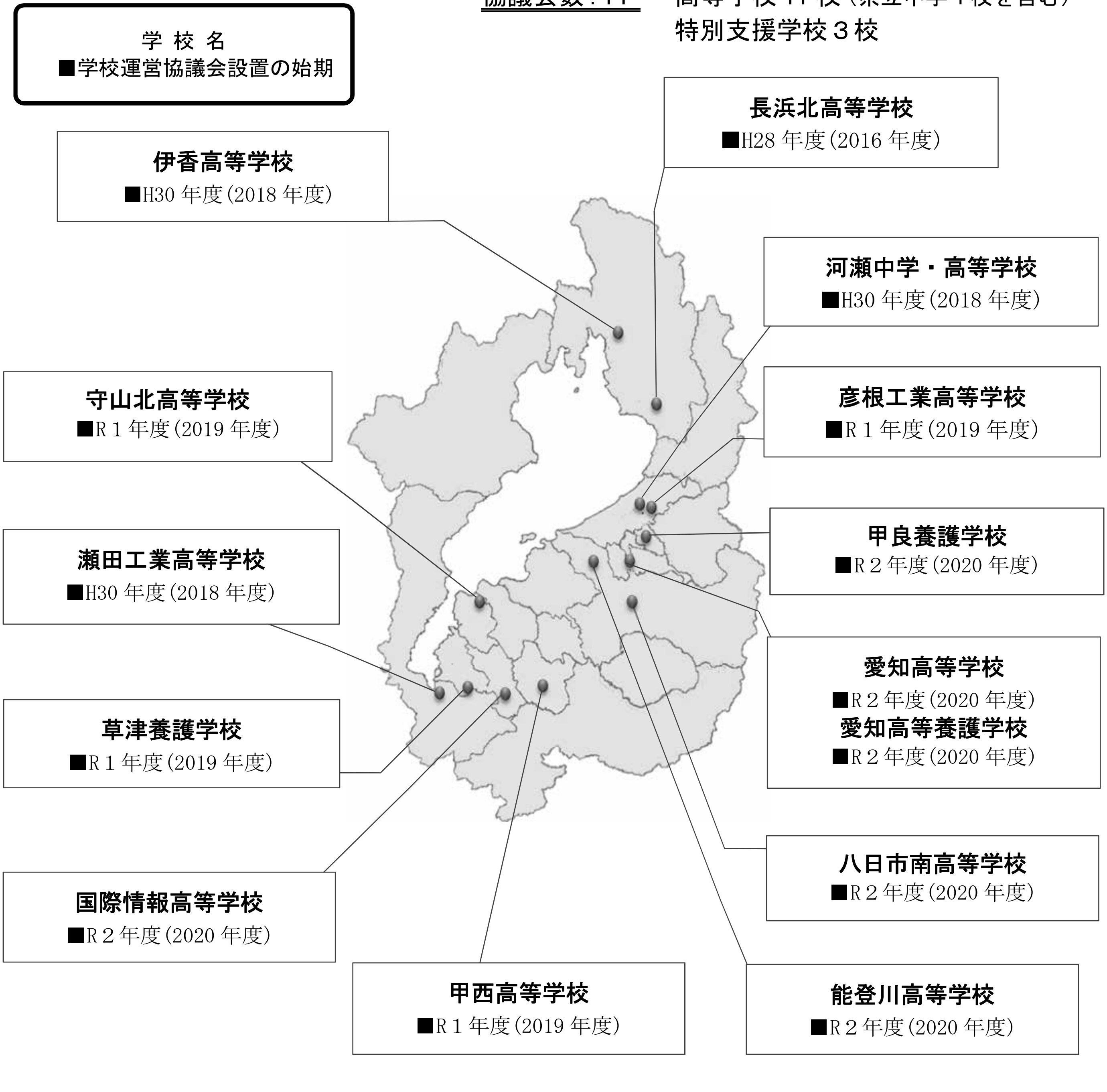
②「滋賀県学校運営協議会規則」の改正（平成 30 年3月 30 日付け）

・設置努力義務化により「学校の指定」がなくなることから、「指定学校」を「対象学校」に修正。

・「学校運営への必要な支援に関する協議」を学校運営協議会の役割に追加。

・中高一貫の場合には、「２以上の学校について１の協議会を設置することができる」文言の追加。

・職員の採用その他任用に関して学校運営協議会が意見を述べることができる事項を教育委員会規則で定めることについて、「特定の個人に関する事項を除く」とする。

令和２年度学校運営協議会設置校について

協議会数：14 … 高等学校 11 校（県立中学１校を含む）
特別支援学校３校